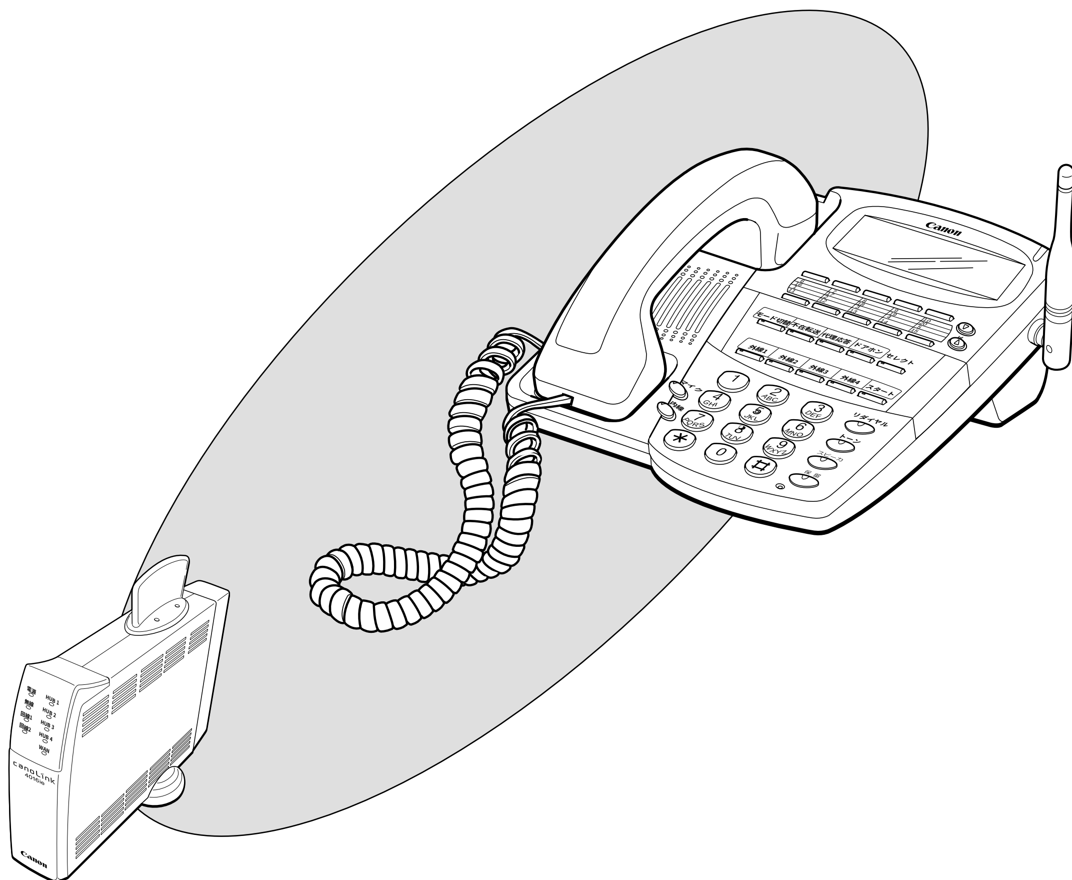
Canon

canoLink 4016ie 取扱説明書



このたびは、canoLink 4016ieをお買い上げいただきましてありがとうございます。
本書は本製品を使用する際の操作方法について説明しています。本書を読んだ後も、
保証書とともに大切に保管してください。

はじめに

この度は、canoLink 4016ie（以降「本製品」と表記します）をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品はISDN回線、及びブロードバンド回線に接続され、電話機能とルータ機能を統合し、宅内におけるワイヤレス通話、複数のパソコンからのインターネットダイヤルアップ接続などの機能を提供します。

この取扱説明書には、本製品の概要，設定および操作など、本製品をお使い頂く上で必要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。また、いつでもご利用頂けますよう大切に保管してください。

警告	取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。 安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
注意	取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
お願い	操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。
メモ "Memo"	操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

◆商標について

本書中に記載されている各製品名、各会社名は各社の登録商標あるいは商標です。

◆版権について

⚠ 安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくため、以下の注意事項を必ずお守りください。

設置場所について

	●アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると火災や感電の原因になります。 ●本製品の上や近くに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などが入った容器、または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり中に入った場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。

	●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被膜が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●直射日光の当るところや湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。 ●調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気が当たる場所にはおかないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 ●雨や雪が降りかかるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。 ●振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。 ●機器の上に重いものをのせないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因となることがあります。 ●本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

電源、電源コードについて



警告

●電源プラグを電源容量１５Ａ以上の専用コンセントへ直接接続してください。延長コードは加熱・発火の危険があるので使わないでください。

●付属の電源コード以外は使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。重いものをのせたり、加熱したり、引っぱたりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●電源コードが傷んだ（芯線の露出、断線など）場合は、お買いあげの販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。

●近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては火災・感電・故障の原因になります。

●アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。

＜アース線を接続してよいもの＞

・コンセントのアース端子

・接地工事（D種）が行われているアース端子

＜アース線を接続してはいけないもの＞

・水道管……配管の途中でプラスチックになっている場合があります。その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続することができます。

・ガス管……ガス爆発や火災の原因になります。

・電話線のアースや避雷針……落雷のときに大きな電流が流れ、火災や感電の原因となります。

●電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。火災や感電の原因になります。

 **注意**	●アース線を接続してください。アース線を接続しないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。 ●旅行などで長時間、本製品をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●いつでも電源プラグを抜けるように、電源プラグの周りにはものを置かないでください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。

取扱注意について

 **警告**	●万一、この機器を落としたり、本製品を破損した場合は、本製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげ販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・故障の原因となります。 ●この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。 ●本製品に水や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。万一、内部にこれらの液体が入った場合は、まず本製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は、特にご注意ください。 ●開口部から内部に金属を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。 ●万一、異物が本製品の内部に入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。特にお子さまのいるご家族ではご注意ください。 ●万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、その後かならず電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してお買いあげの販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。 ●本製品の近くでは可燃性のスプレーを使用しないでください。スプレーのガスが本製品内部の電気部品などに接触すると、火災・感電の原因となります。 ●本製品のカバーは外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の恐れがあります。

 注意	●移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●本製品を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。本製品を落として、けがの原因になることがあります。

保守

 警告	●本製品の掃除のときは、水または中性洗剤を含ませて固く絞った布で汚れを落とした後、から拭きしてください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性有機溶剤が本製品内部の電気部品に接触したり、揮発ガスが本製品内に充満すると火災・感電の原因になります。

その他

 警告	**心臓ペースメーカーをご利用の方へ** ●本製品から微弱な電磁波が出ています。心臓ペースメーカーをご利用の方で異常を感じた場合は本製品から離れ、その後、医師にご相談ください。

 注意	●無線設備を改造することは電波法違反になります。

使用上のご注意

本製品を使用するにあたっては、次のことに注意してください。

設置場所

次のような場所でのご使用は避けてください。

 注意	●直射日光の当たるところや温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。 ●振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●雨や雪が降りかかるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

 お願い	●ラジオやテレビのそばには置かないでください。ラジオやテレビの音声に雑音が入ったり、テレビの画面にゆがみやチラツキが出ることがあります。

電源

本製品を電源コンセントに接続するときや、接続したあとは、次のようなことに注意してください。

 警告	●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。 ●近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によって火災・感電・故障の原因になります。 ●タコ足配線はしないでください。火災・加熱の原因となります。 ●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。重いものをのせたり、加熱したり、引っぱったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 ●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると火災・感電の原因となります。

 注意	●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。 ●いつでも電源プラグを抜けるように電源プラグの周りにはものを置かないでください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。

 お願い	●電源スイッチをOFFにしたときは、10秒以上の間隔をおいてからONにしてください。 ●電源ノイズの大きい系統（たとえば空調装置、電動タイプライター等）と電源コンセントを共有することは避けてください。 ●本製品は日本国内電源仕様です。海外ではご使用にならないでください。

無線IP端末について

■利用できる範囲を確かめておきましょう

無線IP端末からメインユニットに電波が届く範囲は、周囲の環境によっても異なります。本製品の仕様をご確認ください。

■メインユニットとの間に障害物のある場合では電波が届きにくくなります

メインユニットと無線IP端末の間に鉄筋コンクリートや金属、アルミサッシなどがある場合は電波が届きにくくなります。なるべく障害物のないところでご使用ください。

■雑音が入ることがあります

自動車やオートバイが近くを通ったときや、蛍光灯のスイッチを入／切したときなど、雑音が入ることがあります。

その他

 警告	●万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜き、煙がでなくなるのを確認してお買いあげの販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。 ●この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。 ●本製品に水や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。万一、内部にこれらの液体が入った場合は、まず本製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は、特にご注意ください。

無線LANの電波に関する注意

◆canoLink 4016ieで使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。したがって、canoLink 4016ieを使用する際に無線局の免許および無線従事者の免許は必要ありません。

◆canoLink 4016ieは、日本国内のみで使用できます。海外では使用できません。

◆埋め込み型心臓ペースメーカーを装着している方の近くで、canoLink 4016ieを使用しないでください。電波による影響により生命の危険があります。

◆医療用電子機器の近くで、canoLink 4016ieを使用しないでください。電波による医療用電子機器に悪影響を与える恐れがあります。

◆電子レンジの近くでcanoLink 4016ieを使用しないでください。電子レンジによってcanoLink 4016ieの無線通信が遅くなったり、通信できないなどの電波妨害が発生する恐れがあります。

◆canoLink 4016ieの無線装置は、電波法に基づく認証を受けています。以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

・分解／改造すること

・証明ラベルをはがすこと

◆canoLink 4016ieの無線使用周波数帯は、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1．canoLink 4016ieを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

2．万一、canoLink 4016ieから移動体識別用の構内無線局に対して、電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに使用周波数変更するかまたは、電波の発射を停止した上、販売店もしくは下記連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処理など（例えば、パーテションの設置など）についてご相談ください。

お客様相談センター
全国共通電話番号



0570−01−9000（商品該当番号；83）

お電話が繋がりましたら、音声メッセージに沿って購入後（0）の番号をダイヤルボタンで押してください。
続きまして、該当番号をお話し頂くか、ダイヤルボタンを押して（プッシュ回線対象）ください。
お電話は自動音声応答で受け、音声認識を用いて商品別のオペレータにお繋ぎします。
注）周りの音や騒音により認識されない場合は案内窓口に繋がります。

【受付時間】＜平日＞9：00〜17：00、＜土／日／祝＞休み
（但し、12：00〜13：00休憩）

携帯電話等をご使用の場合は、043−211−9319をご利用ください。
（尚、受付時間及び、音声応答システムの内容を変更する場合がございますのでご了承ください。）

本書の見方

本書は、次の4パートから構成されています。各パートの記述概要は、以下の通りです。

Part 1　お使いになる前に

システムの概要、各部の名称と機能、LEDおよびLCDの表示内容、ネットワークの構築例など、お使いいただく前に必要な予備知識を説明しています。

Part 2　データ設定

Webからの設定操作、専用端末からの設定操作について操作方法を説明しています。

Part 3　サービス機能

電話系、ルータ系および保守運用系の主な機能について説明しています。

Part 4　操作早見表

端末操作および専用端末設定操作の操作早見表です。

付録

本製品の状態を記録する各種ログの見方、設定データのバックアップ、不要発呼があった場合、困ったときの対処方法、用語について説明しています。

あらかじめ覚えておきたい用語

本書をお読みいただく前に、あらかじめ覚えておきたい用語を下記に示します。

◆メインユニット

各種のサービス機能やデータ設定の管理を行い、インターネット接続等のダイヤルアップルータの機能を持ち、外線および内線を交換する役割を果たす構内交換装置です。

◆有線ＳＤ端末

本製品専用の多機能電話機のことです。メインユニットの多機能１～８ポートに接続します。なお、有線ＰＦ端末と区別しない場合は、有線端末と記載します。

◆有線PF端末

本製品専用の停電対応多機能電話機のことです。メインユニットの停電ポートに接続します。なお、有線ＳＤ端末と区別しない場合は、有線端末と記載します。

◆無線IP端末

本製品専用の無線IP多機能電話機のことです。無線を介してメインユニットに接続します。

◆専用端末

本製品に接続される無線IP端末、有線ＳＤ端末、有線ＰＦ端末の総称です。

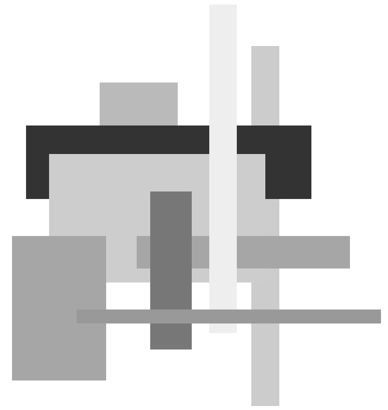
◆一般電話機

市販の電話機、ＦＡＸなどの総称です。電話１～２ポートに接続します。

◆ドアホンユニット

本製品専用のドアホンユニットのことです。メインユニットの多機能１～８ポートのいずれか一つに接続します。

目　次



1 お使いになる前に



1-1 必要な手続きと確認

本書での作業を円滑に進めていただくため、下記手続きが完了していることを確認してください。

1-1-1 ISDN回線への加入手続き

canoLink 4016ie（メインユニット）をお使いになるには、ISDN回線への加入手続きが必要です。加入がまだの方は、NTTのISDN回線サービス「INSネット64」の申込手続きを行ってください。

1-1-2 プロバイダへの加入手続き

（1）ISDNダイヤルアップによるインターネット接続を行う場合

インターネットへ接続する場合は、インターネットサービスプロバイダ（ISP）と契約する必要があります。加入がお済でない場合は、加入手続きを行ってください。

なお、接続するアクセスポイントの通信速度（回線速度）をプロバイダの案内等で確認してください。MP（マルチリンクPPP）接続を行う場合は、アクセスポイントがマルチリンクPPP接続に対応している必要があります。

詳しくは、契約しているプロバイダへお問合せください。

（2）ADSL回線業者との契約

ADSL回線でインターネットへ常時接続する場合には、一般電話回線とADSL接続対応プロバイダ契約が必要になります。回線環境によっては、ADSL接続が利用できない場合もあります。利用の可否については、ADSL接続対応プロバイダにご相談の上、回線環境をご確認ください。

また、プロバイダによってはルータ経由による複数パソコンの同時接続が禁止されている場合もあります。禁止されている場合は、別の契約を行うか同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

（3）CATV業者との契約

CATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する場合には、CATVインターネット接続に対応できるアンテナ設備とCATV業者との契約が必要になります。詳しくは、CATV業者にお問い合わせください。

また、CATV業者によってはルータ経由による複数パソコンの同時接続が禁止されている場合もあります。禁止されている場合は、別の契約を行うか同時接続を禁止していない他のCATV業者と契約してください。

1-2 システムの概要

本システムの概要（特長、構成、仕様）をご理解ください。

1-2-1 システムの特長

本システムは、電話機能とルータ機能を統合し、かつ無線LAN（VoIP）にも対応しています。

（1）設置、増設、移設、保守が簡単

- 11Mbps高速無線LANの採用により、端末やパソコンとの配線が不要となりました。
- DHCP（プラグ＆プレイ）機能の実装により、パソコンにIPアドレスを自動的に付与できます。
- 遠隔地からメインユニットへのデータ設定と保守操作が可能です。

（2）停電時でも外線の発着信が可能

- 専用の停電電話（有線PF端末）を用意し、メインユニットの停電時でも電話を使用できます。

（3）設定／確認操作が容易なメインユニット

- 端末の登録、通話ログ、着信履歴の確認等は、メインユニットに接続したパソコンのWeb画面を見ながら操作できます。（ブラウザは、Microsoft Internet Explorer 5.0以上をお使いください）
- システムの状態を分析できる豊富な診断機能を装備しています。

（4）ビジネスに役立つ快適機能

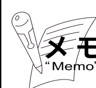
- 簡易CTIを利用すると、パソコンのWeb画面を見ながら外線に発信できます。
- 不在転送機能を利用すると、不在時の着信を決められた場所に自動的に転送できます。
- 無応答シフト着信により、外線からの個別着信に対して応答が無い場合、着信を別の内線にシフトできます。
- i・ナンバーサービス、ダイヤルインサービス、相手発信者番号通知（ナンバーディスプレイサービス）に対応できます。
- 複数のパソコンから同時にインターネットへのアクセスが可能です。
- リモートアクセスサーバ（RAS）機能の実装により、外出先からオフィスのサーバPCにアクセスできます。

（5）ISDN回線が直接つなげられる

- DSU内蔵のため、ISDN回線を直接接続できます。

（6）ブロードバンド対応

- ADSLやCATVなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートを装備しています。

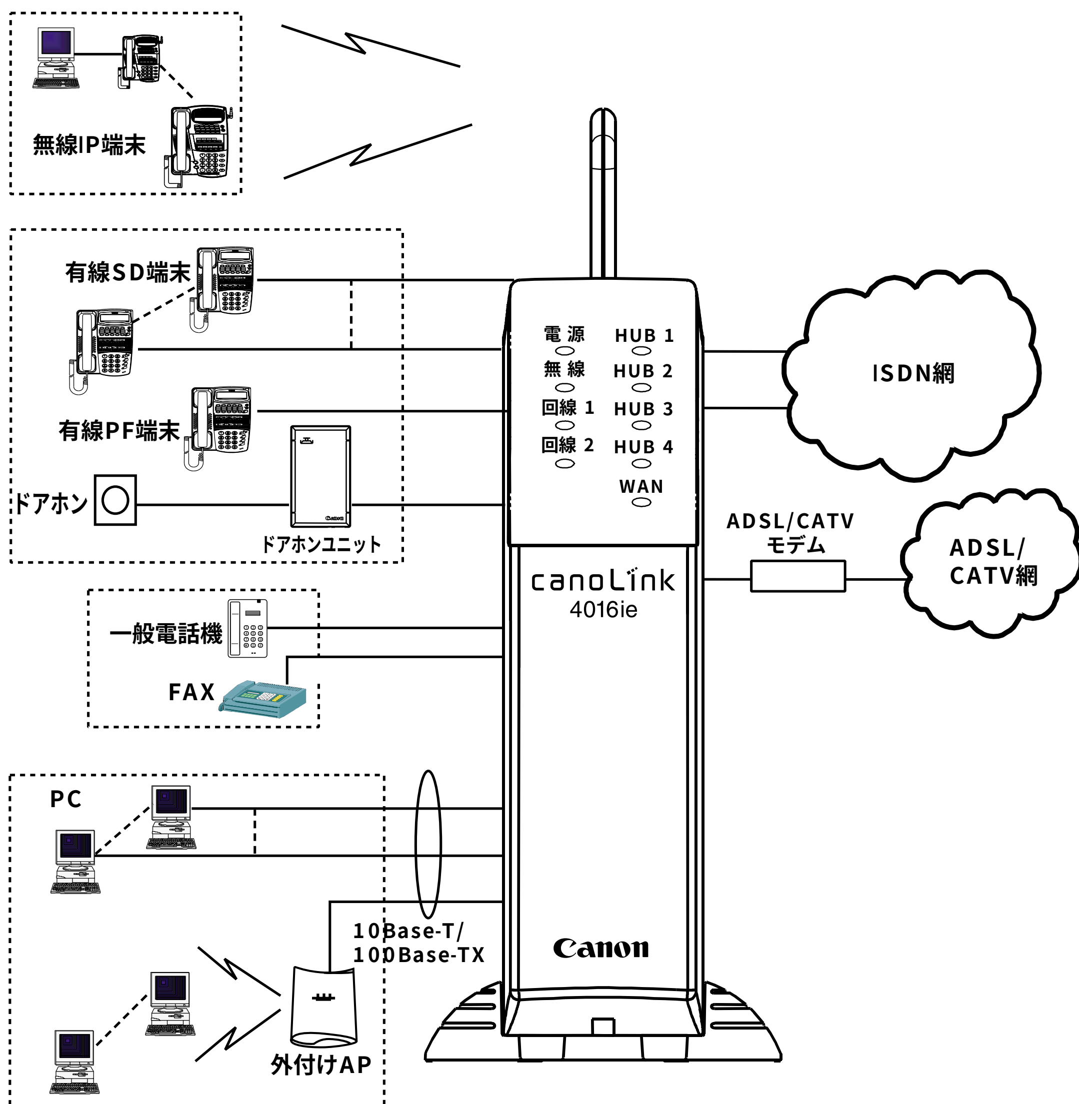


◇VoIPとは、Voice Over IPの略称であり、IPネットワーク上で音声（Voice）を伝送する技術のことです。

1-2-2 システムの構成

システム構成の一例と、接続上の制限について以下に示します。

●システム構成例



●接続上の制限

- 無線IP端末は8台まで接続できます。ただし、同時に通話できるのは6台まででです。
- 有線SD端末と有線PF端末とドアホンユニットは、合計で8台まで接続できます。ただし、有線PF端末およびドアホンユニットは、各1台だけ接続できます。
- 一般電話機やFAXは、2台まで接続できます。
- HUBは4ポート（1つはカスケード）実装。PCなどは、4台まで接続できます。外付けAPや外付けHUBを使用すると、接続するPCの数を増やせます。

1-2-3 商品の構成

（1）商品構成

製品名称	略　号	商品コード	備　考
canoLink 4016ie メインユニット	MU	7264A001(AB)	小規模構内交換機です。
canoLink ムセンIPタンマツ	IP-TEL	7265A001(AA)	8台まで収容できます。
canoLink ユウセンSDタンマツ	SD-TEL	7265A002(AA)	多機能1～8に接続します。
canoLink ユウセンPFタンマツ	PF-TEL	7265A003(AA)	停電ポートに接続します。
canoLinkセンヨウ ドアホンユニット	DU	7265A004(AA)	多機能1～8のいずれか一つに接続します。

（2）オプション品（推奨品）

区　分	製品名称		略　号	商品コード
アクセスポイント	外付アクセスポイント ※1	沖電気製	BR0009-AP-OKI	
		新潟キヤノテック製	RF-100E	
ヘッドセット	専用端末用ヘッドセット	沖電気製	DTS-HM-10-HDS	
		ネットコム製（市販品）※2	プロファイルIII	
拡声装置	高音量ベル	沖電気製	OK-ES-AA3	
ドアホン	ドアホン子機	沖電気製	DOOR-JAS DOOR-JAD	
		アイホン製（市販品）	IE-DC IE-JA IE-NC IE-CA IE-RA IF-DA IE-TAS	
		松下製（市販品）	VL-568KA VL-593	
有線SD端末/有線PF端末の壁掛け用品	Ultima-TEL カベカケヨウヒン（取付台、木ねじ×2）	沖電気製	―	―

※1：無線IP端末用として使用する場合、沖電気製（BR0009-AP-OKI）をご使用ください。

※2：無線IP端末だけ接続できます。



◇上記オプション品については、推奨品をご利用ください。上記以外のものをお使いになった場合、動作は保証できません。

1-2-4 主な仕様

本システムの機器について、以下にその仕様を示します。

（1）メインユニットの仕様

種別	項目	内　　容
回線インタフェース（U点）	適用回線	ISDN INSネット64回線
	回線数	2回線（4通話相当分）
	接続コネクタ	6ピンモジュラージャック（RJ-11）
	規格	ITU-T勧告　G.961準拠
	接続形態	P-MP
	レイヤ1起動	常時起動
S/T点 インタフェース	ポート数	2ポート
	接続コネクタ	8ピンモジュラージャック（RJ-45）
	規格	ITU-T勧告　I.430準拠
一般電話機 インタフェース	ポート数	2ポート
	接続コネクタ	6ピンモジュラージャック（RJ-11）
	選択信号	PB、DP（自動検出）
	極性反転	あり
	給電電圧	42～53V（負荷：1MΩ以上）
	その他	FAX無鳴動着信（1300Hz信号）対応 ナンバーディスプレイ対応
有線端末 インタフェース	ポート数	有線SD端末用×8ポート、有線PF端末用×1ポート（有線PF端末を使用する場合、有線SD端末は7台のみ使用可能です）
	接続コネクタ	有線SD端末 ： 6ピンモジュラージャック（RJ-11） 有線PF端末 ： 8ピンモジュラージャック（RJ-45）
	接続制御方式	2線時分割（ピンポン）伝送方式、256Kbps
無線インタフェース	アクセスポイント数	1（無線IP端末を8台収容可能です）
	規格	IEEE802.11、11b準拠／RCR　STD-33、ARIB STD-T66
	拡散方式	DS-SS
	データ伝送速度	11Mbps
	伝送距離	30m（11Mbps時）※1
	周波数帯域	2.4GHz（2401～2495MHz）
	チャネル数	14チャネル
	アクセス制御	CSMA/CA+ACK
	セキュリティ	ESSID
	ローミング機能	なし
LANインタフェース	ポート数	4ポート（1ポートは切替えでカスケード接続可能）
	接続コネクタ	8ピンモジュラージャック（RJ-45）
	規格	IEEE802.3u準拠（IEEE802.3も含みます） （10BASE-T／100BASE-TX、全2重／半2重）
WAN インタフェース	ポート数	1ポート
	接続コネクタ	8ピンモジュラージャック（RJ-45）
	規格	IEEE802.3準拠（10BASE-T、半2重）
適用条件	動作環境	温度：0～40℃ 湿度：20～85% RH（結露なきこと）
諸元	設置形態	縦置き
	電源	AC100V±10%（50/60Hz）
	消費電力	約40W以下
	外形寸法	116mm(W)×366.5mm(D)×310.5mm(H)
	質量	約3Kg

※1：無線伝送距離は、障害物や電波状態、メインユニット設置環境等で短くなる場合があります。

（2）専用端末の仕様

無線IP端末

種別	項目	内　　容
操作パネル	ディスプレイ	LCD（16文字×2行）
	キー	ダイヤルボタン、固定ボタン、フレキシブルボタン、ワンタッチボタン
オプション	ヘッドセット	オプション品（推奨品）
	高音量ベル	オプション品（推奨品）
無線規則	規格	IEEE802.11、11b（無線LANインタフェース）/ RCR STD-33、ARIB STD-T66
	拡散方式	DS-SS
	データ伝送速度	11Mbps
	伝送距離	30m（11Mbps時）※1
	周波数帯域	2.4GHz（2401〜2495MHz）
	チャネル数	14チャネル
	アクセス制御	CSMA/CA+ACK
	セキュリティ	ESSID
	ローミング機能	なし
PCポート インタフェース	規格	IEEE802.3（10BASE-T、10M半二重）
	接続方式	8ピンモジュラーコネクタ
適用条件	動作環境	温度：0℃〜40℃ 湿度：20%〜85%RH（結露なきこと）
諸元	アンテナ	ダイバーシチ
	設置形態	卓上
	電源	AC100V±10%（50/60Hz）（添付のACアダプタ使用）
	消費電力	約10W以下
	寸法	190(W)×243(D)×115(H)mm（アンテナを除く）
	質量	約1.1kg

※1：無線伝送距離は、障害物や電波状態、メインユニット設置環境等で短くなる場合があります。

ACアダプタ（添付品）

種別	項目	内　　容
諸元	入力	AC100V±10%（50/60Hz）
	出力	DC12V
	極性	外側（–）、内側（+）
	寸法	84(W)×58(D)×48(H)mm
	コード長	AC側50cm、DC側180cm
	質量	約500g

有線SD端末

種別	項目	内　　容
操作パネル	ディスプレイ	LCD（16文字×2行）
	キー	ダイヤルボタン、固定ボタン、フレキシブルボタン、ワンタッチボタン
オプション	ヘッドセット	オプション品（推奨品）
	高音量ベル	オプション品（推奨品）
内線インタフェース	規格	独自プロトコル
	伝送方式	AMI符号、2線時分割伝送
	接続方式	6ピンモジュラーコネクタ
適用条件	動作環境	温度：0℃～40℃ 湿度：20%～85%RH（結露なきこと）
諸元	設置形態	卓上、壁掛け（オプション品）
	電源	メインユニットからのセンタ給電
	消費電力	約1.0W以下
	寸法	185(W)×235(D)×98(H)mm
	質量	約830g

有線PF端末

種別	項目	内　　容
操作パネル	ディスプレイ	LCD（16文字×2行）
	キー	ダイヤルボタン、固定ボタン、フレキシブルボタン、ワンタッチボタン
	スイッチ	4極ディップスイッチ
オプション	ヘッドセット	オプション品（推奨品）
内線インタフェース	規格	独自プロトコル
	伝送方式	AMI符号、2線時分割伝送
	接続方式	8ピンモジュラーコネクタ
	停電機能	あり（ITU-T勧告　I.430準拠）
適用条件	動作環境	温度：0℃～40℃ 湿度：20%～85%RH（結露なきこと）
諸元	設置形態	卓上、壁掛け（オプション品）
	電源	メインユニットからのセンタ給電
	消費電力	約1.5W以下
	寸法	185(W)×235(D)×98(H)mm
	質量	約900g

（3）ドアホンユニットの仕様

種別	項目	内　容
LED	動作ランプ	赤/緑2色LED（通常待機時は緑に点灯）
スイッチ	ディップスイッチ	4極
内線インタフェース	規格	独自プロトコル
	伝送方式	AMI符号、2線時分割伝送
	接続方式	6ピンモジュラーコネクタ
ドアホン インタフェース ※1	ドアホン収容数	1台
	給電方式	定電流供給
	接続方式	2ピン端子板
	線路抵抗	20Ω以下／ループ
適用条件	動作環境	温度：0℃～40℃ 湿度：20%～85%RH（結露なきこと）
諸元	設置形態	卓上、床上、壁掛け
	電源	メインユニットからのセンタ給電
	消費電力	約2.0W以下
	寸法	84(W)×144(D)×38.5(H)mm
	質量	約400g

※1：本製品では、防側音回路としてボイススイッチ方式を採用しているため、ドアホン子機側と専用端末側とで同時にお話をされた場合、ドアホン子機側からの声が途切れることがございますが、故障ではありません。（ドアホンとの通話では、片方向毎の通話を推奨いたします）

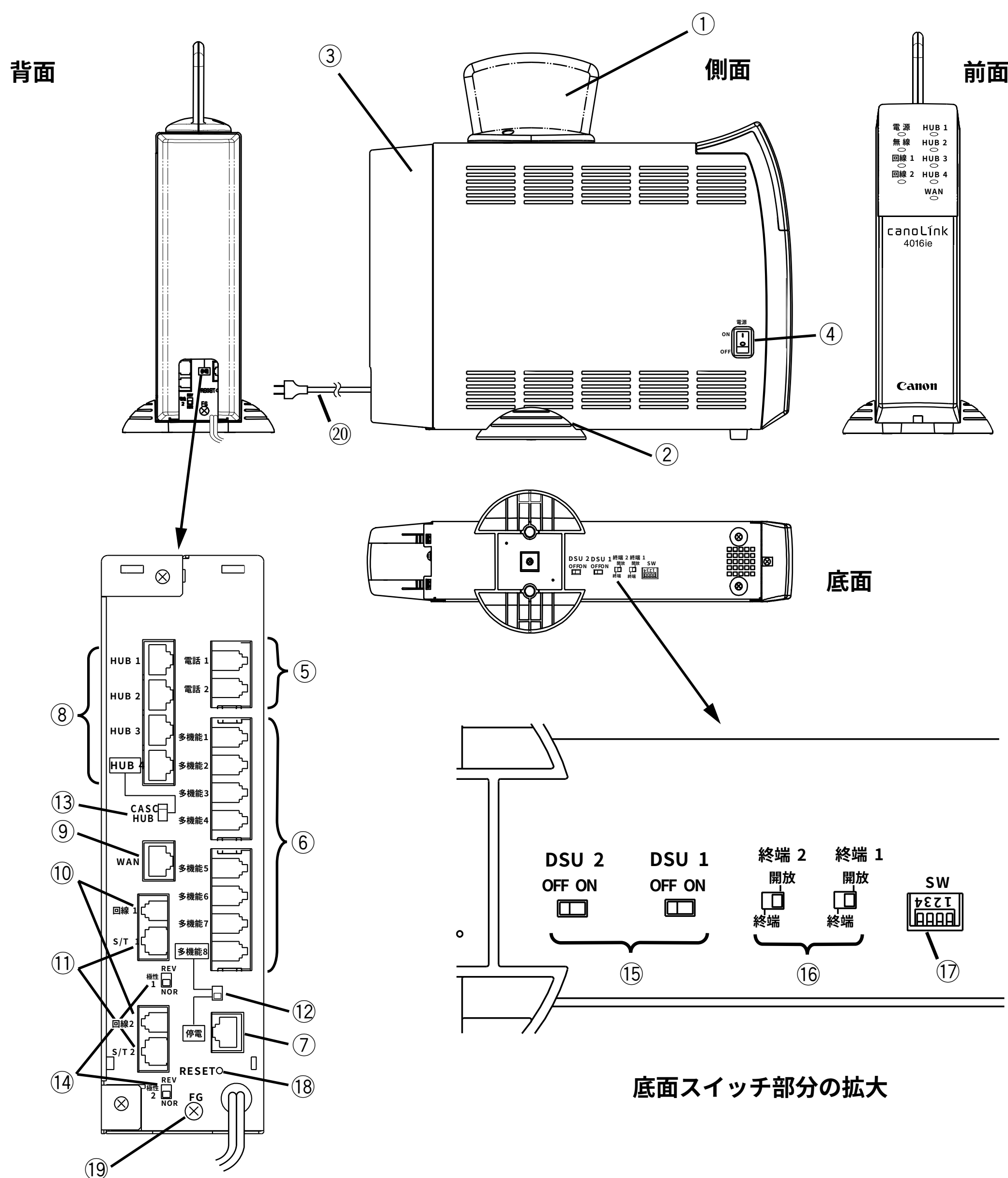
（4）ケーブル長

端末種別	ループ抵抗	0.4mmΦ	0.5mmΦ	0.65mmΦ	備考
有線SD端末	50Ω以下	160m	260m	440m	
有線PF端末	38Ω以下	120m	200m	330m	
ドアホンユニット	20Ω以下	60m	100m	170m	

1-3 各部の名称と機能

本システムの機器について、各部の名称と、その働きを示します。

1-3-1 メインユニットの各部の働き

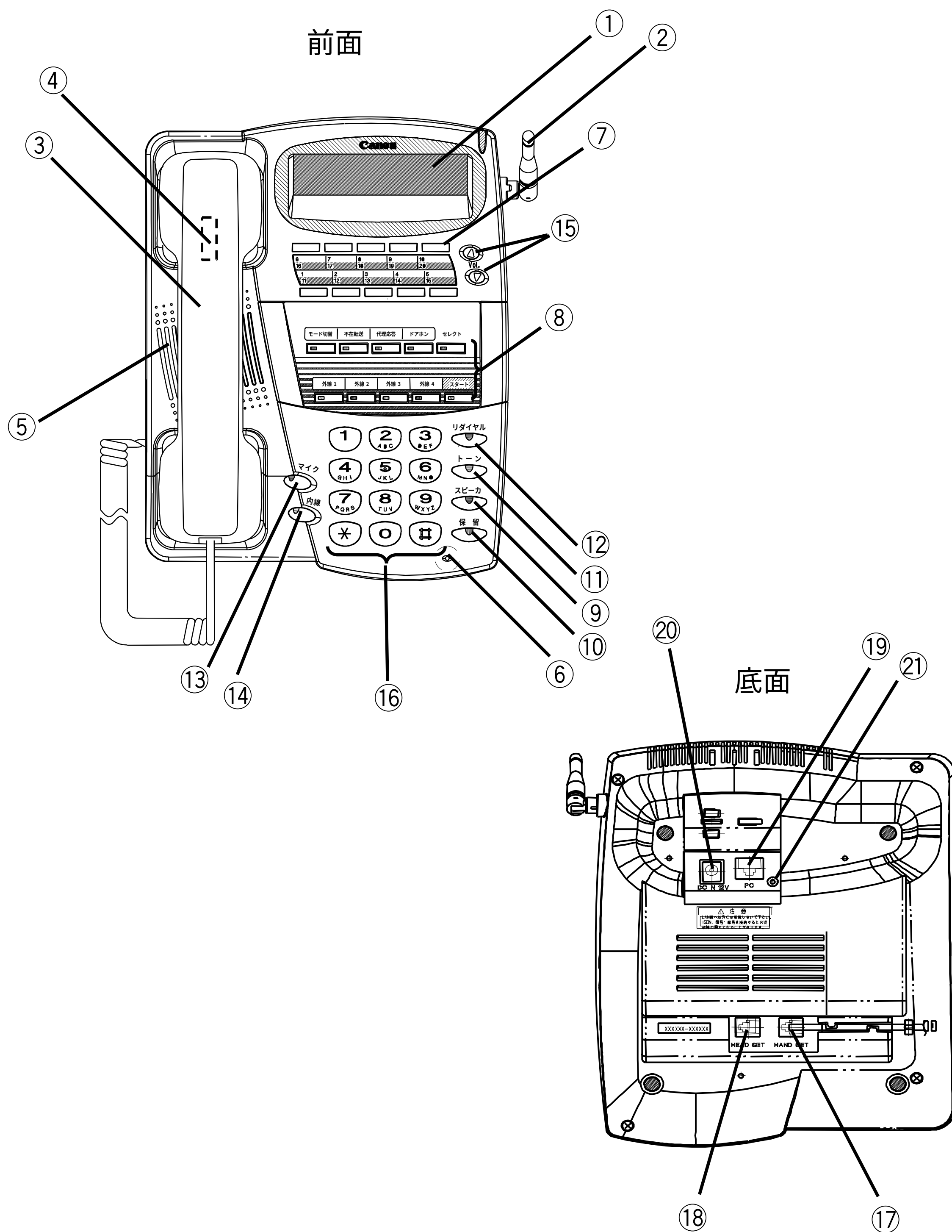


	名　称	表示	説　　明
①	アンテナ	―	無線通信用のアンテナです。
②	スタンド	―	メインユニットが転倒するのを防ぐスタンドです。
③	ケーブルカバー	―	ケーブルを収納するためのカバーです。
④	電源スイッチ	電源	電源スイッチです。 ON　：電源が入ります。 OFF：電源が切れます。
⑤	一般電話機ポート	電話1、2	一般電話機やFAXを接続します。
⑥	有線SD端末ポート	多機能1～8	有線SD端末やドアホンユニットを接続します。
⑦	有線PF端末ポート	停電	有線PF端末を接続します。
⑧	HUBポート	HUB1～4	PCやHUB等を接続します。
⑨	WANポート	WAN	ADSL/CATVモデムを接続します。
⑩	ISDN回線ポート	回線1、2	内蔵DSUを使用する場合は、外線（ISDN回線）に接続します。 外付けDSUを使用する場合は、未使用です。
⑪	S/Tポート	S/T1、2	外付けDSUを使用する場合は、DSUに接続します。
⑫	多機能8／停電 切替スイッチ	―	多機能ポート8を使用するか、停電ポートを使用するかの切替スイッチです。 出荷設定は多機能ポート8となっております。
⑬	CASC／HUB 切替スイッチ	―	HUBポート4をカスケード接続（CASC）にするか、通常の接続（HUB）にするかの切替スイッチです。 出荷設定はHUBとなっております。
⑭	極性切替スイッチ	極性1、2	DSUの極性を設定します。通常はNORに設定してください。もし、回線ランプが点灯しない場合は、REVに設定してください。 出荷設定はNORとなっております。
⑮	DSUスイッチ	DSU1、2	内蔵DSUを使用するか（ON）、外付けDSUを使用するか（OFF）、の切替スイッチです。 出荷設定はONとなっております。
⑯	終端スイッチ	終端1、2	T点の終端抵抗を挿入するか（終端）、挿入しないか（開放）、の切替スイッチです。 出荷設定は終端となっております。
⑰	ディップスイッチ （4極）	SW	無線IP端末の登録方法を指定したりするためのスイッチです。 1回路目：出荷設定はOFFです。 2回路目：出荷設定はOFFです。 3回路目：出荷設定はOFFです。 4回路目：出荷設定はOFFです。 お願い　本スイッチは出荷設定とし、変更しないでください。メインユニットが正常に動作しないことがあります。

	名　称	表示	説　　明
⑱	リセットスイッチ	RESET	メインユニットをリセットしたり、スーパーリセットしたりするための押しボタンスイッチです。 ● 電源ON中にリセットスイッチを押した場合 メインユニットがリセットされ、通話および通信は切断されます。 ●リセットスイッチを押しながら電源をONした場合 メインユニットがスーパーリセットされます。スーパーリセットとは、メインユニットを出荷時の状態に戻すことであり、内部データの設定が全て初期化されます。 お願い　スーパーリセットは、絶対行わないでください。メインユニットの設定データが全て工場出荷時に初期化され、使われている機能が使用できなくなります。
⑲	アース端子	FG	アース線を接続するための端子です。
⑳	ACコード	―	商用電源（AC100V）に接続します。

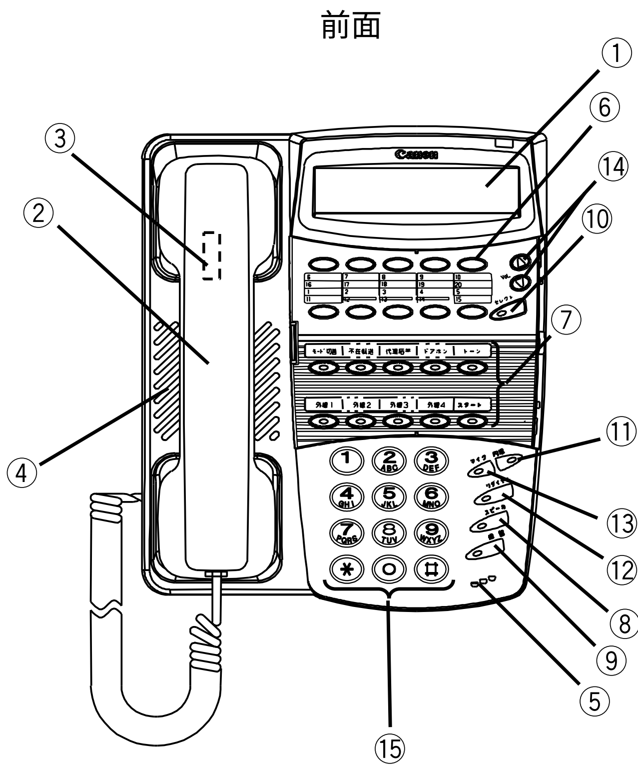
1-3-2　専用端末の各部の働き

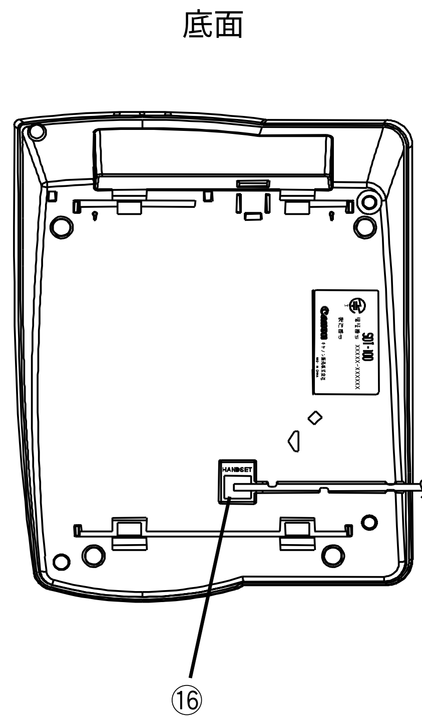
(1) 無線IP端末の各部の働き

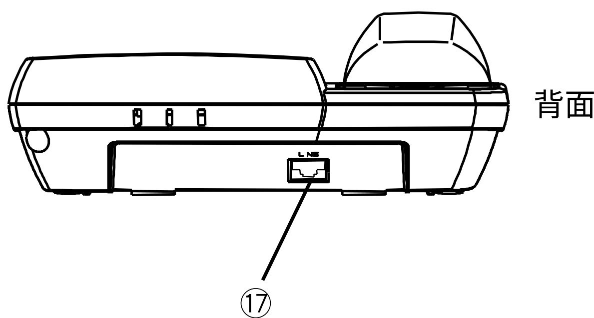


	名　称	表示	説　　明
①	ディスプレイ	―	メインユニットから送られてくる表示情報等を表示する16文字×2行の表示器です。
②	アンテナ	―	メインユニットと無線通信するためのアンテナです。
③	ハンドセット（受話器）	―	相手と通話するときに使用します。
④	フックスイッチ	―	回線を捕捉したり、開放したりするためにハンドセットのオン／オフを検出するスイッチです。
⑤	スピーカ	―	スピーカ受話時や着信音鳴動時に、スピーカが使用されます。
⑥	マイク	―	ハンズフリー通話するときに使用します。
⑦	ワンタッチボタン	―	ワンタッチ操作でダイヤルするときに使用します。ワンタッチボタンは10個ですが、セレクトボタンを使用することにより、表面と裏面あわせて、20個の登録が可能です。
⑧	フレキシブルボタン	外線1 外線2 外線3 外線4 セレクト スタート 不在転送 代理応答 モード切替 ドアホン	外線1、外線2、外線3、外線4、セレクト、スタート、不在転送、代理応答、モード切替、ドアホンボタンが割り付けられています。
⑨	スピーカボタン	スピーカ	スピーカ受話時および、ハンドセットを置いたままダイヤルするときに使用します。
⑩	保留ボタン	保留	通話中の相手を保留するときに使用します。
⑪	トーンボタン	トーン	通話中にPB信号を送出するときに使用します。
⑫	リダイヤルボタン	リダイヤル	最後に外線発信した相手先電話番号に再ダイヤルするときに使用します。
⑬	マイクボタン	マイク	マイクのオン、オフを切り替えたり、ハンドセットを置いたまま電話の音声呼出に応答したりするときに使用します。
⑭	内線ボタン	内線	端末に発信したり、転送したりするときに使用します。
⑮	ボリュームボタン	Vol.	音量を調節したり、設定したりするときに使用します。
⑯	ダイヤルボタン	0～9、＊、#	相手の電話番号をダイヤルしたり、設定したりするときに使用します。
⑰	ハンドセット用 モジュラーコネクタ	HANDSET	ハンドセットを接続します。
⑱	ヘッドセット/高音量ベル用 モジュラーコネクタ	HEADSET	ヘッドセットや高音量ベルを接続します。
⑲	PC用コネクタ	PC	パーソナルコンピュータのネットワークカードに接続します。HUBには接続しないでください。
⑳	DCIN用コネクタ	DC IN 12V	ACアダプタを接続します。
㉑	LINK/ACT用ランプ	―	PCポートのネットワーク監視状態を表示するLEDです。 点灯：LINK 確立 点滅：データ送受信中 消灯：LINK外れ、または未接続

（2）有線ＳＤ端末の各部の働き

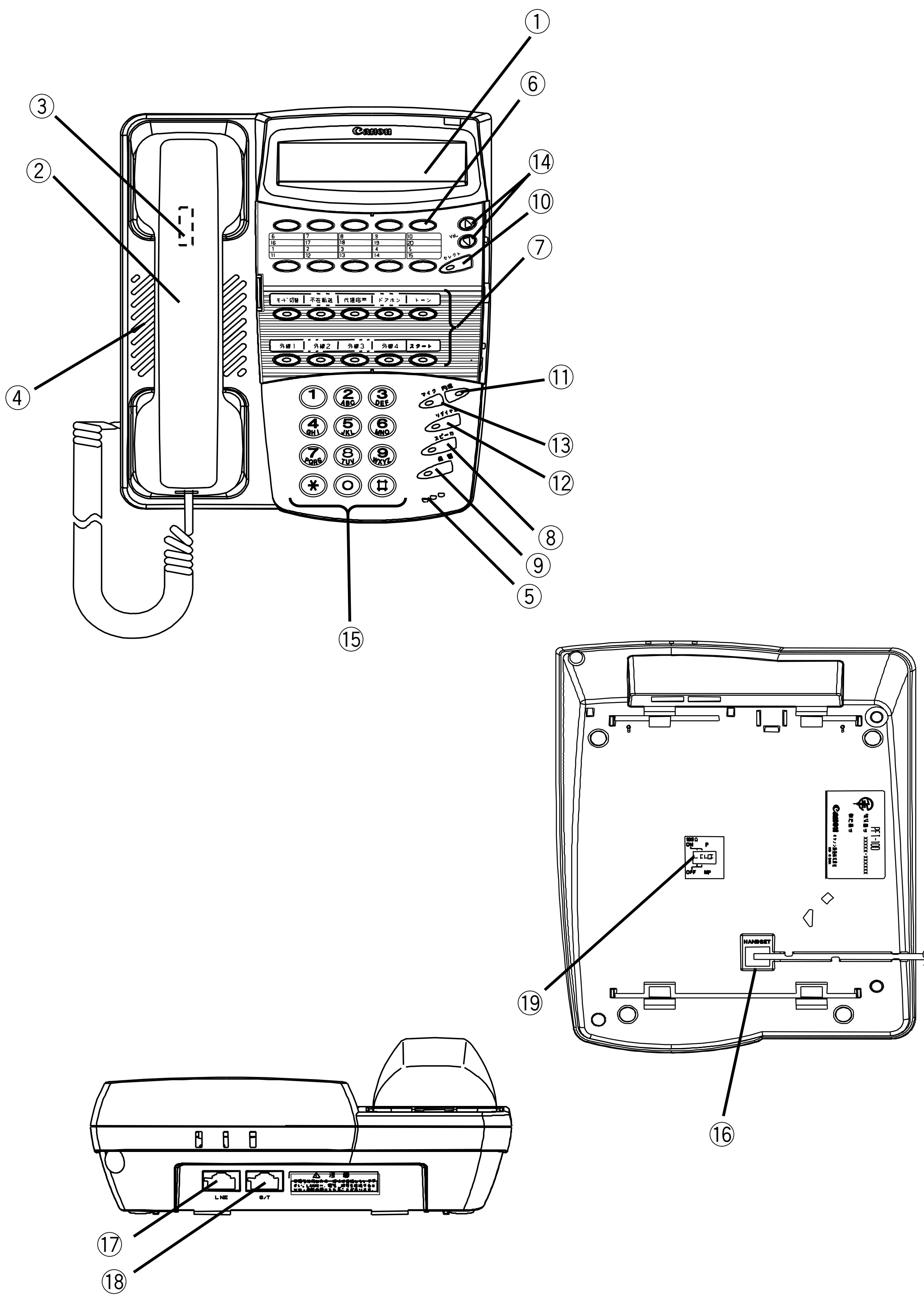






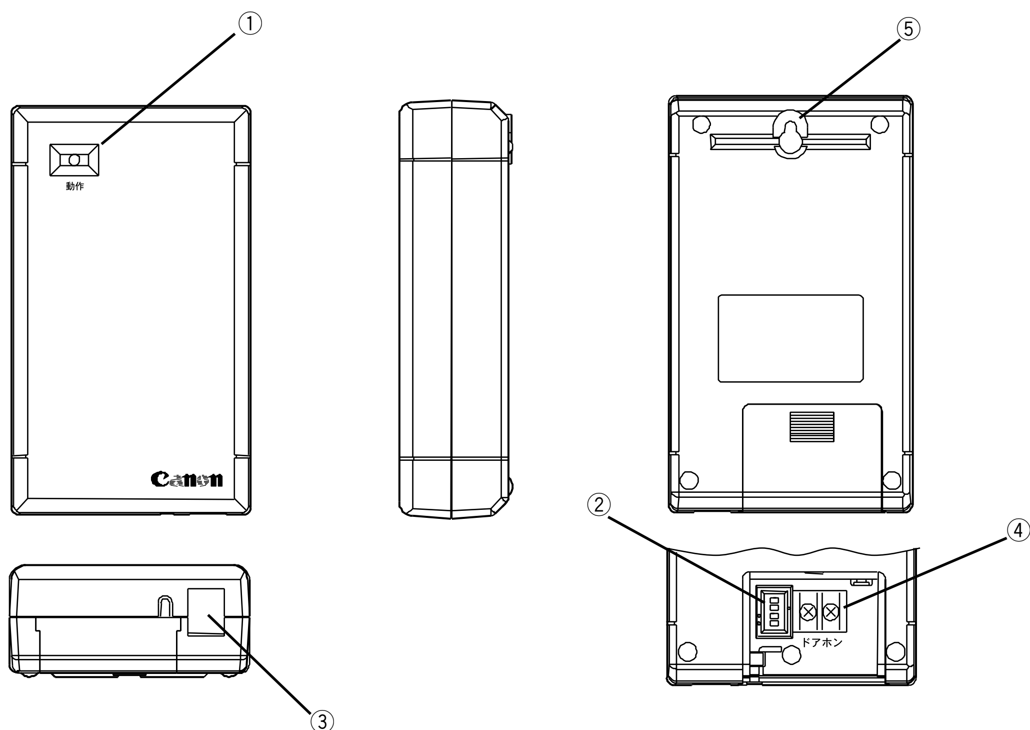
	名　称	表示	説　　明
①	ディスプレイ	―	メインユニットから送られてくる表示情報等を表示する16文字×2行の表示器です。
②	ハンドセット（受話器）	―	相手と通話するときに使用します。
③	フックスイッチ	―	回線を捕捉したり、開放したりするためにハンドセットのオン／オフを検出するスイッチです。
④	スピーカ	―	スピーカ受話時や着信音鳴動時に、スピーカが使用されます。
⑤	マイク	―	ハンズフリー通話するときに使用します。
⑥	ワンタッチボタン	―	ワンタッチ操作でダイヤルするときに使用します。ワンタッチボタンは10個ですが、セレクトボタンを使用することにより、表面と裏面あわせて、20個の登録が可能です。
⑦	フレキシブルボタン	外線1 外線2 外線3 外線4 トーン スタート 不在転送 代理応答 モード切替 ドアホン	外線1、外線2、外線3、外線4、トーン、スタート、不在転送、代理応答、モード切替、ドアホンボタンが割り付けられています。
⑧	スピーカボタン	スピーカ	スピーカ受話時、およびハンドセットを置いたままダイヤルするときに使用します。
⑨	保留ボタン	保留	通話中の相手を保留するときに使用します。
⑩	セレクトボタン	セレクト	ワンタッチボタンの表面と裏面を切り替えるときに使用します。
⑪	内線ボタン	内線	端末に発信したり、転送したりするときに使用します。
⑫	リダイヤルボタン	リダイヤル	最後に外線発信した相手先電話番号に再ダイヤルするときに使用します。
⑬	マイクボタン	マイク	マイクのオン、オフを切り替えたり、ハンドセットを置いたまま電話の音声呼出に応答したりするときに使用します。
⑭	ボリュームボタン	Vol.	音量を調節したり、設定したりするときに使用します。
⑮	ダイヤルボタン	0〜9、*、#	相手の電話番号をダイヤルしたり、設定したりするときに使用します。
⑯	ハンドセット用 モジュラーコネクタ	HANDSET	ハンドセットを接続します。ヘッドセットモードに設定時は、ハンドセットを外してヘッドセットを接続します。
⑰	端末用 モジュラーコネクタ	LINE	メインユニットの多機能1〜8に接続します。 別線により高音量ベルとの接続も可能です。

（3）有線PF端末の各部の働き



	名　称	表示	説　　明
①	ディスプレイ	―	メインユニットから送られてくる表示情報等を表示する16文字×2行の表示器です。
②	ハンドセット(受話器)	―	相手と通話するときに使用します。
③	フックスイッチ	―	回線を捕捉したり、開放したりするためにハンドセットのオン／オフを検出するスイッチです。
④	スピーカ	―	スピーカ受話時や着信音鳴動時に、スピーカが使用されます。
⑤	マイク	―	ハンズフリー通話するときに使用します。
⑥	ワンタッチボタン	―	ワンタッチ操作でダイヤルするときに使用します。ワンタッチボタンは10個ですが、セレクトボタンを使用することにより、表面と裏面あわせて、20個の登録が可能です。
⑦	フレキシブルボタン	外線1 外線2 外線3 外線4 トーン スタート 不在転送 代理応答 モード切替 ドアホン	外線1、外線2、外線3、外線4、トーン、スタート、不在転送、代理応答、モード切替、ドアホンボタンが割り付けられています。
⑧	スピーカボタン	スピーカ	スピーカ受話時、およびハンドセットを置いたままダイヤルするときに使用します。
⑨	保留ボタン	保留	通話中の相手を保留するときに使用します。
⑩	セレクトボタン	セレクト	ワンタッチボタンの表面と裏面を切り替えるときに使用します。
⑪	内線ボタン	内線	端末に発信したり、転送したりするときに使用します。
⑫	リダイヤルボタン	リダイヤル	最後に外線発信した相手先電話番号に再ダイヤルするときに使用します。
⑬	マイクボタン	マイク	マイクのオン、オフを切り替えたり、ハンドセットを置いたまま電話の音声呼出に応答したりするときに使用します。
⑭	ボリュームボタン	Vol.	音量を調節したり、設定したりするときに使用します。
⑮	ダイヤルボタン	0～9、＊、#	相手の電話番号をダイヤルしたり、設定したりするときに使用します。
⑯	ハンドセット用 モジュラーコネクタ	HANDSET	ハンドセットを接続します。ヘッドセットモードに設定時は、ハンドセットを外してヘッドセットを接続します。
⑰	端末用 モジュラーコネクタ	LINE	メインユニットの停電ポートに接続します。
⑱	S/T点用 モジュラーコネクタ	S/T	未使用
⑲	ディップスイッチ (4極)	―	未使用 1回路目： 出荷時はOFF設定 2回路目： 出荷時はOFF設定 3回路目： 出荷時はOFF設定 4回路目： 出荷時はOFF設定

1-3-3　ドアホンユニットの各部の働き

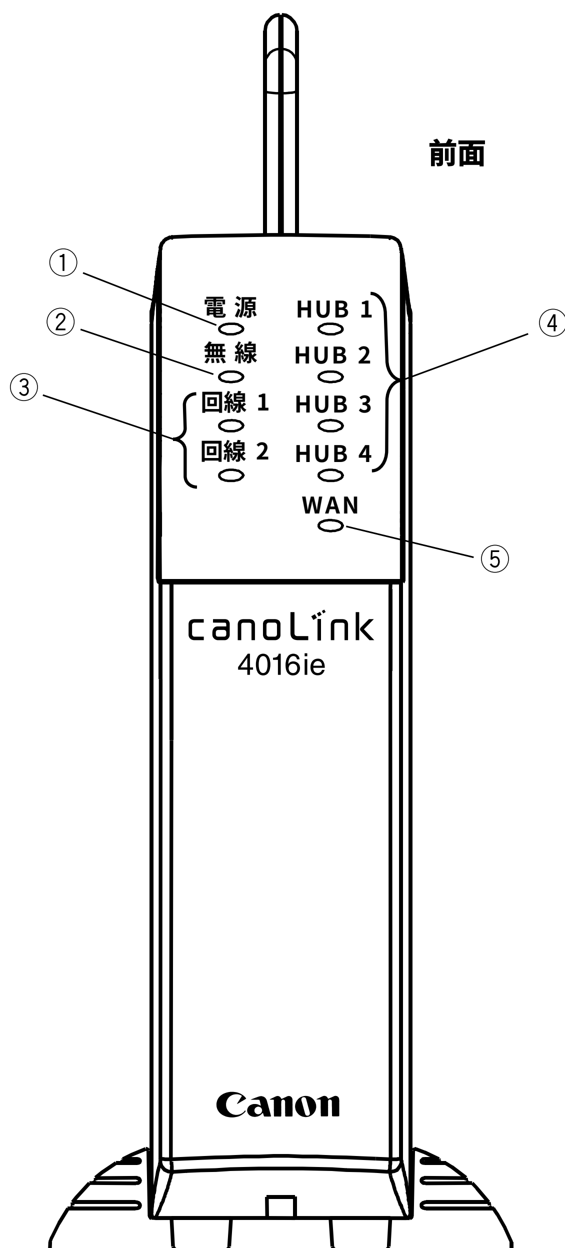


	名　称	表示	説　　明
①	動作ランプ	動作	電源及び動作状態を表示するLEDです。
②	ディップスイッチ（4極）	ー	音色や送受話PADの設定を行う時に使用します。 1回路目： 送話PAD設定（ON：0dB、OFF：+6dB）、出荷時はON設定。 2回路目： 受話PAD設定（ON：0dB、OFF：+6dB）、出荷時はON設定。 3回路目： 音色設定（ON：H、OFF：L）、出荷時はOFF設定。 4回路目： 未使用、出荷時はOFF設定。
③	端末用モジュラーコネクタ	LINE	メインユニットの多機能1～8に接続します。
④	ドアホン用端子板	ドアホン	ドアホン子機を接続します。
⑤	壁掛けガイド	ー	壁掛け設置時に使用します。

1-4 表示内容

本システムの機器について、LEDおよびLCDの表示内容と、可聴音およびリンガの種類について以下に示します。

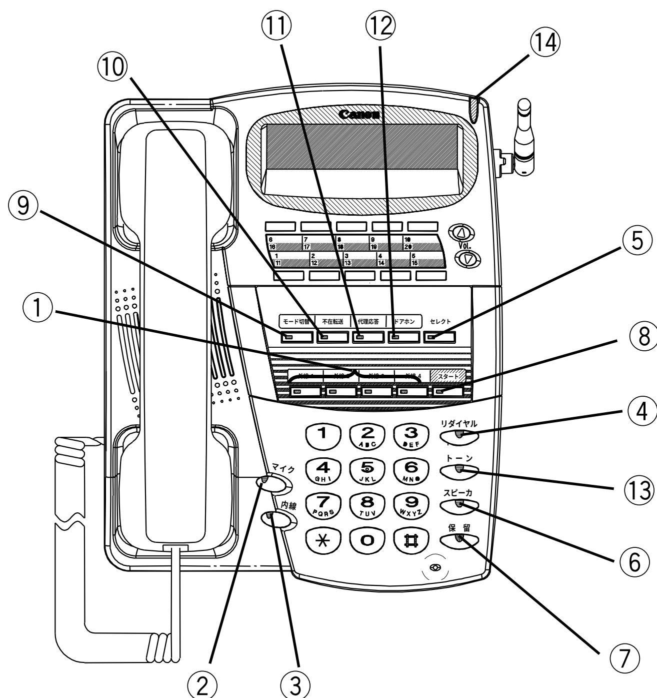
1-4-1 メインユニットのLED表示



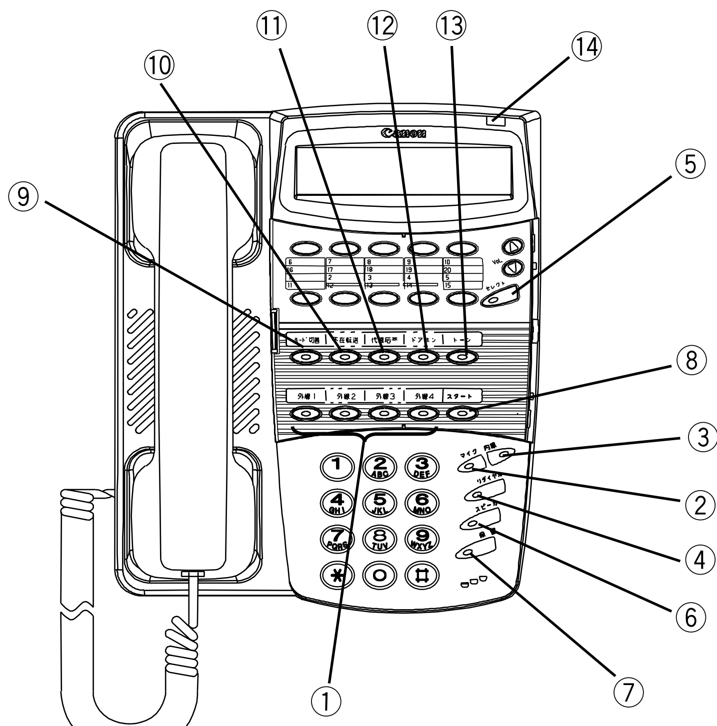
	名　称	表示	説　　明
①	電源ランプ	電源	電源やメインユニットの状態を表示するLEDランプです。 消灯　：電源OFF 緑点灯：電源ON、正常動作 赤点灯：電源ON、異常動作 赤点滅：無線IP端末の自動登録 ただし、電源投入時は以下のように変化します。 通常の電源ON時： 橙点灯（セルフチェック中）→緑点灯（正常動作） スーパーリセット時： 赤点灯（セルフチェックおよび初期化中） → 緑点灯（正常動作）
②	無線ランプ	無線	無線アクセスポイントの状態を表示するLEDランプです。 消灯　：無線AP異常または無線AP設定変更中 緑点灯：無線AP正常
③	回線ランプ	回線1、2	回線１、回線２の状態を表示するLEDランプです。 消灯　：未接続または網同期外れ 緑点滅：網同期確立 緑点灯：データリンク確立
④	HUBポートランプ	HUB1～4	HUB1～HUB4の状態を表示するLEDランプです。 消灯　：LINK外れ 緑点灯：LINK確立 緑点滅：データパケット送受信中
⑤	WANポートランプ	WAN	ADSL/CATVモデム接続状態を表示するLEDランプです。 消灯　：LINK外れ 緑点灯：LINK確立

1-4-2 専用端末のLED表示

（1）無線端末のLED位置



（2）有線端末のLED位置

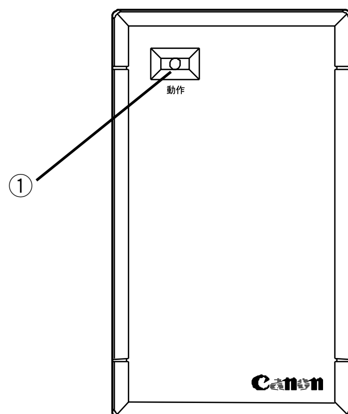


（3）専用端末のLED表示内容

専用端末LED表示一覧表

番号	ボタン名等	色彩	状態	意　　味
①	外線 1～4	消灯	—	当該外線未使用
		赤	点灯	他人使用中（転送電話使用中を含みます）
			遅い点滅	一般着信中（グループ外）
			速い点滅	一般着信中（グループ内）
		緑	点灯	自己使用中
			遅い点滅	外線キャンプオン呼出し中（転送元）
			速い点滅	他人保留中
		橙	点灯	当該外線データ通信中またはFAX通信中
			速い点滅	外線個別着信中
		緑⇔橙	遅い交互点灯	自己保留中
			速い交互点灯	外線キャンプオン呼出しタイムアウトで呼返し着信中
②	マイク	消灯	—	マイクOFF状態
		赤	点灯	マイクON状態
③	内線	消灯	—	内線待機中
		赤	点灯	内線捕捉中
			遅い点滅	転送保留操作中
			速い点滅	内線着信中
④	リダイヤル	状態表示なし （常時消灯）		—
⑤	セレクト	消灯	—	ワンタッチボタン表面（1～10）選択中
		赤	点灯	ワンタッチボタン裏面（11～20）選択中
⑥	スピーカ	消灯	—	スピーカ未受話状態（オフフック中はハンドセット受話）
		赤	点灯	スピーカ受話中
⑦	保留	状態表示なし （常時消灯）		—
⑧	スタート	状態表示なし （常時消灯）		—
⑨	モード切替	消灯	—	外線着信形態をモード1で運用中
		緑	点灯	外線着信形態をモード2で運用中
		赤	点灯	外線着信形態をモード3で運用中
⑩	不在転送	消灯	—	不在転送未設定中
		赤	点灯	不在転送設定中
⑪	代理応答	状態表示なし （常時消灯）		—
⑫	ドアホン	消灯	—	ドアホン待機中
		赤	速い点滅	ドアホン着信中
			点灯	ドアホン他人通話中
		緑	点灯	ドアホン自己通話中
			速い点滅	他人保留中
		緑⇔橙	遅い交互点灯	自己保留中
⑬	トーン	消灯	—	トーン信号送出モード解除中
		赤	点灯	トーン信号送出モード設定中
⑭	着信ランプ	消灯	—	着信なし
		赤	速い点滅	外線個別着信中または内線着信中

1-4-3 ドアホンユニットのLED表示



番号	ボタン名等	色彩	状態	意　　味
①	動作	消灯	―	回線が接続されていない状態または本製品不良
		赤	点灯	回線と接続後、約1～2秒間または回線とのリンクが未確立状態
			点滅	ドアホン着信中
		緑	点灯	ドアホン待機中
			点滅	ドアホン通話中または保留中

1-4-4 専用端末のLCD表示

専用端末には、16桁×2行のLCD表示器があります。以下に、専用端末の使用状況に応じて表示されるLCDの各表示内容について説明します。

●電界強度表示

無線端末では、LCD表示器の上段の左から3桁を用いて電界強度表示を行います。
〈無線端末の表示例〉

```
        Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

有線端末では、電界強度表示はありません。
〈有線端末の表示例〉

```
        Tel.32
11/11 SAT 11:11p
```

電界強度表示と、通話品質の目安を以下に示します。

表 示	レベル	通話品質の目安
ブリンク	0	メインユニットから受信電界強度を取得できない状態です。
	1	受信電界強度のレベルによって4段階で表示します。 レベル1が最弱で、レベル4が最強です。
	2	
	3	
	4	

LCD表示（1/4）

状態	LCD表示	補足説明
1. 待機中	Tel.22 11/11 SAT 11:11p	通常の表示です。 上段：自内線番号 下段：時計　　　を表示します。
	Tel.22 フザ゛イ テンソウ	不在転送を設定中の表示です。 上段：自内線番号　下段：不在転送設定中 を表示します。
2. ダイヤル中	Tel.22 1234567890	ダイヤル中の表示です。 上段：自内線番号 下段：ダイヤルモニタを表示します。 注）回線捕捉後、電話番号入力がなされていないときは、下段への表示は行いません。
3. 着信中 （その１）	一般着信時の表示パターンを示します。 1234567890 11/11 SAT 11:11p	発信者番号が網から通知された場合は、 上段：発信者番号 下段：時計　　　を表示します。
	Tel.22 11/11 SAT 11:11p	発信者番号が網から、通知されない場合は、 上段：自内線番号 下段：時計　　　を表示します。
	ヒツウチ 11/11 SAT 11:11p	非通知理由が、網から通知された場合は、 上段：非通知理由 下段：時計　　　を表示します。
	コウシュウ 11/11 SAT 11:11p	非通知理由とLCD表示内容を以下に示します。 ﾋﾂｳﾁ　：ユーザー拒否のため通知できません。 ｺｳｼｭｳ：公衆電話発信のため通知できません。 ﾋﾋｮｳｼﾞ：サービス提供不可あるいはサービス競合のため通知できません。
	ヒヒョウシ゛ 11/11 SAT 11:11p	
	個別着信時の表示パターン例を示します。 DID n 1234567890	上段 ：呼種別DIDまたはDIL、および着信回線nを示します。nは1または2です。 下段 ：発信者番号または非通知理由を表示します。非通知理由は、一般着信を参照下さい。 注1） 発信者番号および非通知理由が未受信の場合下段には時計表示します。 注2） DIDには、iナンバーによる着信を含みます。
	DIL n ヒツウチ	
	個別着信時（相手発番号指定）の表示パターン例を示します。 1234567890 11/11 SAT 11:11p	上段：発信者番号 下段：時計
	内線着信時の表示を示します。 Tel.22 ナイセン　23	上段：自内線番号 下段：発信者内線番号

LCD表示（2/4）

状態	LCD表示	補足説明
3. 着信中（続き）	テンソウ xxxxx	キャンプオンリンギングによる着信表示です。 下段： 発信者番号／非通知理由／内線番号／時計のいずれかを表示します。 非通知理由は一般着信を参照下さい。
	ヨビ゛カエシ 11／11 SAT 11：11p	呼び返しによる着信表示です。 下段は時計表示になります。
4. 通話中	Tel. 22 1：11'11"	外線に発信して通話しているときの表示です。 上段：自内線番号 下段：通話時間を表示します。
	Tel. 22 コウシュウ	外線から着信して通話しているときの表示です。 上段：自内線番号 下段：発信者番号または非通知理由または通話時間を表示します。 注） 発信者番号および非通知理由が未受信の場合は、下段には、通話時間表示を行います。
	Tel. 22 ナイセン 23	内線通話中の表示です。 下段には、通話相手の内線番号を表示します。
	Tel. 22 ド゛アホン	ドアホン通話中の表示です。

LCD表示（3/4）

状態	LCD表示	補足説明
5. その他	〈無線端末の場合〉 午前 Tel.22 11/11 SAT 11:11a 午後 Tel.22 11/11 SAT 11:11p 〈有線端末の場合〉 午前 Tel.32 11/11 SAT 11:11 午後 Tel.32 11/11 SAT 11:11p	時計表示（12時間制の場合）です。
	Tel.22 40円 3'10"	外線通話終了（オンフック）後、5秒間通話時間および通話料金を表示します。その後、時計表示になります。 網から通話料金の通知があった場合の表示例です。
	Tel.22 － － － 円 3'10"	網から通話料金の通知がなっかた場合の表示例です。
	Tel.22 モード n -> モード m	着信モード切替設定時の表示です。 nは、現在設定されているモードの番号を示します。 mは、選択中のモードの番号を示します。 モードは3モードあります。
		通話相手の状態を示す表示です。
	アイテ ワチュウ #17 11/11 SAT 11:11p	発信先が話中の表示です。
	チャクシン キョヒ #21 11/11 SAT 11:11p	発信先が着信拒否したときの表示です。
	チャネル ナシ #34 11/11 SAT 11:11p	発信先に空きの通話チャネルが無いときの表示です。
	アイテ コショウ #27 11/11 SAT 11:11p	発信先が故障のときの表示です。

LCD表示（4/4）

状態	LCD表示	補足説明
5. その他		通話相手の状態を示す表示です。
	カイセン　ショウガ゛イ 11／11　SAT　11：11p	回線障害時の表示です。
	カイセンセツダ゛ン 11／11　SAT　11：11p	上記以外の理由を受信したときの表示です。 理由番号を表示しないときの表示です。
	カイセンセツダ゛ン#nnn 11／11　SAT　11：11p	理由番号を表示するときの表示です。 （理由番号を表示する／しないが選択できます） 切断理由番号を表示するためには、Webデータ設定が必要となります。 （「システム管理者モード」で設定します。設定については、販売店にお問い合わせください）
		システム短縮ダイヤル操作中の表示です。
	07　カブ゛シキガ゛イシャ 0123456789	短縮コード2桁指定の場合の表示例です。 上段：相手先名称 下段：発信電話番号
	250カブ゛シキガ゛イシャ 0123456789	短縮コード3桁指定の場合の表示例です。 上段：相手先名称 下段：発信電話番号

1-4-5 可聴音／リンガ

専用端末から流れる可聴音とリンガの種類について以下にまとめました。

名称		周波数（Hz）	インタ（sec）	備考
可聴音	内線発信音	400	0.25 0.25	内線発信用
	第２発信音	400	0.125 0.125	転送発信用
	外線発信音	400	連続	外線発信用
	呼出中音	400/500 16Hzワンブル	2 1	
	話中音	400	0.5 0.5	
	保留音	－	メロディ（連続）	3曲から1曲選択
	音声呼出確認音	1000	0.5	
	音声呼出予告音	1000	0.125 0.125 0.125	スピーカから送出
	登録完了音	1300	0.5 0.5 0.5 0.5 0.5	
	話中着信音	1000	2.5 0.5	スピーカから送出
	エラー音	1000	0.5 0.5 0.5	
リンガ	呼出音	800/1300 16Hzワンブル	2 1	外線着信用
	第2呼出音	800/1300 16Hzワンブル	0.25 2.25 0.25 0.25	内線着信用
	着信メロディ	－	メロディ（連続）	3曲から1曲選択 一般着信用（出荷時は呼出音）
	チャイム	－	ピンポーンピンポーン	ドアホン着信用

1-5 無線LANのネットワーク構築例

無線LANのネットワーク構築にあたって考慮すべき事項と、ネットワークの構成例を以下に示します。

1-5-1 ネットワークを構築する前に

本製品の特長と、ネットワーク構築上のキーポイントについて説明します。

（1）本製品の特長

① オフィスに最適なネットワークを構築できます。
② 無線LANでの音声パケット優先処理により、良好な音声通話ができます。
③ 外部インタフェースとして、10BASE－T／100BASE－TX兼用ポートが4ポート用意されています。

（2）ネットワーク構築にあたって

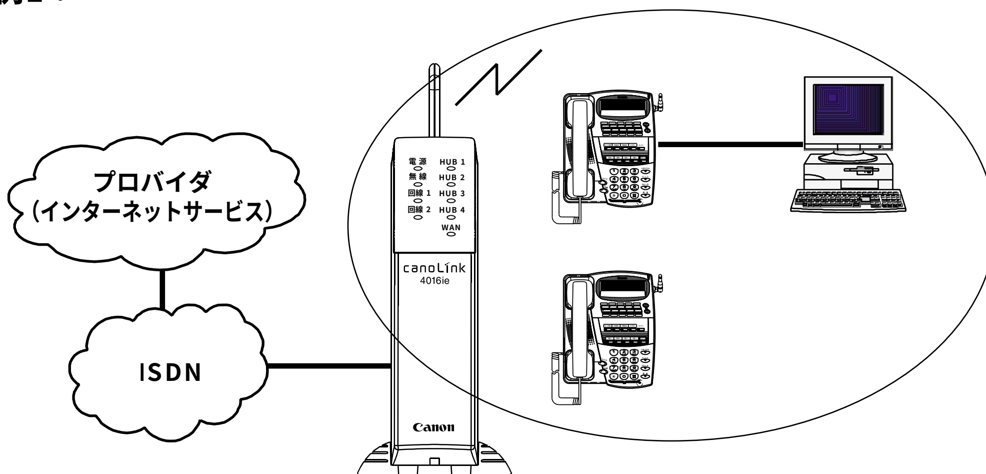
ネットワークを構築するには、まず収容する機器の一覧を作成し、トラヒックを考慮してネットワークを構築する必要があります。

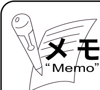
トラヒックの高いパソコン等を無線IP端末のPCポートに接続して使用した場合、音声品質に支障をきたす場合があります。トラヒックの高いパソコン等はメインユニットのHUBポートに直接接続するかHUBポートに外付けアクセスポイントを接続してください。

1-5-2 ネットワークの構成例

本製品を使用したネットワークの構成例を以下に示します。

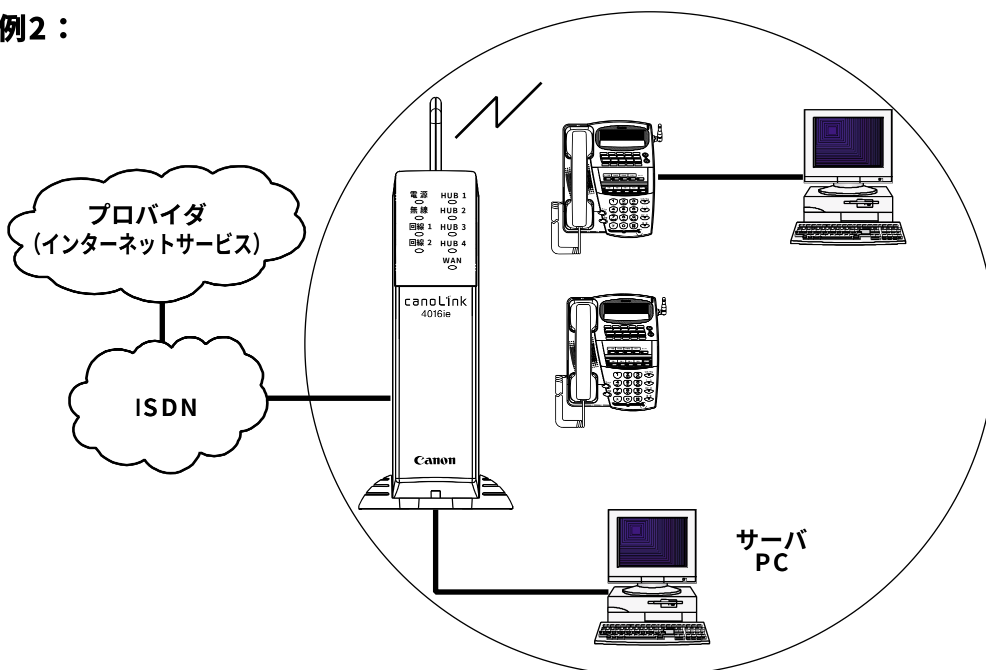
構成例1：

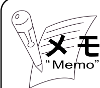




◇無線LAN配下のクライアントPC等は、最大8台まで収容可能です。

構成例2：

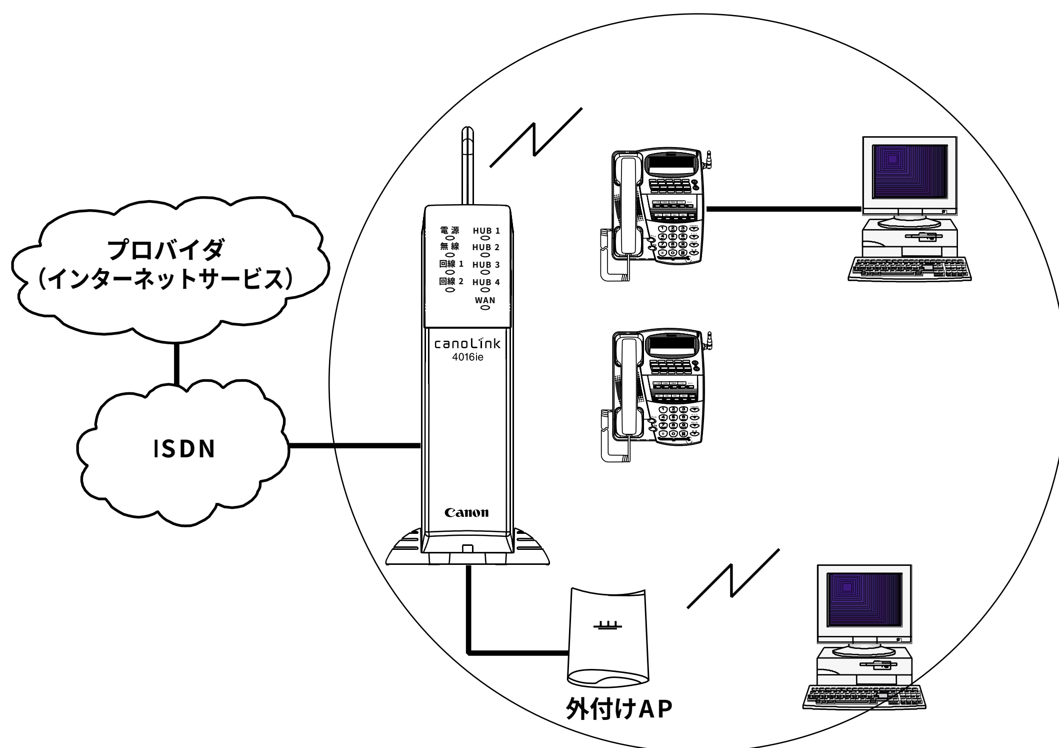


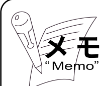


◇無線LAN配下のクライアントPC等は、最大8台まで収容可能です。

◇トラヒックの高いサーバPC等は、メインユニットのHUBポートに接続します。

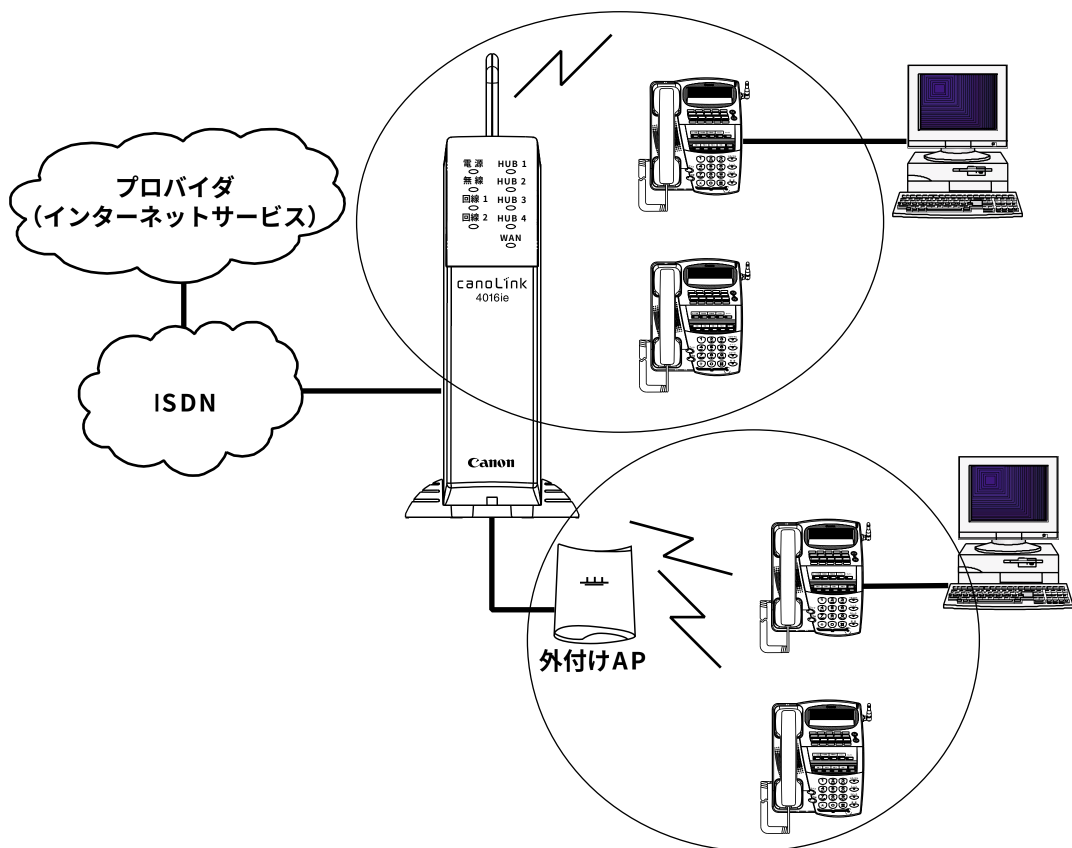
構成例3：

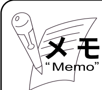




◇無線LAN配下のクライアントPC等は、9台以上収容可能です。
◇メインユニットのアクセスポイントには、無線IP端末（PCポート接続PCを含む）を接続します。
◇外付けアクセスポイントには、トラヒックの高いサーバPC等を接続します。

構成例4：





◇メインユニットのアクセスポイントの電波が届かない場合です。
◇無線IP端末は、メインユニットの配下と外付けアクセスポイントの配下を含めて最大8台まで収容できます。

構成例5：

プロバイダ
（インターネットサービス）

ISDN

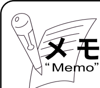
電源 無線 回線1 回線2 HUB 1 HUB 2 HUB 3 HUB 4 WAN

canoLink
4016ie

Canon

外付けAP

外付けAP



◇メインユニットのアクセスポイントの電波が届かない場合です。
◇無線IP端末は、メインユニットの配下と外付けアクセスポイントの配下を含めて最大8台まで収容できます。

構成例6：

プロバイダ
（インターネットサービス）

ISDN

電源
無線
回線 1
回線 2
HUB 1
HUB 2
HUB 3
HUB 4
WAN

canoLink
4016ie

Canon

スイッチング
HUB

外付けAP

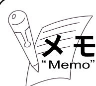
外付けAP



◇無線IP端末は、メインユニットの配下と外付けアクセスポイントの配下を含めて最大8台まで収容できます。
◇スイッチングHUBは、IEEE802.1Q/pで規格化されているプライオリティビットに従ったパケット優先制御機能付きのレイヤ2スイッチングHUBを使用します。

構成例7：

プロバイダ
（インターネットサービス）
ISDN
電源
無線
回線1
回線2
HUB 1
HUB 2
HUB 3
HUB 4
WAN
canoLink
4016ie
Canon



◇無線IP端末収容数が4台以下で、かつその配下のクライアントPCが4台以下の場合には、メインユニットのアクセスポイントにプリンターを1台収容することができます。（音声の通話切れが発生する場合には、外付けアクセスポイント経由でプリンターを使用してください）

1-6 使用上の注意

システム運用中に電源がOFFになったときのデータの保持、および静電破壊に関する注意を以下に説明します。

1-6-1 データの保持に関する注意

システム運用中の電源OFFにより、保持されるデータと失われるデータについて以下にまとめました。

（1）運用中にメインユニットの電源をOFFした場合

● Webから設定したデータ
各設定データは保持されます。ただし、設定途中に電源がOFFされた場合は、データは保証できません。

● ログ／履歴
ログ／履歴は1日に1回（AM3時）だけ不揮発性記憶領域へセーブされます。したがって、セーブ後から電源OFFまでの間のデータは失われますので注意してください。また、Webにてログ記録を実行することにより、不揮発性記憶領域へセーブすることもできます。

● 有線SD端末および有線PF端末で設定したデータ
運用中にメインユニットの電源をOFFした場合は、有線端末の電源もOFFとなります。この場合、有線端末から設定した次のデータは、メインユニットの記憶領域に保持されません。（再度、メインユニットの電源を入れると、システムのデフォルト値に戻ります）

受話音量、スピーカ音量、着信音量、LCDコントラスト、側音量、マイク音量、キータッチトーン、ヘッドセット設定

● その他のデータ
着信モード設定状態は、メインユニットの記憶領域に保持されます。不在転送設定およびリダイヤル情報は保持されません。

（2）運用中に無線IP端末のAC電源をOFFした場合

無線IP端末から設定した次のデータは、無線IP端末に保持されます。

受話音量、スピーカ音量、着信音量、LCDコントラスト、側音量、マイク音量、キータッチトーン設定、ヘッドセット設定、IPアドレス設定、ESSID設定、暗号化設定、プリアンブル設定、データレート設定など

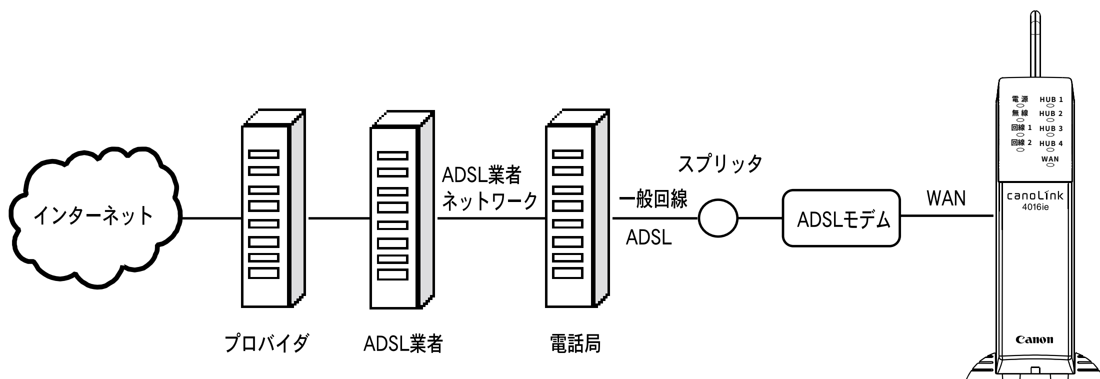
1-6-2 静電破壊に関する注意

衣服が擦れ合い発生した静電気は、人体に帯電し、電気素子を破壊したり、その電気特性を変えてしまうことがあります。

1-7 ブロードバンド接続に関する留意点

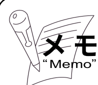
メインユニットのWANポートを経由してブロードバンドに接続する際には、下記のことに留意してください。

● **ADSL回線接続**



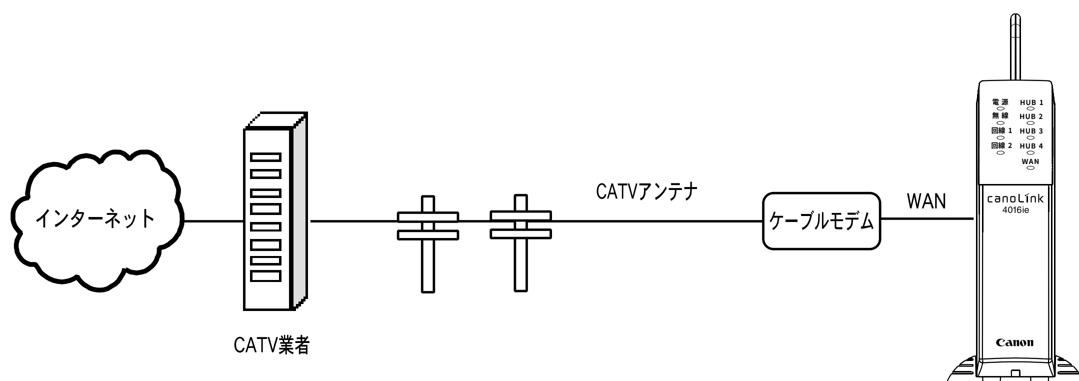
ADSL接続は、メタリックの一般電話回線を用いて、高速通信を行うxDSL技術の1つです。1対の電話線ケーブルを使い，数キロメートル以内での高速伝送を可能とます。上下非対称で，下り方向（局から加入者宅の方向）が太くなっています。ADSL業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続します。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて以下の条件を満たしている必要があります。

◆ LAN接続のADSLモデムが使えること（USB接続のADSLモデムは不可)。
◆ プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。



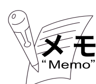
◇設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。
※プロバイダによっては、これらの情報が不要な場合もあります。
◆ DNSサーバアドレス
◆ ユーザID
◆ パスワード

● CATV回線接続



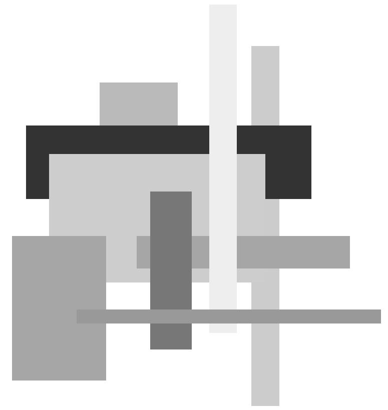
CATV接続は、電話回線を使用しないでCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。放送では使用していないチャンネルを通信に割り当て，専用のケーブルモデムで変復調を行って高速通信を実現します。お住まいの地域にインターネット接続サービスを提供しているCATV業者があり、以下の条件を満たしている必要があります。

◆ お住まいの建物のアンテナ設備が、CATVインターネット接続に対応できること。
◆ CATV業者がルータによる複数台パソコン接続を認めていること。



◇設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

◆ DNSサーバアドレス
◆ IPアドレス
◆ ネットマスク



2 データ設定

2-1 メインユニットの設定

メインユニットへのデータ設定には、WWWブラウザを使用します。データ設定は、LAN接続されたPC（パソコン）から行います。

Webからは、設定の他に運用状態等の情報も見ることができます。Webからできる主な項目を以下に示します。

・簡易設定機能
・各回線の設定
・ルータ機能の設定
・各端末の設定
・簡易CTI機能
・各テーブルの参照
・履歴の参照
など

Webへアクセスする場合は、以下のWWWブラウザおよびOSをお使いください。

・ブラウザ：Internet Explorer 5.0　以上
・OS　　　：Windows95/98/Me/NT4.0/2000/XP、Mac OS9

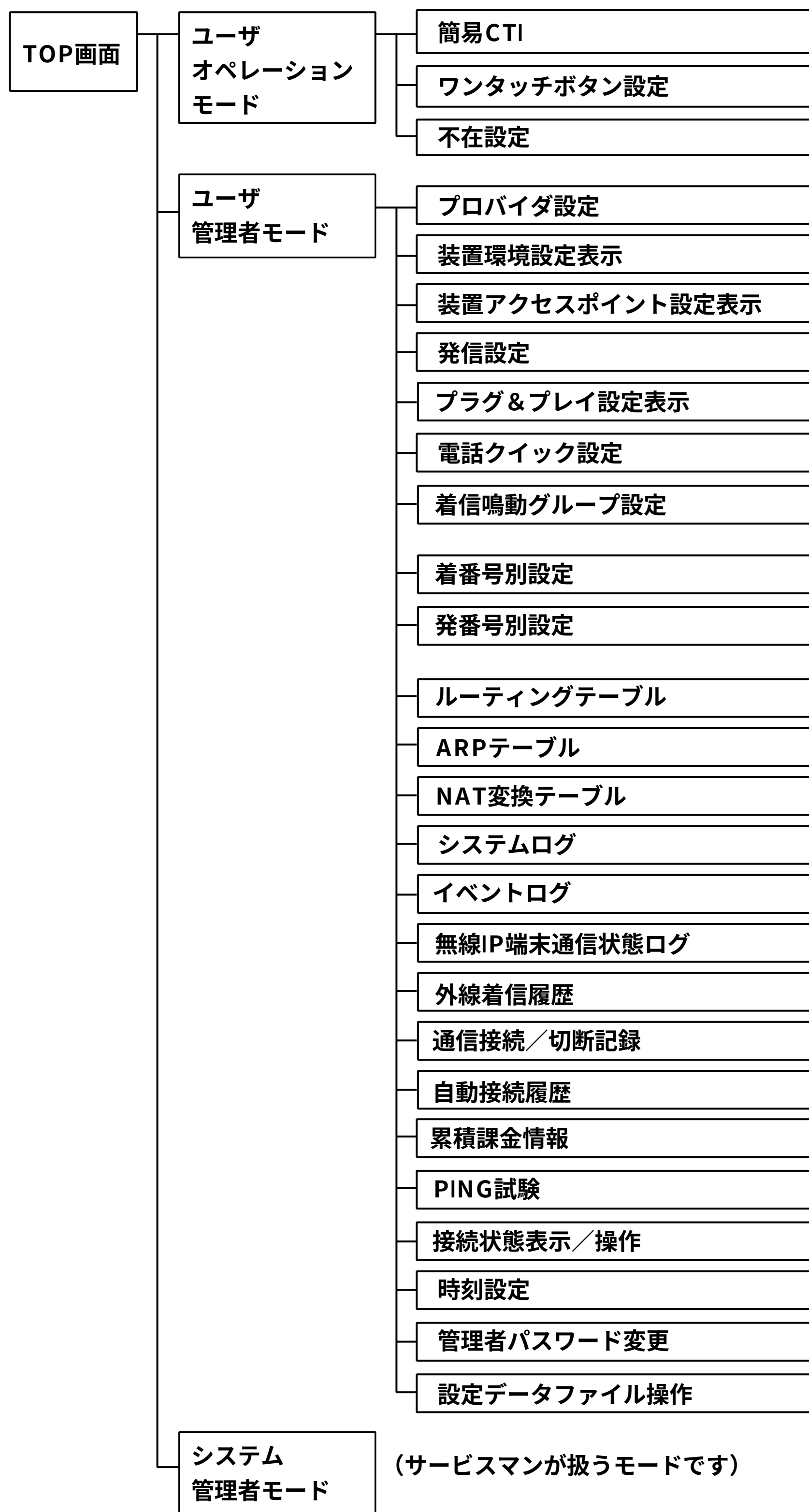

お願い

◇Internet Explorer 5.0の場合、キャッシュに関する設定を以下のように変更してください。デフォルトのままにしておくとメインユニットへ設定登録したデータが更新表示されないことがあります。（設定登録は実行されています）
<Internet Explorer 5.0の設定変更手順>
「ツール」→「インターネットオプション」→「全般」→「インターネット一時ファイル」：［設定］ボタンで、
デフォルト「自動的に確認する」を「ページを表示する毎に確認する」に変更します。

◇Windows95/98/Me/NT4.0/2000/XP搭載のPC（パソコン）で、これまでモデムやターミナルアダプタ等を使用中あるいは使用していた場合は、あらかじめPCで次の設定を変更しておいてください。
<Internet Explorer 5.0使用時>
「スタートメニュー」→「設定」→「コントロールパネル」→「インターネットオプション」→「接続」→「ダイヤルアップ接続」で「ダイヤルしない」を選択します。

2-1-1 Web構成（Webツリー）

メインユニットのWeb構成を以下に示します。



2-1-2 Webの操作方法

Web上の設定は、クリック、選択、入力などの簡単な操作で行うことができます。
Webを構成する代表的な部品と、その操作方法を以下にまとめます。

●ラジオボタンと入力

ユーザオペレーションモード
ユーザ管理者モード
システム管理者モード
パスワード入力
ログイン

【操作方法】

ラジオボタン ：どれか1つだけ選択できます。上記の場合は、ユーザオペレーションモード／ユーザ管理者モード／システム管理者モードの中から1つのモードだけ選択できます。選択は、マウスの左ボタンをクリックすることで行えます。選択したものには黒いドットが真中につきます。

入力 ：空白は入力エリアです。上記の場合はパスワードを入力します。入力はマウスで入力エリアをクリックした後、キーボードから入力してください。ユーザ管理者モードかシステム管理者モードを選択後、パスワードを入力して「ログイン」ボタンを押すとログインできます。

●プルダウンメニュー

保留音種別 和音2

【操作方法】

プルダウンメニュー：マウスで▼ボタンを押すと、メニューが表示されます。マウスの左ボタンを押したまま移動させ、メニューから1つ選択します。マウスの左ボタンを離した位置のメニュー項目が選択されます。

●チェックボックス

・接続時の日間課金制限を行う
・接続時の月間課金制限を行う

【操作方法】

チェックボックス：ボックスをクリックすると、ボックスにチェックマークが表示され、“ チェックON ” となります。もう一度クリックすると、チェックマークが消えて “ チェックOFF ” となります。上記の場合は、接続時の日間課金制限を行いますが、下の月間課金制限は行われません。

●その他のボタンの操作

設定…………本ボタンを押すと、メインユニットの通常の記憶領域に書き込まれます。（ユーザオペレーションモード及びユーザ管理者モードでは、本ボタンを押すと同時に不揮発性記憶領域に書き込まれます。）

更新…………本ボタンを押すと、設定及びログの最新情報を表示します。

ログ記録…本ボタンを押すと、ログ／履歴を不揮発性記憶領域に書き込みます。電源を切る前には押すようにしてください。

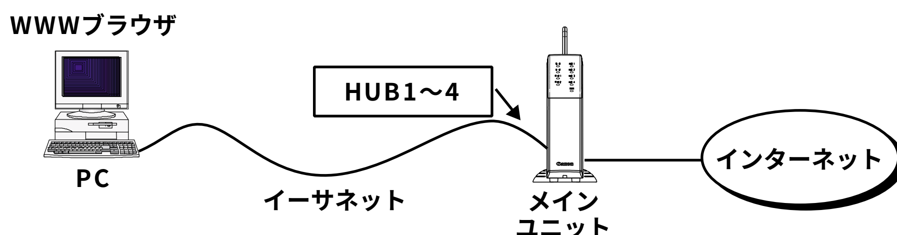


◇［設定］ボタンを押さずに他のメニューに切替えると、設定・変更は消えてしまいます。設定・変更したときは、必ず［設定］ボタンを押した後に画面を切替えてください。

2-1-3 Webのアクセス方法

【1】PCの接続

メインユニットとPCをイーサネットケーブルで接続します。
PCの電源は、ケーブルを接続後、メインユニットが立ち上る（電源ランプが緑色になる）のを確認してからONにしてください。



【2】PCの設定

メインユニットのHUBポートに接続されるPCは、あらかじめTCP／IPの設定を行っておく必要があります。TCP／IPの設定は最初に1回行えば、あとは必要ありません。また、設定変更後は、PCを再起動してください。
メインユニットには、IPアドレスを自動的に割付ける「プラグ＆プレイ（DHCP）」機能があり、出荷時にはDHCPサーバ機能が使えるようになっています。

●IPアドレス設定

Windows95/98/Me	：	「IPアドレスを自動に取得」を選択します。
WindowsNT4.0	：	「DHCPサーバからIPアドレスを取得する」を選択します。
Windows2000/XP	：	「IPアドレスを自動に取得する」を選択します。
MAC　OS9	：	「経由先」で「Ethernet」を選択し、「設定方法：」で「DHCPサーバを参照」を選択します。

●DNS設定

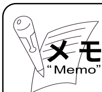
Windows95/98/Me	：	「DNSを使わない」を選択します。
WindowsNT4.0	：	「ドメイン名」、「DNSサービスの検索順序」、「ドメインサフィックスの検索順序」のボックスには何も入力されていないことを確認してください。
Windows2000/XP	：	「DNSサーバのアドレスを自動で取得する」を選択します。
MAC　OS9	：	なし（DHCPサーバの選択だけです）

●WINSの設定

Windows95/98/Me　：「WINSの解決をしない」を選択します。

WindowsNT4.0　：「プライマリWINSサーバ」、「セカンダリWINSサーバ」、「スコープID」の各ボックスには何も入力しないでください。「Windows名前解決にDNSを使う」と「LMHHOSTS参照を行う」のチェックはOFFにします。

Windows2000　：「WINSアドレス」エリアを空白にします。「LMHHOSTS参照を有効にする」のチェックをOFFにします。



◇「WINS」設定は、「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」ボタンをクリックしてください。「TCP/IP詳細」ウィンドウの中にあります。

WindowsXP　：なし

MAC　OS9　：なし（DHCPサーバの選択だけです）

●ゲートウェイ設定

Windows95/98/Me　：「インストールされているゲートウェイ」は空白のままにします。

WindowsNT4.0　：「IPアドレス」の「IPアドレスを指定する」でデフォルトゲートウェイを空白にします。

Windows2000　：「IPアドレスを自動に取得する」、「DNSサーバのアドレスを自動で取得する」に設定すると、「IP設定」のIPアドレスとデフォルトゲートウェイのエリアが空白になります。

WindowsXP　：なし

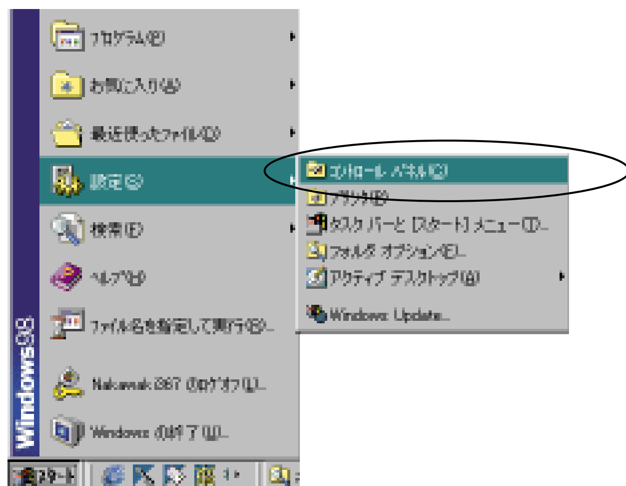
MAC　OS9　：なし（DHCPサーバの選択だけです）

●Windows95/98/MeのTCP/IP設定先

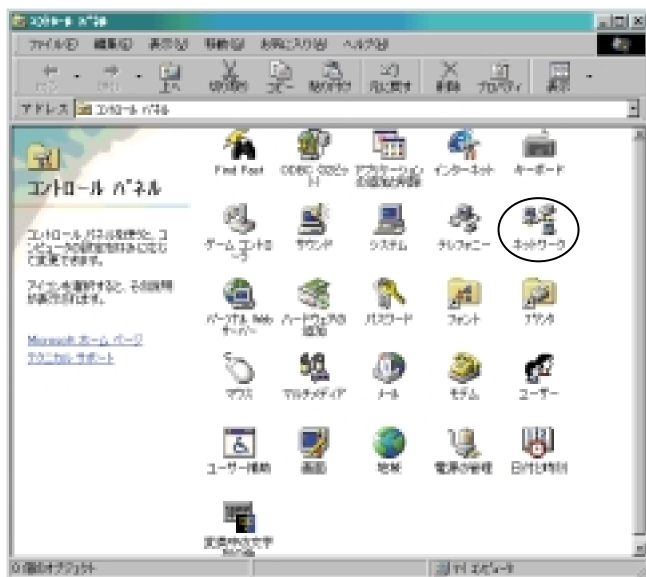
Windows95/98/Meの場合は、以下の手順でTCP/IPの設定画面をアクセスしてください。

手順1：「スタートボタン」をクリックします。

手順2：「設定」→「コントロールパネル」を選択してコントロールパネル画面を開きます。

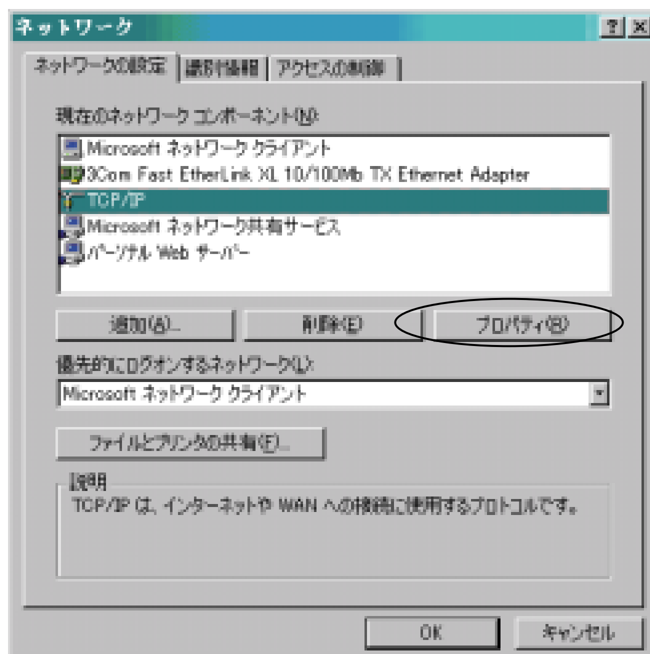


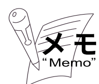
手順3：「ネットワーク」アイコンをダブルクリックして「ネットワーク」画面を開きます。



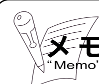
手順4：「現在のネットワークコンポーネント」のリストの中から「TCP/IP」を選択します。
手順5：「プロパティ」ボタンをクリックして「TCP/IPプロパティ」画面を開きます。

ここで、TCP/IPの設定を行ってください。





◇OSのバージョン等によっては、本書で紹介している画面と異なる場合があります。



◇WindowsXPの場合は、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」→「この接続の設定を変更する」→「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選んで「プロパティ」ボタンをクリックします。「全般」タブをクリックして「IPアドレスを自動的に取得する」を選んでから「詳細設定」をクリックします。次に「DNS」タブをクリックしてから「この接続のアドレスをDNS登録する」のチェックを外し「OK」をクリックします。

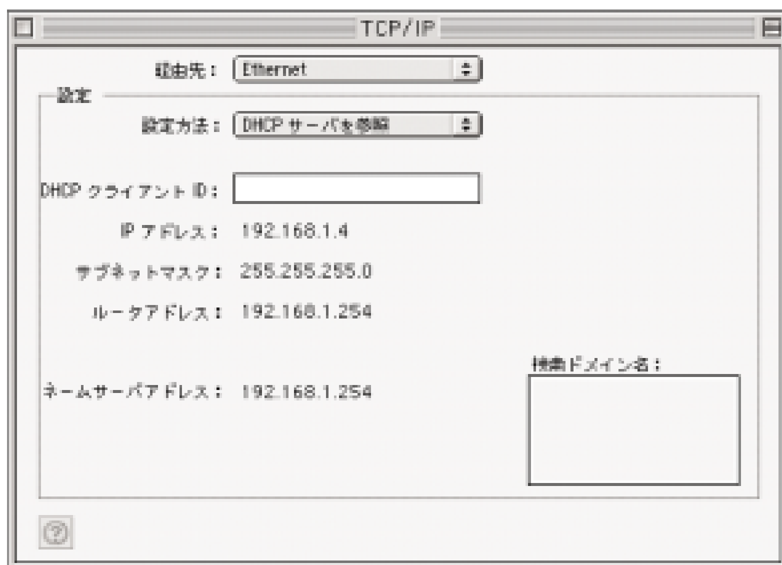


◇Windows NT 4.0の場合も同じような経路でTCP/IPの設定をアクセスできます。
◇Windows 2000の場合は、「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」で「ローカルエリア接続」をダブルクリック→「ローカルエリア接続状態」で「プロパティ」をクリック→「ローカルエリア接続のプロパティ」ここでTCP/IPを選択して「プロパティ」ボタンをクリックします。

●Mac OSのTCP/IP設定先

手順1：「アップルメニュー」をクリックして「コントロールパネル」を開きます。
手順2：「コントロールパネル」の中から「TCP／IP」を選択して「TCP／IP」画面を開きます。

ここで、TCP／IPの設定を行ってください。
＜設定例＞

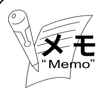


【3】PCからメインユニットへのアクセス

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。
手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。



Webデータ設定のTOP画面が表示されます。



◇URLとして、メインユニットのIPアドレスを直接入力した場合でもWebデータ設定のTOP画面を表示できます。
（出荷時のIPアドレスは192.168.1.1です）

2-1-4 Webモードの説明

Webからの設定は、TOP画面から3つのモードに分かれます。ここでは、本書で取り扱う下記のモードについて説明します。

ユーザオペレーションモード
ユーザ管理者モード
システム管理者モード
パスワード入力
ログイン

●ユーザオペレーションモード

このモードは、メインユニットに接続するユーザであれば誰でも使用することができます。簡易CTI機能、ワンタッチボタン設定、内線別不在設定などユーザが使う専用端末や一般電話機の設定および操作が行えます。

●ユーザ管理者モード

このモードを使用するには、パスワードが必要です。このモードでは、インターネット接続、端末の設定やLANを保守するのに最低限必要な設定および操作が行えます。
パスワード設定は、一般のユーザが誤って、あるいは故意に設定を変更し、インターネット接続ができなくなったり、端末が使えなくなったりするのを防止します。

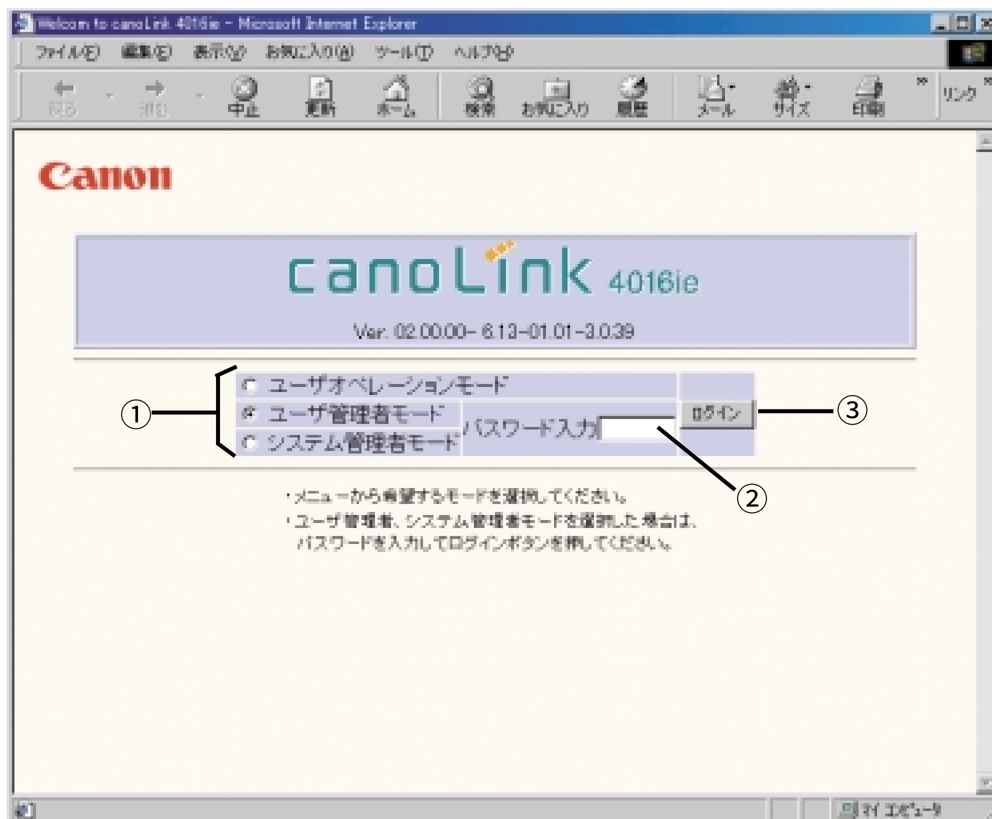
●システム管理者モード

サービスマンが使用するモードです。

2-1-5 Web詳細設定

各Web設定画面の設定内容について説明します。
記載されているWeb画面は、バージョンアップにより変更されることがあります。

【1】TOP画面

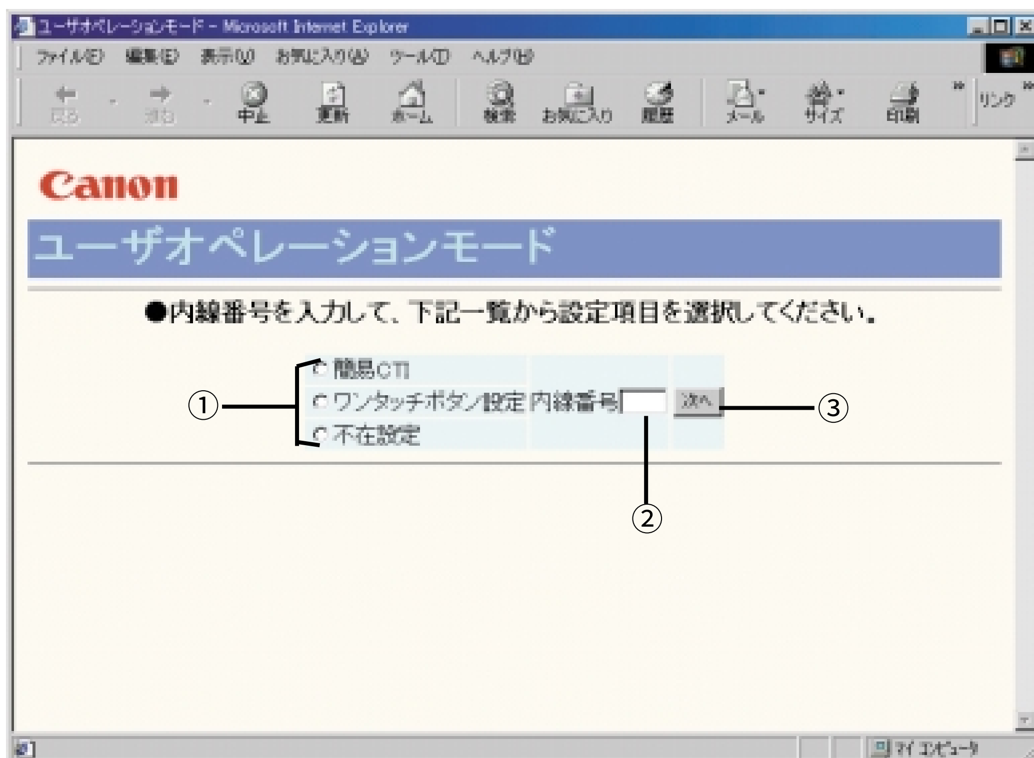


	設定内容	設定範囲	備　　考
①	モード選択	［ラジオボタンを選択］	使用するモードを選択します。 ユーザ管理者／システム管理者モードを使用するには、パスワードが必要です。
②	パスワード	［入力］ 半角3～8文字	パスワードを入力します。 ユーザ管理者パスワード： 出荷時“パスワード無し”
③	ログイン		ボタンを押すと、選択したモードの画面へ遷移します。

【2】ユーザオペレーションモード

（1）ユーザオペレーションモード

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザオペレーションモード」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	機能選択	［ラジオボタンを選択］	使用する機能を選択します。
②	内線番号	［入力］	設定を行いたい内線番号を入力します。ただし、内線に機能がない場合、入力しても遷移せずエラー表示が出ます。
③	次へ		ボタンを押すと、入力した内線番号の選択した機能画面へ遷移します。

(2) 簡易CTI

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザオペレーションモード」→「簡易CTI」

簡易CTI／内線番号21 - Microsoft Internet Explorer

Canon

簡易CTI／内線番号21

・発信番号選択　発番号エントリ番号　1:31
着信履歴　31(無)
直接入力

発信番号を選択して、発信ボタンをクリックしてください。

発信　戻る

ページが表示されました　マイ コンピュータ

①　②　③　④　⑤　⑥

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	機能選択	［ラジオボタンを選択］	使用する機能を選択します。
②	発番号エントリ番号	［プルダウンメニューを選択］ 1～30	電話をかける相手を選択します。
③	着信履歴	［プルダウンメニューを選択］	電話をかける相手を着信履歴から選択します。 番号末尾に（無）が付く場合： 相手の電話に応答しなかった 番号末尾に（無）が付かない場合： 相手の電話に応答した
④	直接入力	［入力］ 半角32文字以内	電話をかける相手の電話番号を直接入力します。
⑤	発信		選択または直接入力した電話番号に発信します。
⑥	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（3）ワンタッチボタン設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザオペレーションモード」→「ワンタッチボタン設定」

ワンタッチボタン設定／内線番号21

ワンタッチボタン	ダイヤル番号	番号種別
1		外線番号
2		外線番号
3		外線番号
16		外線番号
17		外線番号
18		外線番号
19		外線番号
20		外線番号

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

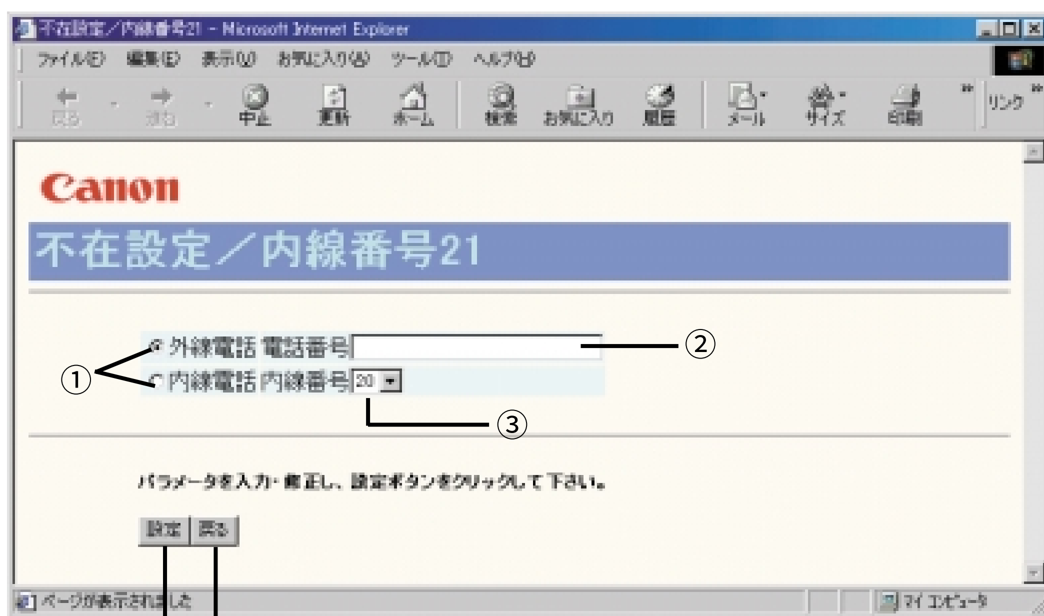
設定　戻る

①　②　③　④

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	ダイヤル番号	［入力］ 半角32文字以内	ワンタッチボタンに登録する電話番号を入力します。
②	番号種別	［プルダウンメニューを選択］ 外線番号 内線番号	ワンタッチボタンの登録電話番号が外線番号か内線番号かを選択します。
③	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
④	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（4）不在設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザオペレーションモード」→「不在設定」

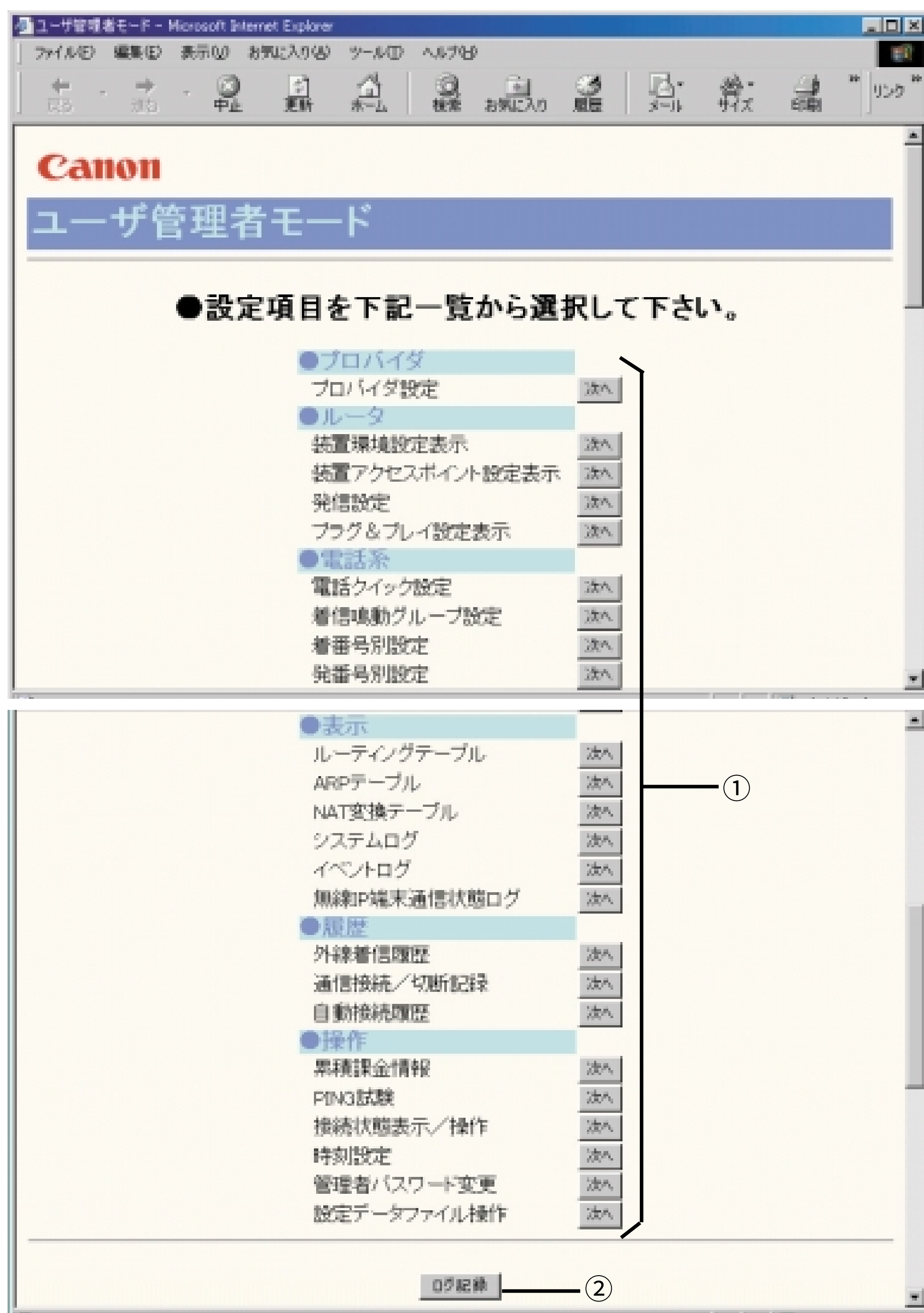


	設定内容	設定範囲	備　考
①	不在転送先 電話番号種別	［ラジオボタンを選択］	不在時の転送先電話番号の番号種別を選択します。
②	電話番号	［入力］ 半角32文字以内	外線番号を入力します。
③	内線番号	［プルダウンメニューを選択］	内線番号を選択します。
④	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

【3】ユーザ管理者モード

（1）ユーザ管理者モード

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	機能選択		使用する機能を選択します。 ［次へ］ボタンを押すと、機能操作画面に遷移します。
②	ログ記録		［ログ記録］ボタンを押すと、ログ／履歴を不揮発性記憶領域に書き込みます。 電源を切る前には押すようにしてください。

（2）プロバイダ設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「プロバイダ設定」

プロバイダ設定 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　お気に入り(A)　ツール(T)　ヘルプ(H)

戻る　進む　中止　更新　ホーム　検索　お気に入り　履歴　メール　サイズ　印刷　リンク

Canon

プロバイダ設定

●ダイヤルアップ接続設定

・接続先電話番号	1234567	①
・ユーザID	ABC012345	②
・パスワード	*********	③
・接続回線指定	未指定	④
・プライマリDNSサーバアドレス		⑤
・セカンダリDNSサーバアドレス		⑥
・接続形態	PPP	⑦
・認証方式	相手の要求	⑧
・自動切断解除時間帯の指定	○利用する ◉利用しない	⑨
自動切断解除開始時間	23 時 0 分	⑩
自動切断解除終了時間	5 時 0 分	⑪
・最大接続時間	0 分	⑫
・無通信切断時間	160 秒	⑬
・無通信切断監視対象パケット	入出力パケット	⑭

●WANポート設定

WANポート未使用

Ethernet接続モード

・接続種別 インターネット接続 ⑯

⑰ DHCPクライアント

DHCPクライアント	DHCPクライアントID	⑱
固定IPアドレス	自己WAN IPアドレス	⑲
	サブネットマスク 255.255.255.255	⑳
	インターネットゲートウェイアドレス 0.0.0.0	㉑
	プライマリDNSサーバアドレス	㉒
	セカンダリDNSサーバアドレス	㉓

⑮

PPPoE接続モード

ユーザID abc@def@ghi.ne.jp	㉔
パスワード ********	㉕
サービス名	㉖
自己WAN IPアドレス	㉗
接続先 IPアドレス	㉘
サブネットマスク 255.255.255.255	㉙
プライマリDNSサーバアドレス	㉚
セカンダリDNSサーバアドレス	㉛
常時接続 ○する ◉しない	㉜
最大接続時間 0 分	㉝
無通信切断時間 0 秒	㉞
無通信切断監視対象パケット 入出力パケット	㉟

●WEBサーバ利用ホスト制限

・ダイヤルアップ接続外部アクセス ○可 ◉不可 ㊱

・ブロードバンド接続外部アクセス ○可 ◉不可 ㊲

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 戻る ㊴

ページが表示されました　マイ コンピュータ

㊳

2 データ設定

●ダイヤルアップ接続設定

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	接続先電話番号	［入力］ 半角32文字以内	プロバイダの電話番号を入力します。
②	ユーザID	［入力］ 半角32文字以内	プロバイダから指定されたユーザ名を入力します。
③	パスワード	［入力］ 半角32文字以内	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。
④	接続回線指定	［プルダウンメニューを選択］ 未指定／回線1／回線2	設定した接続先に接続するときの回線を指定できます。
⑤	プライマリ DNSサーバアドレス	［入力］	プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバアドレスを入力します。指定がない場合は、空白で構いません。
⑥	セカンダリ DNSサーバアドレス	［入力］	プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバアドレスを入力します。指定がない場合は、空白で構いません。
⑦	接続形態	［プルダウンメニューを選択］ PPP/MP/BOD/MP+BOD	接続先と接続するときの形態を選択します。 PPP：　Bチャネル1本の接続 MP：　Bチャネル2本の接続 BOD：　設定に応じて接続中に1本→2本、2本→1本とできます。 MP+BP：設定に応じて接続中に2本→1本、1本→2本とできます。 ※MP（マルチリンクPPP）接続にはプロバイダのアクセスポイントが対応している必要があります。 ※MP（マルチリンクPPP）接続では回線使用料金が2回線分必要です。
⑧	認証方式	［プルダウンメニューを選択］ 相手の要求／CHAP／PAP／認証なし	接続先と認証を行う場合のプロトコルを選択します。 「相手の要求」では、交渉により自動でPAPかCHAPかが決定されます。
⑨	自動切断解除時間帯の指定	［ラジオボタンを選択］	自動切断を行わない時間帯を設定することができます。
⑩	自動切断解除開始時間	［入力］	自動切断を行わない時間帯の開始時間を設定します。
⑪	自動切断解除	［入力］	自動切断を行わない時間帯の終了時間を設定します。
⑫	最大接続時間	［入力］ ［プルダウンメニューを選択］	1回の接続で連続接続できる時間を設定します。ここで設定した時間を超えると強制的に切断されます。 “0”は無制限を意味します。
⑬	無通信切断時間	［入力］ ［プルダウンメニューを選択］	切断中、無通信が設定時間を超えると自動的に切断されます。“0”は無効を表します。 “1”～“9”(秒)は入力できません。

	設定内容	設定範囲	備　　考
⑭	無通信切断監視対象パケット	［プルダウンメニューを選択］ 入出力パケット／入力パケット／出力パケット	無通信切断する場合の対象となるパケットを指定します。 入出力パケットとした場合、回線から入ってくるパケット、回線へ出ていくパケットの両方が対象となります。

●WANポート設定：Ethernet接続

	設定内容	設定範囲	備　　考
⑮	WANポート選択	［ラジオボタンを選択］	WANポートの接続形態を選択します。 Ethernet接続モードは、CATVやPPPoE接続以外のADSL接続時に選択します。 PPPoE接続モードはフレッツ・ADSL等PPPoE接続の場合選択します。
⑯	接続種別	［プルダウンメニューを選択］ インターネット接続／イントラネット接続	WANポートから接続する先がインターネットかイントラネットか選択します。
⑰	IPアドレス割当方法	［ラジオボタンを選択］	WANポートに割付けるIPアドレスの取得方法を選択します。 DHCPクライアントは、DHCPサーバから自動取得する場合選択します。 固定IPアドレスは、CATV業者やプロバイダからIPアドレスが指定されている場合選択します。
⑱	DHCPクライアントID	［入力］ 半角32文字以内	DHCPクライアントとしてのIDを入力します。指定がない場合は、空白で構いません。
⑲	自己WAN IPアドレス	［入力］	CATV業者あるいはプロバイダなどから指定されたIPアドレスを入力します。
⑳	サブネットマスク	［入力］	CATV業者あるいはプロバイダなどから指定されたサブネットマスク値を入力します。
㉑	インターネット ゲートウェイアドレス	［入力］	CATV業者あるいはプロバイダなどから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。
㉒	プライマリDNSサーバアドレス	［入力］	CATV業者あるいはプロバイダなどから指定されたプライマリDNSサーバアドレスを入力します。
㉓	セカンダリDNSサーバアドレス	［入力］	CATV業者あるいはプロバイダなどから指定されたセカンダリDNSサーバアドレスを入力します。指定がない場合は、空白で構いません。

●WANポート設定：PPPoE接続

	設定内容	設定範囲	備　　考
㉔	ユーザID	［入力］ 半角32文字以内	プロバイダから指定されたユーザID（アカウント）を入力します。
㉕	パスワード	［入力］ 半角32文字以内	プロバイダから指定されたパスワードあるいは自分で変更したパスワードを入力します。
㉖	サービス名	［入力］ 半角32文字以内	プロバイダから指定されたサービス名がある場合入力します。指定がない場合空白のままで構いません。
㉗	自己WAN IPアドレス	［入力］	プロバイダから指定された固定のIPアドレスを入力します。指定がない場合空白のままで構いません。
㉘	接続先IPアドレス	［入力］	プロバイダから指定された固定のIPアドレスがある場合入力します。指定がない場合空白のままで構いません。
㉙	サブネットマスク	［入力］	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。指定がない場合空白のままで構いません。
㉚	プライマリDNSサーバアドレス	［入力］	プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバアドレスを入力します。指定がない場合は、空白で構いません。
㉛	セカンダリDNSサーバアドレス	［入力］	プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバアドレスを入力します。指定がない場合は、空白で構いません。
㉜	常時接続	［ラジオボタンを選択］	常時接続を行うかどうかを選択します。
㉝	最大接続時間	［入力］ ［ラジオボタンを選択］	1回の接続で連続接続できる時間を設定します。ここで設定した時間を超えると強制的に切断されます。 “０”は無制限を意味します。
㉞	無通信切断時間	［入力］ ［プルダウンメニューを選択］	接続中、無通信が設定時間を超えると自動的に切断されます。 "0"は無効を表します。 “１”～“９”(秒)は入力できません。
㉟	無通信切断監視対象パケット	［プルダウンメニューを選択］	無通信切断する場合の対象となるパケットを指定します。 入出力パケットとした場合、回線から入ってくるパケット、回線へ出ていくパケットの両方が対象となります。

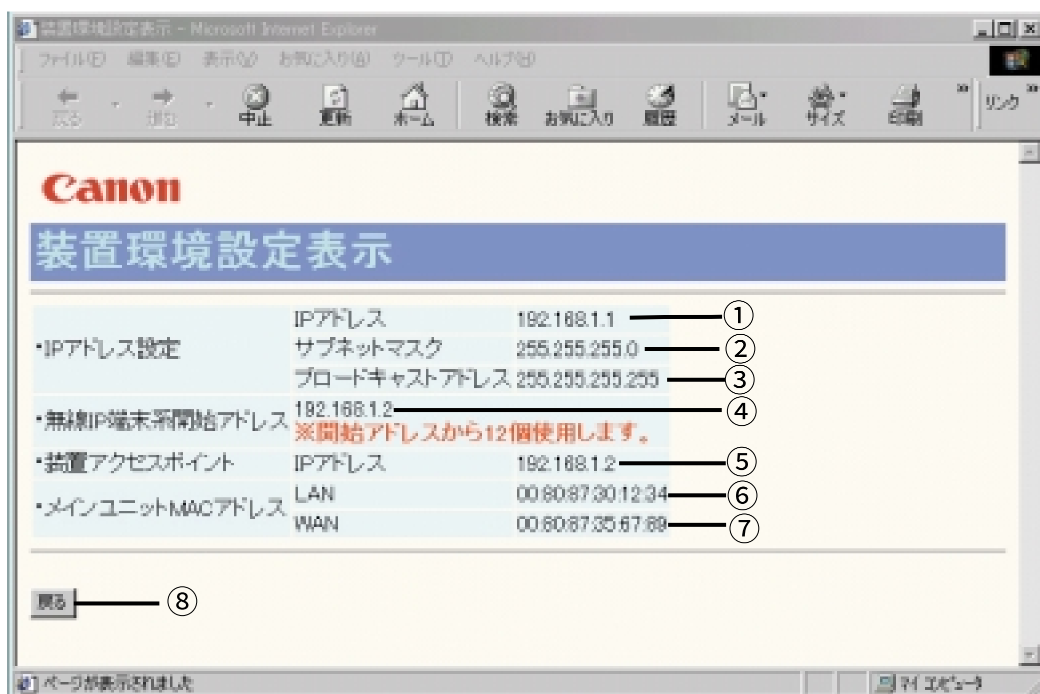
●WEBサーバ利用ホスト制限

	設定内容	設定範囲	備　　考
㊱	ダイヤルアップ接続外部アクセス	[ラジオボタンを選択]	ISDN回線側からの設定用WEBへのアクセスを許すか許さないかを設定します。
㊲	ブロードバンド接続外部アクセス	[ラジオボタンを選択]	ブロードバンド接続（ADSL，CATVなど）側からの設定用WEBへのアクセスを許すか許さないかを設定します。

	設定内容	設定範囲	備　　考
㊳	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
㊴	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（3）装置環境設定表示

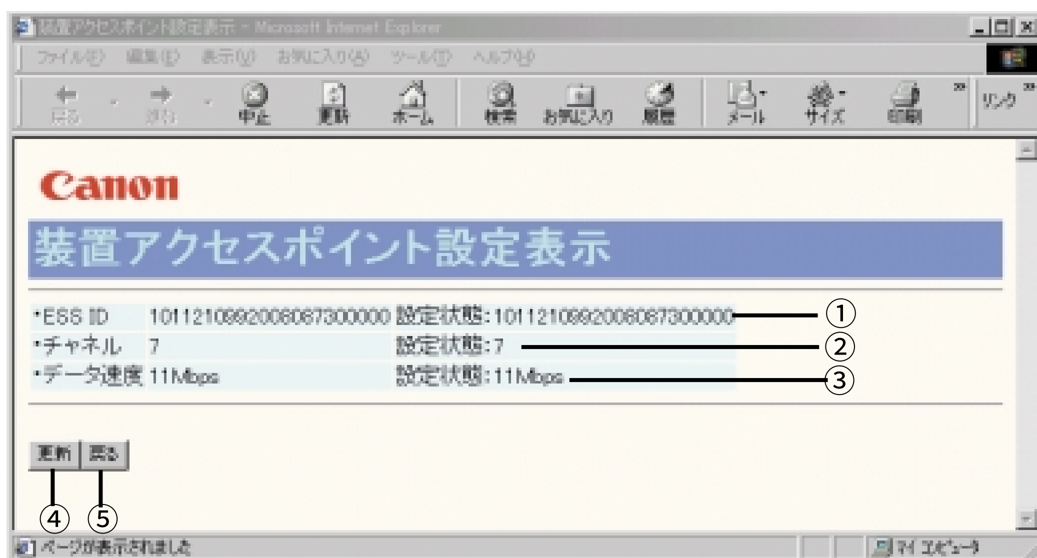
画面遷移：「TOP画面」 ⟶「ユーザ管理者モード」 ⟶「装置環境設定表示」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	IPアドレス	[表示]	メインユニットのLAN側IPアドレスを表示します。
②	サブネットマスク	[表示]	メインユニットのLAN側サブネットマスクを表示します。
③	ブロードキャストアドレス	[表示]	メインユニットのLAN側ブロードキャストアドレスを表示します。
④	無線IP端末系開始アドレス	[表示]	無線IP端末及び無線IP端末に関わるメインユニットで使用するIPアドレスの先頭アドレスを表示します。
⑤	メインユニットのアクセスポイント	[表示]	メインユニットのアクセスポイントのアドレスを表示します。
⑥	LAN	[表示]	メインユニットのLAN側MACアドレスを表示します。
⑦	WAN	[表示]	メインユニットのWAN側MACアドレスを表示します。
⑧	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（4）装置アクセスポイント設定表示

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「装置アクセスポイント設定表示」



	設定内容	設定範囲	備　考
①	ESS ID	［表示］	メインユニットのアクセスポイントのESS IDを表示します。
②	チャネル	［表示］	メインユニットのアクセスポイントの無線チャネルを表示します。
③	データ速度	［表示］	メインユニットのアクセスポイントのデータ速度を表示します。
④	更新		ボタンを押すと、押した時点の装置アクセスポイント情報を表示します。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（5）発信設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「発信設定」

発信設定 - Microsoft Internet Explorer

Canon

発信設定

●自動接続設定

自動接続先	未接続 ①
自動接続開始時刻～終了時刻	時 分～ 時 分 ②

●発信者番号通知

・接続先に通知する発信者番号通知設定

③ 回線1	非通知		
	通知	通知発信者番号	11 ④
		通知発信者サブアドレス	⑤
	網(NTTとの契約による)		
⑥ 回線2	非通知		
	通知	通知発信者番号	⑦
		通知発信者サブアドレス	⑧
	網(NTTとの契約による)		

●課金制限

・□接続時の日間課金制限を行う	⑨
課金制限基準	0 円／日 ⑩
・課金金額リセット時刻	毎日 0 時 0 分 ⑪
・□接続時の月間課金制限を行う	⑫
課金制限基準	0 円／月 ⑬
・課金金額リセット日	毎月 1 日 ⑭

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 ⑮　戻る ⑯

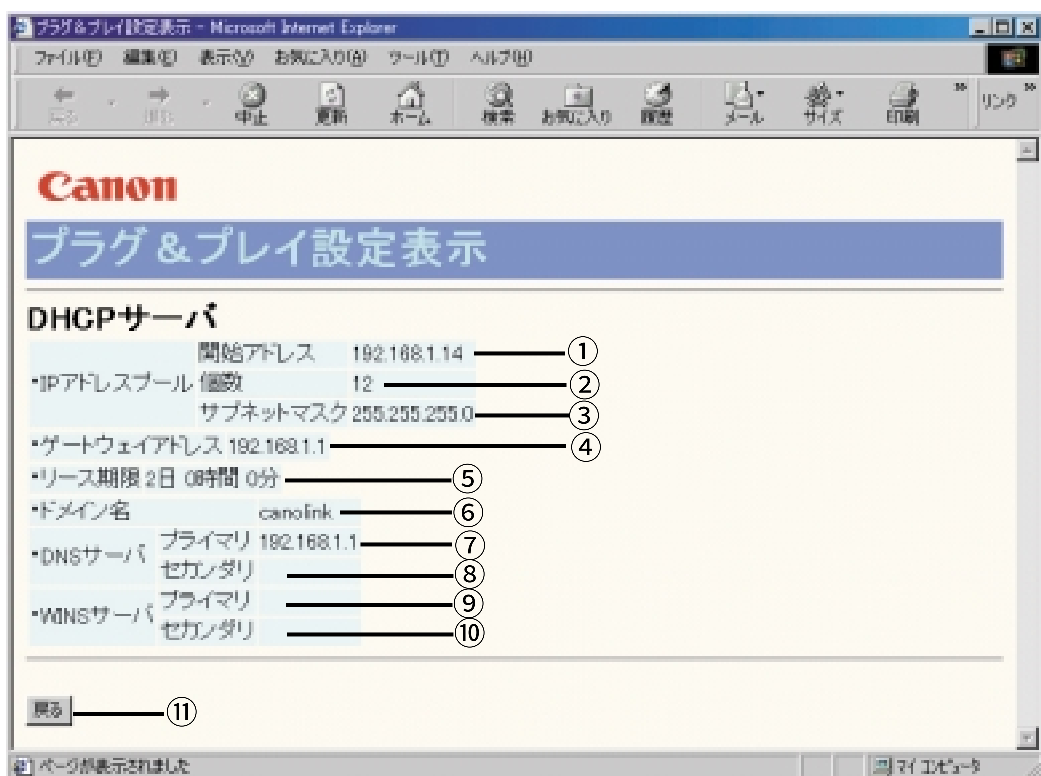
ページが表示されました　マイ コンピュータ

2 データ設定

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	自動接続先	［プルダウンメニューを選択］ 未接続／PPPoE接続／接続先名称	自動接続する先をPPPoE接続または接続先設定で登録した接続先から選択します。ここへ登録するとWAN側へのパケットの出力要求があった時、自動接続されます。
②	自動接続開始時刻～終了時刻	［入力］	①で設定した接続先に自動接続する時間帯の開始時間を設定します。
③	接続先に通知する発信者番号通知設定（回線1）	［ラジオボタンを選択］	ISDN回線1の発信者番号を接続先に通知するどうかを選択します。
④	通知発信者番号	［入力］ 半角32文字以内	通知する発信者番号を入力します。 ③が「通知」の時のみ有効です。
⑤	通知発信者サブアドレス	［入力］ 半角32文字以内	通知する発信者サブアドレスを入力します。③が「通知」の時のみ有効です。
⑥	接続先に通知する発信者番号通知設定（回線2）	［ラジオボタンを選択］	ISDN回線2の発信者番号を接続先に通知するどうかを選択します。
⑦	通知発信者番号	［入力］ 半角32文字以内	通知する発信者番号を入力します。 ③が「通知」の時のみ有効です。
⑧	通知発信者サブアドレス	［入力］ 半角32文字以内	通知する発信者サブアドレスを入力します。③が「通知」の時のみ有効です。
⑨	接続時の日間課金制限を行う	［チェックボックス］	自動発信制限を行うかどうかを設定します。「チェックON」とすると日間課金制限により（課金制限基準値を超えると）自動接続できなくできます。
⑩	課金制限基準	［入力］	自動接続しなくする金額を入力します。"0"は無効を意味する。チェックボックスOFFと同等です。
⑪	課金金額リセット時刻	［入力］	日間課金をリセットする時間を入力します。
⑫	接続時の月間課金制限を行う	［チェックボックス］	自動発信制限を行うかどうかを設定します。「チェックON」とすると月間課金制限により（課金制限基準値を超えると）自動接続できなくできます。
⑬	課金制限基準	［入力］	自動接続しなくする金額を入力します。"0"は無効を意味する。チェックボックスOFFと同等です。
⑭	課金金額リセット日	［入力］	月間課金をリセットする日を入力します。
⑮	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
⑯	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（6）プラグ＆プレイ設定表示（DHCPサーバ機能が選択されている場合）

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「プラグ＆プレイ設定表示」



2 データ設定

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	開始アドレス	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当する先頭アドレスを表示します。
②	個数	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するアドレスの個数を表示します。
③	サブネットマスク	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するサブネットマスクを表示します。
④	ゲートウェイアドレス	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するゲートウェイアドレスを表示します。
⑤	リース期限	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するアドレスのリース期限を表示します。
⑥	ドメイン名	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するドメイン名を表示します。
⑦	DNSサーバプライマリ	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するプライマリDNSサーバアドレスを表示します。
⑧	DNSサーバセカンダリ	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するセカンダリDNSサーバアドレスを表示します。
⑨	WINサーバプライマリ	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するプライマリWINSサーバアドレスを表示します。
⑩	WINサーバ	［表示］	メインユニットのDHCPサーバで自動割当するセカンダリWINSサーバアドレスを表示します。
⑪	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（7）電話クイック設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」

Canon

電話クイック設定

●回線

回線1
モード1 ①
○一般着信 着信鳴動グループ指定 全端末 ②
○個別着信 着信先端末指定 無し ③
○転送電話 転送先電話番号 1:九州システムセンタネットワーク部 ④
モード2
○一般着信 着信鳴動グループ指定 全端末
○個別着信 着信先端末指定 無し
○転送電話 転送先電話番号 1:九州システムセンタネットワーク部
モード3
○一般着信 着信鳴動グループ指定 全端末
○個別着信 着信先端末指定 無し
○転送電話 転送先電話番号 1:九州システムセンタネットワーク部

●システム

一般着信音選択 ⑤ ○リンガ ○和音 着信和音種別 和音1 ⑥
保留音種別 和音3 ⑦
着信制限指定 モード1 4 モード2 4 モード3 4 ⑧

●無線IP端末設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	外線着信鳴動停止
20	○不可 ○可 ⑨	回線1 回線2 ⑩	全て鳴動 ⑪
21	○不可 ○可	回線1 回線2	全て鳴動
22	○不可 ○可	回線1 回線2	全て鳴動

●有線端末設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	外線着信鳴動停止
30	○不可 ○可 ⑫	回線1 回線2 ⑬	全て鳴動 ⑭
31	○不可 ○可	回線1 回線2	全て鳴動
32	○不可 ○可	回線1 回線2	全て鳴動

●一般電話機設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	ナンバーディスプレイ機能	FAX機器接続指定
40	◉不可 ○可	回線1 回線2	○有効 ◉無効	○無 ◉有
41	◉不可 ○可	回線1 回線2	○有効 ◉無効	○無 ◉有

⑮ ⑯ ⑰ ⑱

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 戻る

⑲ ⑳

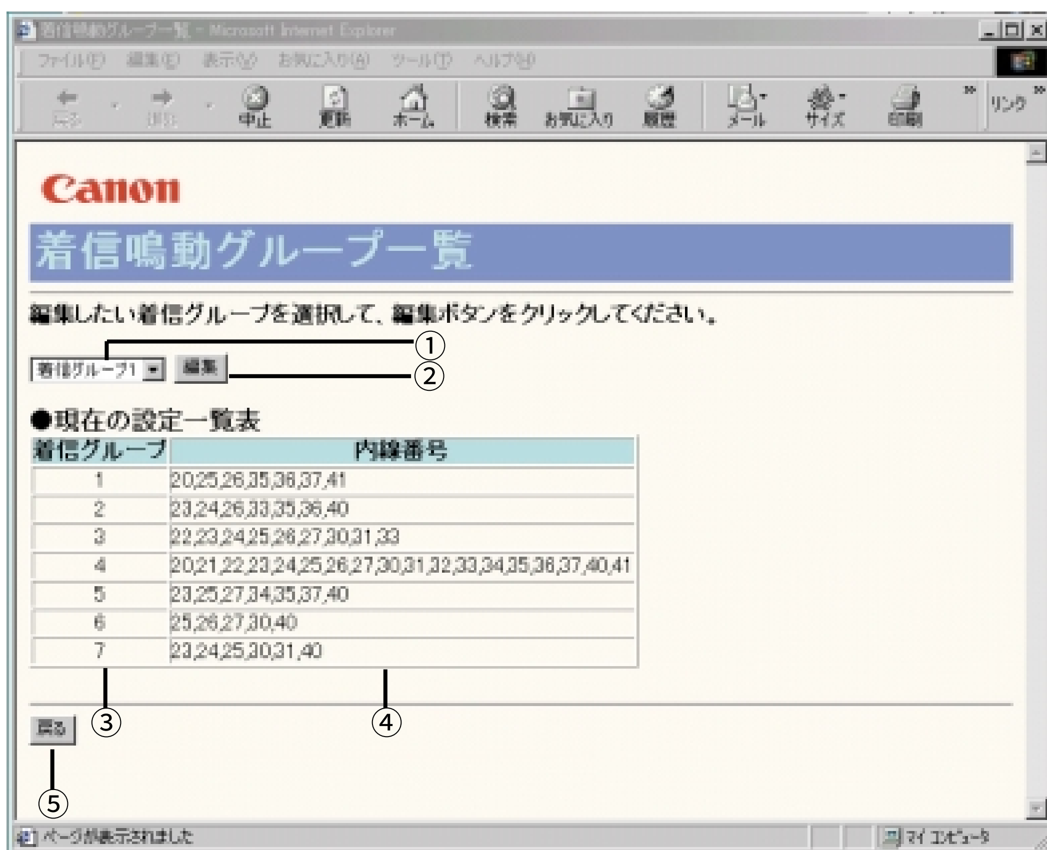
ページが表示されました　マイ コンピュータ

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	回線別着信形式指定(回線1／2)	[ラジオボタンを選択]	回線1／2の着信形式を指定します。
②	着信鳴動グループ指定	[プルダウンメニューを選択] モード1～3：全端末 着信グループ1～7	着信形式が一般着信の場合の着信鳴動グループを指定します。（全端末を選択すると、着信時全ての専用端末が鳴動します）
③	着信先端末指定	[プルダウンメニューを選択]	着信形式が個別着信の場合の鳴動先端末を指定します。
④	転送先電話番号	[プルダウンメニューを選択] 1～300	着信形式が転送電話の場合の転送する先を発番号エントリNo.より選択します。
⑤	一般着信音選択	[ラジオボタンを選択]	一般着信時の着信音を指定します。
⑥	着信和音種別	[プルダウンメニューを選択] 和音1～3	一般着信時の着信音が和音のとき、和音種別を指定します。
⑦	保留音種別	[プルダウンメニューを選択] 和音1～3	通話保留時、相手に送出する和音種別を選択します。
⑧	着信制限指定(モード1～3)	[プルダウンメニューを選択] 1～4	モード1～3での着信可能な呼の数を指定します。
⑨	内線番号20～27 外線発信用発番号通知	[ラジオボタンを選択]	無線IP端末ごとに外線発信時の発番号通知の可/不可を指定します。
⑩	個別発番号	[入力] 半角8文字以内	無線IP端末ごとにISDN回線1、回線2での発信時、相手端末に通知する発番号を設定します。
⑪	外線着信鳴動停止	[プルダウンメニューを選択] 全て鳴動／外線一般着信音のみ停止／全外線着信音停止	無線IP端末ごとに外線着信時の鳴動条件を指定します。
⑫	内線番号30～37 外線発信用発番号通知	[ラジオボタンを選択]	有線端末ごとに外線発信時の発番号通知の可/不可を指定します。

	設定内容	設定範囲	備　　考
⑬	個別発番号	[入力] 半角８文字以内	有線端末ごとにISDN回線１、回線２での発信時、相手端末に通知する発番号を設定します。
⑭	外線着信鳴動停止	[プルダウンメニューを選択] 全て鳴動／外線一般着信音のみ停止／全外線着信音停止	有線端末ごとに外線着信時の鳴動条件を指定します。
⑮	内線番号40,41 外線発信用発番号通知	[ラジオボタンを選択]	一般電話機ごとに外線発信時の発番号通知の可/不可を指定します。
⑯	個別発番号	[入力] 半角８文字以内	一般電話機ごとにISDN回線１、回線２での発信時、相手端末に通知する発番号を設定します。
⑰	ナンバーディスプレイ機能	[ラジオボタンを選択]	一般電話機ごとにナンバーディスプレイ機能の有効/無効を設定します。
⑱	FAX機器接続指定	[ラジオボタンを選択]	一般電話機ごとに外線使用時に、専用端末の外線ボタンランプ表示を設定します。 有：外線使用時、FAX表示（橙）にします。 無：外線使用時、他人使用表示（赤）にします。
⑲	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
⑳	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（8）着信鳴動グループ一覧

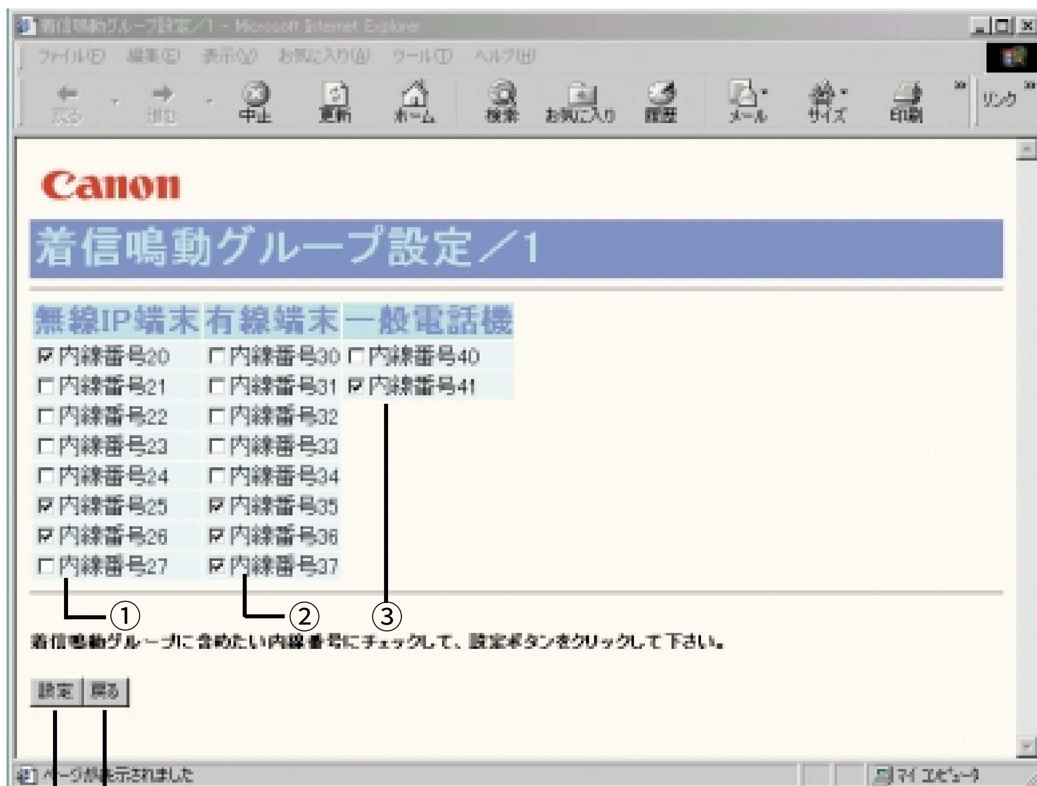
画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「着信鳴動グループ一覧」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	着信グループ	[プルダウンメニューを選択]	編集したい鳴動グループを選択します。
②	編集		ボタンを押すと、①で設定した鳴動グループの設定編集画面へ遷移します。
③	着信グループ	[表示]	着信グループ番号を表示します。
④	内線番号	[表示]	着信グループに含まれる内線番号を表示します。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（9）着信鳴動グループ設定編集

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「着信鳴動グループ設定」
→「着信鳴動グループ設定編集」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	無線IP端末	[チェックボックス]	同じグループにする無線IP端末の内線番号をチェックします。
②	有線端末	[チェックボックス]	同じグループにする有線端末の内線番号をチェックします。
③	一般電話機	[チェックボックス]	同じグループにする一般電話機の内線番号をチェックします。
④	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（10）着番号別設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「着番号別設定」

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	エントリ選択	[１～３２のいずれかを選択]	設定する着番号エントリを選択します。
②	着番号	[入力]	着番号を登録します。
③	エントリ種別	[ラジオボタンを選択]	エントリ種別を指定します。
④	ｉナンバーポート番号	[プルダウンメニューを選択] １／２／３	ｉナンバーポート番号を指定します。（エントリ種別がｉナンバーポートの場合に有効です）
⑤	契約回線	[プルダウンメニューを選択] 回線１／回線２	ｉナンバーポートが割り当てられている回線を指定します。
⑥	着番号別着信形式 （モード1～3）	[ラジオボタンを選択]	着番号毎の着信形式を指定します。
⑦	着番号別着信鳴動グループ指定	[プルダウンメニューを選択] 全端末／着信グループ１～７	着信形式が一般着信の場合、鳴動先の着信グループを指定します。（全端末を選択すると、着信時全ての専用端末が鳴動します）
⑧	着番号別着信先端末指定	[プルダウンメニューを選択]	着信形式が個別着信の場合、鳴動先端末の内線番号を指定します。
⑨	着番号別転送先電話番号	[プルダウンメニューを選択]	着信形式が転送電話の場合、転送先外線を発番号エントリNo.で指定します。
⑩	転送先捕捉回線番号	[ラジオボタンを選択]	着信形式が転送電話の場合、転送に使用する外線番号を指定します。(着信回線選択時、着信した回線空きBchで発信します)
⑪	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
⑫	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。


お願い

◇着番号エントリの設定は、エントリ設定の度に［設定］ボタンを押してください。［設定］ボタンを押さずに、次の着番号エントリを選択すると、前のエントリ設定が消えてしまいます。

（11）発番号別設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「発番号別設定」

発番号別設定 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　お気に入り(A)　ツール(T)　ヘルプ(H)

戻る　進む　中止　更新　ホーム　検索　お気に入り　履歴　メール　サイズ　印刷　リンク

発番号エントリ選択

001 002 003 004 005 006 007 008 009 010 011 012 013 014 015 016 017 018 019 020
021 022 023 024 025 026 027 028 029 030 031 032 033 034 035 036 037 038 039 040
041 042 043 044 045 046 047 048 049 050 051 052 053 054 055 056 057 058 059 060
061 062 063 064 065 066 067 068 069 070 071 072 073 074 075 076 077 078 079 080
081 082 083 084 085 086 087 088 089 090 091 092 093 094 095 096 097 098 099 100
101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120
121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140
141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160
161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180
181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200
201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220
221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240
241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260
261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280
281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 ①

Canon

発番号別設定1

・発番号 ②
・発番号種別 ◉外線番号 ○内線番号 ③
・相手先名称 ④
発番号別着信形式1 ⑤
発番号別設定一覧 ⑥

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 ⑦　戻る ⑧　次へ ⑨

マイ コンピュータ

2
データ設定

	設定内容	設定範囲	備　考
①	発番号エントリ選択	［001～300を選択］	設定する発番号エントリを選択します。
②	発番号	［入力］ 半角32文字以内	相手の電話番号を入力します。
③	発番号種別	［ラジオボタンを選択］ 外線番号 内線番号	発番号が外線番号か、内線番号かを選択します。
④	相手先名称	［入力］ 半角32文字以内	相手先名称を入力します。 メモ システム短縮ダイヤルで使用する場合、半角英数カナで入力してください。
⑤	発番号別着信形式n		ボタンを押すと、発番号別着信形式n画面へ遷移します。
⑥	発番号別設定一覧		ボタンを押すと、発番号別設定一覧画面へ遷移します。
⑦	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。
⑧	戻る		ボタンを押すと,前画面に戻ります。
⑨	次へ		ボタンを押すと、次画面へ進みます。



◇発番号エントリの設定は、エントリ設定の度に［設定］ボタンを押してください。［設定］ボタンを押さずに、次の発番号エントリを選択すると、前のエントリ設定が消えてしまいます。

（12）発番号別着信形式

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「発番号別設定」→「発番号別着信形式」

発番号別設定 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 メール サイズ 印刷 リンク

発番号エントリ選択

001	002	003	004	005	006	007	008	009	010	011	012	013	014	015	016	017	018	019	020
021	022	023	024	025	026	027	028	029	030	031	032	033	034	035	036	037	038	039	040
041	042	043	044	045	046	047	048	049	050	051	052	053	054	055	056	057	058	059	060
061	062	063	064	065	066	067	068	069	070	071	072	073	074	075	076	077	078	079	080
081	082	083	084	085	086	087	088	089	090	091	092	093	094	095	096	097	098	099	100
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260
261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280
281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300

①

Canon

発番号別着信形式1

発番号	0312345678 ②
相手先名称	田中さん ③

④

モード1	◉一般着信	着信鳴動グループ指定 全端末 ⑤
	○個別着信	着信先端末指定 23 ⑥
	○転送電話	転送先電話番号 2 ⑦
	○発信専用	
	○着信拒否	
	転送先捕捉回線番号	◉自動 ○着信回線 ⑧

モード3	○一般着信	着信鳴動グループ指定 全端末
	○個別着信	着信先端末指定 無し
	○転送電話	転送先電話番号 2
	◉発信専用	
	○着信拒否	
	転送先捕捉回線番号	◉自動 ○着信回線

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 ⑨

ページが表示されました　マイ コンピュータ

2 データ設定

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	発番号エントリ選択	[００１～３００を選択]	設定する発番号エントリを選択します。
②	発番号	［表示］	選択したエントリの発番号を表示します。
③	相手先名称	［表示］	選択したエントリの相手先名称を表示します。
④	発番号別着信形式	[ラジオボタンを選択] 一般着信／個別着信／転送電話／発信専用／着信拒否	発番号別着信指定時の着信形式を指定します。
⑤	着信鳴動グループ指定	[プルダウンメニューを選択] 全端末／着信グループ１～７	着信形式が一般着信の場合、着信鳴動グループを指定します。（全端末を選択すると、着信時全ての専用端末が鳴動します)
⑥	着信先端末指定	[プルダウンメニューを選択]	着信形式が個別着信の場合、鳴動先端末を指定します。
⑦	転送先電話番号	[プルダウンメニューを選択]	着信形式が転送電話の場合、転送先外線を発番号エントリNo.で指定します。
⑧	転送先捕捉回線番号	[ラジオボタンを選択]	形式が転送電話の場合、転送先回線捕捉方法を指定します。(着信回線選択時、着信した回線空きBchで発信します)
⑨	設定		ボタンを押すと、メインユニットに設定データが記憶されます。


お願い

◇発番号エントリの設定は、エントリ設定の度に［設定］ボタンを押してください。［設定］ボタンを押さずに、次の発番号エントリを選択すると、前のエントリ設定が消えてしまいます。

（13）発番号別設定一覧

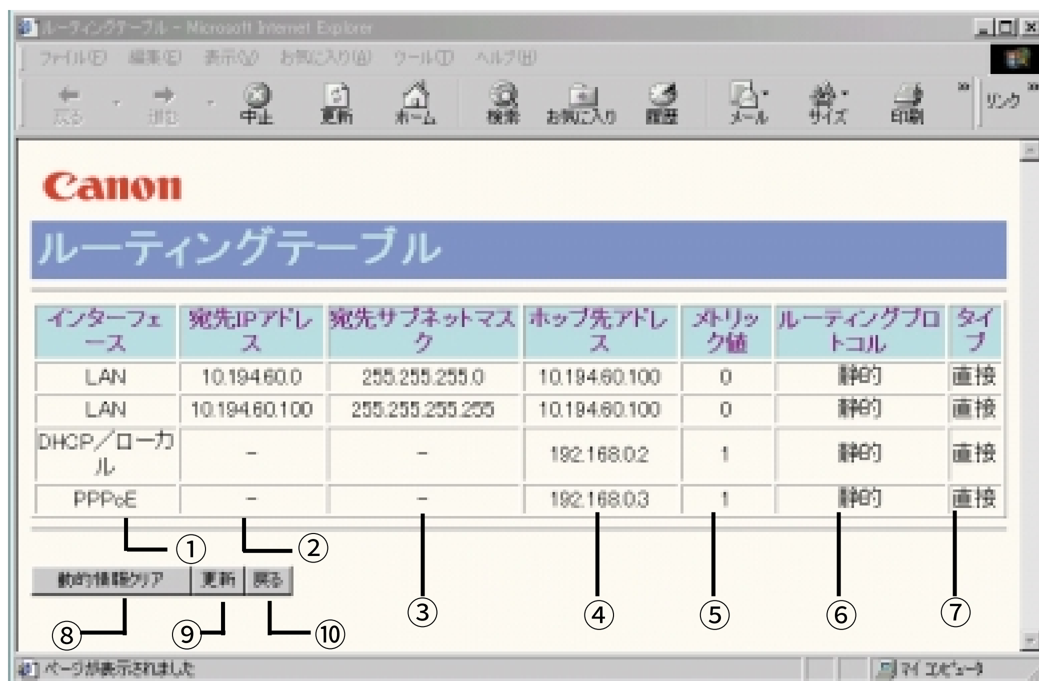
画面遷移：「TOP画面」──►「ユーザ管理者モード」──►「発番号別設定」
──►「発番号別設定一覧」

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	発番号エントリ番号	[表示]	設定する発番号エントリを選択します。
②	発番号	[表示]	登録した発番号を表示します。
③	発番号種別	[表示]	登録した発番号種別を表示します。
④	相手先名称	[表示]	登録した相手先名称を表示します。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

(14) ルーティングテーブル

ルーティングテーブルの状況を確認したり、動的情報を削除したりできます。

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「ルーティングテーブル」

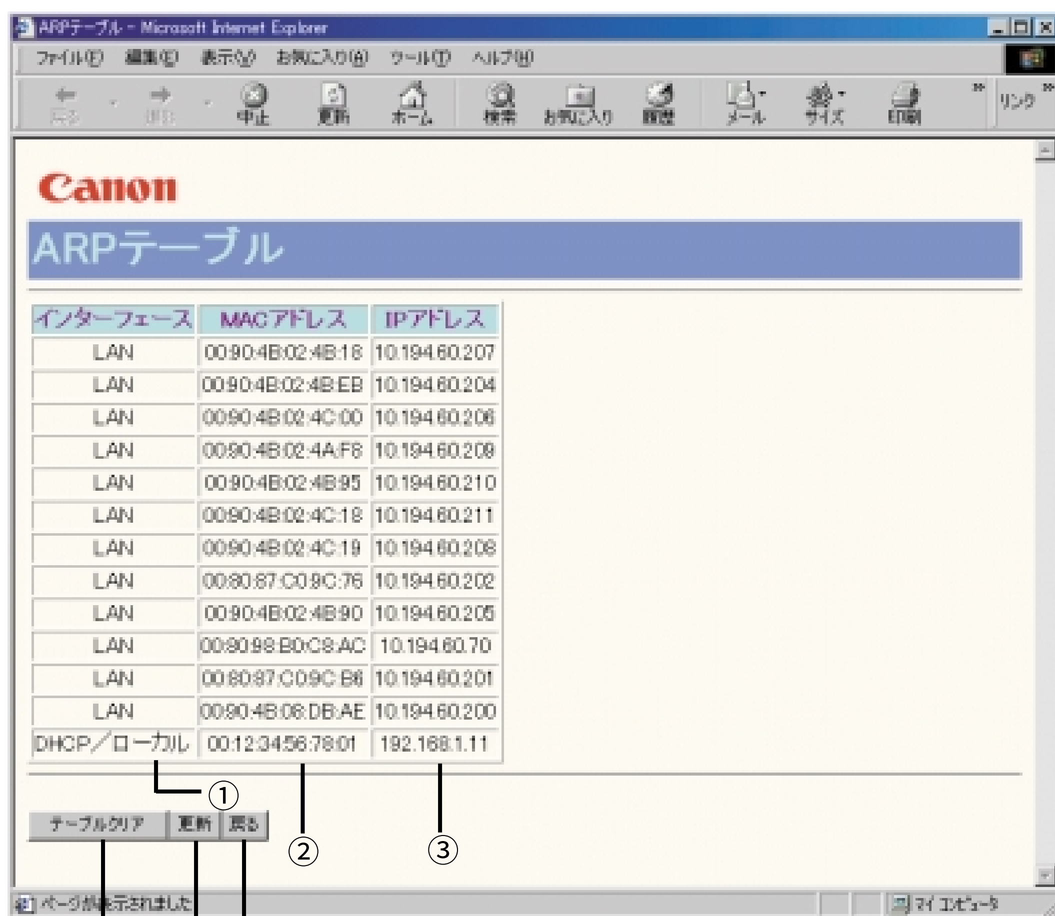


	設定内容	設定範囲	備　　考
①	インターフェース	[表示]	次のホップ先アドレスを示す論理インターフェース名を表示します。
②	宛先IPアドレス	[表示]	このルートの宛先ネットワークアドレスを表示します。
③	宛先サブネットマスク	[表示]	このルートの宛先サブネットアドレスを表示します。
④	ホップ先アドレス	[表示]	このルートの次のホップ先アドレスを表示します。
⑤	メトリック値	[表示]	このルートのプライマリ・ルーティング・メトリック値を表示します。
⑥	ルーティングプロトコル	[表示]	このルートを学習したルーティング方式を表示します。（静的またはRIP）
⑦	タイプ	[表示]	このルートの種類を表示します。（直接または間接）
⑧	動的情報クリア		ボタンを押すと、ルーティングプロトコルが“ RIP"のインタフェース名ルーティング設定を消去します。
⑨	更新		ボタンを押すと、押した時点のルーティング情報を表示します。
⑩	戻る		ボタンを押すと,前画面に戻ります。

（15）ARPテーブル

ARPテーブルの状況を確認したり、削除したりできます。

画面遷移：「TOP画面」 ⟶ 「ユーザ管理者モード」 ⟶ 「ARPテーブル」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	インターフェース	[表示]	次のホップ先アドレスを示す論理インターフェース名を表示します。
②	MACアドレス	[表示]	このエントリのMACアドレスを表示します。
③	IPアドレス	[表示]	このエントリのMACアドレスに対応したIPアドレスを表示します。
④	テーブルクリア		ボタンを押すと、ARPテーブル情報を全て消去します。
⑤	更新		ボタンを押すと、押した時点のARP情報を表示します。
⑥	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（16）NAT変換テーブル

NATあるいはIPマスカレードにより変換されたIPアドレスまたはポート番号を参照できます。

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「NAT変換テーブル」

NAT変換テーブル - Microsoft Internet Explorer

Canon

NAT変換テーブル

グローバル側		プライベート側		プロトコル種別	アドレス変換モード	残生存時間	インターフェース
IPアドレス	ポート番号	IPアドレス	ポート番号				
172.168.50.10	1	192.168.50.10	10	TCP	IP Masquerade	3	DHCP／ローカル
172.168.50.15	－	192.168.60.10	－	－	NAT	6	プロバイダ
172.168.50.20	4	192.168.70.10	12	UDP	IP Masquerade	9	PPPoE

動的アドレスクリア　更新　戻る

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧

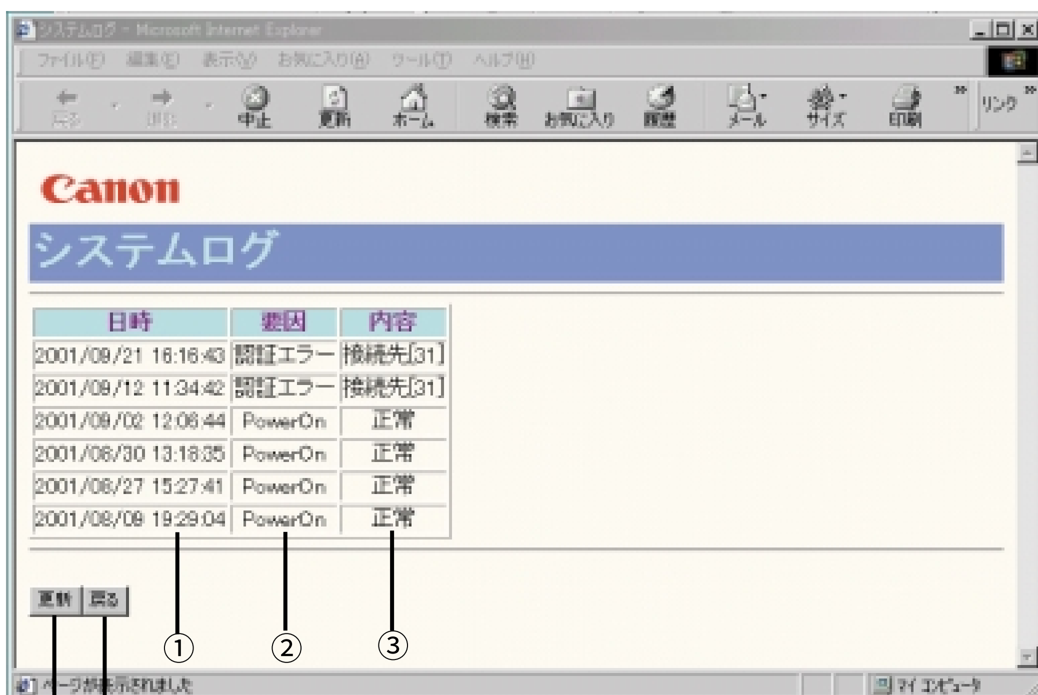
⑨　⑩　⑪

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	グローバル側 IPアドレス	[表示]	グローバル（WAN）側に割り付けられているIPアドレスを表示します。
②	グローバル側 ポート番号	[表示]	グローバル（WAN）側に割り付けられているポート番号を表示します。
③	プライベート側 IPアドレス	[表示]	グローバル側IPアドレスに対応したプライベート（LAN）側IPアドレスを表示します。
④	プライベート側 ポート番号	[表示]	グローバル側ポート番号に対応したプライベート（LAN）側ポート番号を表示します。
⑤	プロトコル種別	[表示]	アドレス変換されているプロトコルを表示します。
⑥	アドレス変換モード	[表示]	アドレス変換モードを表示します。 アドレス変換テーブル上のアドレス変換
⑦	残生存時間	[表示]	情報の削除されるまでの時間を表示します。静的エントリは除きます。（単位：分）
⑧	インターフェース	[表示]	アドレス変換の対象となっている接続先を表示します。
⑨	動的アドレスクリア		ボタンを押すと、動的に設定されたNAT変換テーブル情報を全て消去します。
⑩	更新		ボタンを押すと、押した時点のNAT変換テーブル情報を表示します。
⑪	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（17）システムログ

メインユニットの状態の記録情報を表示します。

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「システムログ」

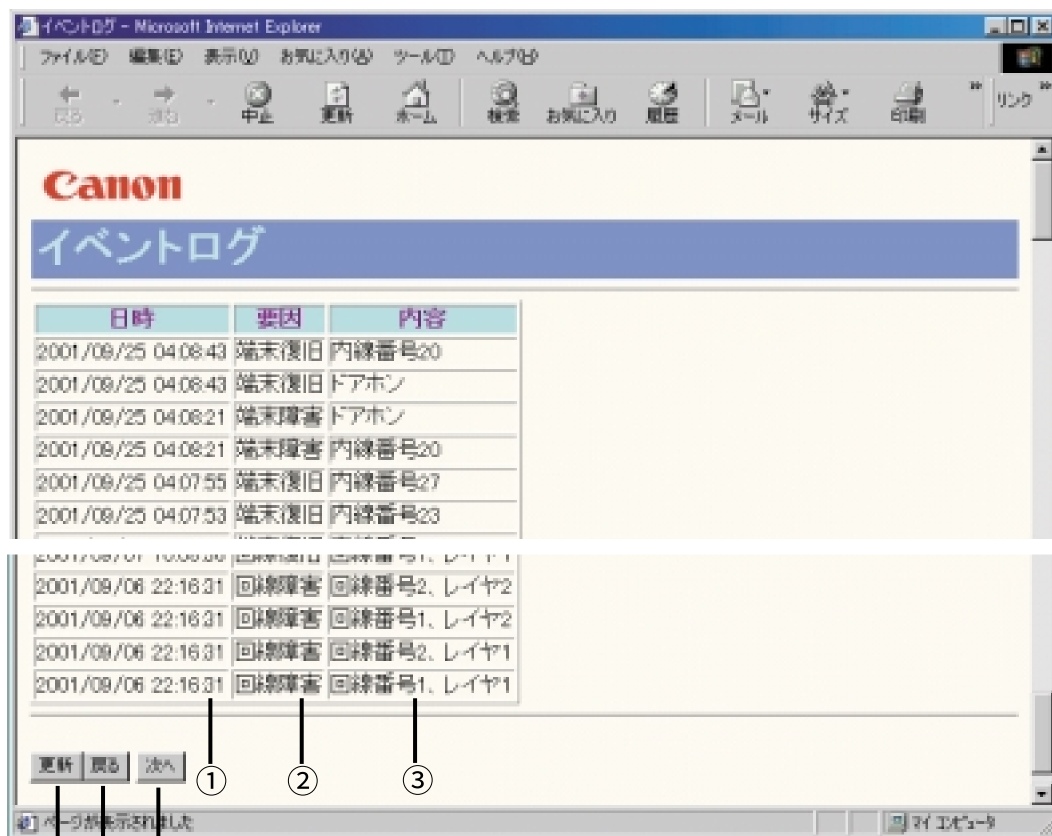


	設定内容	設定範囲	備　　考
①	日時	[表示]	発生した日時を表示します。
②	要因	[表示]	発生したシステム的作業内容を表示します。（PowerOn／認証エラー／保守／デバイス異常等）
③	内容	[表示]	詳細を表示します。（「付録-1　ログの見方」を参照してください）
④	更新		ボタンを押すと、押した時点のシステムログを表示します。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（18）イベントログ

メインユニットで発生したシステムイベントの記録情報を表示します。

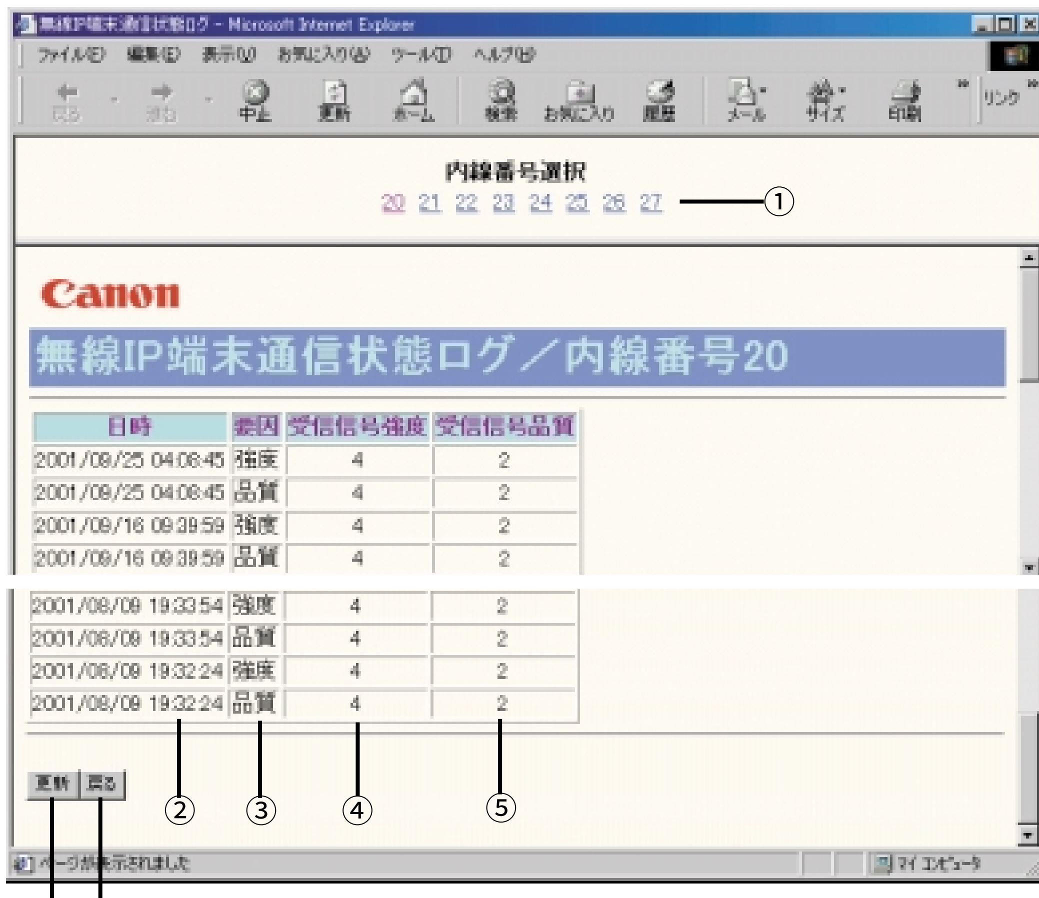
画面遷移：「TOP画面」➞「ユーザ管理者モード」➞「イベントログ」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	日時	[表示]	発生した日時を表示します。
②	要因	[表示]	発生したシステムイベントを表示します。（端末障害／端末復旧／回線障害／回線復旧等）
③	内容	[表示]	詳細を表示します。（「付録-1　ログの見方」を参照してください）
④	更新		ボタンを押すと、押した時点のシステムイベントログを表示します。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。
⑥	次へ		ボタンを押すと、次画面へ進みます。

（19）無線IP端末通信状態ログ

画面遷移：「TOP画面」 ──▶「ユーザ管理者モード」──▶「無線IP端末通信状態ログ」



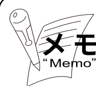
	設定内容	設定範囲	備　　考
①	内線番号選択	[20～27のいずれかを選択]	選択した内線番号の無線IP端末通信状態ログを表示します。
②	日時	[表示]	発生した日時を表示します。
③	要因	[表示]	無線状態を表示します。（強度または品質）
④	受信信号強度	[表示]	電界強度レベルを表示します。“0”が最低レベルを意味します。
⑤	受信信号品質	[表示]	無線品質レベルを表示します。“0”が最低レベルを意味します。
⑥	更新		ボタンを押すと、押した時点の無線IP端末通信状態ログを表示します。
⑦	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（20）外線着信履歴

画面遷移：「TOP画面」──►「ユーザ管理者モード」──►「外線着信履歴」

日時	発信番号	回線番号
2001/09/11 16:14:21	31	回線1
2001/09/11 16:12:52	31	回線1
2001/09/11 16:12:11	31	回線1
2001/09/11 16:11:15	31	回線1
2001/09/11 15:29:21	11	回線2
2001/09/07 15:38:49	31	回線1
2001/09/07 15:38:47	31	回線1
2001/09/07 15:38:44	31	回線1
2001/09/07 15:38:42	31	回線1
2001/09/07 15:36:54	31	回線1
2001/09/07 15:35:46	31	回線1
2001/09/07 15:34:47	31	回線1

	設定内容	設定範囲	備　考
①	内線番号選択	［20～41のいずれかを選択］	選択した内線番号の外線着信履歴および一般着信未応答（システム）を表示します。
②	日時	［表示］	発生した日時を表示します。
③	発信番号	［表示］	相手発信者番号を表示します。
④	回線番号	［表示］	着信した回線番号を表示します。
⑤	応答有無	［表示］	個別着信に応答したかどうかを表示します。（一般着信に応答したときにも、応答した端末に履歴が残ります）
⑥	更新		ボタンを押すと、押した時点の外線着信履歴を表示します。
⑦	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。



◇端末別の外線着信履歴は、出荷時には蓄積しない設定となっていますので、履歴は表示されません。端末別の外線着信履歴を表示したいときは、Webデータ設定が必要となります。（「システム管理者モード」で設定します。設定については、販売店にお問い合わせください）

◇一般着信未応答の履歴は、Webデータ設定の必要はなく、蓄積／表示されます。

（21）通信接続／切断記録

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「通信接続／切断記録」

Canon

通信接続／切断記録

日時	要因	回線種別	内容
2001/09/12 11:46:01	PPP	ISDN回線1 B1	IPCP up
2001/09/12 11:46:01	PPP	ISDN回線1 B1	認証ユーザID[canon]
2001/09/12 11:46:01	PPP	ISDN回線1 B1	LCP up
2001/09/12 11:45:58	着信	ISDN回線1 B1	接続先[31*canon]
2001/09/12 11:22:33	切断	ISDN回線1 B1	通信時間[3秒] 料金[0円] 理由[BOD制御]
2001/09/12 11:22:33	PPP	ISDN回線1 B1	LCP down PPPエラー 理由[認証エラー]
2001/09/12 11:22:33	PPP	ISDN回線1 B1	LCP up
2001/09/12 11:22:30	着信	ISDN回線1 B1	接続先[31]
2001/09/12 11:18:38	切断	ISDN回線1 B1	通信時間[0秒] 料金[0円] 理由[BOD制御]

更新　戻る　前へ　次へ

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	日時	[表示]	発生した日時を表示します。
②	要因	[表示]	発生した要因を表示します。
③	回線番号	[表示]	使用した回線番号とBch番号を表示します。
④	内容	[表示]	詳細を表示します。（「付録-1　ログの見方」を参照してください）
⑤	更新		ボタンを押すと、押した時点の通信接続／切断記録を表示します。
⑥	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。
⑦	次へ		ボタンを押すと、次画面に進みます。

（22）自動接続記録

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「自動接続記録」

自動接続履歴

日時	送信元 IPアドレス	送信元 ポート番号	宛先 IPアドレス	宛先 ポート番号	プロトコル種別
2001/10/26 11:25:03	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)
2001/10/26 11:20:51	194.12.34.78	555	172.65.43.21	500	UDP(17)
2001/10/26 10:54:29	194.12.34.56	-	172.98.76.54	-	ICMP(1)
2001/10/26 09:36:28	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)
2001/10/26 09:22:15	194.12.34.78	555	172.65.43.21	500	TCP(6)
2001/10/26 09:20:48	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)
2001/10/26 09:18:19	194.12.34.56	-	172.98.76.54	-	その他(41)
2001/10/26 09:15:09	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)
2001/10/26 09:08:58	194.12.34.78	555	172.65.43.21	500	TCP(6)
2001/10/26 09:05:33	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	UDP(17)

更新 戻る

①②③④⑤⑥⑦⑧

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	日時	[表示]	発生した日時を表示します。
②	送信元IPアドレス	[表示]	自動発信させたパケットの送信元IPアドレスを表示します。
③	送信元ポート番号	[表示]	自動発信させたパケットの送信元ポート番号を表示します。
④	宛先IPアドレス	[表示]	自動発信させたパケットの宛先IPアドレスを表示します。
⑤	宛先ポート番号	[表示]	自動発信させたﾊﾟｹｯﾄの宛先ポート番号を表示します。
⑥	プロトコル種別	[表示]	自動発信させたパケットのプロトコル種別を表示します。（「付録－1　ログの見方」を参照してください）
⑦	更新		ボタンを押すと、押した時点の自動接続記録を表示します。
⑧	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

(23) 累積課金情報

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「累積課金情報」

累積課金情報 - Microsoft Internet Explorer

Canon

累積課金情報

●通話料金

課金対象		料金	リセット
無線IP端末	内線番号20	0円	リセット
	内線番号21	0円	リセット
	内線番号22	9円	リセット
	内線番号23	350円	リセット
	内線番号24	40円	リセット
	内線番号25	10円	リセット
	内線番号26	0円	リセット
	内線番号27	0円	リセット
有線端末	内線番号30	0円	リセット
	内線番号31	125円	リセット
	内線番号32	0円	リセット
	内線番号33	0円	リセット
	内線番号34	0円	リセット
一般電話機	内線番号40	20円	リセット
	内線番号41	0円	リセット
回線1		1244円	リセット
回線2		40円	リセット

①料金 ②リセット

●通信料金

720円 リセット

課金対象	料金	リセット
日間	0円	リセット
月間	720円	リセット

●転送電話料金

10円 リセット

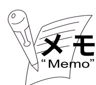
①料金 ②リセット

更新 戻る

③更新 ④戻る

ページが表示されました　マイ コンピュータ

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	料金	［表示］	通話および通信料金を表示します。日間課金料金および月間課金料金は、データ通信の自動接続制限機能に使用されます。
②	リセット		ボタンを押すと、対象の料金がリセットされます。
③	更新		ボタンを押すと、押した時点の通話および通信料金を表示します。
④	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

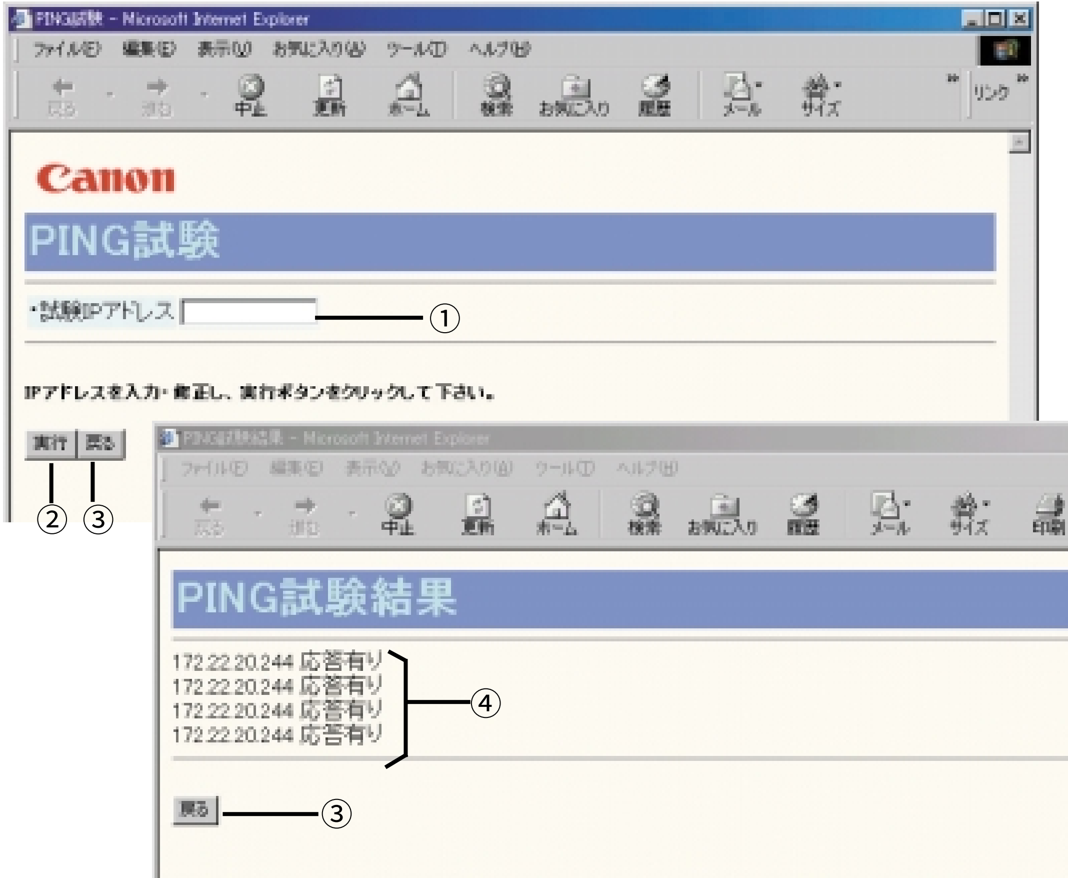


◇各料金は、INSネット64から料金通知があった場合に蓄積しています。

（24）PING試験

ネットワーク上のパソコン、各種サーバ、無線IP端末等の接続状態を診断できます。

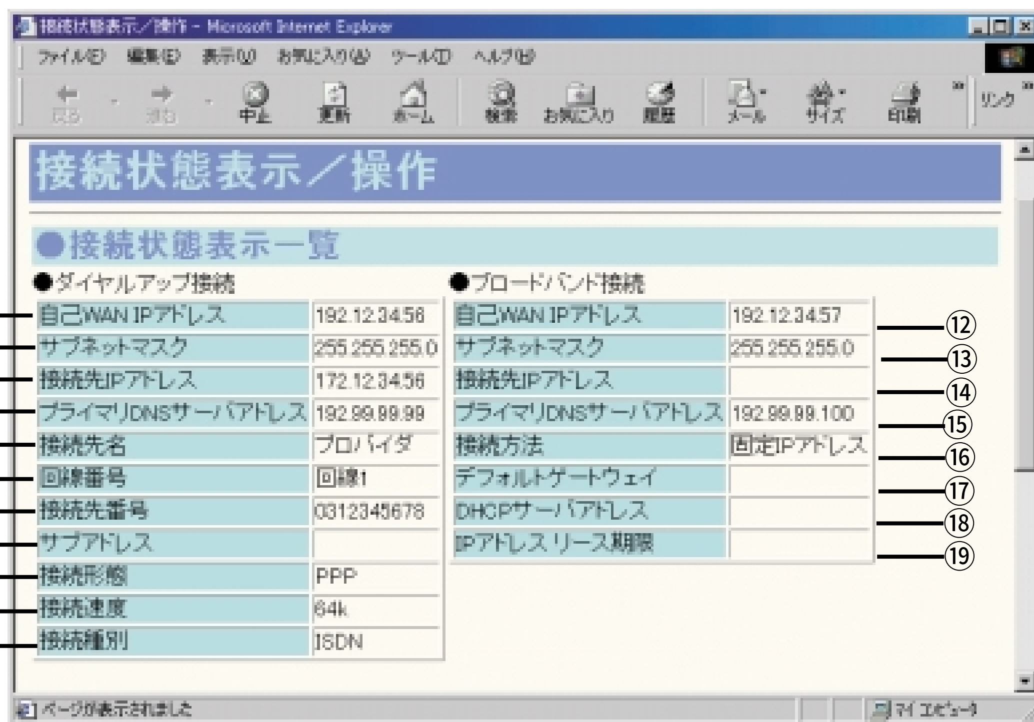
画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「PING試験」

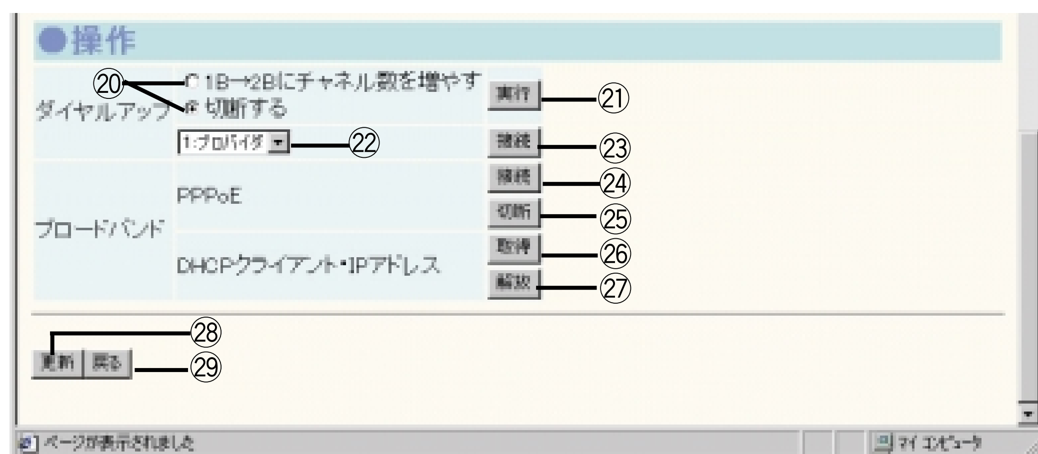


	設定内容	設定範囲	備　　考
①	試験IPアドレス	[入力]	無線IP端末やパソコン等の試験対象のIPアドレスを入力します。
②	実行		ボタンを押すと、試験IPアドレスに入力したIPに対してPING試験を行います。
③	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。
④	試験結果	[表示]	PING試験結果を表示します。

（25）接続状態表示／操作

画面遷移：「TOP画面」➡「ユーザ管理者モード」➡「接続状態表示／操作」





2
データ設定

●ダイヤルアップ接続

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	自己WAN IPアドレス	［表示］	メインユニットのWAN側IPアドレスを表示します。
②	サブネットマスク	［表示］	ネットワーク番号とホスト番号の境界を決める値を表示します。
③	接続先IPアドレス	［表示］	接続先ノードのWAN側IPアドレスを表示します。RAS接続の場合は、接続相手に割り振ったIPアドレスを表示します。
④	プライマリDNSサーバアドレス	［表示］	接続先のメインのDNSサーバアドレスを表示します。
⑤	接続先名	［表示］	通信している接続先の名称を表示します。
⑥	回線番号	［表示］	現在使用している回線を表示します。
⑦	接続先番号	［表示］	通信している接続先の電話番号を表示します。
⑧	サブアドレス	［表示］	通信の形態を表示します。
⑨	接続形態	［表示］ PPP／MP／BOD／MP+BOD	通信の形態を表示します。
⑩	接続速度	［表示］ 64k／128k	通信速度を表示します。
⑪	接続種別	［表示］ ISDN	通信の種類を表示します。

●ブロードバンド接続

	設定内容	設定範囲	備　　考
⑫	自己WAN IPアドレス	［表示］	DHCPサーバより自動で割振られたIPアドレスあるいはプロバイダなどから指定され、WANポート設定で登録されたIPアドレスが表示されます。
⑬	サブネットマスク	［表示］	ネットワーク番号とホスト番号の境界を決める値を表示します。
⑭	接続先IPアドレス	［表示］	接続方法がPPPoE接続以外の場合、表示しません。
⑮	プライマリDNSサーバアドレス	［表示］	接続先のメインのDNSサーバアドレスを表示します。
⑯	接続方法	［表示］	現在選択されている接続方法を表示します。
⑰	デフォルトゲートウェイ	［表示］	デフォルトゲートウェイのアドレスが表示されます。
⑱	DHCPサーバサブアドレス	［表示］	接続方法がDHCPｸﾗｲｱﾝﾄの場合のみ表示します。
⑲	DHCPアドレスリース期限	［表示］ YYYY/MM/DD　hh.mm.ss	自動割付されたIPｱﾄﾞﾚｽの使用期限を表示します。

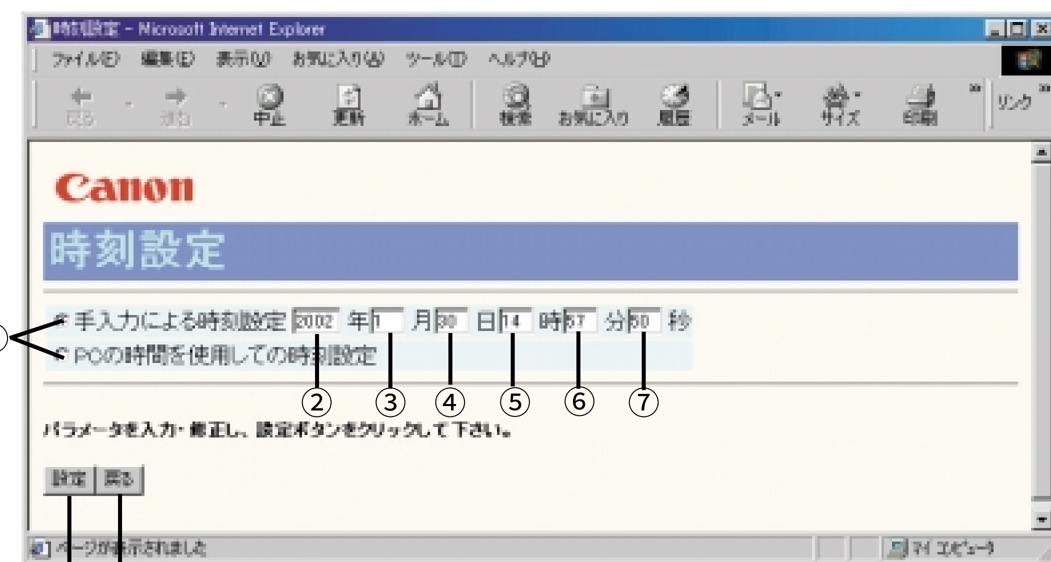
●操作

	設定内容	設定範囲	備　　考
⑳／㉑	ダイヤルアップ	［ラジオボタンを選択］	“１B→２Bにチャネル数を増やす”を選択／実行時： 1本（６４k）から2本（１２８k）に変更できます。 “２B→１Bにチャネル数を減らす”を選択／実行時： ２本（１２８k）から1本（６４k）に変更できます。 “切断する”を選択／実行時： 現在接続中の回線を切断します。 メモ ①プロバイダのアクセスポイントがMP接続対応になっている必要があります。 ②１B→２Bにチャネル数を増やした場合、回線使用料金が２本分となります。
㉒	ダイヤルアップ選択	［プルダウンメニューを選択］	接続先を選択します。
㉓	接続		ボタンを押すと、選択した接続先名に接続を実行します。
㉔／㉕	ブロードバンド PPPoE		接続ボタンを押すと、PPPoE接続でプロバイダと接続し、切断ボタンを押すと、接続中の場合は切断します。
㉖／㉗	ブロードバンド DHCPクライアント・IPアドレス		取得ボタンを押すと、DHCPクライアントとしてDHCPサーバからIPアドレスを取得し、開放ボタンを押すと、現在割振られているIPアドレスを開放します。

	設定内容	設定範囲	備　　考
㉘	更新		ボタンを押すと、押した時点の装置アクセスポイント情報を表示します。
㉙	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（26）時刻設定

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「時刻設定」



	設定内容	設定範囲	備　　考
①	時刻設定	［ラジオボタンを選択］	手入力した日時を使うか、PCの持っている日時を使うかを選択します。
②	年	［入力］ 1970～2036	画面を開いた時は、Webを表示しているPCが持っている日時を表示しています 手入力による時刻設定を選択した場合、手入力できます。
③	月	［入力］ 1～12	
④	日	［入力］ 1～31	
⑤	時	［入力］ 0～23	
⑥	分	［入力］ 0～59	
⑦	秒	［入力］ 0～59	
⑧	設定		ボタンを押すと、メインユニットの時刻が設定されます。
⑨	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

（27）管理者パスワード変更

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「管理者パスワード」

Canon

管理者パスワード変更

・現在のパスワード ①
・変更後のパスワード ②

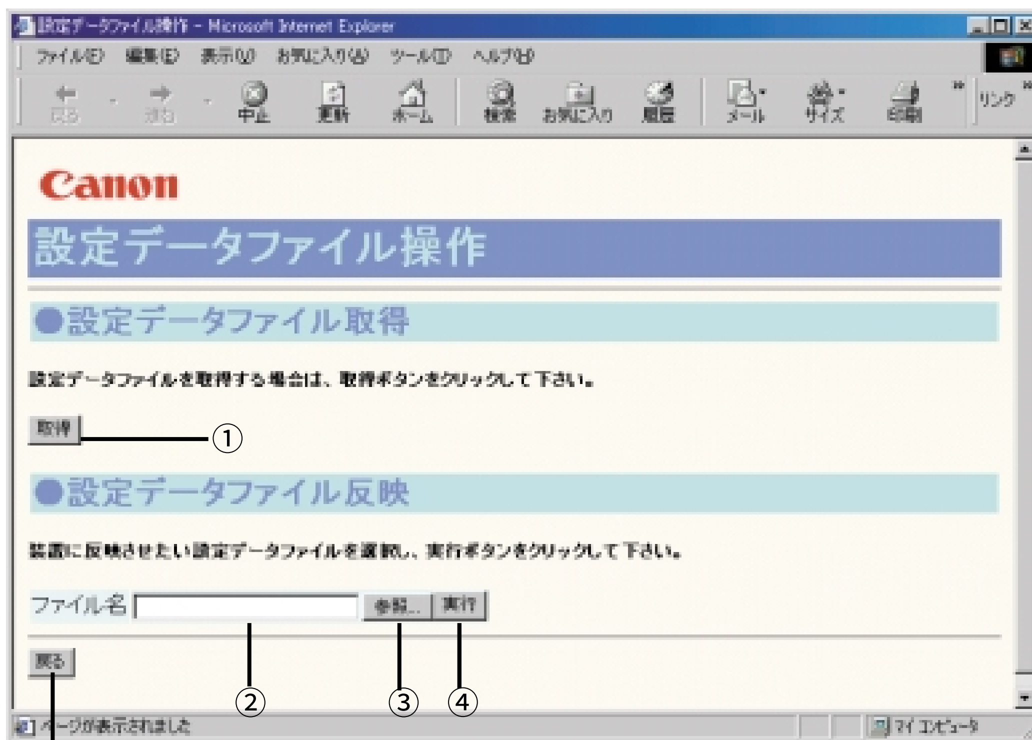
現在と変更後のパスワードを入力し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 ③ 戻る ④

	設定内容	設定範囲	備　　考
①	現在のパスワード	［入力］ 半角3～8文字	現在使用しているパスワードを入力します。
②	変更後のパスワード	［入力］ 半角3～8文字	次回から使用するパスワードを入力します。
③	設定		ボタンを押すと、変更後のパスワードに設定されます。
④	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

(28) 設定データファイル操作

画面遷移：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「設定データファイル操作」



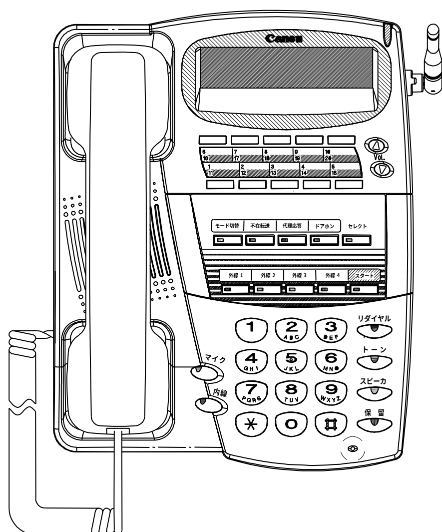
	設定内容	設定範囲	備　　考
①	取得		ボタンを押すと、設定データファイルを取得します。
②	ファイル名	［入力］	保存した設定データファイル名を入力します。
③	参照		ボタンを押すと、任意のディレクトリからファイルを選択できます。
④	実行		ボタンを押すと、実行します。
⑤	戻る		ボタンを押すと、前画面に戻ります。

2-2 専用端末の設定

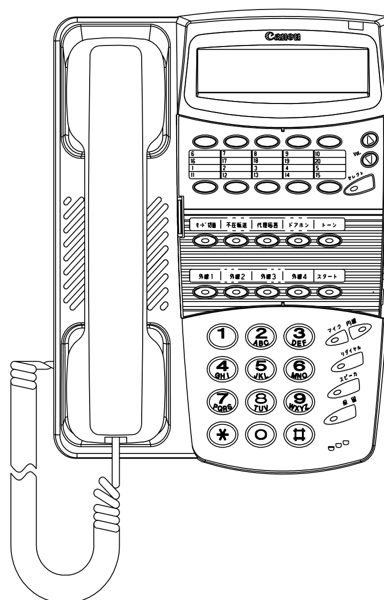
ここでは、システムデータのうち、特に無線IP端末および有線端末に関して、ユーザが設定を変更する、あるいは確認する頻度の高いデータを、ユーザ向けデータとして操作方法を説明しています。

ユーザ向けデータの設定および確認操作は、各専用端末の操作パネル上で行います。

無線IP端末



有線端末

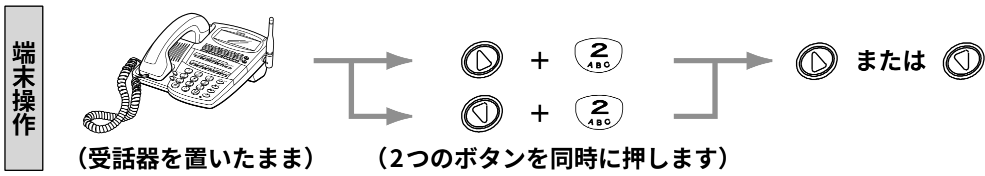


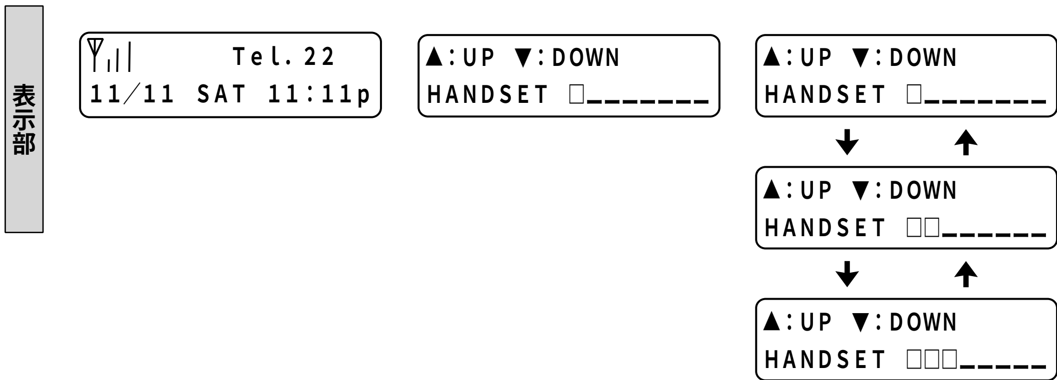
●ユーザ向けデータとその設定方法

○：データあり　ー：データなし

ユーザ向けデータ	設定方法		無線IP端末	有線端末
着信音量調節	▷ または ◁	1	○	○
受話音量切替		2 ABC	○	○
LCDコントラスト調節		3 DEF	○	○
側音量の調節	▷ と ◁	1	○	○
マイク音量調節		2 ABC	○	○
キータッチトーン切替		3 DEF	○	○
ヘッドセット接続		4 GHI	○	○
IPアドレス確認		5 JKL	○	ー
VLAN情報		6 MNO	○	ー
スピーカ音量調節	▷ または ◁		○	○

●操作例


端末操作
＋
＋
または
（受話器を置いたまま）
（2つのボタンを同時に押します）


表示部
Tel. 22
11/11 SAT 11:11p
▲: UP ▼: DOWN
HANDSET □_______
▲: UP ▼: DOWN
HANDSET □_______
▲: UP ▼: DOWN
HANDSET □□______
▲: UP ▼: DOWN
HANDSET □□□_____

2-2-1 着信音量調節

着信音量は、接続している端末の種類によって調節できる段階が次のように異なります。

・無線IP端末 ………… 5段階の調節ができます。

・有線端末 ……………… 3段階の調節ができます。

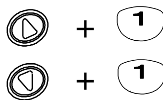
●無線IP端末の着信音量調節

端末操作

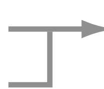


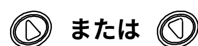
（受話器を置いたまま）





（2つのボタンを同時に押します）





表示部

```
Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

```
▲:UP ▼:DOWN
RING     □□□_____
```

```
▲:UP ▼:DOWN
RING     □_______
```



```
▲:UP ▼:DOWN
RING     □□______
```



```
▲:UP ▼:DOWN
RING     □□□_____
```



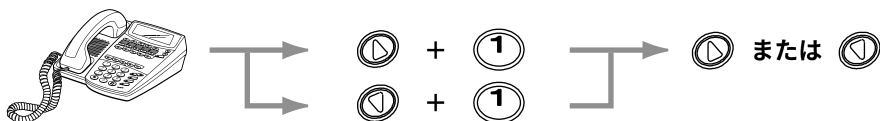
```
▲:UP ▼:DOWN
RING     □□□□____
```



```
▲:UP ▼:DOWN
RING     □□□□□___
```

●有線端末の着信音量調節

端末操作



（受話器を置いたまま）　（2つのボタンを同時に押します）

表示部

```
        Tel.32
11/11 SAT 11:11p
```

```
        Tel.32
RING    □□□□____
```

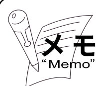
```
        Tel.32
RING    □_______
```

```
        Tel.32
RING    □□□□____
```

```
        Tel.32
RING    □□□□□□□□
```



◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した音量が保持されます。

◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。

◇表示は、最後に ▷ または ◁ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2-2-2 受話音量切替え

受話音量は、無線IP端末、有線端末ともに3段階の調節を行えます。

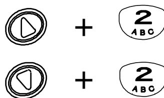
●無線IP端末の受話音量切替え

端末操作



（受話器を置いたまま）





（2つのボタンを同時に押します）



表示部

```
Tel. 22
11/11 SAT 11:11p
```

```
▲:UP ▼:DOWN
HANDSET □_______
```

```
▲:UP ▼:DOWN
HANDSET □_______
```




```
▲:UP ▼:DOWN
HANDSET □□______
```



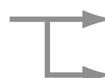

```
▲:UP ▼:DOWN
HANDSET □□□_____
```

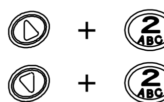
●有線端末の受話音量切替え

端末操作



（受話器を置いたまま）





（2つのボタンを同時に押します）



表示部

```
Tel. 32
11/11 SAT 11:11p
```

```
Tel. 32
HANDSET □□□□____
```

```
Tel. 32
HANDSET □_______
```




```
Tel. 32
HANDSET □□□□____
```




```
Tel. 32
HANDSET □□□□□□□□
```



◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した音量が保持されます。

◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。

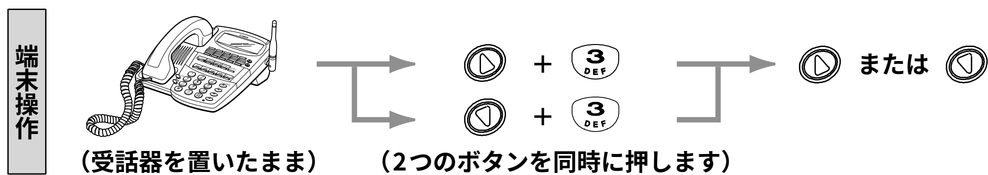
◇表示は、最後に ▷ または ◁ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2-2-3 LCDコントラスト調節

LCDコントラストは、無線IP端末、有線端末ともに8段階の調節を行えます。

●無線IP端末のLCDコントラスト調節

端末操作



（受話器を置いたまま）　（2つのボタンを同時に押します）

表示部

```
Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

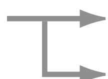
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□□____
```

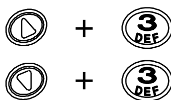
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □_______
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□______
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□_____
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□□____
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□□□___
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□□□□__
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□□□□□_
```
↓ ↑
```
▲:UP ▼:DOWN
DISPLAY □□□□□□□□
```

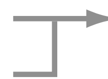
●有線端末のLCDコントラスト調節

端末操作


（受話器を置いたまま）




（2つのボタンを同時に押します）





表示部

```
        Tel.32
11/11 SAT 11:11p
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□□□____
```

```
        Tel.32
DISPLAY □_______
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□______
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□□_____
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□□□____
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□□□□___
```

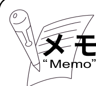
```
        Tel.32
DISPLAY □□□□□□__
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□□□□□□_
```

```
        Tel.32
DISPLAY □□□□□□□□
```



◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した設定が保持されます。
◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。
◇表示は、最後に ◎ または ◎ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2-2-4 側音量の調節

側音量は、接続している端末の種類によって調節できる段階が次のように異なります。

・無線IP端末 ………… 3段階の調節ができます。
・有線端末 …………… 2段階の調節ができます。

●無線IP端末の側音量調節

端末操作

(受話器を置いたまま) → ◎ + ◎ + 1 → ◎ または ◎

(3つのボタンを同時に押します)

表示部

Tel. 22 11/11 SAT 11:11p	▲:UP ▼:DOWN SIDETONE□_______	▲:UP ▼:DOWN SIDETONE________
		↓ ↑
		▲:UP ▼:DOWN SIDETONE□_______
		↓ ↑
		▲:UP ▼:DOWN SIDETONE□□______

●有線端末の側音量調節

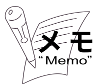
端末操作

(受話器を置いたまま) → ◎ + ◎ + 1 → ◎ または ◎

(3つのボタンを同時に押します)

表示部

Tel. 32 11/11 SAT 11:11p	Tel. 32 SIDETONE□□______	Tel. 32 SIDETONE□_______
		↓ ↑
		Tel. 32 SIDETONE□□______



◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した音量が保持されます。
◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。
◇表示は、最後に ◎ または ◎ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2 データ設定

2-2-5 マイク音量調節

マイク音量は、無線IP端末、有線端末ともに3段階の調節を行えます。

●無線IP端末のマイク音量調節

端末操作


（受話器を置いたまま）




（3つのボタンを同時に押します）





表示部

```
Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

```
▲:UP ▼:DOWN
MIC VOL □□______
```

```
▲:UP ▼:DOWN
MIC VOL □_______
```




```
▲:UP ▼:DOWN
MIC VOL □□______
```




```
▲:UP ▼:DOWN
MIC VOL □□□_____
```

●有線端末のマイク音量調節

端末操作


（受話器を置いたまま）




（3つのボタンを同時に押します）





表示部

```
Tel.32
11/11 SAT 11:11p
```

```
Tel.32
MIC VOL □□□□____
```

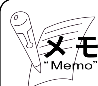
```
Tel.32
MIC VOL □_______
```




```
Tel.32
MIC VOL □□□□____
```




```
Tel.32
MIC VOL □□□□□□□□
```



◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した音量が保持されます。
◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。
◇表示は、最後に ▷ または ▽ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2-2-6 キータッチトーン切替

キータッチトーンについて「有／無」を設定します。

●無線IP端末のキータッチトーン切替

端末操作





（受話器を置いたまま）　（3つのボタンを同時に押します）

表示部

```
Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

```
▲:ON ▼:OFF
KEY TONE      ON
```

```
▲:ON ▼:OFF
KEY TONE      OFF
```



```
▲:ON ▼:OFF
KEY TONE      ON
```

●有線端末のキータッチトーン切替

端末操作





（受話器を置いたまま）　（3つのボタンを同時に押します）

表示部

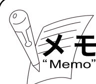
```
Tel.32
11/11 SAT 11:11p
```

```
Tel.32
KEY TONE ON
```

```
Tel.32
KEY TONE OFF
```



```
Tel.32
KEY TONE ON
```



◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した設定が保持されます。
◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。
◇表示は、最後に ▷ または ▽ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2 データ設定

2-2-7 ヘッドセット接続

ヘッドセットまたはハンドセットのモードを設定します。

●無線IP端末のヘッドセット接続設定

端末操作







（受話器を置いたまま）　（3つのボタンを同時に押します）

表示部

```
Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

```
▲/▼:SCROLL
BELL
```

```
▲/▼:SCROLL
BELL
```




```
▲/▼:SCROLL
HEADSET1
```



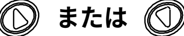

```
▲/▼:SCROLL
HEADSET2
```

●有線端末のヘッドセット接続設定

端末操作







（受話器を置いたまま）　（3つのボタンを同時に押します）

表示部

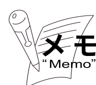
```
Tel.32
11/11 SAT 11:11p
```

```
Tel.32
HANDSET MODE
```

```
Tel.32
HEADSET MODE
```




```
Tel.32
HANDSET MODE
```



◇無線IP端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した音量が保持され,有線端末の場合はハンドセットモードに戻ります。

◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。

◇表示は、最後に ▷ または ▽ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

◇有線端末の場合はDTS-HM-10-HDSを接続できます。無線IP端末の場合はモードによって次のように異なります。

“HEADSET1”モードのときDTS-HM-10-HDSを接続できます。

“HEADSET2”モードのときプロファイル IIIを接続できます。

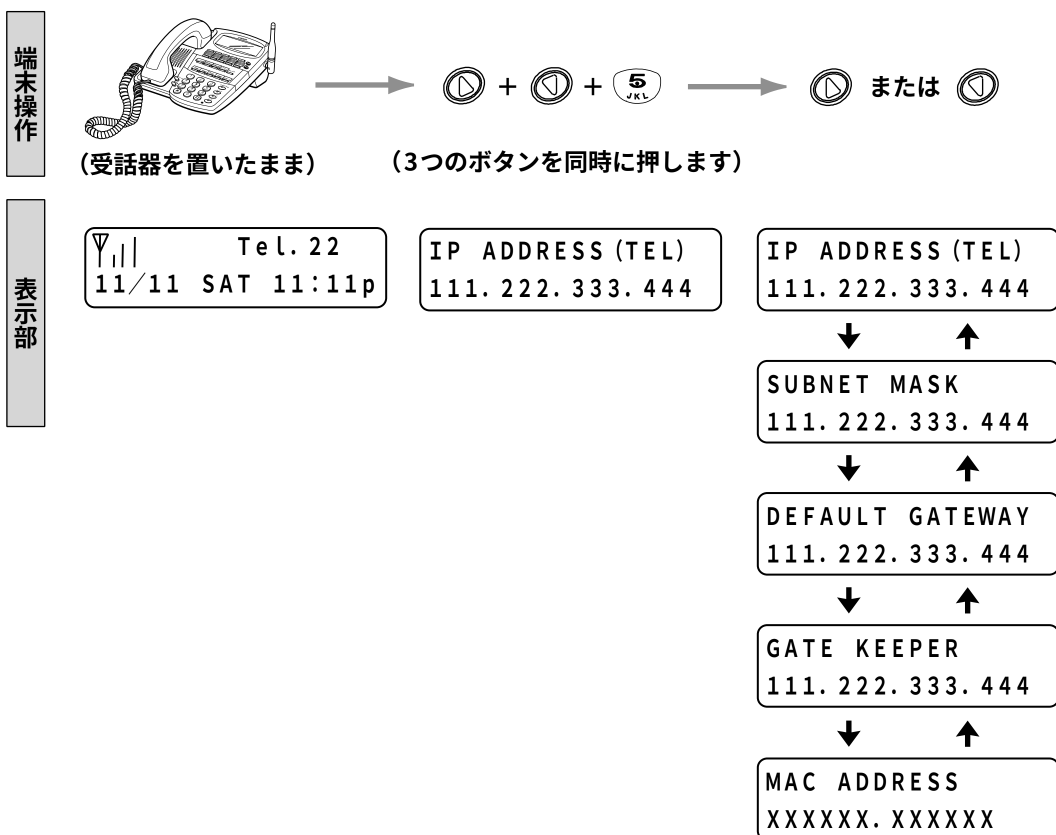
◇ヘッドセットの接続方法は、『簡易設置設定マニュアル』を参照してください。

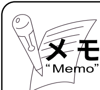
2 データ設定

2-2-8 IPアドレス確認

無線IP端末に設定されているIPアドレス、サブネットマスク、デフォルト・ゲートウェイ、ゲートキーパアドレス、MACアドレスを表示します。

●無線IP端末のIPアドレス確認





◇表示は、最後に ▷ または ◁ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2 データ設定

2-2-9 VLAN情報

無線IP端末に設定されているVLAN IDを表示します。

●無線IP端末のVLAN情報表示

端末操作



（受話器を置いたまま）





（3つのボタンを同時に押します）

表示部

```
        Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

```
VLAN ID
(1−255)        2
```



◇表示は、最後に ボタン または ボタン ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。

2 データ設定

2-2-10 スピーカ音量調節

スピーカ音量は、無線IP端末、有線端末ともに8段階の調節を行えます。

●無線IP端末のスピーカ音量調節

端末操作

（スピーカ受話中） → (▷) または (◁)

表示部

```
         Tel.22
11/11 SAT 11:11p
```

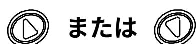
```
SPK VOL □_______
  ↓ ↑
SPK VOL □□______
  ↓ ↑
SPK VOL □□□_____
  ↓ ↑
SPK VOL □□□□____
  ↓ ↑
SPK VOL □□□□□___
  ↓ ↑
SPK VOL □□□□□□__
  ↓ ↑
SPK VOL □□□□□□□_
  ↓ ↑
SPK VOL □□□□□□□□
```

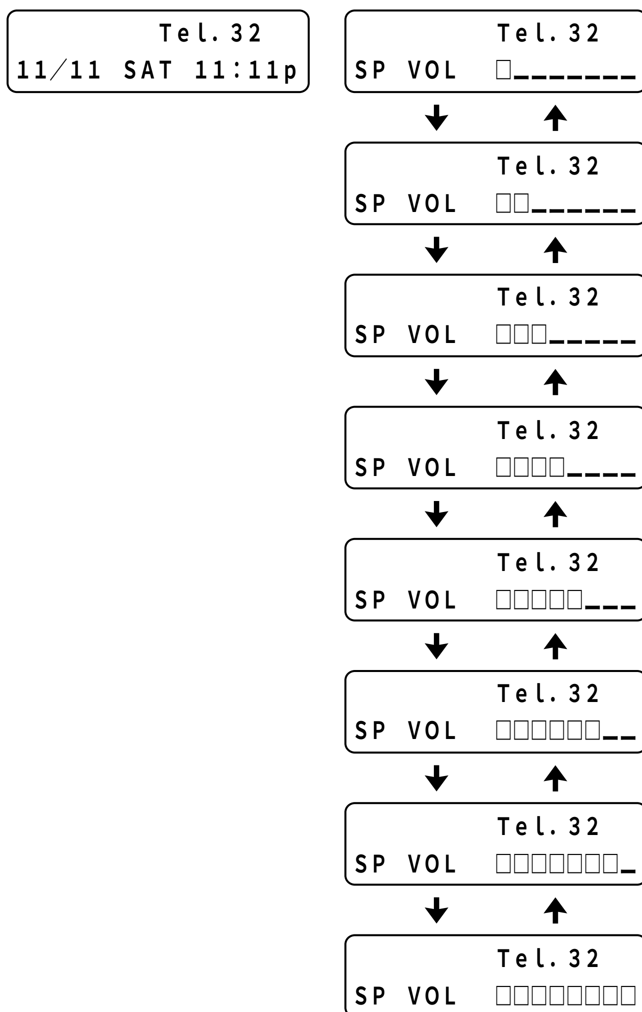
●有線端末のスピーカ音量調節

端末操作



（スピーカ受話中）



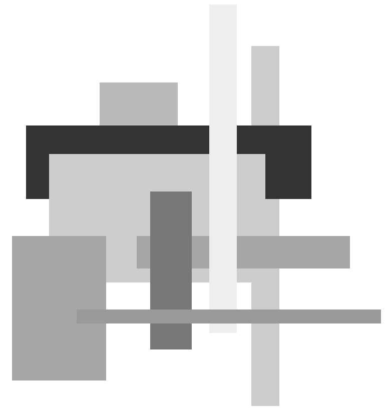




◇専用端末の再立上げ（端末障害からの復旧）後でも、以前調節した設定が保持されます。

◇メインユニット再立上げ時には、有線端末はシステムのデフォルト値に戻り、無線IP端末はメインユニット再立上げ時前の状態を保持します。

◇表示は、最後に Ⓓ または Ⓠ ボタンを押してから3秒後に通常表示に戻ります。



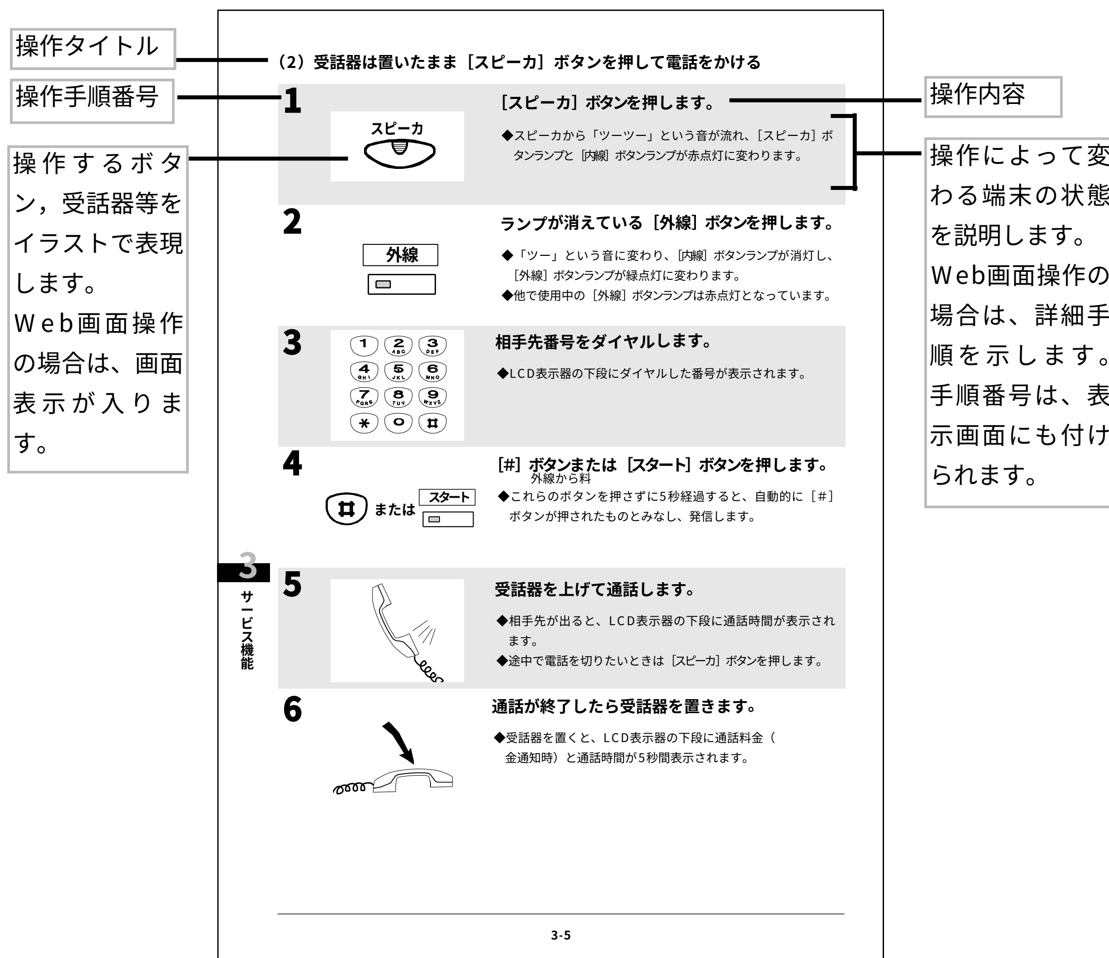
3 サービス機能



3-1 電話系機能

ここでは、電話系機能のうち、使用頻度の高い機能について、その操作方法を示します。

以下に、操作説明の見方を示します。



3-1-1 外線に電話をかける

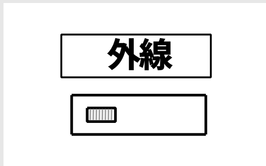
外線への電話のかけ方として、以下に示す方法を紹介します。

（1）受話器は置いたまま［外線］ボタンを押して電話をかける
（2）受話器は置いたまま［スピーカ］ボタンを押して電話をかける
（3）受話器を上げ、［外線］ボタンを押して電話をかける
（4）受話器を上げるだけで外線に電話をかける
（5）パソコンから外線に電話をかける（発番号エントリから選択）
（6）パソコンから外線に電話をかける（着信履歴から選択）
（7）［ワンタッチ］ボタンを押して外線に電話をかける
（8）［リダイヤル］ボタンを押して外線に電話をかける
（9）短縮ダイヤルを登録する
（10）受話器を上げ、短縮ダイヤルで外線に電話をかける
（11）受話器を上げ、短縮ダイヤルで選択して外線に電話をかける

以下に、各操作方法を示します。

（1）受話器は置いたまま、[外線] ボタンを押して電話をかける

1

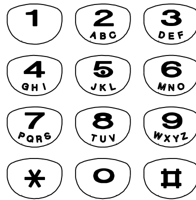


ランプが消えている［外線］ボタンを押します。

◆スピーカから「ツー」という音が流れ、[外線] ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆他で使用中の［外線］ボタンランプは赤点灯となっています。

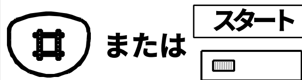
2



相手先番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

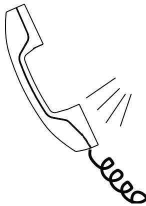
3



[#] ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

4

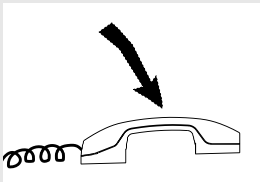


受話器を上げて通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

◆途中で電話を切りたいときは［スピーカ］ボタンを押します。

5



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話料金（外線から料金通知時）と通話時間が5秒間表示されます。

（2）受話器は置いたまま［スピーカ］ボタンを押して電話をかける

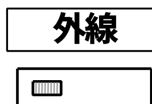
1



［スピーカ］ボタンを押します。

◆スピーカから「ツーツー」という音が流れ、［スピーカ］ボタンランプと［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

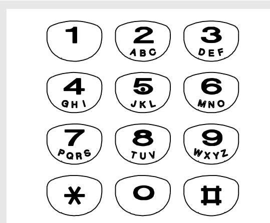
2



ランプが消えている［外線］ボタンを押します。

◆「ツー」という音に変わり、［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆他で使用中の［外線］ボタンランプは赤点灯となっています。

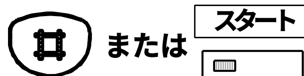
3



相手先番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

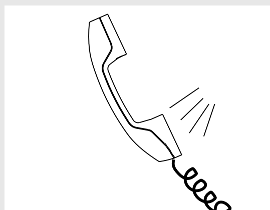
4



［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

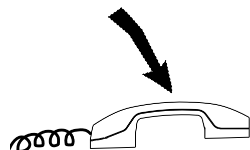
5



受話器を上げて通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。
◆途中で電話を切りたいときは［スピーカ］ボタンを押します。

6

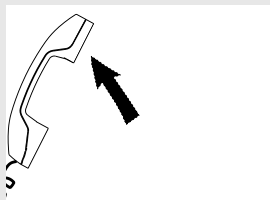


通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話料金（外線から料金通知時）と通話時間が5秒間表示されます。

（3）受話器を上げ、［外線］ボタンを押して電話をかける

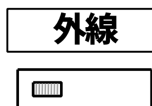
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

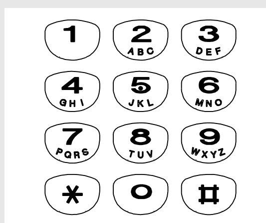
2



ランプが消えている［外線］ボタンを押します。

◆「ツー」という音に変わり、［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆他で使用中の［外線］ボタンランプは赤点灯となっています。

3



相手先番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

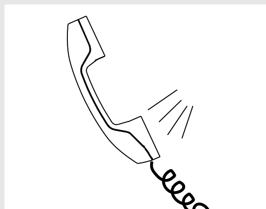
4



［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

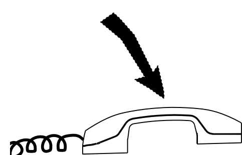
5



相手先が出たら通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。
◆途中で電話を切りたいときは受話器を置きます。

6



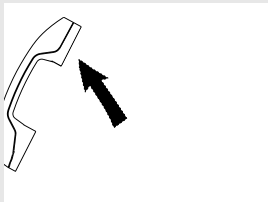
通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話料金（外線から料金通知時）と通話時間が5秒間表示されます。

（4）受話器を上げるだけで外線に電話をかける

受話器を上げるだけで、空いている外線を使用して電話をかけられます。

1

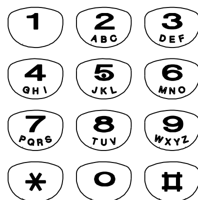


受話器を上げます。

◆「ツー」という音が流れ、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆外線が空いていないと、「プープー」という音が流れます。

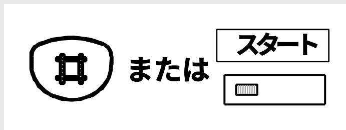
2



相手先番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

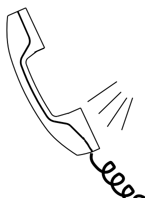
3



[#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

4

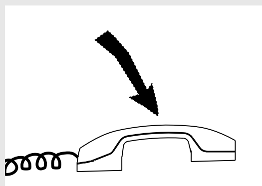


相手先が出たら通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

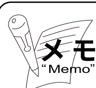
◆途中で電話を切りたいときは受話器を置きます。

5



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話料金（外線から料金通知時）と通話時間が5秒間表示されます。

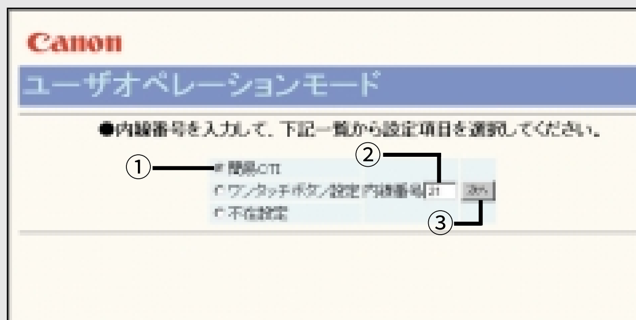


◇本操作を行うには、Webデータ設定でシステム管理者モードの「オフフック外線自動捕捉」を有効にしておく必要があります。販売店にお問い合わせください。

◇受話器を置いたまま［スピーカ］ボタンを押しても、空いている外線を使用して電話をかけられます。

（5）パソコンから外線に電話をかける（発番号エントリから選択）

1



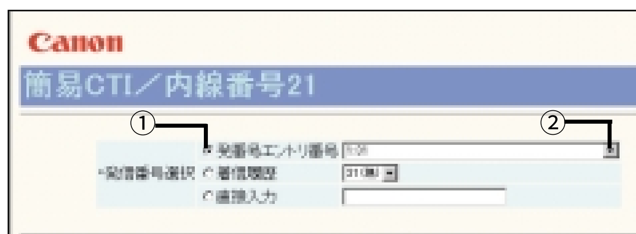
ユーザオペレーションモード画面を開きます。

①「簡易CTI」のラジオボタンをチェックします。

②「内線番号」を入力します。

③［次へ］ボタンを押します。

2

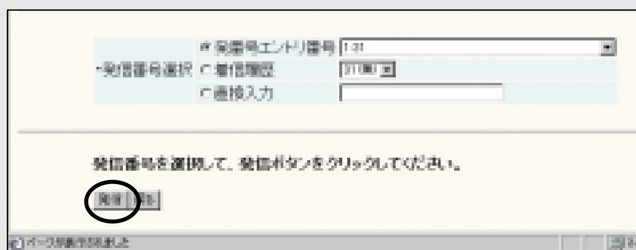


かけたい相手先を選びます。

①「発番号エントリ番号」のラジオボタンをチェックします。

②「発番号エントリ番号」のプルダウンメニューからかけたい相手先を選びます。

3



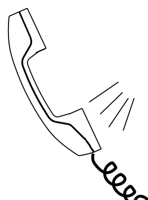
画面下の［発信］ボタンを押します。

◆［外線］ボタンランプが緑点灯し、［スピーカ］ボタンランプが赤点灯に変わります。

◆LCD表示器の下段に選択した相手先番号が表示されます。

◆外線が空いていないと、スピーカから「プープー」という音が流れます。

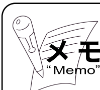
4



受話器を上げて通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

◆途中で電話を切りたいときは［スピーカ］ボタンを押します。



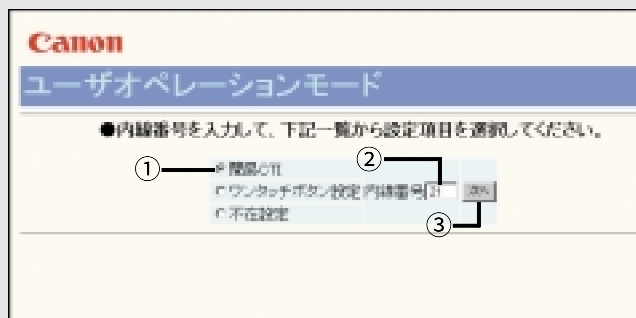
◇本操作を行うには、Webデータ設定の「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「発番号別設定」画面で相手先を登録しておく必要があります。

3 サービス機能

（6）パソコンから外線に電話をかける（着信履歴から選択）

外線からかかってきた相手先番号は着信履歴として保存できます。

1



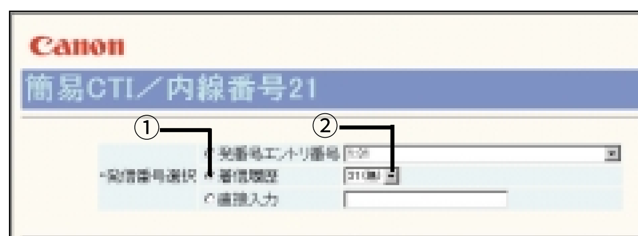
ユーザオペレーションモード画面を開きます。

①「簡易CTI」のラジオボタンをチェックします。

②「内線番号」を入力します。

③［次へ］ボタンを押します。

2

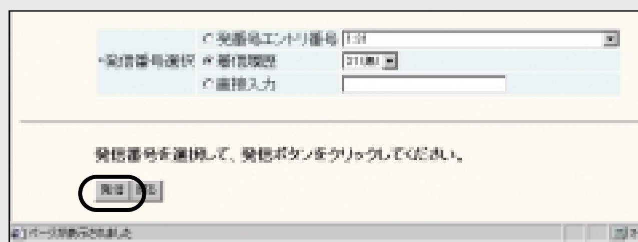


かけたい相手先を選びます。

①「着信履歴」のラジオボタンをチェックします。

②「着信履歴」のプルダウンメニューからかけたい相手先を選びます。

3



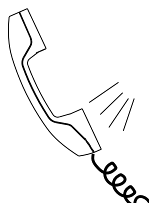
画面下の［発信］ボタンを押します。

◆［外線］ボタンランプが緑点灯し、［スピーカ］ボタンランプが赤点灯に変わります。

◆LCD表示器の下段に選択した相手先番号が表示されます。

◆外線が空いていないと、スピーカから「プープー」という音が流れます。

4



受話器を上げて通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

◆途中で電話を切りたいときは［スピーカ］ボタンを押します。

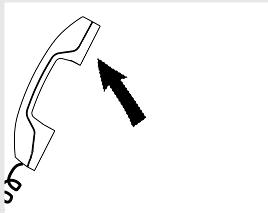


◇着信履歴は、相手先から発信者番号が通知されたときにだけ記録されます。（相手先がアナログ回線の場合で発信者番号を受信したいときには、INSナンバーディスプレイ契約をしてください）

（7）［ワンタッチ］ボタンを押して外線に電話をかける

かける頻度の高い相手先は、電話番号を［ワンタッチ］ボタンに登録しておくことにより、［ワンタッチ］ボタンを押すだけでかけられます。

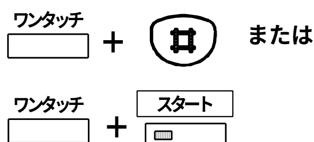
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

2



[ワンタッチ］ボタンと［#］ボタンまたは［ワンタッチ］ボタンと［スタート］ボタンを押します。

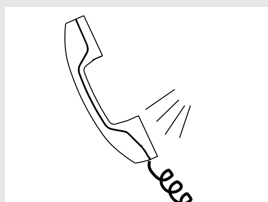
◆［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

◆［#］または［スタート］ボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

◆外線が空いていないと、「プープー」という音が流れます。

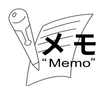
3



相手先が出たら通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

◆途中で電話を切りたいときは受話器を置きます。



◇［ワンタッチ］ボタンは、各端末ごとに20箇所まで設定できます。

◇［ワンタッチ］ボタンへの相手先番号の設定は、Webデータ設定の「TOP画面」→「ユーザオペレーションモード」→「ワンタッチボタン設定」を開き、行います。

Canon

ワンタッチボタン設定／内線番号21

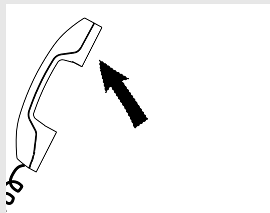
ワンタッチボタン	ダイヤル番号	番号種別
1		外線番号
2		外線番号
3		外線番号

◇［ワンタッチ］ボタンに登録するダイヤル番号の末尾に＃を登録しておくと、外線発信時、［ワンタッチ］ボタンを押した時点で発信します。（この場合、［#］または［スタート］ボタンは押す必要がなくなります）

（8）［リダイヤル］ボタンを押して外線に電話をかける

最後にかけた相手先は、［リダイヤル］ボタンを押すだけでかけられます。

1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

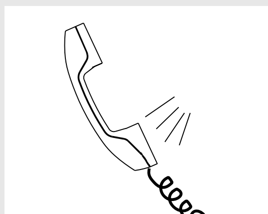
2



[リダイヤル] ボタンを押します。

◆［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。
◆外線が空いていないと、「プープー」という音が流れます。

3



相手先が出たら通話します。

◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。
◆途中で電話を切りたいときは受話器を置きます。



◇内線にかけたときは、リダイヤルに登録されません。

（9）短縮ダイヤルを登録する

ユーザ管理者モードで、発番号別設定画面を開くことにより短縮ダイヤルを登録することができます。

●登録手順

発番号エントリ選択
001 002 003 004 005 006 007 008 009 010 011 012 013
021 022 023 024 025 026 027 028 029 030 031 032 033
Canon
発番号別設定1
・発番号
・発番号種別 ◉外線番号 ○内線番号
・相手先名称
発番号別着信形式1
発番号別設定一覧
パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。
設定 戻る 次へ

①「発番号エントリ選択」で登録する「発番号」エントリを選択します。
　◆エントリ番号が短縮コードに対応します。

②「発番号」に相手先電話番号（最大32桁まで）を入力します。
　◆専用端末のLCD表示器には下位16桁が表示されます。

③「発番号種別」は「外線番号」のラジオボタンをチェックします。

④「相手先名称」に任意の文字列（半角英数カナで最大32文字まで）を入力します。
　◆専用端末のLCD表示器には上位10文字が表示されます。

⑤［設定］ボタンを押します。

①～⑤を繰り返し、必要な短縮ダイヤルを登録します。

●専用端末のLCD表示可能な相手先名称文字

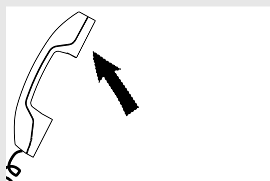
Web設定の相手先名称として以下の文字（半角のみ）がLCD表示できます。

(SP)	0	@	P	`	p
!	1	A	Q	a	q
#	2	B	R	b	r
$	3	C	S	c	s
%	4	D	T	d	t
&	5	E	U	e	u
'	6	F	V	f	v
(	7	G	W	g	w
)	8	H	X	h	x
*	9	I	Y	i	y
+	:	J	Z	j	z
,	;	K	[	k	{
-	<	L	¥	l	|
.	=	M	]	m	}
/	>	N	^	n	
	?	O	_	o	

。	ー	タ	ミ
「	ア	チ	ム
」	イ	ツ	メ
、	ウ	テ	モ
・	エ	ト	ヤ
ヲ	オ	ナ	ユ
ァ	カ	ニ	ヨ
ィ	キ	ヌ	ラ
ゥ	ク	ネ	リ
ェ	ケ	ノ	ル
ォ	コ	ハ	レ
ャ	サ	ヒ	ロ
ュ	シ	フ	ワ
ョ	ス	ヘ	ン
ッ	セ	ホ	゛
	ソ	マ	゜

（10）受話器を上げ、短縮ダイヤルで外線に電話をかける

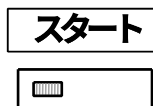
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

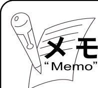
2



［スタート］ボタンを押します。

◆「ツーツー」という音が停止し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆LCD表示器の上段および下段が表示なしに変わります。



◇外線が空いていないと、「プープー」という音が流れます。受話器を下ろし、再度かけ直しをしてください。

3

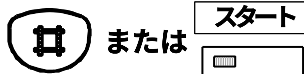


短縮ダイヤル番号（3桁または2桁）をダイヤルします。（短縮ダイヤル番号は発番号別エントリ番号に対応します）

◆LCD表示器の上段にはダイヤルした短縮ダイヤル番号と登録されている相手先名称（10文字）、下段には相手先電話番号が表示されます。

◆短縮ダイヤルの桁数の初期値は3桁になっています。

4

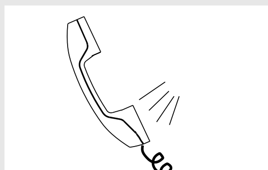


［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

◆LCD表示器の上段は自内線番号に変わります。

◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

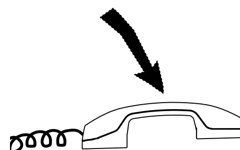
5



相手先が出たら通話します。

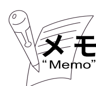
◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

6



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話料金（外線から料金通知時）と通話時間が5秒間表示されます。

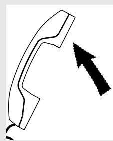


◇短縮ダイヤルの桁数を2桁にすることができます（短縮コードは01～99の99件となります）。Webデータ設定の「システム管理者モード」の「短縮コード桁数」を2桁にしてください。設定については、販売店にお問い合わせください。

◇受話器を置いたまま空きの［外線］ボタンまたは［スピーカ］ボタンを押しても、同様に電話をかけられます。

（11）受話器を上げ、短縮ダイヤルを選択して外線に電話をかける

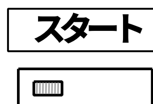
1



受話器を上げます。

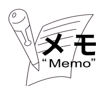
◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

2



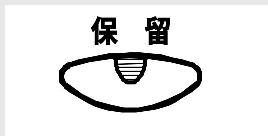
［スタート］ボタンを押します

◆「ツーツー」という音が停止し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆LCD表示器の上段および下段が表示なしに変わります。
◆この後、希望する短縮ダイヤルをダイヤルすることで、相手先を直接、選択することができます。



◇外線が空いていないと、「プープー」という音が流れます。受話器を下ろし、再度かけ直しをしてください。

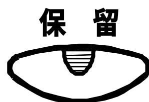
3



［保留］ボタンを押します。

◆LCD表示器の上段には短縮コード"００１"（2桁の場合は"０１"）に登録されている相手先名称、下段には相手先電話番号が表示されます。

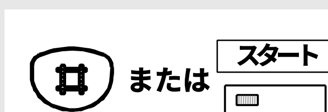
4



再度、［保留］ボタンを押します。

◆LCD表示器の上段には短縮コード"００２"（2桁の場合は"０２"）に登録されている相手先名称、下段には相手先電話番号が表示されます。
◆［保留］ボタンの操作を行う毎に、短縮コードが昇順（巡回）に更新されます。電話をかけたい相手先を選択して電話をかけることができます。

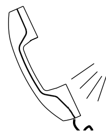
4



［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

◆LCD表示器の上段は自内線番号に変わります。
◆必ず、［#］ボタンまたは［スタート］ボタンのいずれかを押してください。

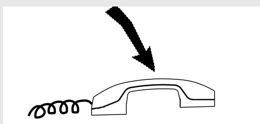
5



相手先が出たら通話します。

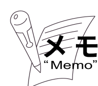
◆相手先が出ると、LCD表示器の下段に通話時間が表示されます。

6



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話料金（外線から料金通知時）と通話時間が5秒間表示されます。



◇短縮ダイヤルの桁数を2桁にすることができます（短縮コードは01～99の99件となります）。Webデータ設定の「システム管理者モード」の「短縮コード桁数」を2桁にしてください。設定については、販売店にお問い合わせください。
◇［保留］ボタン押下後は自動的に発信しません。発信する場合は、［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押してください。なお、［保留］ボタン押下後20秒経過すると短縮ダイヤル発信操作が無効となります。（「プープー」という音が流れます）

3-1-2 外線からの電話を受ける

外線からの電話の受け方ついて説明します。

3-1-2-1 着信方式とNTTサービスの利用形態について

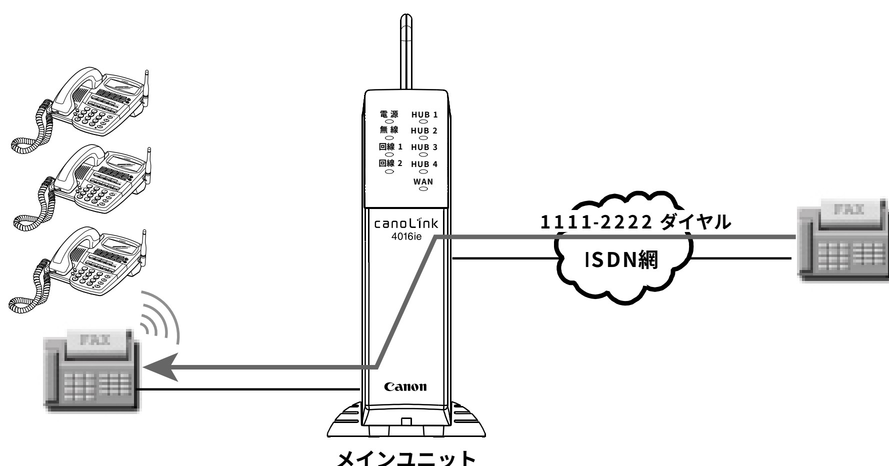
外線からの着信方式とNTTサービスの利用形態について説明します。

●着信方式について

着信方式には、以下に示す2通りの方式があります。

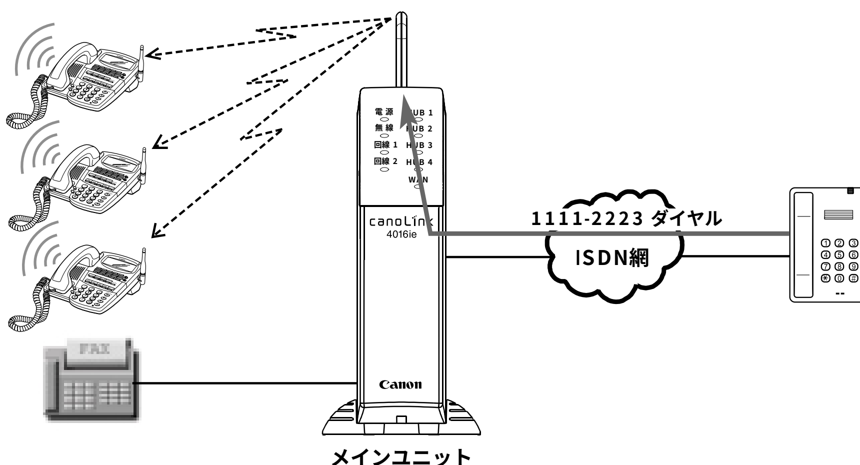
◇個別着信

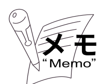
個別着信とは、外線からの着信を1台の端末にだけ着信させせます。



◇一般着信

一般着信とは、外線からの着信を指定した着信グループ内のすべての端末に着信させせます。





◇一般着信の着信グループは、8グループ設定できます（1つはシステム固定（全ての専用端末が登録されています)、任意に設定できるグループは7グループです)。

◇端末のモード切替操作（3パターン）によって着信先を切り替えられます。平日／休日等の切替に利用してください。

●利用形態による着信先設定のイメージ

INSネット64サービスから受けられる各種サービスの利用形態と、それを実現するための着信先設定のイメージについて説明します。

◇INSネット64の付加サービスを利用せずに外線からの電話を受ける場合

出荷時には、外線からの着信を受ける場合、接続しているすべての専用端末に一般着信するように設定されています。

◇INSネット64の付加サービスを利用して外線からの電話を受ける場合

INSネット64付加サービスとして、次の3つのサービスを利用できます。

A. ナンバーディスプレイサービス

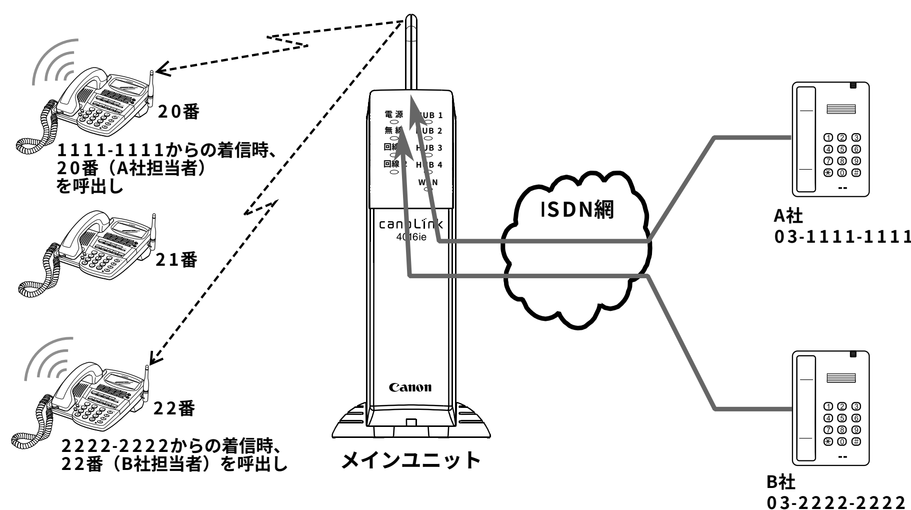
B. i・ナンバーサービス

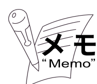
C. ダイヤルインサービス

以下に、各サービスを利用する場合の、着信先設定について説明します。

A. ナンバーディスプレイサービス

相手先がアナログ回線の場合でも、INS網から通知された発信者番号によって外線からの電話を受ける端末を指定できます。本サービスを利用するには、INSナンバーディスプレイサービスの契約を行う必要があります。





◇特定の相手からの着信を拒否すること。さらに相手先から発信者番号の通知がないとき着信を拒否できます。（発信者番号が通知されない場合の拒否する条件として、発信者番号が非通知の場合にすべて拒否する、あるいは非通知理由が " 公衆 " のときだけ受け付けるかを選択できます。Webデータ設定が必要となります。販売店にお問い合わせください）

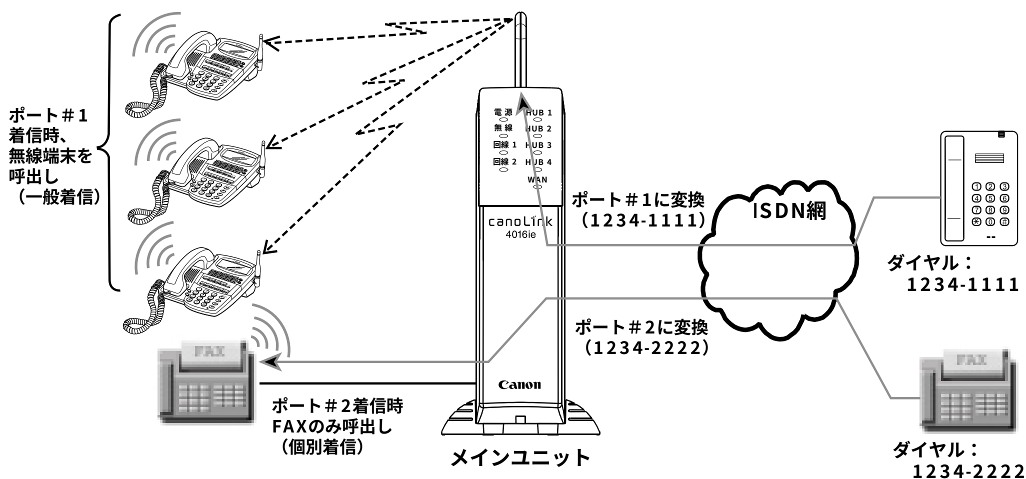
◇電話に応答する前に、端末のLCD表示で相手先を確認できます。

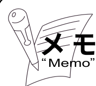
◇相手先がISDN回線の場合は、INSナンバーディスプレイサービスの契約をする／しないにかかわらず、発信者番号を受信できます。

◇非通知理由をISDN網から受信したいときは、INSナンバーディスプレイサービス契約時に非通知理由の通知を行うように契約してください。

B. i・ナンバーサービス

外線から通知された i・ナンバーポート番号によって、電話を受ける端末を指定できます。FAXと電話で鳴り分けて着信させたい場合に便利です。本サービスを利用するには、i・ナンバーサービスの契約を行う必要があります。



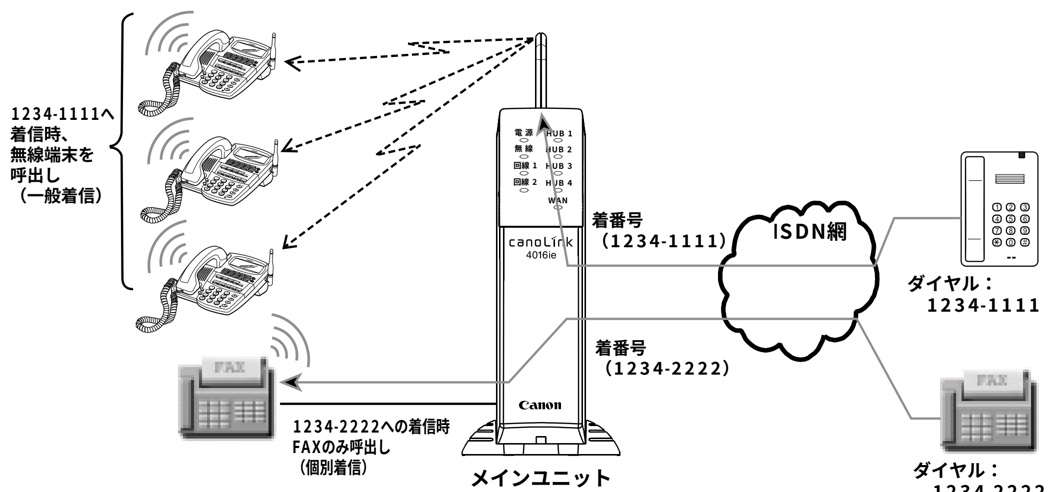


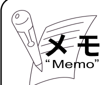
◇ダイヤルインサービスとの併用はできません。

◇i・ナンバーサービスでは、3つまでの電話番号を契約できます。4つ以上必要な場合は、ダイヤルインサービスを契約してください。

C. ダイヤルインサービス

外線から通知された着信番号（契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号）によって、電話を受ける端末を指定できます。本サービスを利用するには、INSダイヤルインサービスの契約を行う必要があります。





◇i・ナンバーサービスとの併用はできません。

3 サービス機能

3-1-2-2 外線からの電話を受ける

外線からの電話の受け方として、以下に示す方法を紹介します。

（1）一般着信に対して受話器を上げてから受ける
（2）一般着信に対して受話器を置いたまま受ける
（3）一般着信に対して受話器を上げるだけで受ける
（4）個別着信に対して受話器を上げてから受ける
（5）個別着信に対して受話器を置いたまま受ける
（6）他の個別着信を代理応答する

以下に、各操作方法を示します。

（1）一般着信に対して受話器を上げてから受け

1

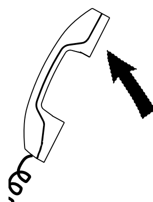


一般着信が入ります。

◆スピーカから「プルルー」という着信音が流れ、［外線］ボタンランプが赤色で速く点滅します。

◆発信者番号が通知されたときは、LCD表示器の上段に発信者番号が表示されます。

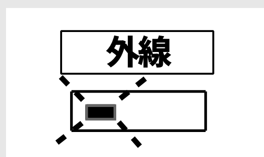
2



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

3

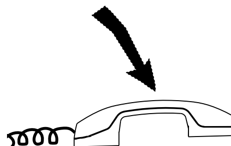


赤く点滅している［外線］ボタンを押します。

◆［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆応答となり通話できます。

4



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話時間が5秒間表示されます。

（2）一般着信に対して受話器を置いたまま受ける

1

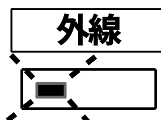


一般着信が入ります。

◆スピーカから「プルルー」という着信音が流れ、［外線］ボタンランプが赤色で速く点滅します。

◆発信者番号が通知されたときは、LCD表示器の上段に発信者番号が表示されます。

2

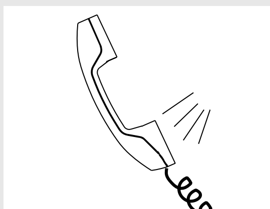


赤く点滅している［外線］ボタンを押します。

◆［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

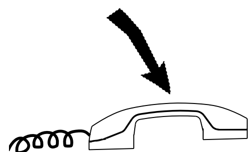
◆スピーカ受話モードになります。

3



受話器を上げて通話します。

4



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話時間が5秒間表示されます。

（3）一般着信に対して受話器を上げるだけで受ける

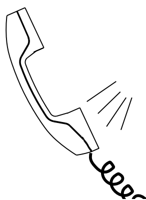
1



一般着信が入ります。

◆スピーカから「プルルー」という着信音が流れ、［外線］ボタンランプが赤色で速く点滅します。
◆発信者番号が通知されたときは、LCD表示器の上段に発信者番号が表示されます。

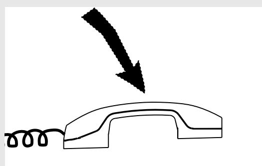
2



受話器を上げます。

◆［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆応答となり、通話できます。

3



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話時間が5秒間表示されます。



◇本操作を行うには、Webデータ設定の「システム管理者モード」の「一般着信オフフック自動応答（端末）」を有効にしておく必要があります。販売店にお問い合わせください。

（4）個別着信に対して受話器を上げてから受ける

1

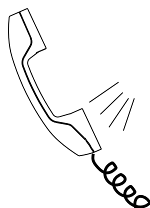


個別着信が入ります。

◆スピーカから「プルルー」という着信音が流れ、着信ランプが赤色で速く点滅し、［外線］ボタンランプが橙色で速く点滅します。

◆発信者番号が通知されたときは、LCD表示器の下段に発信者番号が表示されます。

2

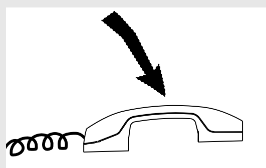


受話器を上げます。

◆［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

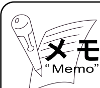
◆応答となり、通話できます。

3



通話が終了したら受話器を置きます。

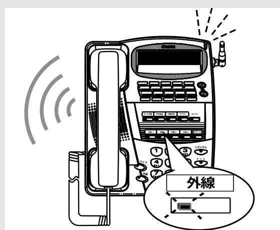
◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話時間が5秒間表示されます。



◇発信者番号によって外線からの電話を個別着信で受ける場合、着信時にLCD表示器の上段に発信者番号が表示されます。

（5）個別着信に対して受話器を置いたまま受ける

1



個別着信が入ります。

◆スピーカから「プルルー」という着信音が流れ、着信ランプが赤色で速く点滅し、［外線］ボタンランプが橙色で速く点滅します。

◆発信者番号が通知されたときは、LCD表示器の下段に発信者番号が表示されます。

2

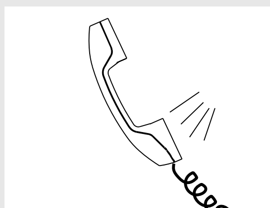


［スピーカ］ボタンを押します。

◆［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

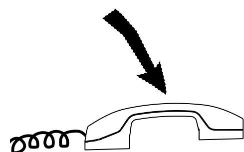
◆スピーカ受話モードになります。

3



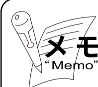
受話器を上げて通話します。

4



通話が終了したら受話器を置きます。

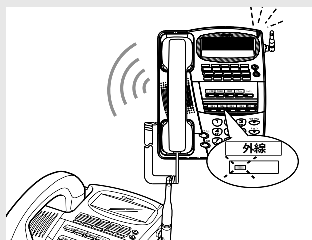
◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話時間が5秒間表示されます。



◇発信者番号によって外線からの電話を個別着信で受ける場合、着信時にLCD表示器の上段に発信者番号が表示されます。

（6）他の個別着信を代理応答する

1

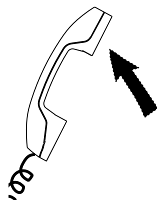


個別着信が入ります。

◆着信している端末は、スピーカから「プルルー」という着信音が流れ、着信ランプが赤色で速く点滅し、［外線］ボタンランプが橙色で速く点滅します。

◆着信していない端末の［外線］ボタンランプは赤点灯します。

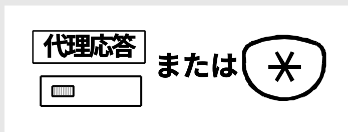
2



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

3

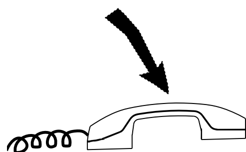


[代理応答] ボタンまたは [＊] ボタンを押します。

◆［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプは緑点灯に変わります。

◆代理応答となり、通話できます。

4



通話が終了したら受話器を置きます。

◆受話器を置くと、LCD表示器の下段に通話時間が5秒間表示されます。

3-1-3 外線との通話を保留する、または別の端末に転送する

外線との通話を保留して他の電話を受けたり、別の端末に転送したりできます。保留および転送の方法を以下に紹介します。

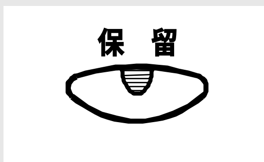
（1）外線との通話を保留する／保留を解除する
（2）口頭で転送する
（3）ダイヤルで転送する
（4）ワンタッチでファックスに転送する
（5）他の外線に転送する

以下に、各操作方法を示します。

（1）外線との通話を保留する／保留を解除する

●保留する

1

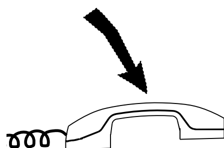


外線との通話中に［保留］ボタンを押します。

◆［外線］ボタンランプが緑色と橙色で交互に速く点滅し、［内線］ボタンランプは赤点灯に変わります。

◆保留した側には「ツーツー」という音が流れ、外線側には保留メロディが流れます。

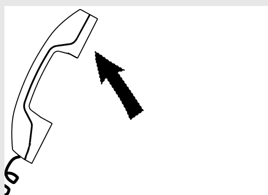
2



受話器を置きます。

●保留を解除する

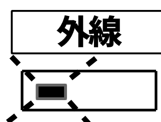
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

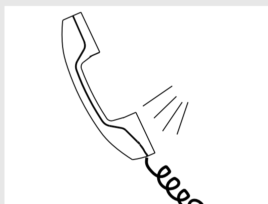
2



緑と橙で交互に点滅している［外線］ボタンを押します。

◆［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

3

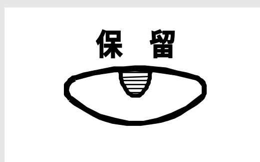


通話します。

（2）口頭で転送する

●転送する側

1



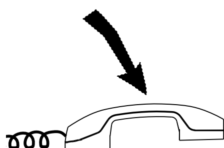
外線との通話中に［保留］ボタンを押します。

◆［外線］ボタンランプが緑色と橙色で交互に速く点滅し、［内線］ボタンランプは赤点灯に変わります。

◆他の全ての専用端末の［外線］ボタンランプが緑色で速く点滅します。

◆保留した側には「ツーツー」という音が流れ、外線側には保留メロディが流れます。

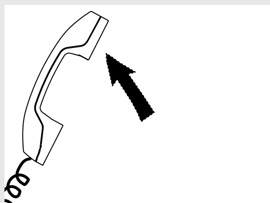
2



転送したい相手に口頭で外線ボタン番号を伝え、受話器を置きます。

●転送を受ける側

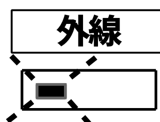
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

2

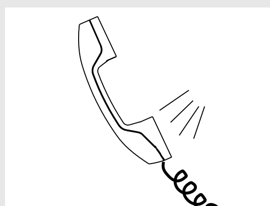


口頭で受けた［外線］ボタンを押します。

◆［内線］ボタンランプが消灯し、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆転送側の端末の［外線］ボタンランプは赤点灯に変わります。

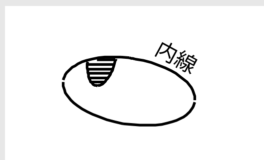
3



通話します。

(3) ダイヤルで転送する

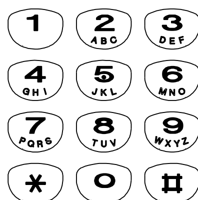
1



外線との通話中に［内線］ボタンを押します。

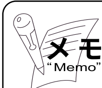
◆「ツ・ツ・ツ・・・」という音が流れ、［内線］ボタンランプは赤色で遅く点滅します。
◆外線側には保留メロディが流れます。

2



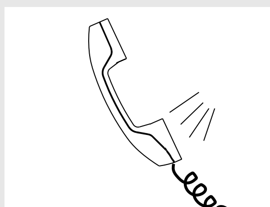
転送先の内線番号をダイヤルします。

◆「プルルルー・・・プルルルー」という呼出中音が聞こえます。
◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。



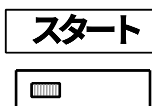
◇相手端末が不在設定中で不在先端末にシフトした場合は、LCD表示器の下段にシフト先の内線番号が表示されます。

3



転送先が出たら転送があることを伝えます。

4



［スタート］ボタンを押します。

◆転送先の［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆転送先と外線の間で通話できます。

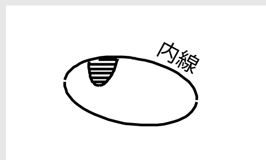


◇転送先が応答する前に［スタート］ボタンを押して転送することもできます。
◇転送操作時、［スタート］ボタンを押さずに受話器を置いた場合、転送先内線を切断し、元の外線からの呼び返し（応答操作で元の外線との通話に戻ります）となります。

（4）ワンタッチでファックスに転送する

あらかじめ［ワンタッチ］ボタンにファックスの内線番号を設定しておくと、ワンタッチ操作で外線をファックスに転送できます。

1



外線との通話中に［内線］ボタンを押します。

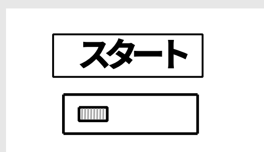
◆「ツツツ・・・」という音が流れ、［内線］ボタンランプは赤色で遅く点滅します。

2



［ワンタッチ］ボタンを押します。

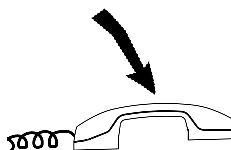
3



ファックスが応答したら［スタート］ボタンを押します。

◆外線がファックスへ転送されます。

4



受話器を置きます。

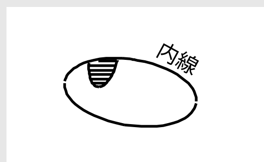


◇ファックスが応答する前に［スタート］ボタンを押して転送することもできます。

◇本操作を行うには、あらかじめWebデータ設定の「ユーザオペレーションモード」の「内線別ワンタッチキー設定」にて［ワンタッチ］ボタンにファックスの番号を登録しておく必要があります。

（5）他の外線に転送する

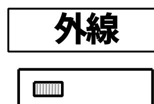
1



外線との通話中に［内線］ボタンを押します。

◆「ツ・ツ・ツ・・・」という音が流れ、［内線］ボタンランプは赤色で遅く点滅します。
◆外線側には保留メロディが流れます。

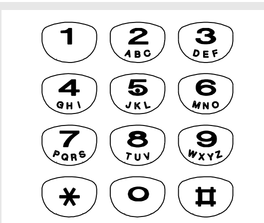
2



ランプが消えている［外線］ボタンを押します。

◆「ツー」という音に変わり、［外線］ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆他で使用中の［外線］ボタンランプは赤点灯となっています。

3



転送先の外線番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

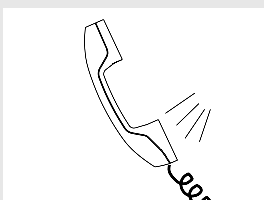
4



［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。

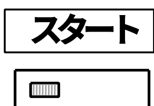
◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［＃］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

5



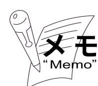
転送先が出たら転送があることを伝えます。

6



［スタート］ボタンを押します。

◆元の通話と転送先の［外線］ボタンランプが赤点灯に変わります。
◆元の外線と転送先外線との間で通話できます。



◇転送操作時、［スタート］ボタンを押さずに受話器を置いた場合、転送先外線を切断し、元の外線からの呼び返し（応答操作で元の外線との通話に戻ります）となります。
◇転送先呼出中に［スタート］ボタン押下での転送操作はできません。（［スタート］ボタン押下は無視します）

3-1-4 端末間で通話する（内線間通話）

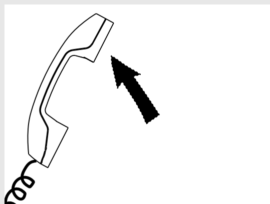
端末（内線）間で、電話をかけたり、電話を受けたり、音声呼出を行ったりできます。以下に、電話のかけ方と受け方および音声呼出の方法について紹介します。

（1）端末に電話をかける
（2）端末からの電話を受ける
（3）端末を音声で呼出す
（4）端末からの音声呼出を受ける

以下に、各操作方法を示します。

（1）端末に電話をかける

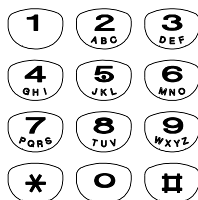
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

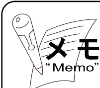
2



内線番号をダイヤルします。

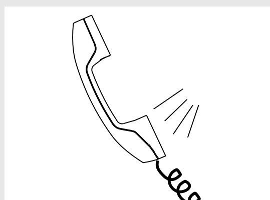
◆「プルルルー・・・プルルルー」という呼出中音が聞こえます。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。



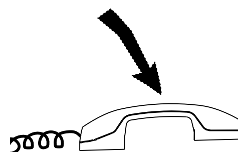
◇相手端末が不在設定中で不在先端末にシフトした場合は、LCD表示器の下段にシフト先の内線番号が表示されます。

3



相手先が応答したら通話します。

4



通話が終了したら受話器を置きます。

（2）端末からの電話を受ける

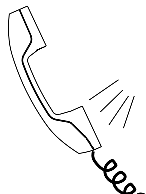
1



端末から着信が入ります。

◆着信した端末は、スピーカから「プルプル・・・プルプル」という着信音が流れ、［内線］ボタンランプと着信ランプが赤色で速く点滅します。
◆LCD表示器の下段に相手端末の内線番号が表示されます。

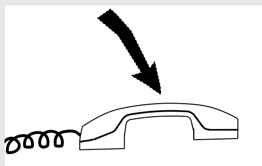
2



受話器を上げます。

◆呼出音は停止し、［内線］ボタンランプは赤点灯、着信ランプは消灯します。
◆応答となり、通話できます。

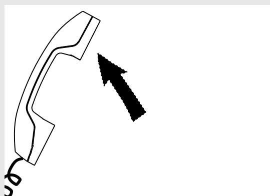
3



通話が終了したら受話器を置きます。

（3）端末を音声で呼出す

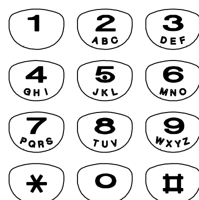
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

2

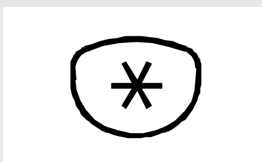


内線番号をダイヤルします。

◆「プルルルー・・・プルルルー」という呼出中音が聞こえます。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

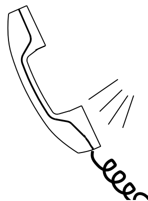
3



［＊］ボタンを押します。

◆呼出中音が停止し、「ピー」という音が受話器から聞こえたら音声で呼出せます。

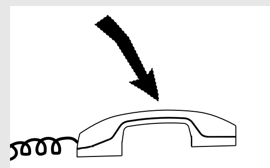
4



音声で呼出し、相手先が応答したら通話します。

◆音声で呼出すと、相手端末のスピーカから音声が聞こえます。

5



通話が終了したら受話器を置きます。



◇音声呼出中に再度［＊］ボタンを押すと、相手端末はリンガ呼出に変わります。自端末からは、「プルルルー・・・プルルルー」という呼出中音が聞こえます。本操作は何度でも繰り返しできます。

◇相手が一般電話機の場合は、音声呼出は行えません。

（4）端末からの音声呼出を受ける

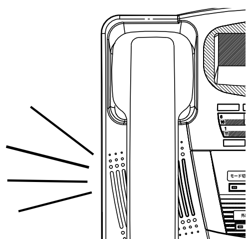
1



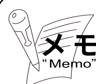
端末から着信が入ります。

◆スピーカから「プルプル・・・プルプル」という着信音が流れ、［内線］ボタンランプと着信ランプが赤色で速く点滅します。
◆LCD表示器の下段に相手端末の内線番号が表示されます。

2

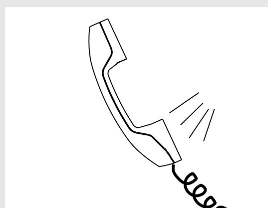


相手端末からの呼出音が停止し、「ピピ」という音の後に相手端末からの音声がスピーカから聞こえます。



◇音声呼出中に［マイク］ボタンを押すと、ハンズフリー応答（端末のマイクがオンとなり、受話器を置いた状態で音声が相手側に聞こえます）ができます。
◇外線からの着信に対しては、ハンズフリー応答はできません。

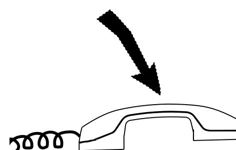
3



受話器を上げます。

◆［内線］ボタンランプが赤点灯し、着信ランプは消灯します。
◆応答となり、通話できます。

4



通話が終了したら受話器を置きます。

3-1-5 その他の機能

その他の便利な機能として、以下に示す機能を紹介します。

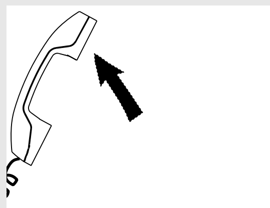
（1）　不在転送の設定／解除
（2）　シフト着信
（3）　着信モード切替え
（4）　外線着信時の鳴動音停止
（5）　トーンの送出
（6）　保留音の選択
（7）　一般着信音の選択
（8）　通話中に別の電話が入ったことを通知
（9）　転送電話機能
（10）INSボイスワープサービスの設定を行う
（11）データ通信より通話を優先
（12）外線に電話をかける際に、自分の電話番号を相手に通知したくない場合
（13）外線に電話をかける際に、自分の電話番号を相手に通知したい場合
（14）外線に電話をかけるのを規制したい場合
（15）緊急電話（110番／118番／119番）にかける
（16）外線からの着信数を制限する
（17）FAX用に回線を確保する
（18）ドアホンを受ける

（1）不在転送の設定／解除

不在転送を設定しておくと、移動先でも電話が受けられます。

●不在転送を設定する

1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

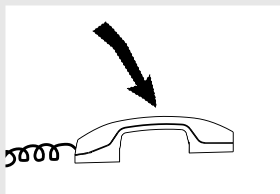
2



［不在転送］ボタンを押します。

◆［不在転送］ボタンランプが赤点灯に変わります。
◆「ピー・ピー・ピー」という音が流れ、LCD表示器の下段に“フザイ　テンソウ”と表示されます。

3

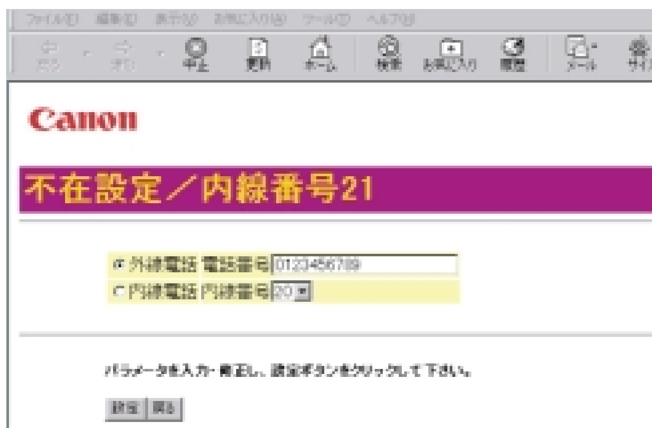


受話器を置きます。

◆LCD表示器の下段には“フザイテンソウ”の表示がされています。



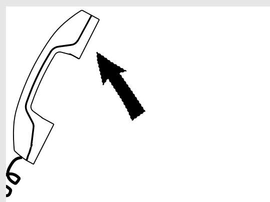
◇不在転送先には、内線番号または外線番号を指定できます。
◇本操作を行うには、あらかじめWebデータ設定の「ユーザオペレーションモード」の「不在設定」にて不在転送先を設定しておく必要があります。



◇不在転送を登録せず（「不在設定」画面のラジオボタンチェック中の外線電話番号が空白または内線電話番号が自己の内線番号を選択中）に、不在転送設定を行った場合、以降の着信は拒否されます。

●不在転送を解除する

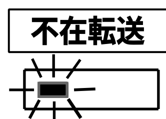
1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

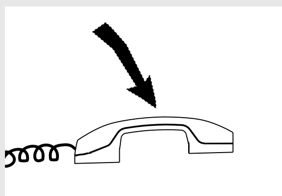
2



赤く点灯している［不在転送］ボタンを押します。

◆［不在転送］ボタンランプが消灯します。
◆「ピ・ピ・ピ」という音が流れます。

3



受話器を置きます。

◆LCD表示器の下段が時計表示に変わります。

（2）シフト着信

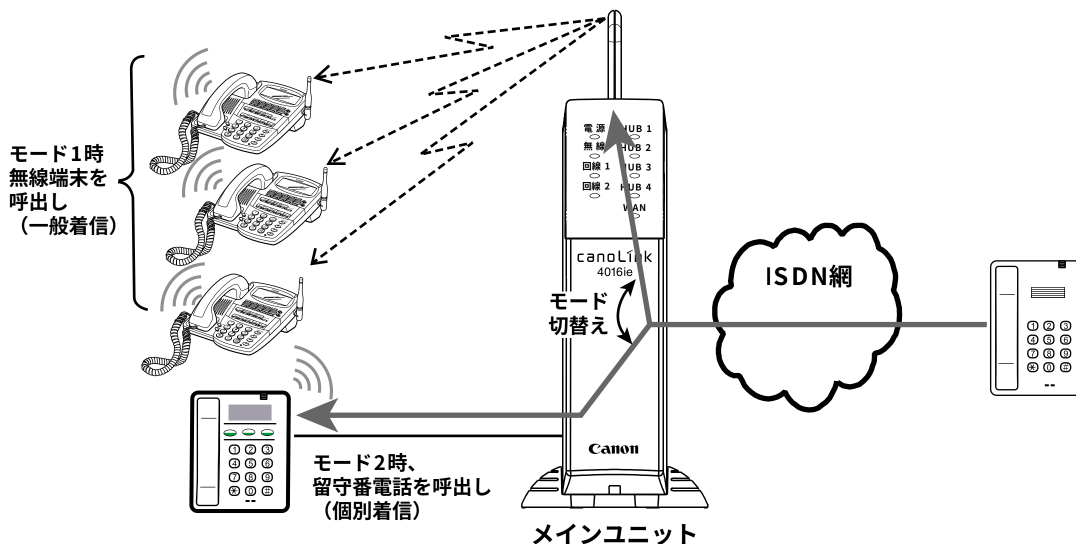
個別着信の端末に対してシフト先の端末があらかじめ設定してあると、個別着信した端末が出られないとき（話中または20秒間電話に応答しない）でも、シフト先端末に自動的に着信します。

メモ "Memo"

◇シフト先は、端末ごとに1台指定できます。
◇シフト先は、Webデータ設定のシステム管理者モードの「シフト着信先内線番号（端末）」にて設定できます。設定については、販売店にお問い合わせください。
◇端末からの着信時は、シフト着信しません。（話中の場合は、「プー・プー」という音が流れ、呼出中の場合は、相手が応答するか、発信端末がオンフック操作を行うまでは、呼出し続けます）

（3）着信モード切替え

専用端末からモード切替ボタン操作によって、着信モードを3モードで切替えることができます。着信モードを切替えると、外線からの着信先を簡単に切替えられます。留守番電話などに切替えたい場合に便利です。



●着信モード切替えの利用例

着信モード切替えを利用すると、次のような使い分けができます。

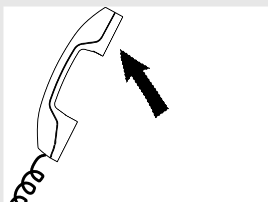
着信モード	用　　途	電話の受け方
モード1	平日・昼間	事務所で電話を受ける
モード2	平日・夜間及び休日	留守番電話で受ける
モード3	外出時	携帯電話で電話を受ける

着信モード切替えで切替え可能なWebデータ設定は、次の通りです。

		Webデータ設定
ユーザ管理者モード	電話クイック設定	回線別着信形式 着信制限指定
	着番号別設定	着番号別着信形式
	発番号別設定	発番号別着信形式

●着信モードを切替える

1



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、［内線］ボタンランプが赤点灯に変わります。

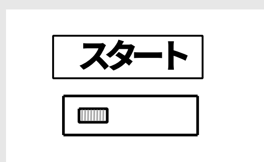
2



［モード切替］ボタンを押します。

◆LCD表示器の下段に現在のモードと、切替え後のモードが表示されます。

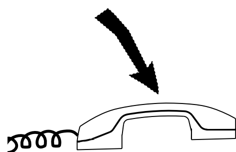
3



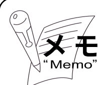
［スタート］ボタンを押します。

◆「ピ・ピ・ピ」という音が流れます。
◆すべての専用端末の［モード切替］ボタンランプが切替え後のモードの色表示に変わります。
モード1：消灯、モード2：緑点灯、モード3：赤点灯

4



受話器を置きます。



◇各モードでの着信形式などは、Webデータ設定にて設定できます。設定については、販売店にお問い合わせください。
◇［モード切替］ボタンを押した後、［スタート］ボタンを押さずに受話器を置いたとき、モード変更は行われません。
◇手順2で［モード切替］ボタンを押すたびに、選択中のモードが切替わります。

（4）外線着信時の鳴動音停止

通常は、専用端末に外線着信が入ると、端末に「プルルー」という着信音が流れます。これを、一部の端末について着信音を鳴らさないように設定できます。



◇端末ごとに外線着信音を鳴らさないかどうかは、Webデータ設定（「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」）にて指定できます。一般着信時だけ止めたり、外線着信時にすべて止めたり選択できます。

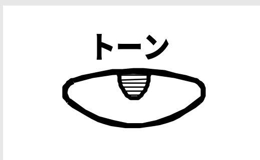
◇着信音が鳴らない設定の端末でも、［外線］ボタンランプは着信時に点滅します。

（5）トーンの送出

［トーン］ボタンを使用し、通話中にPBトーンを送出できます。

●トーンを送出する

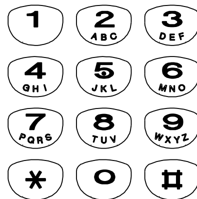
1



通話中に［トーン］ボタンを押します。

◆［トーン］ボタンランプが赤点灯に変わります。

2



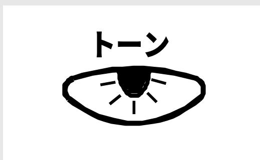
送出したいトーンをダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

◆ダイヤルした番号がPBトーンとして相手に送出されます。

●トーン送出を止める

1



トーン送出中に［トーン］ボタンを押します。

◆［トーン］ボタンランプが消灯します。

◆本操作以降、トーンは送出されません。

（6）保留音の選択

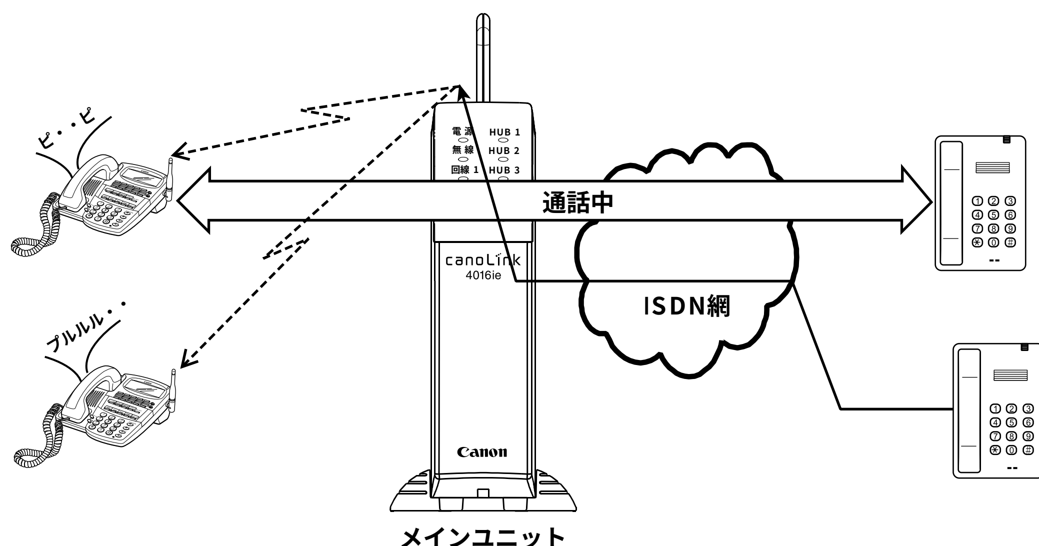
Webデータ設定（「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「電話クィック設定」）にて、3種類ある保留音（一般着信音用の和音と共用）の中から1つ選択できます。出荷時は、和音2となっています。

（7）一般着信音の選択

Webデータ設定（「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「電話クィック設定」）にて、リンガと3種類ある和音（保留音と共用）の中からシステムとして1つ選択できます。出荷時は、リンガとなっています。

（8）通話中に別の電話が入ったことを通知

通話中に外線から一般着信があったとき、通話中の端末のスピーカから「ピ・・・ピ」という音で知らせることができます。



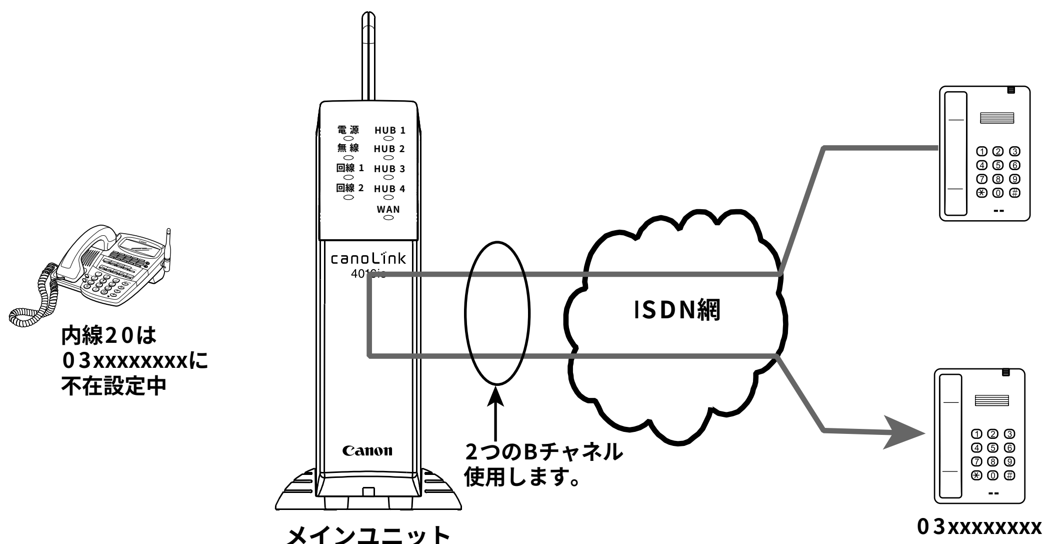


◇出荷時は、"着信通知しない"設定となっています。本機能を利用するには、Webデータ設定の「システム管理者モード」の「話中着信音鳴動指定（端末ごとに指定可能）」を"有"に設定してください。設定については、販売店にお問い合わせください。

3 サービス機能

（9）転送電話機能

不在転送や着信モード切替えを利用し、外線からの着信を外出先などに転送できます。INSネット64の転送サービス「INSボイスワープ」などを契約しなくても転送電話機能を実現できます。





◇不在時に転送電話を利用したい場合は、Webデータ設定であらかじめ不在転送先を設定してください。また、操作については、前記「（1）不在転送の設定／解除」を参照してください。

◇本製品では、ISDN回線を2回線収容できますが、契約が1回線だけの場合、転送電話実行中に外線がすべて使用中となります。このような事態を避けるには、INSネット64の付加サービス（ボイスワープ等）を契約してください。利用については、「（10）INSボイスワープサービスの設定を行う」を参照してください。なお、ISDN回線を2回線契約されている場合でも、実行できる転送電話は、システムとして同時に1つだけです。したがって、転送電話で全ての外線が使用中となることはありません。

（10）INSボイスワープサービスの設定を行う

INSネット64の転送サービス「INSボイスワープ」などのスティミュラスプロトコル手順を利用したサービスは、端末から利用できます。
以下に、INSボイスワープサービスの設定変更を行う手順を示します。

1

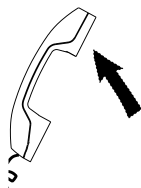
●無線IP端末設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	外線着信鳴動
20	◉不可 ○可	回線1 [ ] 回線2 [ ]	全て鳴動
21	○不可 ◉可 ①	回線1 [32221111] ② 回線2 [ ]	全て鳴動
22	◉不可 ○可	回線1 [ ] 回線2 [ ]	全て鳴動

ユーザ管理者モードの電話クイック設定画面を開きます。

①操作を行う端末の「外線発信用発番号通知」の「可」のラジオボタンをチェックします。
②INSネット64の契約者番号を「個別発番号」の利用回線のテキストエリアに入力します。
③画面の下にある［設定］ボタンを押します。

2



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、[内線] ボタンランプが赤点灯に変わります。

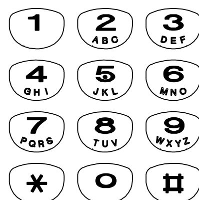
3



INSボイスワープの設定を変更する回線の[外線] ボタンを押します。

◆「ツー」という音に変わり、[内線] ボタンランプが消灯し、[外線] ボタンランプが緑点灯に変わります。
◆他で使用中の［外線］ボタンランプは赤点灯となっています。

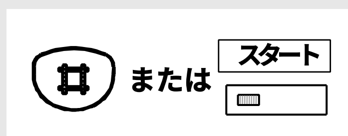
4



INSボイスワープサービス番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

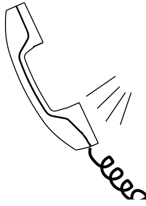
5



[#] ボタンまたは [スタート] ボタンを押します。

◆これらのボタンを押さずに5秒経過すると、自動的に［#］ボタンが押されたものとみなし、発信します。

6

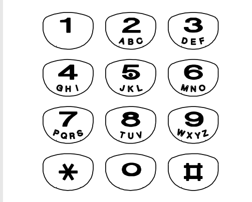


ガイダンスが聞こえたらその指示に従います。

◆ガイダンスにより次の操作が指示された場合は、この次の手順に進みます。

◆ガイダンスにより設定が終了した（次の操作がない）場合は、手順10に進みます。

7



ガイダンスに従い追加番号をダイヤルします。

◆LCD表示器の下段にダイヤルした番号が表示されます。

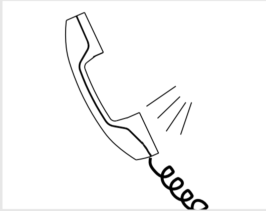
8

［#］ボタンまたは［スタート］ボタンを押します。



◆ここでは、必ずこれらのボタンを押してください。これらのボタンを押すまで、番号を送出しません。

9

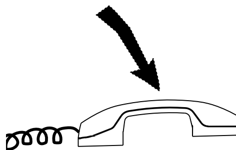


ガイダンスが聞こえたらその指示に従います。

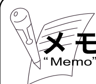
◆ガイダンスにより次の操作が指示された場合は、手順7～8の操作を繰り返します。

◆ガイダンスにより設定が終了した（次の操作がない）場合は、手順10に進みます。

10



ボイスワープの設定が終了したら受話器を置きます。

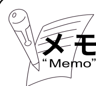


◇INSボイスワープサービスを利用するには、NTTへの契約が必要です。

◇設定する発信者番号は、INSネット64で契約した電話番号を市外局番を除いて設定してください。

（11）データ通信より通話を優先

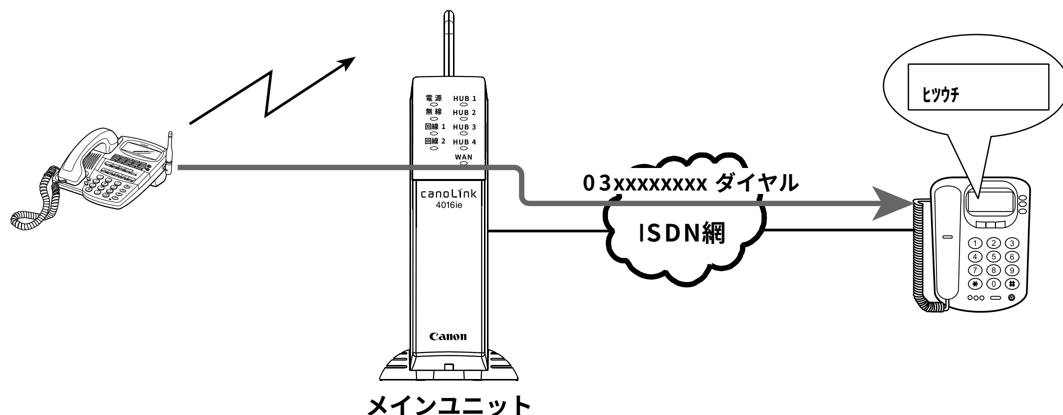
128Kbps（MP通信）のデータ通信中でも、外線に電話をかける、あるいは外線からの電話を受けることができます。この場合、データ通信中の1Bチャネルを通話用に利用します。



◇本機能をお使いになるには、データ通信で接続する相手（インターネットプロバイダなど）がMP（PPPマルチリンクプロトコル：64Kbpsの物理通信チャネルを2本束ねて128Kbps通信を行うプロトコル）をサポートしている必要があります。
◇本機能をお使いになるには、INSネット64の通話中着信通知の契約が必要です。
◇1本（64Kbps）でのデータ通信中は、通話には利用できません。
◇本機能をお使いになるには、Webデータ設定の「システム管理者モード」の「通話優先設定（回線毎）」にて"通話発信優先""通話着信優先""通話常時優先"のいずれかを設定してください。設定については、販売店にお問い合わせください。なお、出荷時は、"優先しない"設定となっています。

（12）外線に電話をかける際に、自分の電話番号を相手に通知したくない場合

本製品は、出荷時、自分の電話番号を相手に通知しない設定となっています。電話番号を通知したい場合は、「（13）外線に電話をかける際に、自分の電話番号を相手に通知したい場合」を参照してください。

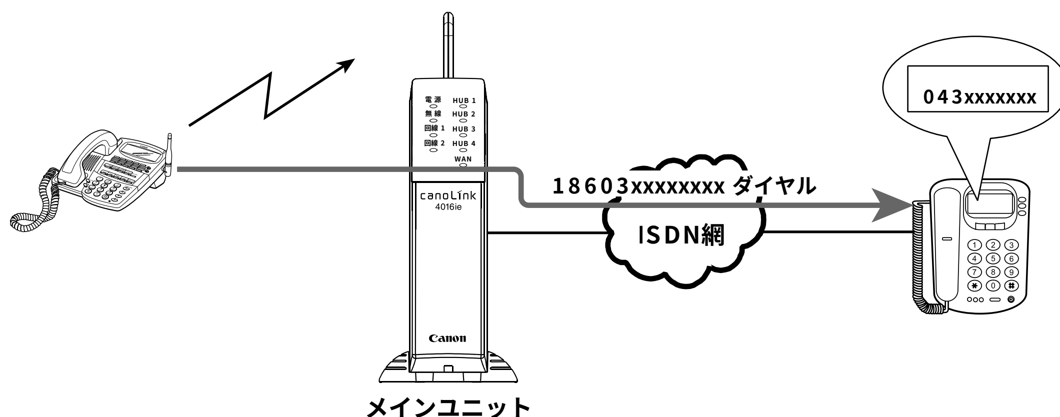


（13）外線に電話をかける際に、自分の電話番号を相手に通知したい場合

以下に示す2通りの方法があります。

◇発信電話番号通知特番（186）をダイヤルする

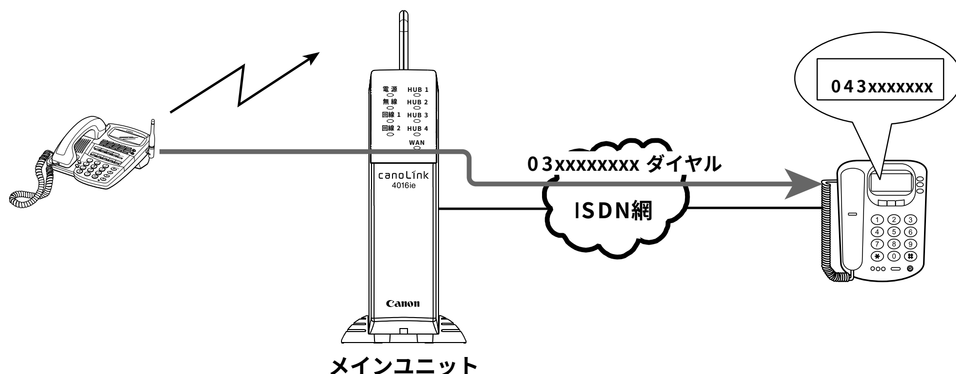
発信電話番号通知特番（186）をダイヤル後、続けて相手先番号をダイヤルします。この場合、メインユニットのデータ設定は出荷時のまま（自分の電話番号を相手に通知しない）で、相手に電話番号を通知できます。

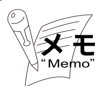


3 サービス機能

◇発信電話番号通知特番（186）をダイヤルしない

発信電話番号通知特番（186）をダイヤルせずに、電話番号を相手に通知できます。Webデータ設定の「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」画面の中の「外線発信用発番号通知（端末毎に指定可能）」は“ 可 ”に設定してください。





◇相手先に自分の電話番号を通知したくない場合は、発信電話番号非通知特番（184）をダイヤル後、続けて相手先番号をダイヤルします。相手先には、自分の電話番号は通知されません。

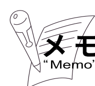
◇ダイヤルインサービスまたは i・ナンバーサービスを契約されている場合は、端末ごとに相手に通知する電話番号（ダイヤルイン契約時はダイヤルイン番号から一つ，i・ナンバーサービス契約時は契約電話番号から一つ）を指定できます。この指定は、、Webデータ設定の「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」画面の中の「個別発番号（端末毎に指定可能）」で行います。

●無線IP端末設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	外線着信
20	◉不可 ○可	回線1 [ ] 回線2 [ ]	全て鳴動
21	○不可 ◉可	回線1 [32221111] 回線2 [ ]	全て鳴動
22	◉不可 ○可	回線1 [ ] 回線2 [ ]	全て鳴動

（14）外線に電話をかけるのを規制したい場合

端末ごとに、外線発信を許可するかどうかを指定できます。出荷時には、すべての端末について外線発信を許可するように設定されています。

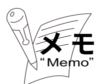


◇外線発信を許可しない端末は、Webデータ設定の「システム管理者モード」の「発信回線指定」を“ 外線発信不可 ”に設定してください。設定については、販売店にお問い合わせください。

◇Webデータ設定「発信回線指定」を“ 外線発信不可 ”に設定してあっても、外線着信には応答できます。

（15）緊急電話（110番／118番／119番）にかける

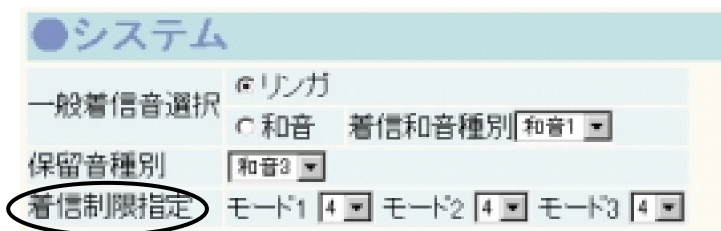
緊急電話にかける際には、外線に空きがなく、その外線が転送電話あるいはデータ通信で使用されている場合に限り、その外線を強制的に切断し、緊急電話発信を行います。



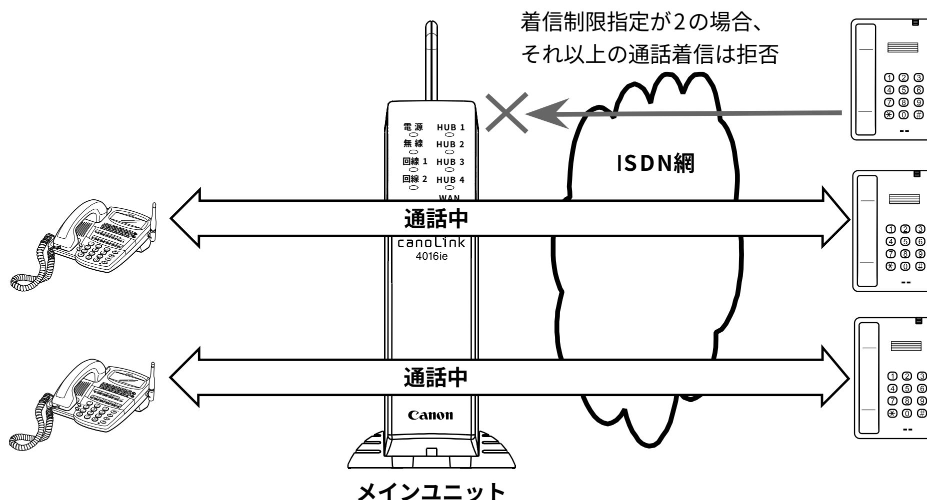
◇Webデータ設定の「ユーザ管理者モード」の「発番号別設定（発番号は110／118／119を設定）」で、緊急電話の接続先からの呼び返しに備え、接続先を設定してください。出荷時は、外線からの着信の呼出端末は、すべての専用端末に一般着信する設定となっています。FAXなど自動応答する端末を接続時は、通話できない場合があります。

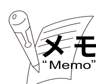
（16）外線からの着信数を制限する

指定した数を超える外線着信があった場合、その着信を自動的に拒否することができます。事務所内で電話を受ける人の数が少ない場合に便利です。着信数は、着信モードごとに指定することができます。Webデータ設定は、「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」画面の中の「着信制限指定」に受付可能な着信数を設定してください。



以下に、着信制限指定を2に設定した場合のイメージを示します。





◇着信を拒否した場合、電話をかけてきた相手には、話中音が流れます。
◇制限を受ける着信は、外線通話着信のみです。データ通信、転送電話、FAX個別の外線着信は制限を受けません。

3 サービス機能

（17）FAX用に回線を確保する

●FAXと通話の着信を鳴り分けるには

次の回線契約とWebデータ設定を行ってください。

＜回線契約＞

ダイヤルインサービスもしくは、i・ナンバーサービスの契約を行い、通話用とは別にFAX専用の電話番号を用意してください。

＜Webデータ設定＞

FAX専用の電話番号にかかってきた着信をFAXポートの内線への個別着信になるように設定してください。Webデータ設定は、「ユーザ管理者モード」→「着番号別設定」→「着番号別着信形式」で行います。

以下は、ダイヤルインサービス契約時の設定例です。

Canon

着番号別設定1

・着番号 32221111

・エントリ種別 ダイヤルイン　iナンバーポート　ポート番号 1　契約回線 回線1

●着番号別着信形式

モード1　一般着信　着信鳴動グループ指定 全端末
個別着信　着信先端末指定 40
転送電話　転送先電話番号 1:
転送先捕捉回線番号　自動　着信回線

●回線を確保するには

◇2回線での運用で、FAX用に1Bチャネルを確保したい場合（通話利用は3Bチャネル）

＜回線契約＞

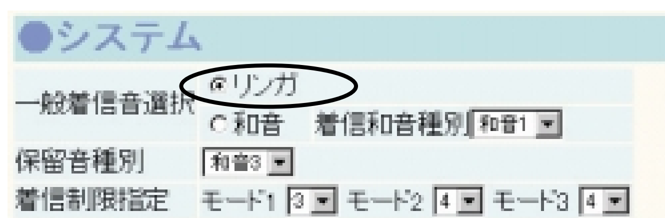
2回線を代表契約します。（サーチ方式は、順次サーチ方式を推奨します）

＜Webデータ設定＞

「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」→「着信制限指定」で「3」を選択します。

＜動作＞

着信制限指定数を超えた着信呼に対して、個別着信先端末が一般電話機で、データ設定の「FAX機器接続指定」が " 有 " 以外は、着信を拒否します。



◇2回線での運用で、データ通信用に1Bチャネル、FAX用に1Bチャネルを確保したい場合（通話利用は2Bチャネル）

＜回線契約＞

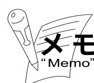
2回線を個別契約にします。

＜Webデータ設定＞

「システム管理者モード」→「回線設定」で
「着信チャネル予約」を「1B通信固定」を選択し、
「着信チャネル予約端末指定」にFAXポートの内線番号を指定します。
※上記設定は、回線1，2のどちらかの回線設定で設定してください。
※設定については、販売店にお問い合わせください。

＜動作＞

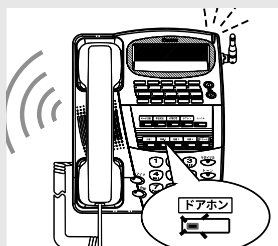
回線の空きが1Bの場合に着信があったときは、着信先が「着信予約端末指定」と同じ場合にのみ着信を受付けます。



◇確保した回線は、発信では無条件に通話などで利用可能です。このため、発信により回線がふさがっている場合、FAX着信は話中となります。

（18）ドアホンを受ける

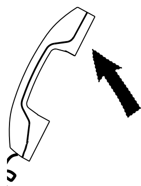
1



ドアホンから着信が入ります。

◆スピーカから「ピンポーン」という着信音が流れ、［ドアホン］ボタンランプが赤色で速く点滅します。

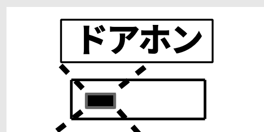
2



受話器を上げます。

◆「ツーツー」という音が流れ、[内線] ボタンランプが赤点灯に変わります。

3

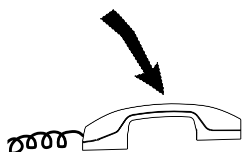


赤く点滅している［ドアホン］ボタンを押します。

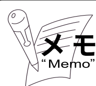
◆［ドアホン］ボタンランプが緑点灯に変わります。

◆応答となり通話できます。

4



通話が終了したら受話器を置きます。



◇受話器を置いたまま点滅している［ドアホン］ボタンを押しても、同様にドアホンに応答できます。

3-2 ルータ系機能

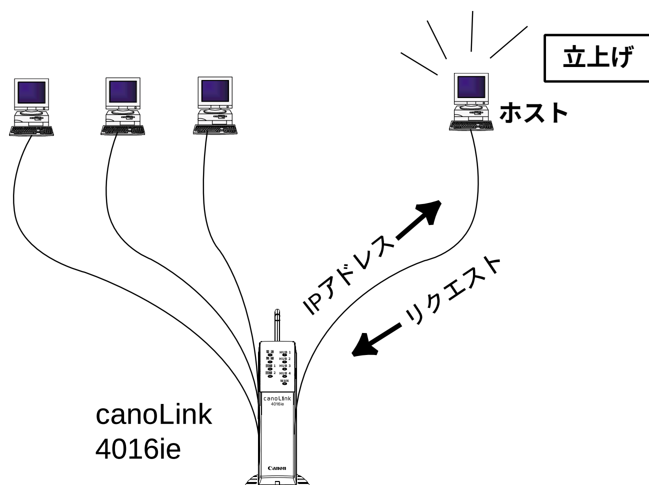
3-2-1 プラグ＆プレイ機能

【機能概要】

プラグ＆プレイ機能として“ DHCPサーバ機能 ”を搭載しており、ネットワーク上のホストに自動でIPアドレスを割振ることができます。その他にネットワーク情報としてゲートウェイアドレス，ドメイン名，プライマリDNSサーバアドレス，セカンダリDNSサーバアドレス，プライマリWINSサーバアドレス，セカンダリWINSサーバアドレスをメインユニットに設定しておくことでホストに展開することができます。

ただし、ホスト側にはDHCPクライアント設定が必要です。

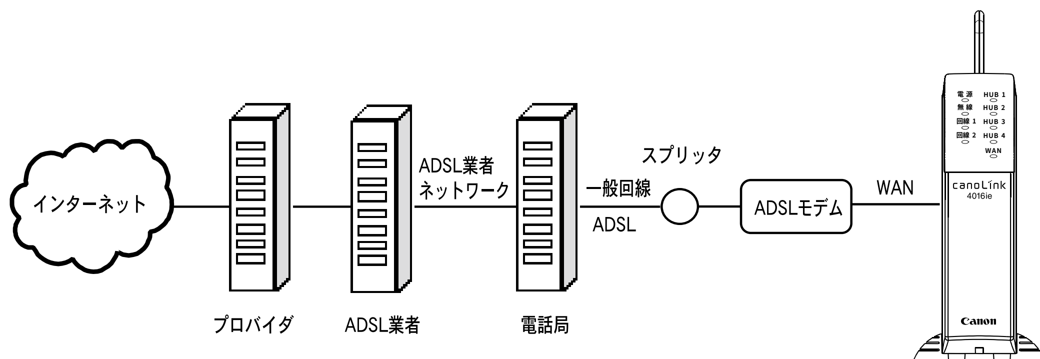
なおプラグ＆プレイ機能の設定に関しては、販売店にお問合せください。



3-2-2 ブロードバンド接続

（1）ADSL回線によるインターネット接続

【機能概要】



ADSL接続は、メタリックの一般電話回線を用いて、高速通信を行うxDSL技術の1つです。1対の電話線ケーブルを使い，数キロメートル以内での高速伝送を可能とします。上下非対称で，下り方向（局から加入者宅の方向）が太くなっています。ADSL業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続します。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて以下の条件を満たしている必要があります。

◆LAN接続のADSLモデムが使えること（USB接続のADSLモデムは不可)。
◆プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

【データ設定】

●時刻設定：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「プロバイダ設定」

プロバイダ設定 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 メール サイズ 印刷 リンク

●WANポート設定

◉ WANポート未使用			
○ Ethernet接続モード	・接続種別	インターネット接続	
	◉ DHCPクライアント	DHCPクライアントID	
	○ 固定IPアドレス	自己WAN IPアドレス	
		サブネットマスク	255.255.255.255
		インターネットゲートウェイアドレス	0.0.0.0
		プライマリDNSサーバアドレス	
		セカンダリDNSサーバアドレス	
○ PPPoE接続モード		ユーザID	abc@defghi.ne.jp
		パスワード	********
		サービス名	
		自己WAN IPアドレス	
		接続先 IPアドレス	
		サブネットマスク	255.255.255.255
		プライマリDNSサーバアドレス	
		セカンダリDNSサーバアドレス	
		常時接続	○する ◉しない
		最大接続時間	0 分
		無通信切断時間	0 秒
		無通信切断監視対象パケット	入出力パケット

ページが表示されました　マイ コンピュータ

設定項目	設定内容	初期値
WANポート　モード選択	WANﾎﾟｰﾄ未使用／Ethernet接続ﾓｰﾄﾞ／PPPoE接続ﾓｰﾄﾞ	
接続種別	インターネット接続／イントラネット接続	
IPアドレス割当て方法	DHCPクライアント／固定IPアドレス	
DHCPクライアントID	入力　半角32文字以内	
自己WAN IPアドレス	入力　IPアドレス	
サブネットマスク	入力　IPアドレス	
インターネットゲートウェイアドレス	入力　IPアドレス	
プライマリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
セカンダリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
ユーザID	入力　半角32文字以内	
パスワード	入力　半角32文字以内	
サービス名	入力　半角32文字以内	
自己WAN IPアドレス	入力　IPアドレス	
接続先IPアドレス	入力　IPアドレス	
サブネットマスク	入力　IPアドレス	255.255.255.255
プライマリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
セカンダリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
常時接続	する／しない	しない
最大接続時間	0～24（時）0～1440（分）	0（分）
無通信切断時間	0～24（時）0～1440（分） 0～86400（秒）	0（秒）
無通信切断監視対象パケット	入出力パケット／入力パケット／出力パケット	入出力パケット

【インターネットへの接続手順】

【1】PCからメインユニットへのアクセス

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

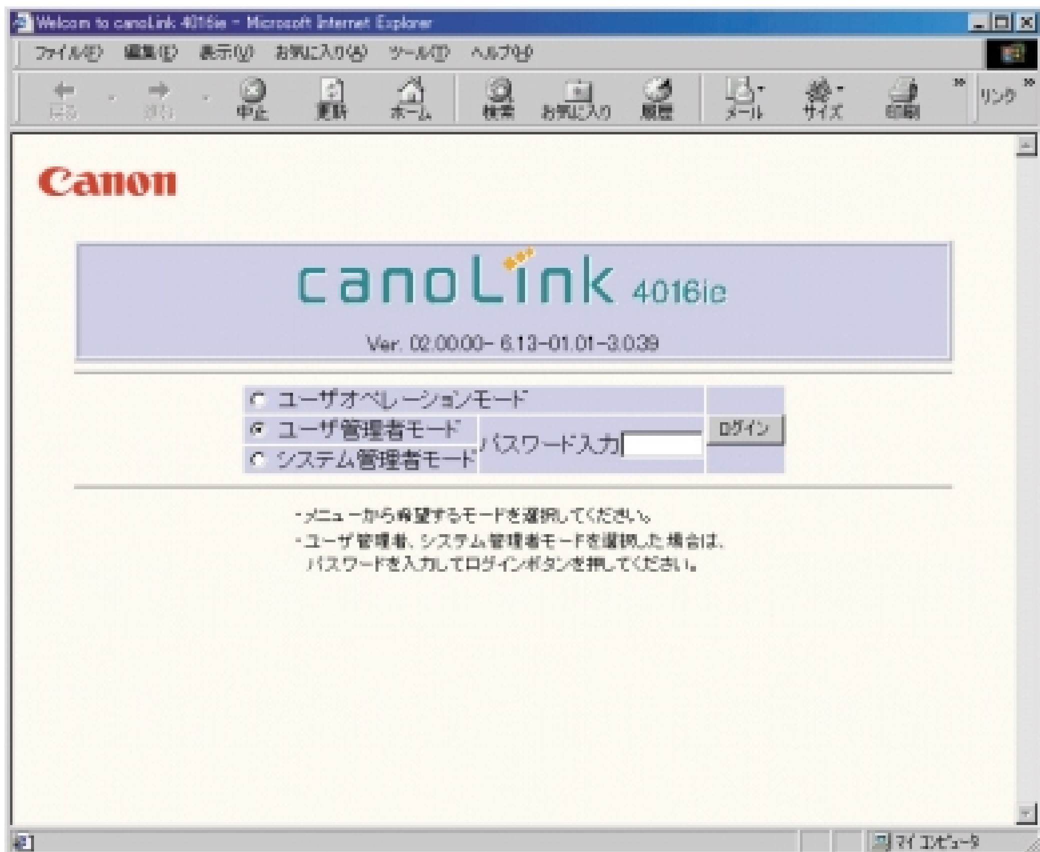


http://setup.canoLink　または　http://192.168.1.1

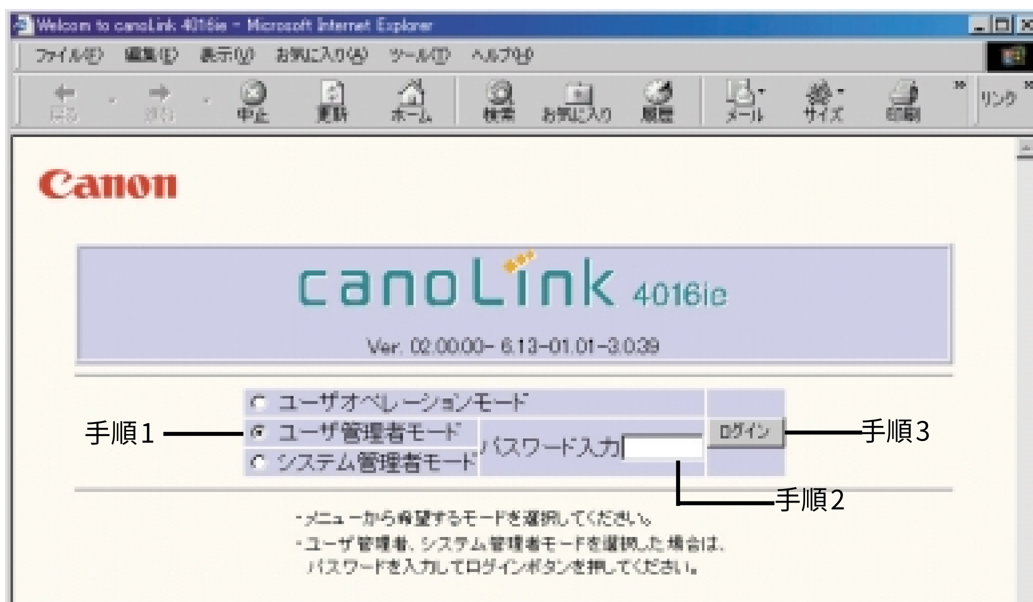


◇URLとして、メインユニットのIPアドレスを直接入力した場合でもWebデータ設定のTOP画面を表示できます。（出荷時のIPアドレスは192.168.1.1です）

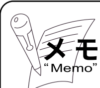
◇メインユニットにうまくつながると、次に示す「TOP画面」が表示されます。



【2】プロバイダの設定を行う

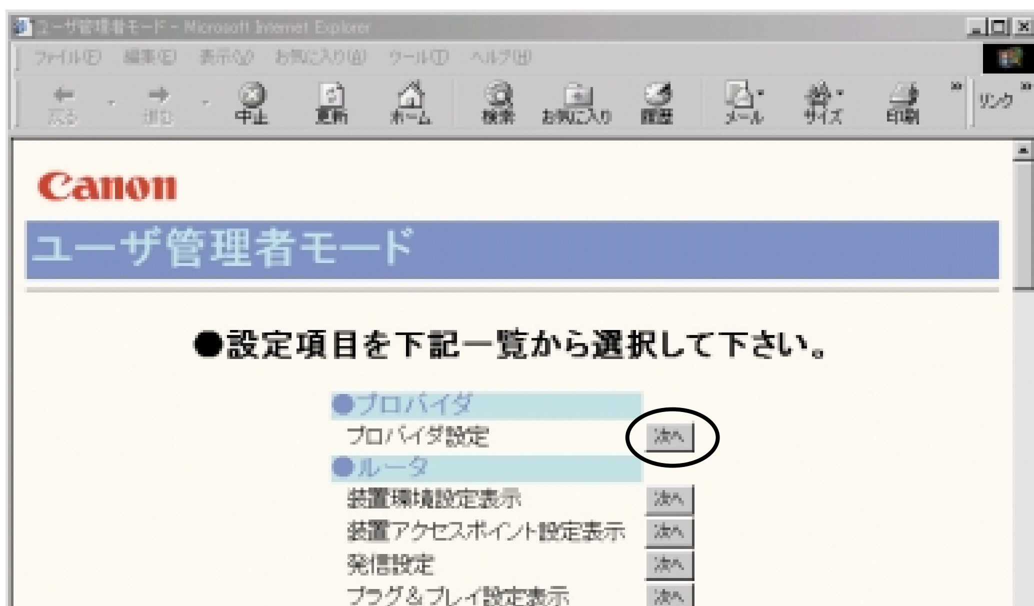


手順1：「TOP画面」で「ユーザ管理者モード」を選択します。



◇「ユーザ管理者モード」に入るには、パスワードが必要です。
出荷時は"パスワード無し（空白）"となっています。

手順2：「パスワード入力」フィールドにパスワードを入力します。
手順3：［ログイン］ボタンを押します。
手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「プロバイダ設定」右の「次へ」をクリックします。



3
サービス機能

◇「プロバイダ画面」が表示されます。

プロバイダ設定 - Microsoft Internet Explorer

◉ PPPoE接続モード（手順5）	ユーザID	abc@def@ghi.ne.jp（手順6）
	パスワード	********（手順7）
	サービス名	（手順8）
	自己WAN IPアドレス	（手順9）
	接続先 IPアドレス	（手順10）
	サブネットマスク	255.255.255.255（手順11）
	プライマリDNSサーバアドレス	（手順12）
	セカンダリDNSサーバアドレス	（手順13）
	常時接続	○する ◉しない（手順14）
	最大接続時間	0 分（手順15）
	無通信切断時間	0 秒（手順16）
	無通信切断監視対象パケット	入出力パケット（手順17）

●WEBサーバ利用ホスト制限

・ダイヤルアップ接続外部アクセス ○可 ◉不可

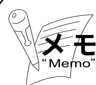
・ブロードバンド接続外部アクセス ○可 ◉不可

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

[設定]（手順18） [戻る]

ページが表示されました

手順5：PPPoE接続モードを選択します。



◇このモードは、PPPoE接続（フレッツ・ADSLなど）でインターネットへ接続する場合に選択してください。PPPoE接続以外のADSL回線による接続は、「CATV回線によるインターネット接続」をご覧ください。

◇設定は、プロバイダの設定情報シートを見ながら行ってください。

手順6：指定されたユーザID（アカウント，ユーザ名）を入力します。

手順7：指定されたパスワードを入力します。（変更した場合は、変更したパスワードを入力してください）

手順8：指定されたサービス名がある場合は入力してください。（通常は空白のままでも構いません）

手順9：指定されたIPアドレスを入力します。（通常は空白のままでも構いません）

手順10：指定されたIPアドレスがある場合入力します。

手順11：指定されたサブネットマスクを入力します。（指定がない場合、特に変更する必要はありません）

手順12：DNSサーバアドレスが指定されている場合、入力します。

手順13：セカンダリDNSサーバが指定されているあるいはDNSサーバアドレスが２つ指定されている場合に入力してください。（省略可）

手順14：常時接続を行うかどうかを選択します。常時接続を“する”にすると、何らかの（回線障害など）の原因で切断されても自動で接続を試みます。

手順15：常時接続しない場合に設定します。
最大接続時間には、自動切断を行う場合に1回の接続で連続接続できる時間を入力します。設定した時間を超えると強制的に自動切断されます。
（“０”は無制限を意味しています。）

手順16：常時接続しない場合に設定します。
無通信切断時間には、接続中に無通信状態がどれだけ続いたら切断するかその時間を入力します。
（“０”は無効を意味します。）

手順17：無通信切断監視対象パケットは、無通信による自動切断を行う場合に対象とするパケットを選択します。

手順18：上記入力項目に誤りがないことを確認の上、画面いちばん下の［設定］ボタンをクリックします。

【3】プロバイダに接続する

簡易設定（プロバイダ設定）をしたプロバイダに接続する方法を説明します。PPPoE接続では、手動接続と自動接続があります。それぞれについて説明します。

■手動接続のしかた

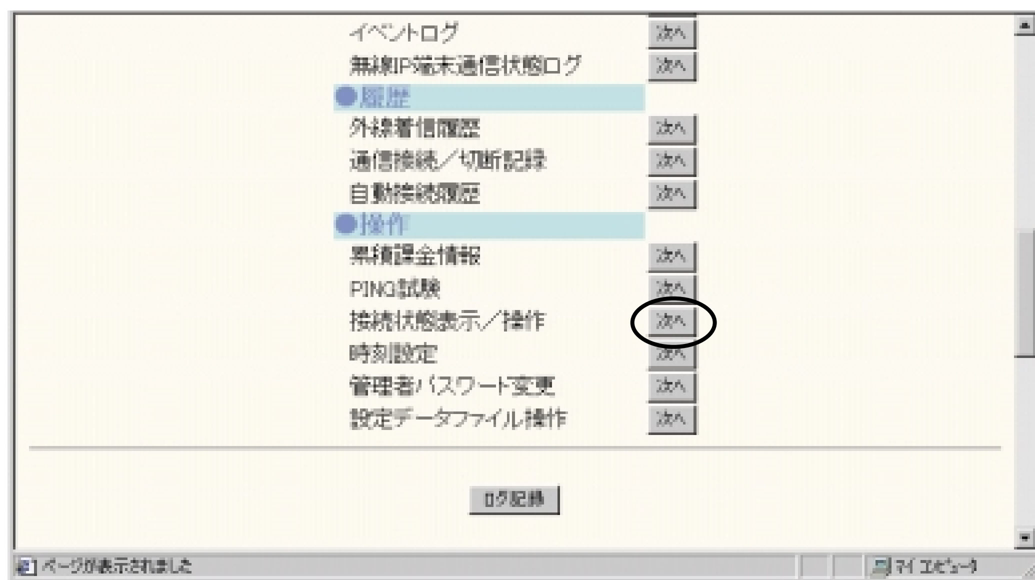
下記手順1～3の詳細は、前記【1】（3-58ページ）と【2】（3-59ページ）をご覧ください。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

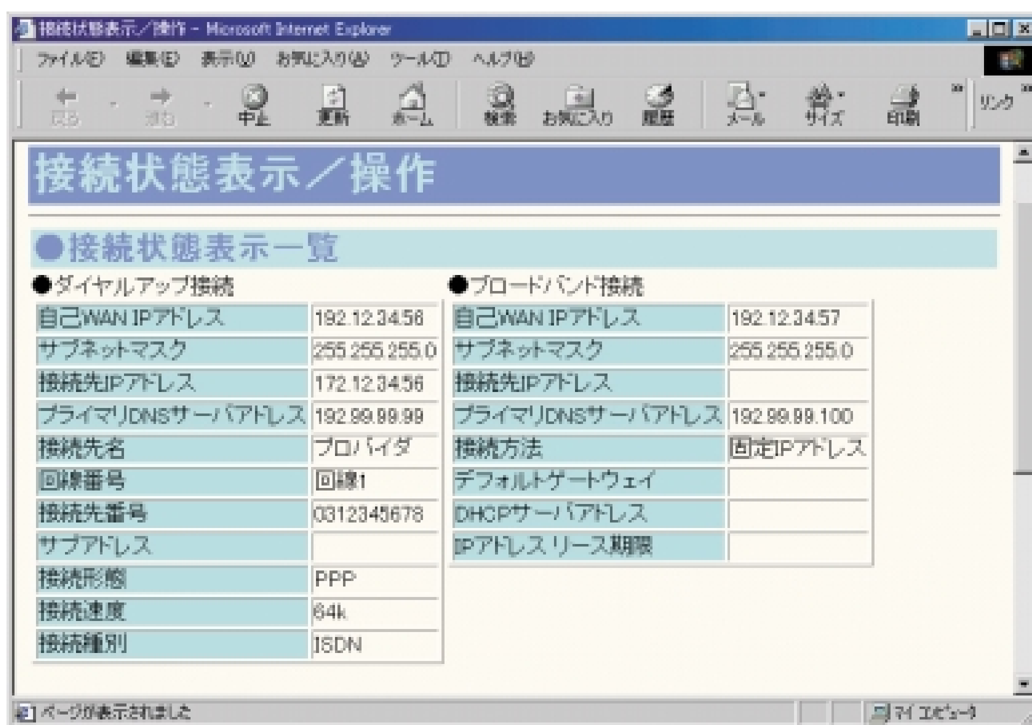
手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

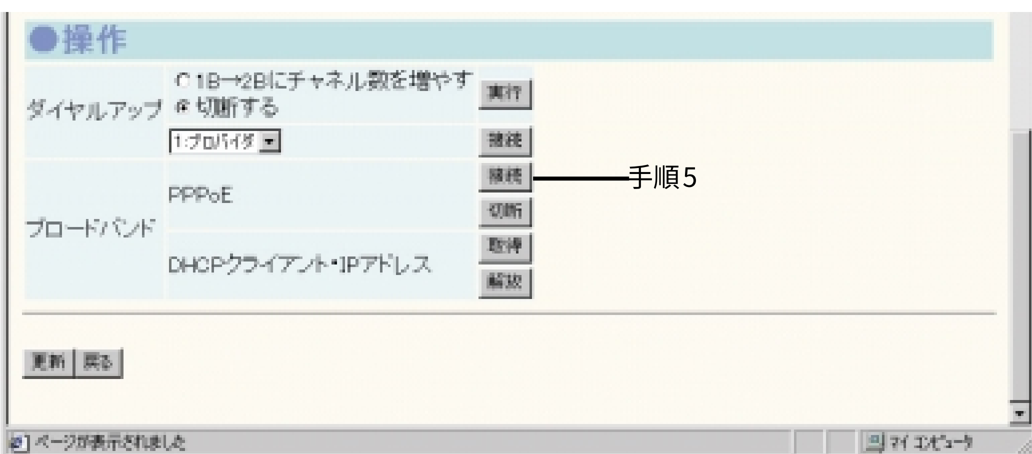
手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「接続状態表示／操作」右の「次へ」をクリックします。



◇「接続状態表示／操作」画面が表示されます。





手順5： ［接続］ボタンをクリックします。

これで、プロバイダとの接続は完了しました。

■自動接続のしかた

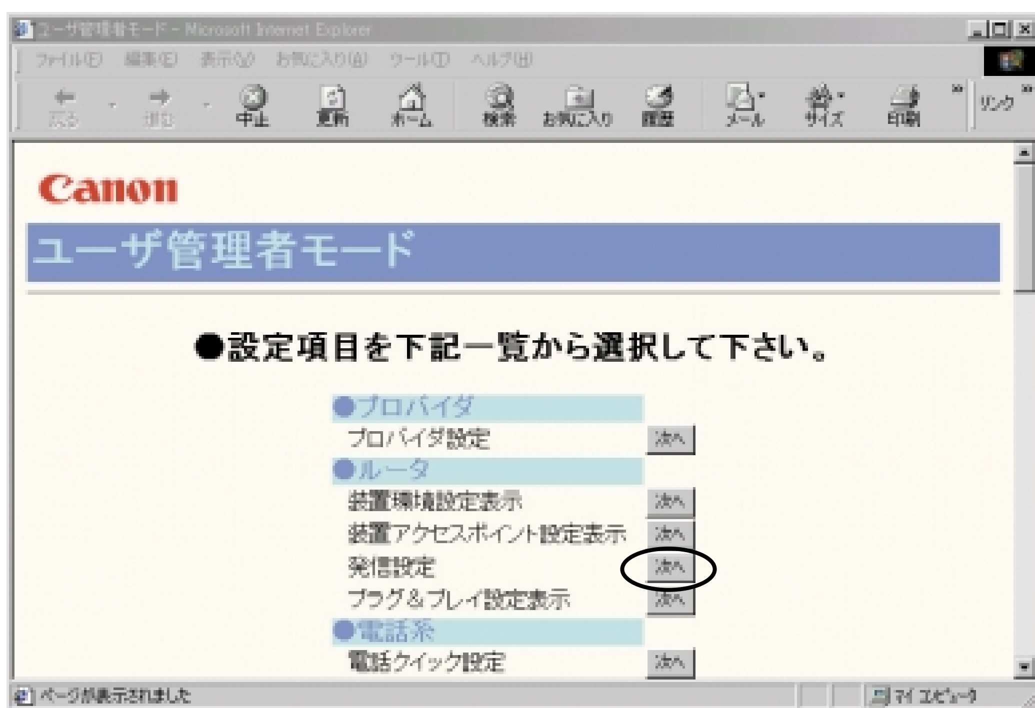
下記手順1～3の詳細は、前記【1】（3-58ページ）と【2】（3-59ページ）をご覧ください。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

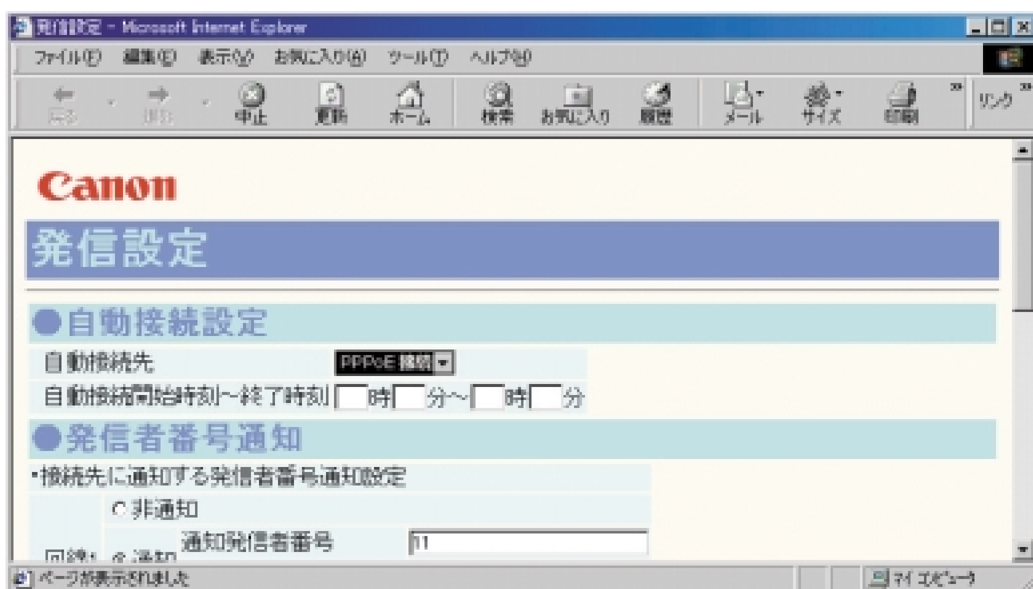
手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「発信設定」右の「次へ」をクリックします。



3
サービス機能

◇「発信設定」画面が表示されます。



手順5：プルダウンメニュの「PPPoE接続」を選びます。

手順6：自動接続する時間帯を入力します。常時自動接続する場合は、すべてに“０”を入力してください。

手順7：画面いちばん下の［設定］ボタンをクリックします。

これで自動接続設定は終了です。自動接続にすると、インターネットへのアクセス操作（例えば、WWWブラウザでURLを入力する）を行うと、自動的にプロバイダに接続します。

【4】接続の確認

WWWブラウザを起動し、表示させたいURLを入力してホームページが表示されることを確認してください。

例として、キヤノン販売株式会社のURLを示します。

http://canon.jp

【5】回線の切断

プロバイダとの接続を切断する方法を説明します。方法には、手動切断と自動切断の2通りあります。

■手動切断

手動接続時と同じ「接続状態表示／操作」画面にて行います。

プロバイダとの契約が常時接続契約でない場合あるいはセキュリティのため常時接続したくない場合、手動切断をお使いください。

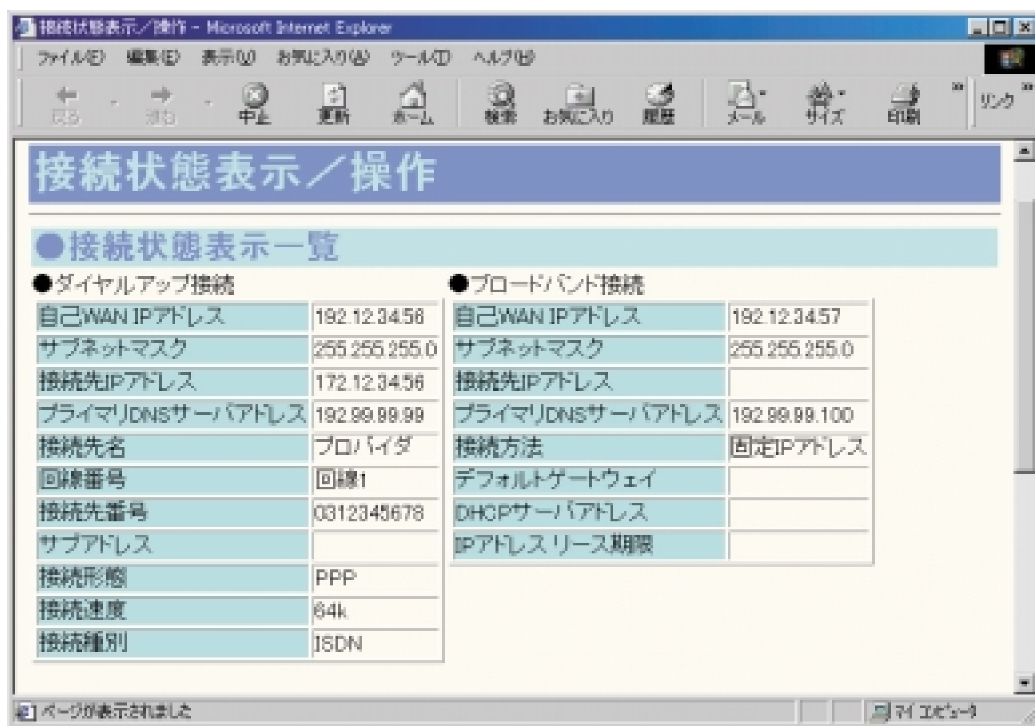
手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

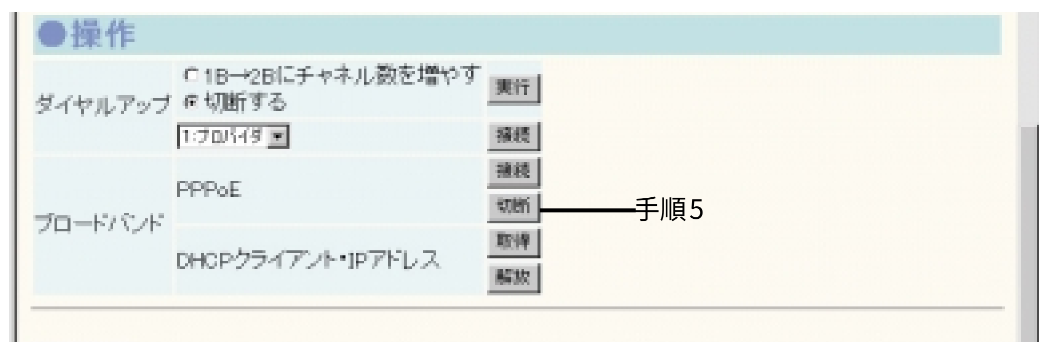
手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「接続状態表示／操作」右の「次へ」をクリックします。

◇「接続状態表示／操作」画面が表示されます。





手順5：［切断］ボタンをクリックします。

これで、手動による切断操作は終了しました。

■自動切断

メインユニットの自動切断の方法には、次に示す「最大接続時間」による切断と、「無通信切断」による切断の2通りの方法があります。

「最大接続時間」,「無通信切断」設定項目は、「プロバイダ設定」の中にあります。「プロバイダ設定」に行く手順を以下に示します。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「プロバイダ設定」右の「次へ」をクリックします。

手順5：最大接続時間を入力します。

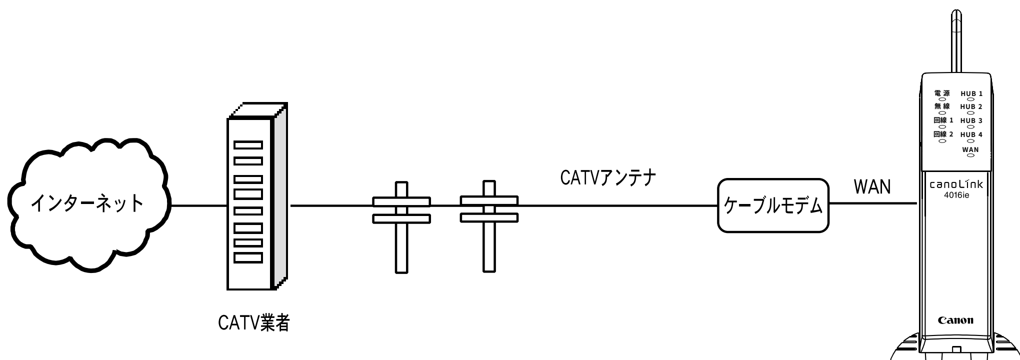
手順6：無通信切断時間を入力します。

- 「最大接続時間」による切断：　1回に接続できる時間を制限します。例えば、最大接続時間を1時間と設定しておくと、接続してから1時間後に強制的に自動切断されます。
- 「無通信切断」による切断：　プロバイダに接続後、一定時間回線上で通信がなかった場合に自動で回線が切断されます。

自動切断機能を設定しておくことで、切断忘れなどのうっかりミスを防止することができます。

（2）CATV回線によるインターネット接続

【機能概要】

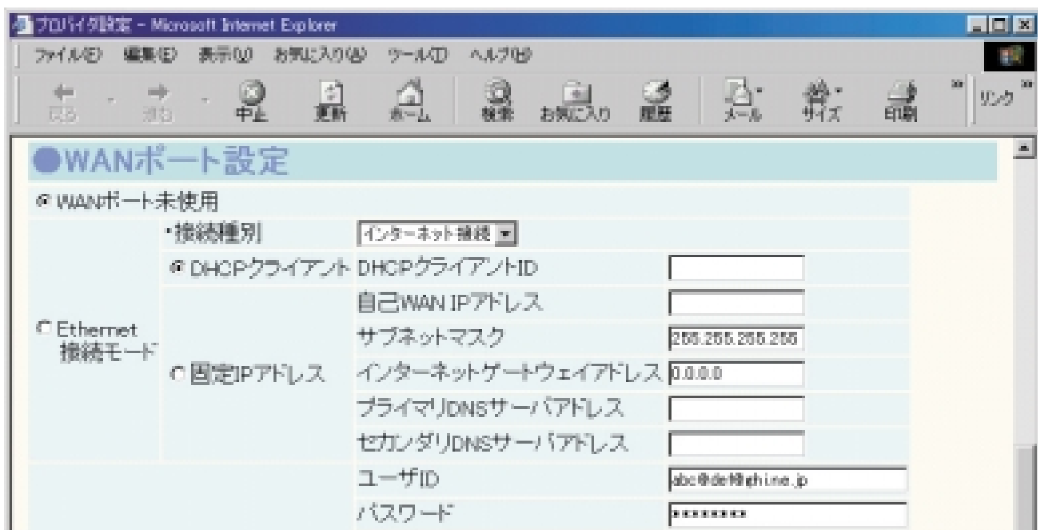


CATV接続は、電話回線を使用しないでCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。放送では使用していないチャンネルを通信に割り当て，専用のケーブルモデムで変復調を行って高速通信を実現します。お住まいの地域にインターネット接続サービスを提供しているCATV業者があり、以下の条件を満たしている必要があります。

◆お住まいの建物のアンテナ設備が、CATVインターネット接続に対応できること。
◆CATV業者がルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

【データ設定】

●プロバイダ設定：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「プロバイダ設定」



設定項目	設定内容	初期値
WANポート　モード選択	WANﾎﾟｰﾄ未使用／Ethernet接続ﾓｰﾄﾞ／PPPoE接続ﾓｰﾄﾞ	WANﾎﾟｰﾄ未使用
接続種別	インターネット接続／イントラネット接続	インターネット接続
IPアドレス割当て方法	DHCPクライアント／固定IPアドレス	DHCPクライアント
DHCPクライアントID	入力　半角32文字以内	
自己WAN IPアドレス	入力　IPアドレス	
サブネットマスク	入力　IPアドレス	255.255.255.255
インターネットゲートウェイアドレス	入力　IPアドレス	0.0.0.0
プライマリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
セカンダリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	

【インターネットへの接続手順】

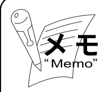
【1】PCからメインユニットへのアクセス

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

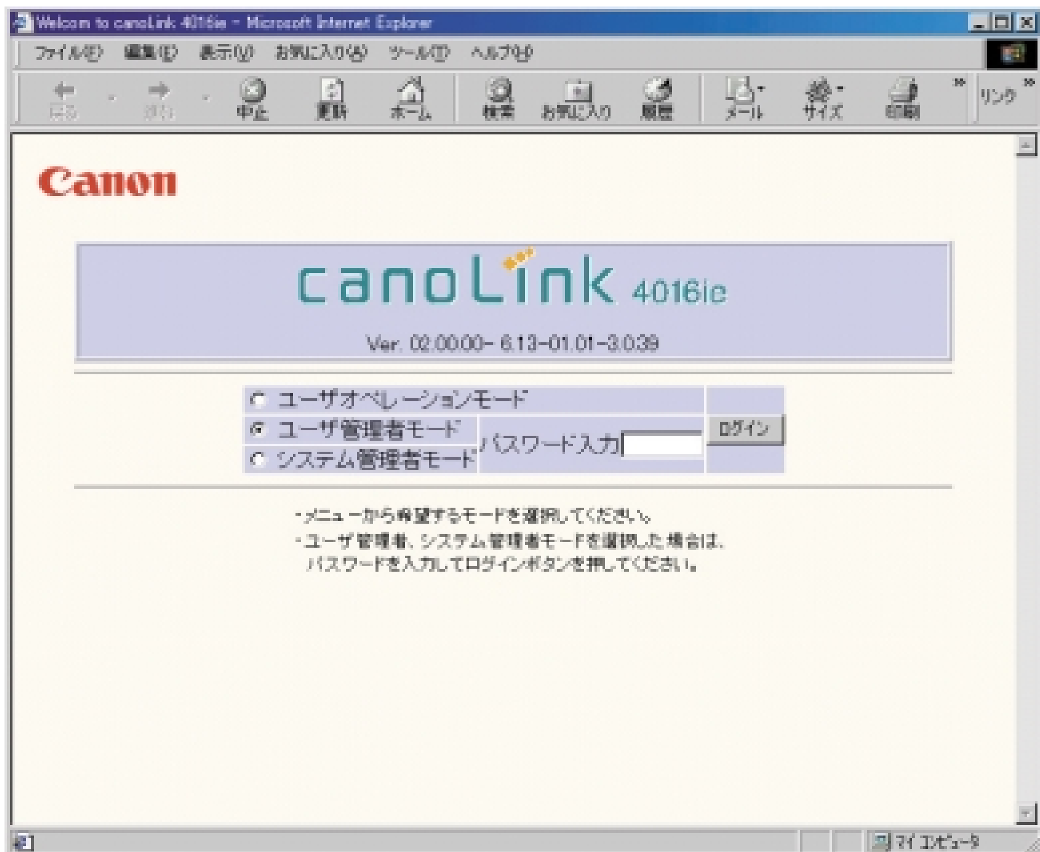


http://setup.canoLink　または　http://192.168.1.1

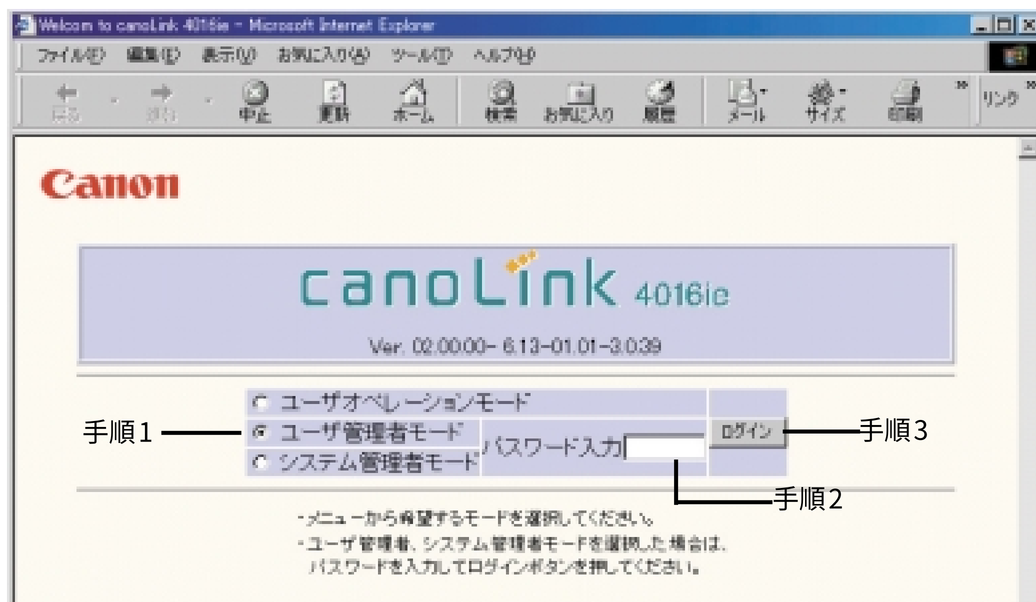


◇URLとして、メインユニットのIPアドレスを直接入力した場合でもWebデータ設定のTOP画面を表示できます。（出荷時のIPアドレスは192.168.1.1です）

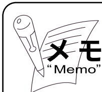
◇メインユニットにうまくつながると、次に示す「TOP画面」が表示されます。



【2】プロバイダの設定を行う



手順1：「TOP画面」で「ユーザ管理者モード」を選択します。

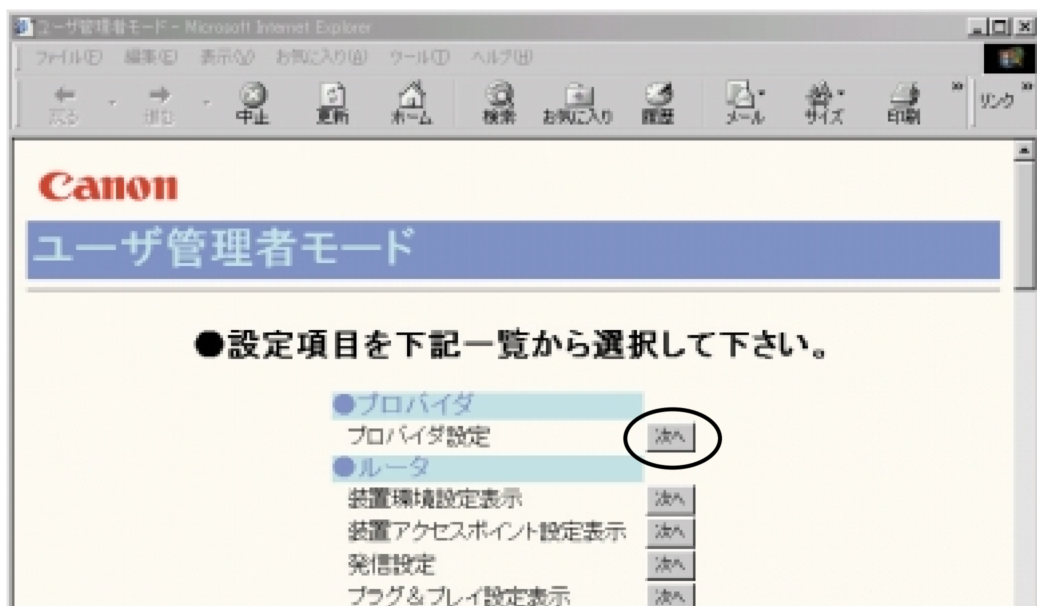


◇「ユーザ管理者モード」に入るには、パスワードが必要です。出荷時は " パスワード無し（空白）" となっています。

手順2：「パスワード入力」フィールドにパスワードを入力します。

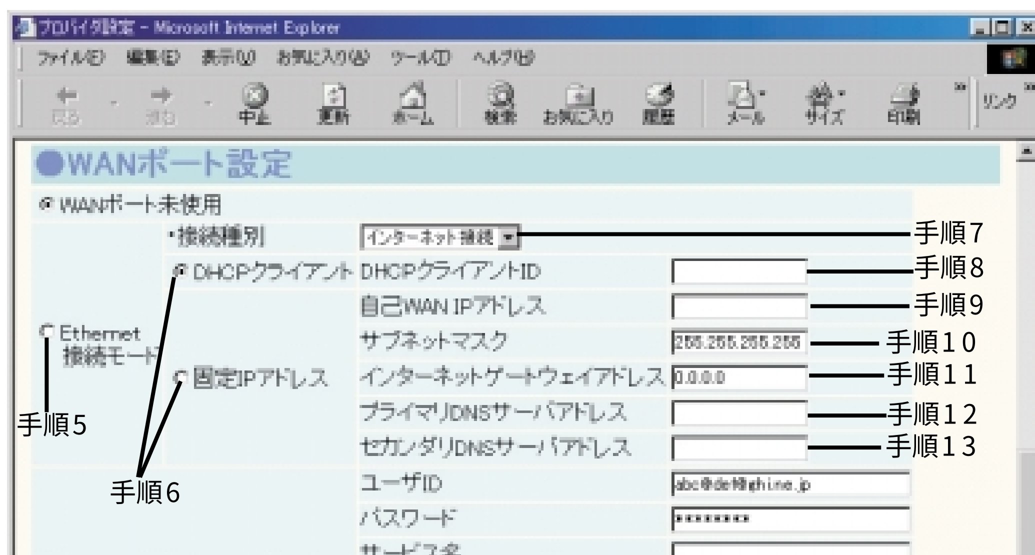
手順3：［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「プロバイダ設定」右の「次へ」をクリックします。



3 サービス機能

◇「プロバイダ画面」が表示されます。



手順5：Ethernet接続モードを選択します。

手順6：プロバイダがIPアドレスの自動割り当て（DHCP）に対応している場合には「DHCPクライアント」を選択してください。（この場合設定情報シートには“ 自動取得 ”などの記述があります）
IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレス／DNSサーバアドレスが指定されている場合は「固定IPアドレス」を選択してください。

手順7：「インターネット接続」を選択します。

【DHCPクライアント選択】

手順8：DHCPクライアントIDが指定されている場合は入力します。（クライアントのホスト名が表されている場合があります）

【固定IPアドレス選択】

手順9：指定されたIPアドレスを入力します。

手順10：指定されたサブネットマスク値を入力します。

手順11：指定されたデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。（接続種別で「インターネット接続」が選ばれたとき、有効となります）

手順12：指定されたDNSサーバアドレスを入力します。

手順13：セカンダリDNSサーバが指定されているあるいはDNSサーバアドレスが２つ指定されている場合に入力してください。（省略可）

手順14：上記入力項目に誤りがないことを確認の上、画面いちばん下の「設定」ボタンをクリックします。

これで、プロバイダとの接続は完了しました。本接続の場合、回線の接続／切断等の操作はありません。常に接続状態となります。

【3】接続の確認

WWWブラウザを起動し、表示させたいURLを入力してホームページが表示されることを確認してください。

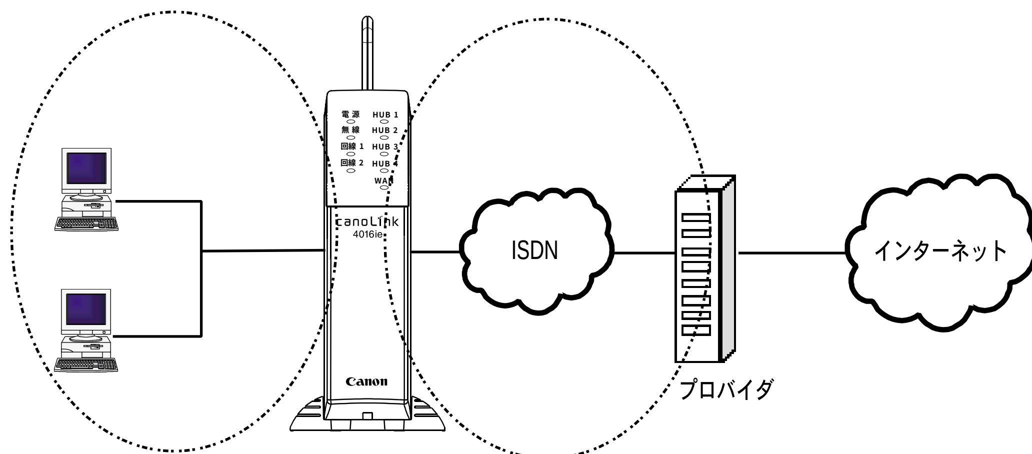
例として、キヤノン販売株式会社のURLを示します。

http://canon.jp

3-2-3 ISDN回線接続

（1）インターネット接続

【機能概要】



ISDN回線を使用しダイヤルアップ接続でインターネットへ接続できます。一般的にIPアドレス等はプロバイダ接続時に自動的に割振られます。

【データ設定】

●時刻設定：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「プロバイダ設定」

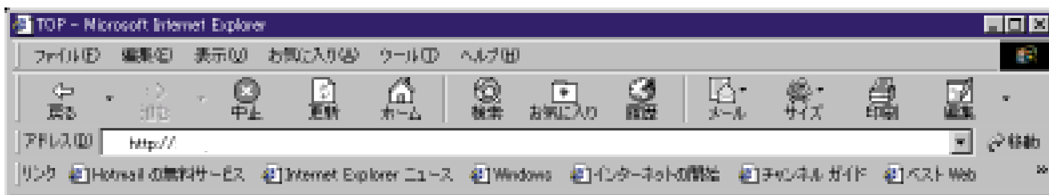
設定項目	設定内容	初期値
接続先電話番号	入力　半角32文字以内	
ユーザID	入力　半角32文字以内	
パスワード	入力　半角32文字以内	
接続回線指定	未指定／回線1／回線2	未指定
プライマリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
セカンダリDNSサーバアドレス	入力　IPアドレス	
接続形態	PPP／MP／BOD／MP+BOD	PPP
認証方式	相手の要求／CHAP／PAP／認証なし	相手の要求
自動切断解除時間帯の指定	利用する／利用しない	利用しない
自動切断解除開始時間	0～23（時）0～59（分）	23時0分
自動切断解除終了時間	0～23（時）0～59（分）	5時0分
最大接続時間	0～24（時）0～1440（分）	0（分）
無通信切断時間	0～24（時）0～1440（分） 0～86400（秒）	160（秒）
無通信切断監視対象パケット	入出力パケット／入力パケット／出力パケット	入出力パケット

【インターネットへの接続手順】

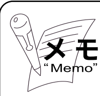
【1】PCからメインユニットへのアクセス

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス
（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

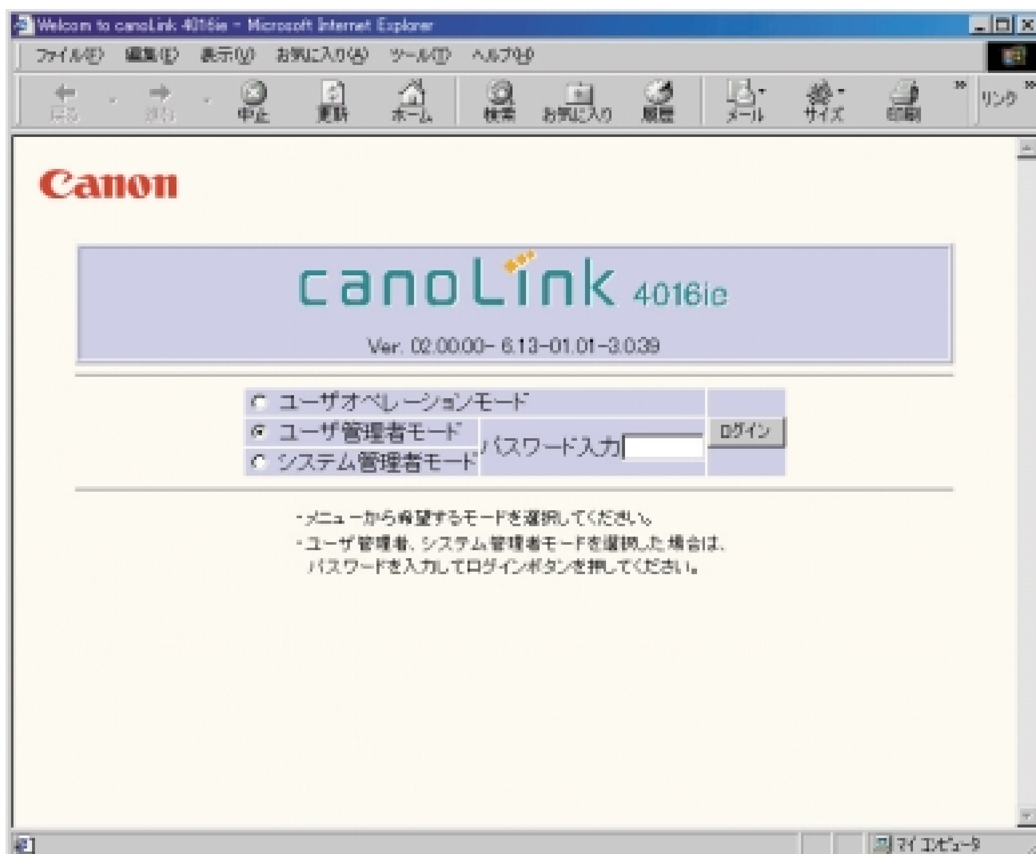


http://setup.canoLink　または　http://192.168.1.1

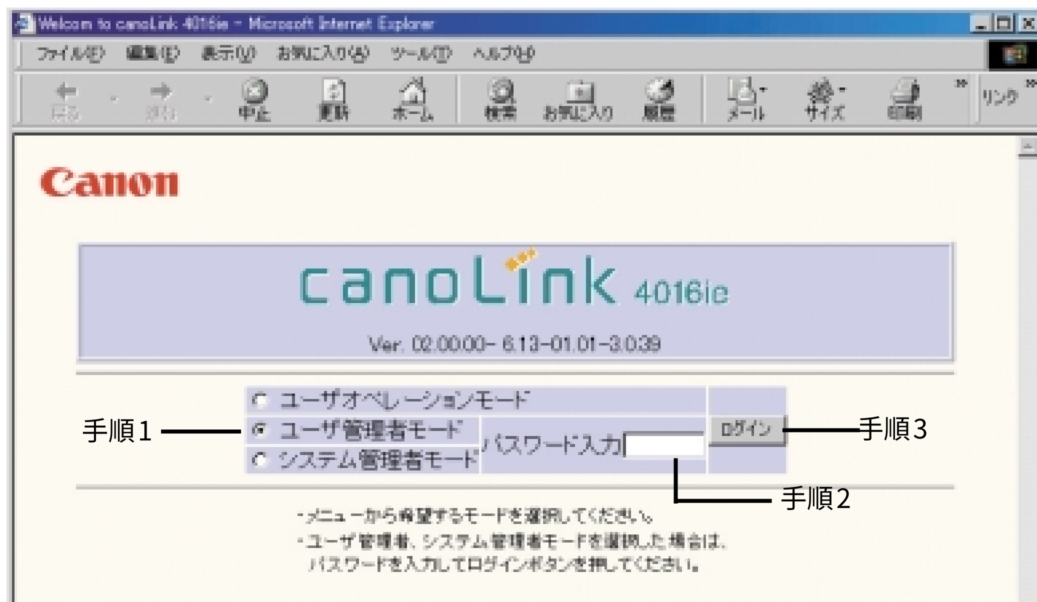


◇URLとして、メインユニットのIPアドレスを直接入力した場合でもWebデータ設定のTOP画面を表示できます。（出荷時のIPアドレスは192.168.1.1です）

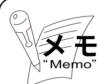
◇メインユニットにうまくつながると、次に示す「TOP画面」が表示されます。



【2】プロバイダ設定を行う



手順1：「TOP画面」で「ユーザ管理者モード」を選択します。

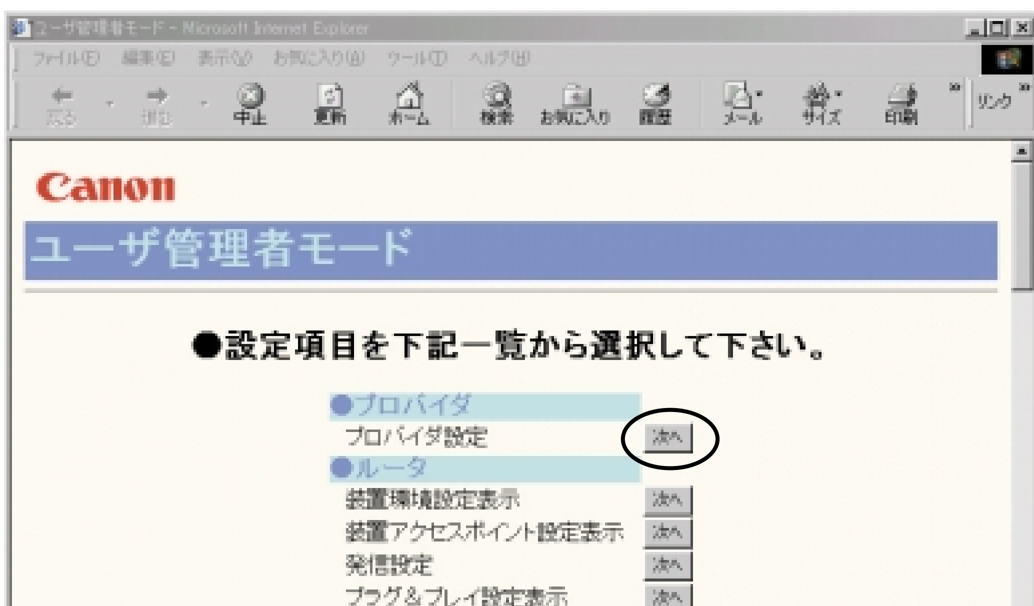


◇「ユーザ管理者モード」に入るには、パスワードが必要です。出荷時は"パスワード無し（空白）"となっています。

手順2：「パスワード入力」フィールドにパスワードを入力します。

手順3：［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「プロバイダ設定」右の「次へ」をクリックします。



◇「プロバイダ画面」が表示されます。

プロバイダ設定 - Microsoft Internet Explorer

Canon

プロバイダ設定

●ダイヤルアップ接続設定

・接続先電話番号	1234567	手順5
・ユーザID	ABC012345	手順6
・パスワード	********	手順7
・接続回線指定	未指定	手順8
・プライマリDNSサーバアドレス		手順9
・セカンダリDNSサーバアドレス		手順10
・接続形態	PPP	手順11
・認証方式	相手の要求	手順12
・自動切断解除時間帯の指定	○利用する ●利用しない	手順13
自動切断解除開始時間	23 時 0 分	手順14
自動切断解除終了時間	5 時 0 分	手順15
・最大接続時間	0 分	手順16
・無通信切断時間	160 秒	手順17
・無通信切断監視対象パケット	入出力パケット	手順18

手順5：接続先電話番号に、プロバイダアクセスポイントの電話番号を入力します。

手順6：ユーザIDに、プロバイダから入手したユーザID(アカウント)を入力します。

手順7：パスワードに、プロバイダから入手したパスワードを入力します。

手順8：接続回線指定では、接続する回線（回線1/回線２）を指定することができます。

回線を指定しない場合は未指定としてください。

手順9：プライマリDNSサーバアドレスに、プロバイダから入手したプライマリDNSサーバアドレスを入力します。（PPP交渉で指定される場合は、入力する必要はありません。プロバイダにご確認ください）

手順10：セカンダリDNSサーバアドレスに、プロバイダから入手したセカンダリDNSサーバアドレスを入力します。（セカンダリの指定がない場合およびPPP交渉で指定される場合は、入力する必要はありません。プロバイダにご確認ください）

手順11：接続形態では、接続先と接続する時の形態を選択します。

PPP接続：	Bチャネル1本の接続
MP接続：	Bチャネル2本の接続
BOD接続：	設定に応じて接続中に1本→2本、2本→1本とできる接続
MP+BOD接続：	設定に応じて接続中に2本→1本、1本→2本とできる接続

※MP接続にはプロバイダのアクセスポイントが対応している必要があります。

※MP接続では回線使用料金が2回線分必要です。

手順12：認証方式では、接続先と認証を行う場合のプロトコルを選択します。

「相手の要求」では、交渉により自動でPAP／CHAPが決定されます。

手順13：自動切断解除時間帯の指定では、自動切断を行わない時間帯を設定するかどうかを選択します。

手順14：自動切断解除時間帯の指定で“利用する”を選択した場合有効で、自動切断を行わない時間帯の開始時間を入力します

手順15：自動切断解除時間帯の指定で“利用する”を選択した場合有効で、自動切断を行わない時間帯の終了時間を入力します。

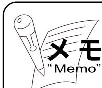
手順16：最大接続時間には、自動切断を行う場合に1回の接続で連続接続できる時間を入力します。設定した時間を超えると強制的に自動切断されます。
（“0”は無制限を意味しています。）

手順17：無通信切断時間には、自動切断を行う場合に接続中に無通信状態がどれだけ続いたら切断するかその時間を入力します。
（“0”は無効を意味します。）

手順18：無通信切断監視対象パケットは、無通信による自動切断を行う場合に対象とするパケットを選択します。

手順19：上記入力項目に誤りがないことを確認の上、画面いちばん下の「設定」ボタンをクリックします。

これでプロバイダ設定（ダイヤルアップ接続）は完了です。

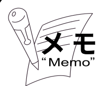


◇プロバイダへの加入
設定を行う前に、プロバイダへの加入手続きを終了させてください。

3
サービス機能

【2】プロバイダに接続する

簡易設定（プロバイダ設定）をしたプロバイダに接続する方法を説明します。
接続には、手動接続と自動接続があります。それぞれについて説明します。



◇自動接続について
自動接続に設定しておくと、インターネットへのアクセス操作（例えば、WWWブラウザでURLを入力するなど）を行うと、自動的にメインユニットがプロバイダに接続します。
◇自動接続利用上の注意
自動接続の場合は、WWWブラウザでURLを指定する等で簡単にプロバイダにされ課金されてしまいます。意図しない、誤操作による回線接続を防ぐには、手動接続をお使いください。

■手動接続のしかた

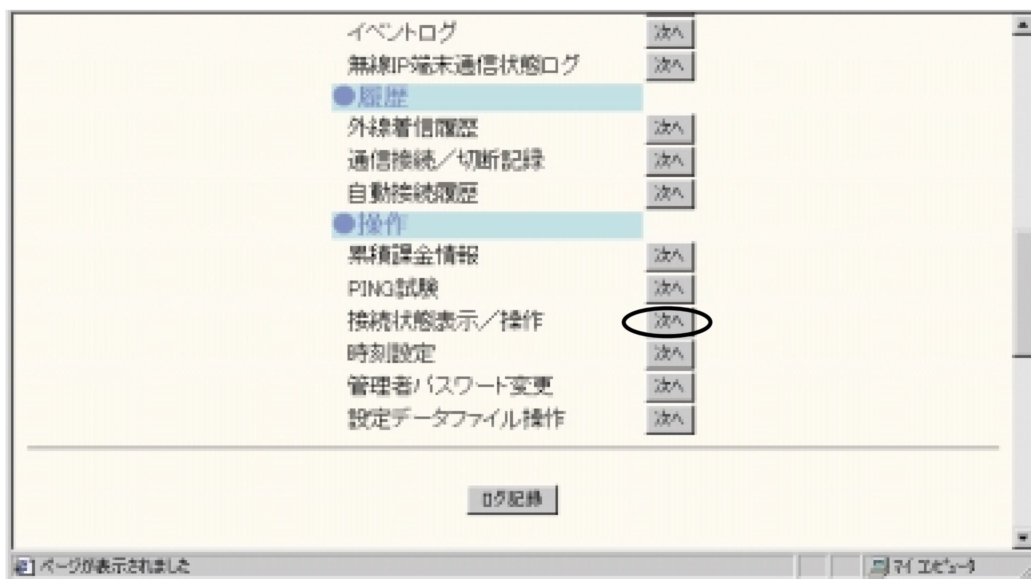
下記手順1～3の詳細は、前記【1】（3-75ページ）と【2】（3-76ページ）をご覧ください。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

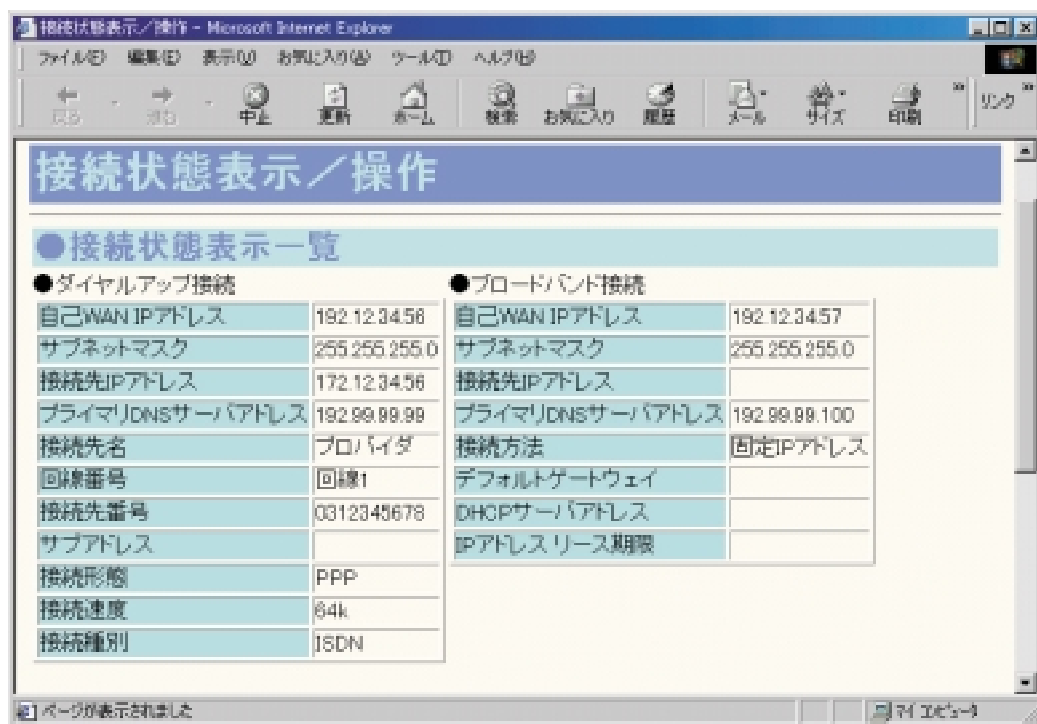
手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

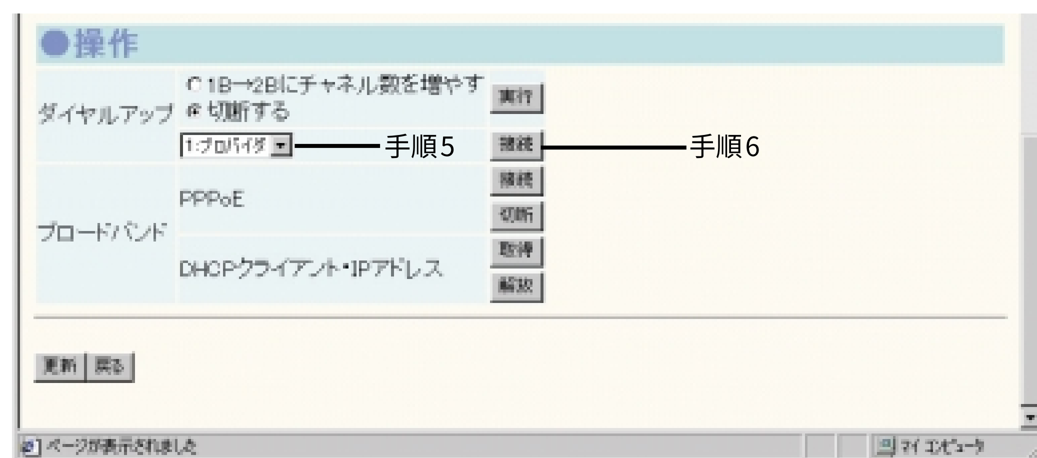
手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「接続状態表示／操作」右の「次へ」をクリックします。



◇「接続状態表示／操作」画面が表示されます。





手順5：プルダウンメニューの接続先番号「1：プロバイダ」を選択します。

手順6：［接続］ボタンをクリックします。

これで、プロバイダアクセスポイントとの接続は完了しました。

■自動接続のしかた

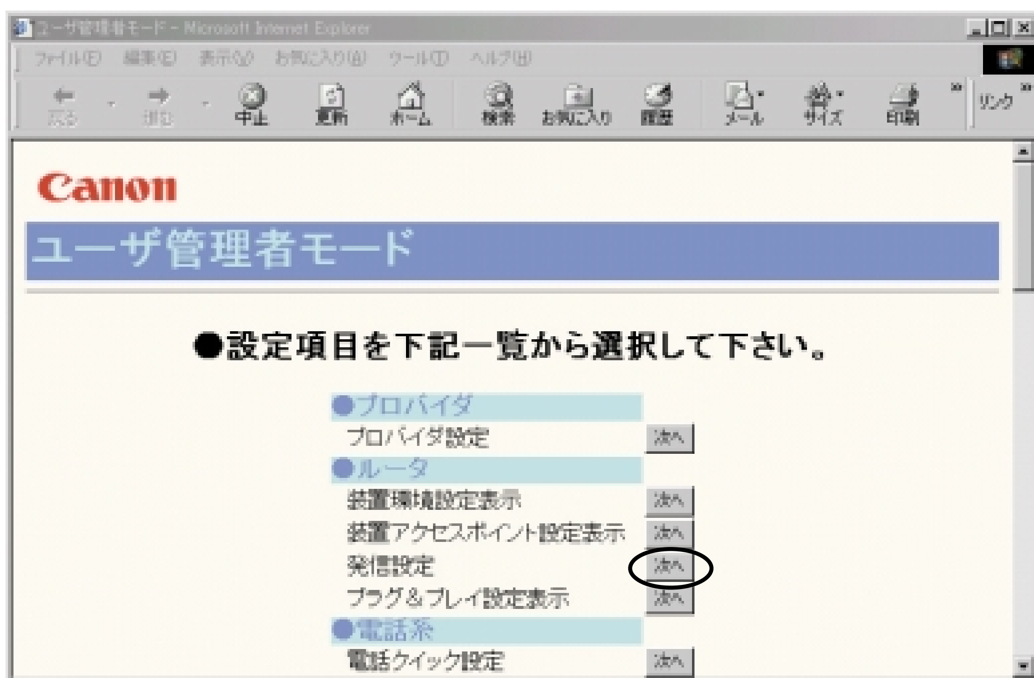
下記手順1～3の詳細は、前記【1】（3-75ページ）と【2】（3-76ページ）をご覧ください。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

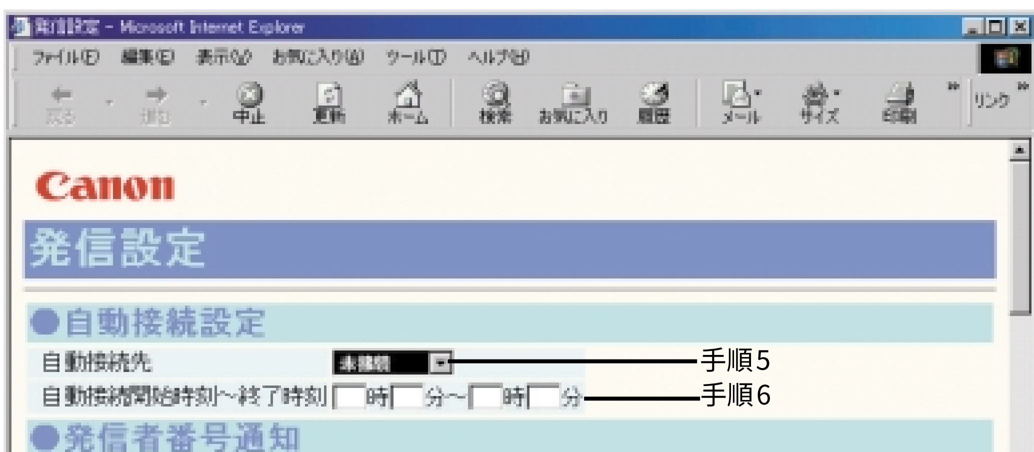
手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「発信設定」右の「次へ」をクリックします。



◇「発信設定」画面が表示されます。



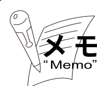
3 サービス機能

手順5：プルダウンメニューの接続先番号「1：プロバイダ」を選択します。

手順6：自動接続する時間帯を入力します。常時自動接続する場合は、すべてに“ 0 ”を入力してください。

手順7：画面いちばん下の［設定］ボタンをクリックします。

これで、自動接続設定は完了しました。



◇プロバイダ等から発信番号通知を要求されたときは、「発信設定」の発信者番号通知を“ 通知 ”にしてください。接続する相手が着番号による制限をかけている場合などは、接続できない場合があります。

■フレッツ・ISDN 契約により常時接続を行う場合

「プロバイダ設定」で自動切断しないように設定してください。

下記手順1～3の詳細は、前記【1】（3-75ページ）と【2】（3-76ページ）をご覧ください。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「プロバイダ設定」右の「次へ」をクリックします。

Canon

プロバイダ設定

●ダイヤルアップ接続設定

・接続先電話番号	1234567
・ユーザID	ABC012345
・パスワード	*********
・接続回線指定	未指定
・プライマリDNSサーバアドレス	
・セカンダリDNSサーバアドレス	
・接続形態	PPP
・認証方式	相手の要求
・自動切断解除時間帯の指定	○利用する ◉利用しない
自動切断解除開始時間	23 時 0 分
自動切断解除終了時間	5 時 0 分
・最大接続時間	0 分
・無通信切断時間	160 秒
・無通信切断監視対象パケット	入出力パケット

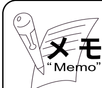
手順5
手順6

手順5：「最大接続時間」に“ 0 ”を入力します。

手順6：「無通信切断時間」に“ 0 ”を入力します。

手順7：画面いちばん下の［設定］ボタンをクリックします。

これで自動切断はされなくなります。



◇出荷時の設定は
「最大接続時間」は“ 0 ”(分)です。
「無通信切断時間」に“ 160 ”(秒)です。

【3】接続の確認

WWWブラウザを起動し、表示させたいURLを入力してホームページが表示されることを確認してください。

例として、キヤノン販売株式会社のURLを示します。

http://canon.jp

【4】回線の切断

接続中の回線を切断する方法を説明します。方法には、手動切断と自動切断の2通りあります。

■手動切断

手動接続時と同じ「接続状態表示／回線操作」画面にて行います。
通信終了後の無駄な課金を防ぐためには、手動切断をお使いください。

下記手順1～3の詳細は、前記【1】（3-75ページ）と【2】（3-76ページ）をご覧ください。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「接続状態表示／操作」右の「次へ」をクリックします。

◇「接続状態表示／操作」画面が表示されます。

接続状態表示／操作

●接続状態表示一覧

●ダイヤルアップ接続

自己WAN IPアドレス	192.12.34.56
サブネットマスク	255.255.255.0
接続先IPアドレス	172.12.34.56
プライマリDNSサーバアドレス	192.99.99.99
接続先名	プロバイダ
回線番号	回線1
接続先番号	0312345678
サブアドレス	
接続形態	PPP
接続速度	64k
接続種別	ISDN

●ブロードバンド接続

自己WAN IPアドレス	192.12.34.57
サブネットマスク	255.255.255.0
接続先IPアドレス	
プライマリDNSサーバアドレス	192.99.99.100
接続方法	固定IPアドレス
デフォルトゲートウェイ	
DHCPサーバアドレス	
IPアドレスリース期限	

●操作

ダイヤルアップ	○1B→2Bにチャネル数を増やす ◉切断する ―― 手順5	実行 ―― 手順6
	1:プロバイダ	接続
ブロードバンド	PPPoE	接続 切断
	DHCPクライアント・IPアドレス	取得 解放

更新　戻る

ページが表示されました

手順5：「切断する」をクリックします。

手順6：［実行］ボタンをクリックします。

これで、手動による切断は完了しました。

■自動切断

メインユニットの自動切断の方法には、次に示す「最大接続時間」による切断と、「無通信切断」による切断の2通りの方法があります。

「最大接続時間」，「無通信切断」設定項目は、「プロバイダ設定」の中にあります。「プロバイダ設定」に行く手順を以下に示します。

手順1：PCでWWWブラウザを起動します。(Microsoft Internet Explorer5.0以上)

手順2：ブラウザのアドレス（D）に次に示すメインユニットのURLアドレス（http://setup.canolink）を入力し、Enterキーを押します。

手順3：「TOP画面」の「ユーザ管理者モード」を選択し、パスワードを入力して［ログイン］ボタンを押します。

手順4：「ユーザ管理者モード」の画面が表示されるので、「プロバイダ設定」右の「次へ」をクリックします。

プロバイダ設定 - Microsoft Internet Explorer

Canon

プロバイダ設定

●ダイヤルアップ接続設定

・接続先電話番号 1234567
・ユーザID ABC012345
・パスワード ********
・接続回線指定 未指定
・プライマリDNSサーバアドレス
・セカンダリDNSサーバアドレス
・接続形態 PPP
・認証方式 相手の要求
・自動切断解除時間帯の指定 ○利用する ◉利用しない
自動切断解除開始時間 23 時 0 分
自動切断解除終了時間 5 時 0 分
・最大接続時間 0 分 ――手順5
・無通信切断時間 160 秒 ――手順6
・無通信切断監視対象パケット 入出力パケット

3 サービス機能

手順5：最大接続時間を入力します。

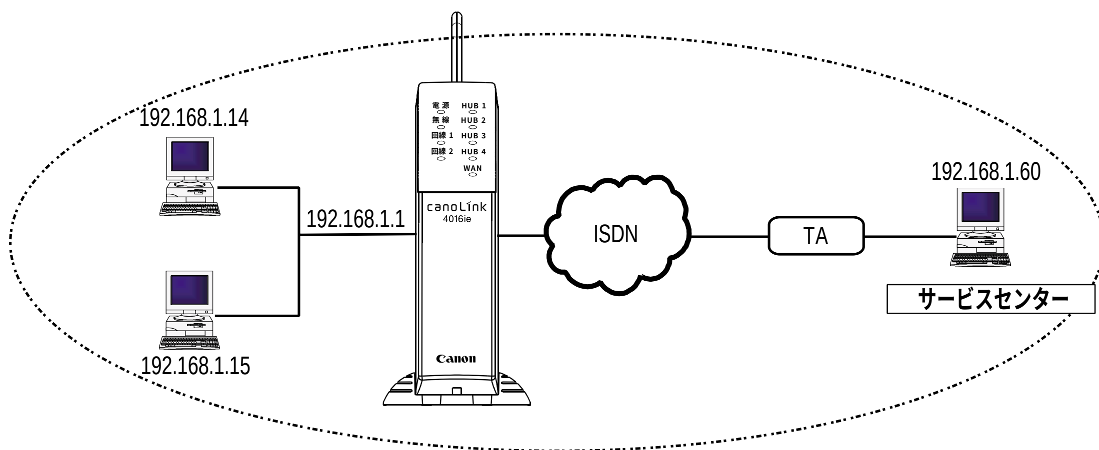
手順6：無通信切断時間を入力します。

- 「最大接続時間」による切断：　1回に接続できる時間を制限します。例えば、最大接続時間を1時間と設定しておくと、接続してから1時間後に強制的に自動切断されます。
- 「無通信切断」による切断：　プロバイダに接続後、一定時間回線上で通信がなかった場合に自動で回線が切断されます。

自動切断のメリットは、切断忘れなどのうっかりミスによる課金請求を防止することができる点にあります。

（2）RAS（Remote Access Service）接続

【機能概要】

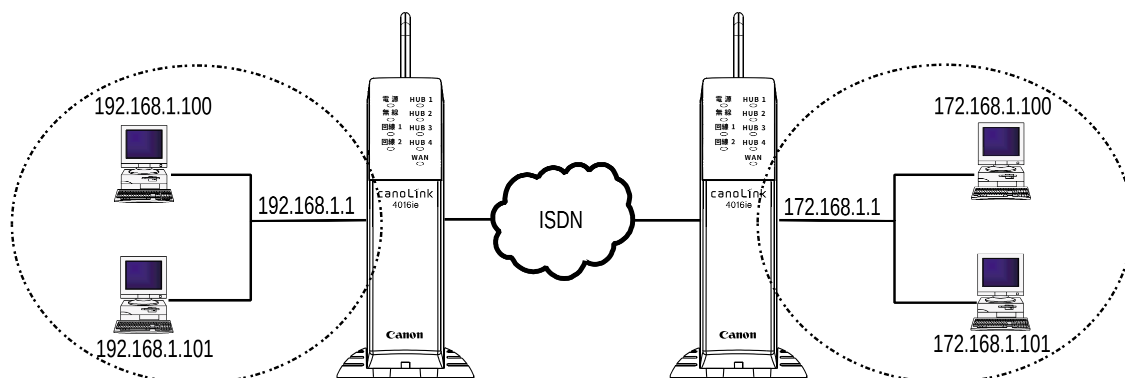


RAS接続では、遠隔地からダイヤルアップ接続にてアクセスし、該当LANのネットワークを利用できます。遠隔地側は、該当LANのネットワークに居るものとして構成されるため、同一セグメントに対するブロードキャストパケットも取得できるようになります。Proxy ARP機能を用いて、遠隔地側へのARP要求は本装置が代理で応答しますまた、認証は着信側が行います。上記の接続例はTAを利用したホスト接続ですが、本装置を用いたネットワーク接続も可能です。

なお、RAS機能に関する設定は、販売店にお問合せください。

（3）LAN間接続

【機能概要】

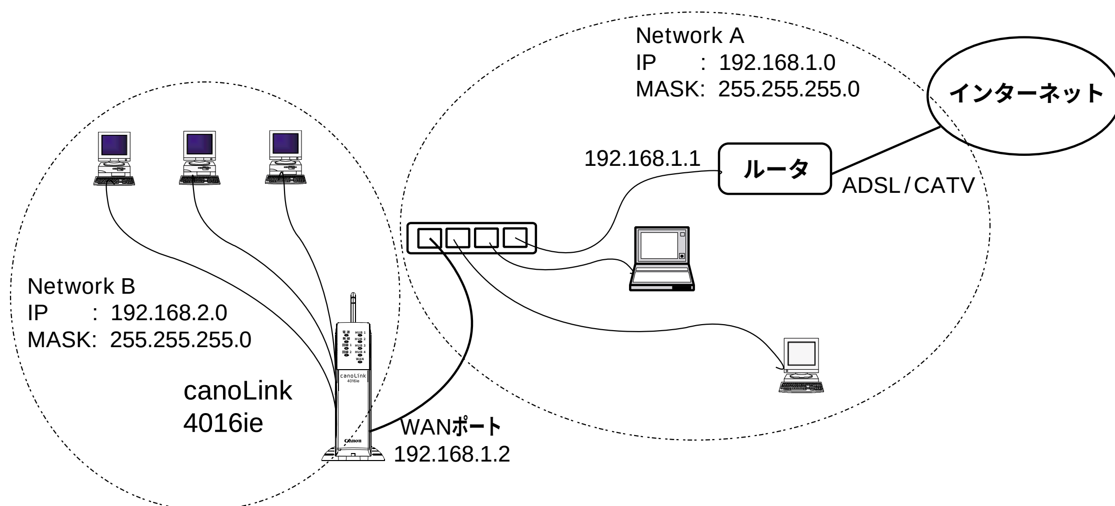


　LAN間接続は、異なるLANをダイヤルアップ接続し、相互のネットワークを共有します。IPアドレスのリソースを節約するISDN網にネットワークを付与しないUnnumber接続が一般的です。

　なお、LAN間接続の設定に関しては、販売店にお問合せください。

【機能概要】

LAN（Local Area Network）間を接続するローカルルータ（構内ルータ）として機能することができます。たとえば本システムを導入する前の既存ネットワークを変更したくない場合、LANに接続されるPCの台数が多い場合、LAN上のトラフィックが多くてパフォーマンスが低下している場合には、WANポートをローカルルータモードとして使用し、LANのネットワークを分離することが可能です。またすでにローカルルータを使いネットワークを分割している場合には、使用中のローカルルータの変わりにcanoLink 4016ieを使用したりさらにネットワークを分割するのに使用できます。



上図は、既存ネットワークですでにブローバンド接続を行っているネットワークアドレス“192.168.1.0”のネットワークAにcanoLink 4016ieを設置し新規にネットワークアドレ“192.168.2.0”のネットワークBを追加した例です。

なお、ローカルルータ機能の設定に関しては、販売店にお問合せください。

【機能概要】

セキュリティ機能として特定IPアドレスをフィルタリングして通過させたり破棄したりするパケットフィルタリング機能があります。

パケットフィルタリング機能では、特定PCのインターネットアクセスを禁止したり、特定アドレスのURLへのアクセスを禁止したりすることができます。

設定できるのは、パケット方向，プロトコル，送信元IPアドレス／アドレスマスク／ポート番号，宛先IPアドレス／アドレスマスク／ポート番号のパケット要素について通過・破棄が設定できます。

なお、パケットフィルタリング機能の設定に関しては、販売店にお問合せください。

3-3 保守運用機能

保守運用系の主なサービス機能について、機能概要、データ設定または表示内容、動作を説明します。

3-3-1 簡易設定機能

【1】機能概要

初期設定用の装置簡易Webページにアクセスすると、必要最小限の電話系基本機能の設定変更を簡単に行うことができます。

【2】データ設定

●電話クイック設定：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「電話クイック設定」

電話クイック設定 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 メール サイズ 印刷 リンク

Canon

電話クイック設定

●回線

回線1	モード1	◉一般着信	着信鳴動グループ指定	全端末
		○個別着信	着信先端末指定	無し
		○転送電話	転送先電話番号	1:九州Sシステムセンタネットワーク部
	モード2	◉一般着信	着信鳴動グループ指定	全端末
		○個別着信	着信先端末指定	無し
		○転送電話	転送先電話番号	1:九州Sシステムセンタネットワーク部
	モード3	◉一般着信	着信鳴動グループ指定	全端末
		○個別着信	着信先端末指定	無し
		○転送電話	転送先電話番号	1:九州Sシステムセンタネットワーク部
回線2	モード1	◉一般着信	着信鳴動グループ指定	全端末
		○個別着信	着信先端末指定	無し
		○転送電話	転送先電話番号	1:九州Sシステムセンタネットワーク部
	モード2	◉一般着信	着信鳴動グループ指定	全端末
		○個別着信	着信先端末指定	無し
		○転送電話	転送先電話番号	1:九州Sシステムセンタネットワーク部
	モード3	◉一般着信	着信鳴動グループ指定	全端末
		○個別着信	着信先端末指定	無し
		○転送電話	転送先電話番号	1:九州Sシステムセンタネットワーク部

●システム

一般着信音選択	◉リンガ	
	○和音	着信和音種別 和音1
保留音種別	和音3	
着信制限指定	モード1 4 モード2 4 モード3 4	

3 サービス機能

電話クイック設定 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 メール サイズ 印刷 リンク

●無線IP端末設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	外線着信鳴動停止
20	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
21	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
22	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
23	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
24	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
25	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
26	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
27	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動

●有線端末設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	外線着信鳴動停止
30	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
31	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
32	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
33	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
34	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
35	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
36	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動
37	◉不可 ○可	回線1 / 回線2	全て鳴動

●一般電話機設定

内線番号	外線発信用発番号通知	個別発番号	ナンバーディスプレイ機能	FAX機器接続指定
40	◉不可 ○可	回線1 回線2	○有効 ◉無効	○無 ◉有
41	◉不可 ○可	回線1 回線2	○有効 ◉無効	○無 ◉有

パラメータを入力・修正し、設定ボタンをクリックして下さい。

設定 | 戻る

ページが表示されました　マイ コンピュータ

●回線

設定項目			設定内容	初期値
回線1	モード1	着信形式選択	一般着信／個別着信／転送電話	一般着信
		着信鳴動グループ指定	全端末／着信グループ1〜7	全端末
		着信先端末指定	無し／20〜27／30〜37／40，41	無し
		転送先電話番号	1〜300	1
	モード2	着信形式選択	一般着信／個別着信／転送電話	一般着信
		着信鳴動グループ指定	全端末／着信グループ1〜7	全端末
		着信先端末指定	無し／20〜27／30〜37／40，41	無し
		転送先電話番号	1〜300	1
	モード3	着信形式選択	一般着信／個別着信／転送電話	一般着信
		着信鳴動グループ指定	全端末／着信グループ1〜7	全端末
		着信先端末指定	無し／20〜27／30〜37／40，41	無し
		転送先電話番号	1〜300	1
回線2	モード1	着信形式選択	一般着信／個別着信／転送電話	一般着信
		着信鳴動グループ指定	全端末／着信グループ1〜7	全端末
		着信先端末指定	無し／20〜27／30〜37／40，41	無し
		転送先電話番号	1〜300	1
	モード2	着信形式選択	一般着信／個別着信／転送電話	一般着信
		着信鳴動グループ指定	全端末／着信グループ1〜7	全端末
		着信先端末指定	無し／20〜27／30〜37／40，41	無し
		転送先電話番号	1〜300	1
	モード3	着信形式選択	一般着信／個別着信／転送電話	一般着信
		着信鳴動グループ指定	全端末／着信グループ1〜7	全端末
		着信先端末指定	無し／20〜27／30〜37／40，41	無し
		転送先電話番号	1〜300	1

※　全端末：一般電話機は含まれません。

●システム

設定項目	設定内容	初期値
一般着信選択	リンガ／和音指定	リンガ
着信和音種別	和音１／和音２／和音３	和音１
保留音種別	和音１／和音２／和音３	和音２
着信制限指定	１～４	４

●無線IP端末設定

設定項目		設定内容	初期値
外線発信用発番号通知 内線２０～２７		不可／可	不可
個別発番号 内線２０～２７	回線１	数字８桁以内	
	回線２	数字８桁以内	
外線着信鳴動停止 内線２０～２７		全て鳴動／外線一般着信のみ停止／全外線着信音停止	全て鳴動

●有線端末設定

設定項目		設定内容	初期値
外線発信用発番号通知 内線３０～３７		不可／可	不可
個別発番号 内線３０～３７	回線１	数字８桁以内	
	回線２	数字８桁以内	
外線着信鳴動停止 内線３０～３７		全て鳴動／外線一般着信のみ停止／全外線着信音停止	全て鳴動

●一般電話機設定

設定項目		設定内容	初期値
外線発信用発番号通知 内線４０，４１		不可／可	不可
個別発番号 内線４０，４１	回線１	数字８桁以内	
	回線２	数字８桁以内	
ナンバーディスプレイ機能 内線４０，４１		有効／無効	無効
FAX機器接続指定 内線４０，４１		有／無	有

【3】動作説明

使用頻度の高い機能がまとめられており、簡単に設定および変更を行えます。

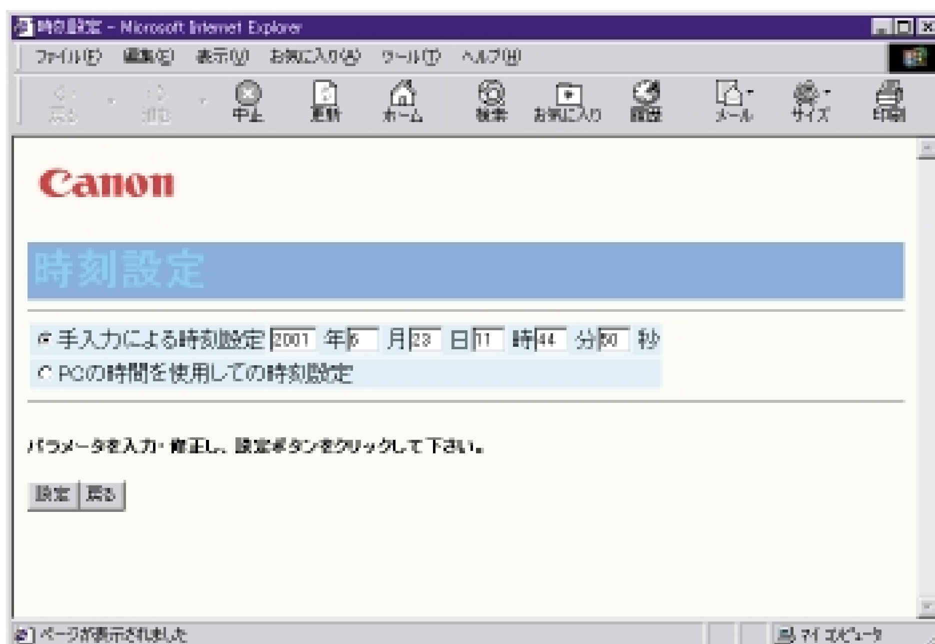
3
サービス機能

【1】機能概要

パソコンが持っている時刻あるいは手入力した時刻を、メインユニットに設定できます。

【2】データ設定

●時刻設定：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「時刻設定」



設定項目	設定内容	初期値
手入力による時刻設定	入力　年 入力　月 入力　日 入力　時 入力　分 入力　秒	パソコンの持つ年 パソコンの持つ月 パソコンの持つ日 パソコンの持つ時 パソコンの持つ分 パソコンの持つ秒
PCの時間を使用しての時刻設定	選択	

【3】動作説明

（1） 時刻設定で手入力した時刻をメインユニットに設定できます。

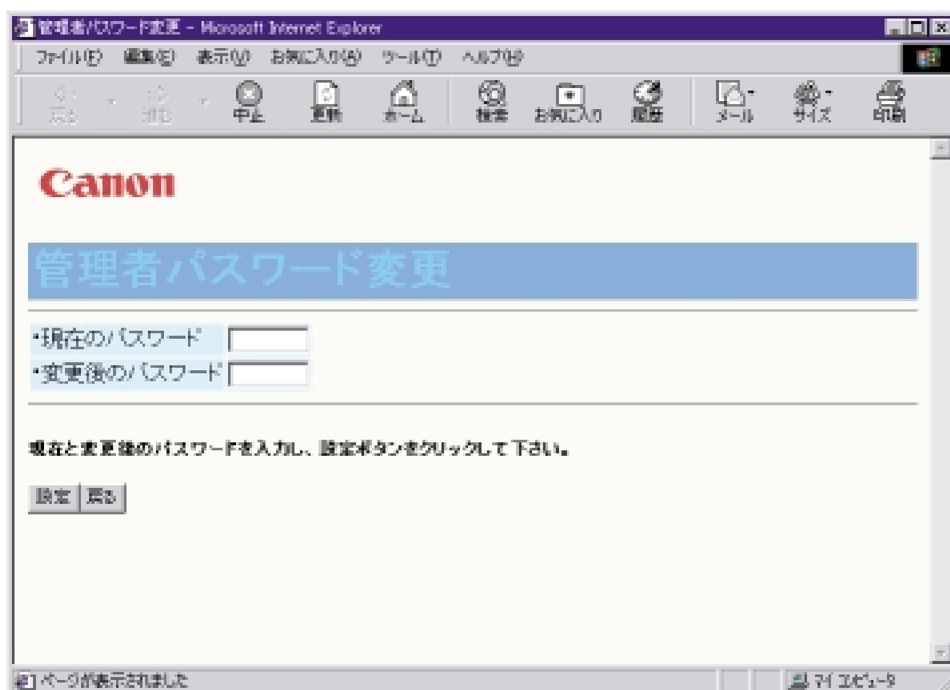
（2） 時刻設定で「PCの時間を使用しての時刻設定」を選択すると、パソコンの持っている時刻がメインユニットに設定されます。

【1】機能概要

ユーザ管理者モードに入るためのパスワードを変更できます。定期的に変更することにより、セキュリティを高めることができます。

【2】データ設定

●管理者パスワード変更：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「管理者パスワード変更」



設定項目	設定内容	初期値
現在のパスワード	入力　半角3～8文字	Null
変更後のパスワード	入力　半角3～8文字	

【3】動作説明

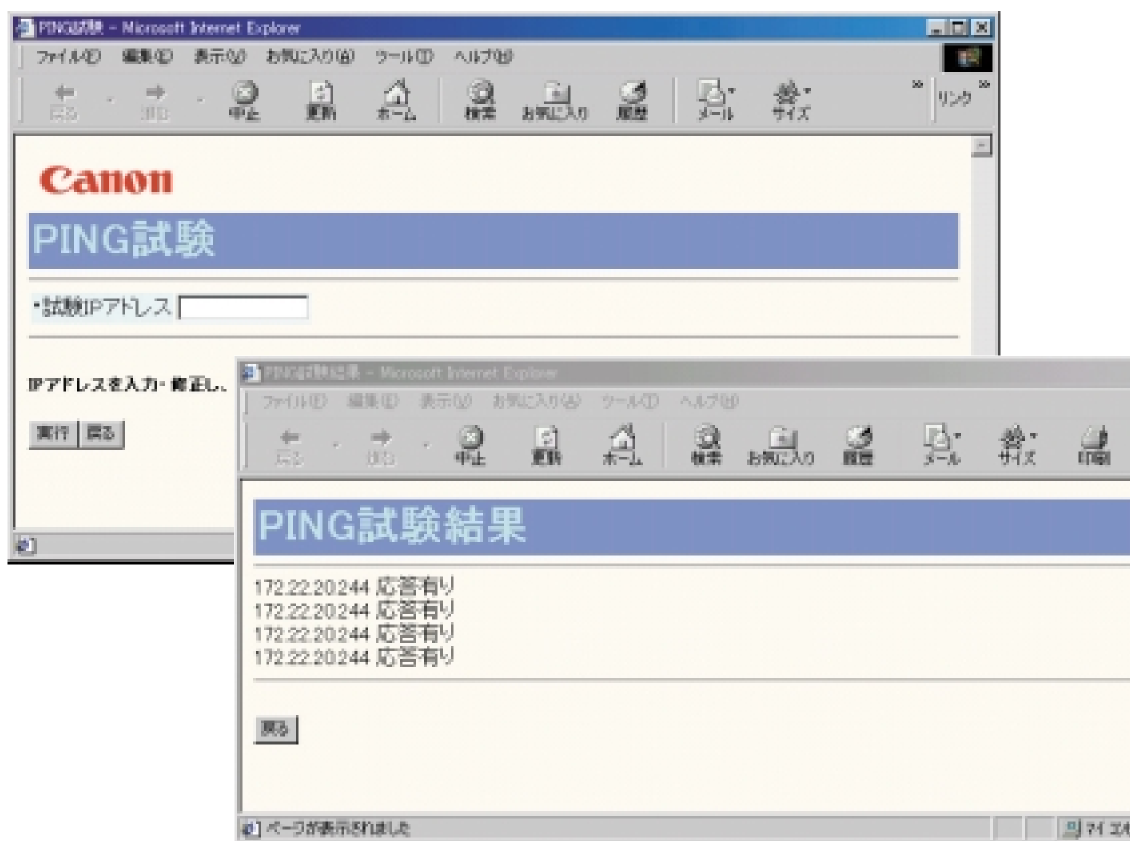
（1）　パスワードを知っている人だけ変更できます。

【1】機能概要

PINGは、TCP/IPネットワークで使用されるユーティリティの一つです。ネットワーク上のパソコン、各種サーバ、無線IP端末等の接続状態を診断するのに使用します。

【2】データ設定

●PING試験：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「PING試験」



設定項目	設定内容	初期値
試験IPアドレス	入力　IPアドレス	

【3】動作説明

（1）　IPアドレス指定で相手にフレームを送り、その応答を待ちます。応答の有無によって相手との通信の可否を判定します。

3-3-5 各種テーブル参照機能

次の各テーブルについて、機能概要、表示例および表示内容、動作を説明します。

・ルーティングテーブル
・ARPテーブル
・NAT変換テーブル
・累積課金情報

ルーティングテーブル

【1】機能概要

ルーティングテーブルの状況を確認したり、動的情報を削除したりできます。

【2】表示例：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「ルーティングテーブル」

ルーティングテーブル

インターフェース	宛先IPアドレス	宛先サブネットマスク	ホップ先アドレス	メトリック値	ルーティングプロトコル	タイプ
fukuoka	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	1	静的	間接
LAN	10.194.2.0	255.255.255.0	10.194.50.1	1	静的	間接
fukuoka	10.194.70.10	255.255.255.255	10.194.70.10	1	静的	直接
fukuoka	10.194.70.1	255.255.255.255	10.194.70.10	1	静的	直接
LAN	10.194.32.1	10.194.100.1	10.194.2.50	1	静的	間接
LAN	10.194.60.0	255.255.255.0	10.194.60.77	1	静的	直接
LAN	10.194.60.77	255.255.255.255	10.194.60.77	1	静的	直接

動的情報クリア　更新　戻る

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
インターフェース	このルートにおいて次のホップ先アドレスを示す論理インターフェース名を表示します。（LAN／接続先名称）
宛先ネットワークアドレス	このルートの宛先ネットワークアドレスを表示します。
宛先サブネットマスク	このルートのサブネットマスクを表示します。
ホップ先アドレス	このルートのホップ先アドレスを表示します。
メトリック値	このルートのプライマリ・ルーティング・メトリックを表示します。スタティックの場合は設定した値を表示し、RIPの場合は取得した値を表示します。
ルーティングプロトコル	このルートを学習したルーティング方式を表示します。（RIP／静的）
タイプ	このルートの種類を表示します。（直接／間接）

【4】動作説明

（1）「動的情報クリアボタン」を押すと、ルーティングプロトコルが［静的］以外の経路情報を消去できます。ネットワーク構成を変更したときなどに有効です。

（2）「更新ボタン」を押すと、現在の経路情報を表示します。（自動更新はしません）

ARPテーブル

【1】機能概要

ARPテーブルの状況を確認したり、設定変更したりできます。

【2】表示例「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「ARPテーブル」

ARPテーブル - Microsoft Internet Explorer

Canon

ARPテーブル

インターフェース	MACアドレス	IPアドレス
LAN	00:90:4B:02:4B:18	10.194.60.207
LAN	00:90:4B:02:4B:EB	10.194.60.204
LAN	00:90:4B:02:4C:00	10.194.60.206
LAN	00:90:4B:02:4A:F8	10.194.60.209
LAN	00:90:4B:02:4B:95	10.194.60.210
LAN	00:90:4B:02:4C:10	10.194.60.211
LAN	00:90:4B:02:4C:19	10.194.60.208
LAN	00:80:87:C0:9C:76	10.194.60.202
LAN	00:90:4B:02:4B:90	10.194.60.205
LAN	00:80:98:B0:C8:AC	10.194.60.70
LAN	00:80:87:C0:9C:B6	10.194.60.201
LAN	00:90:4B:08:DB:AE	10.194.60.200
DHCP／ローカル	00:12:34:56:78:01	192.168.1.11

テーブルクリア　更新　戻る

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
インターフェース	このエントリの物理インターフェース名を表示します。 （LAN／接続先名称）
MACアドレス	このエントリの物理アドレス（MACアドレス）を表示します。
IPアドレス	このエントリの物理アドレスに対応したIPアドレスを表示します。

【4】動作説明

（1）「テーブルクリアボタン」を押すと、今まで存在したARP情報を消去できます。ネットワーク構成を変更したときなどに有効です。

（2）「更新ボタン」を押すと、現在のARPにより取得したMACアドレスとIPアドレスの対応表を表示できます。（自動更新はしません）

3

サービス機能

NAT変換テーブル

【1】機能概要

NATあるいはIPマスカレードにより変換されたIPアドレスまたはポート番号を参照できます。

【2】表示例：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「NAT変換テーブル」

Canon

NAT変換テーブル

グローバル側		プライベート側		プロトコル種別	アドレス変換モード	残生存時間	インターフェース
IPアドレス	ポート番号	IPアドレス	ポート番号				
172.168.50.10	1	192.168.50.10	10	TCP	IP Masquerade	3	DHCP／ローカル
172.168.50.15	−	192.168.60.10	−	−	NAT	6	プロバイダ
172.168.50.20	4	192.168.70.10	12	UDP	IP Masquerade	9	PPPoE

動的IPアドレスクリア　更新　閉る

【3】表示項目について

表示項目		内　　容
グローバル側	IPアドレス	このエントリのグローバル側（インターネット側）に割当てられているIPアドレスを表示します。
	ポート番号	このエントリのグローバル側（インターネット側）に割当てられたポート番号を表示します。ただし、変換モードがNATの場合は表示しません。
プライベート側	IPアドレス	このエントリのプライベート側（LAN側）に割当てられているIPアドレスを表示します。
	ポート番号	このエントリのプライベート側（LAN側）に割当てられたポート番号を表示します。ただし、変換モードがNATの場合は表示しません。
プロトコル種別		このエントリで使用されているプロトコルを表示します。（TCP／UDP）
アドレス変換モード		このエントリでのアドレス変換モード（IP MasqueradeまたはNAT）を表示します。
残生存時間		このエントリで割振られたIPアドレスの残りの生存時間（分）を表示します。
インターフェース		このエントリでの接続先を表示します。（DHCP/ローカル、PPPoE接続、接続先名称、LAN）

【4】動作説明

（1）「動的アドレスクリアボタン」を押すと、動的に設定されたNAT変換テーブル情報を消去します。

（2）「更新ボタン」を押すと、現在のNAT変換テーブルにより取得した情報を表示します。（自動更新はしません）

累積課金情報

【1】機能概要

各端末および回線における通話・通信・転送に要した累積料金をWeb画面に表示します。
また、累積料金は各累積課金ごとにリセットできます。

【2】表示例：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「累積課金情報」

累積課金情報 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 メール サイズ 印刷

Canon

累積課金情報

●通話料金

課金対象		料金	リセット
無線IP端末	内線番号20	0円	リセット
	内線番号21	0円	リセット
	内線番号22	0円	リセット
	内線番号23	0円	リセット
	内線番号24	0円	リセット
	内線番号25	0円	リセット
	内線番号26	0円	リセット
	内線番号27	0円	リセット
有線端末	内線番号30	0円	リセット
	内線番号31	0円	リセット
	内線番号33	0円	リセット
	内線番号34	0円	リセット
	内線番号35	0円	リセット
	内線番号36	0円	リセット
	内線番号37	0円	リセット
一般電話機	内線番号40	0円	リセット
	内線番号41	0円	リセット
回線1		0円	リセット
回線2		0円	リセット

●通信料金

0円 リセット

課金対象	料金	リセット
日間	0円	リセット
月間	0円	リセット

●転送電話料金

0円 リセット

更新 戻る

ページが表示されました　　マイ コンピュータ

3 サービス機能

【3】表示項目について

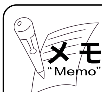
表示項目	内　　容
料金	無線IP端末／有線端末／一般電話機、回線ごとの累積課金（使用料金）を表示します。日間課金料金および月間課金料金は、データ通信の自動接続制限機能として使用されます。
リセット	累積した使用料金は、個別にリセットできます。

【4】動作説明

（1） 通話は端末ごとの累積課金情報、通信および転送電話は全回線の累積課金情報を表示します。回線ごとの累積課金情報は、通話／通信／転送電話の合計料金を表示します。

（2） 各累積課金ごとに、リセットすることができます。

（3） 「更新ボタン」を押すと、現在の通話／通信／転送電話料金を表示します。（自動更新はしません）



◇各料金は、INSネット64から料金通知があった場合に蓄積しています。

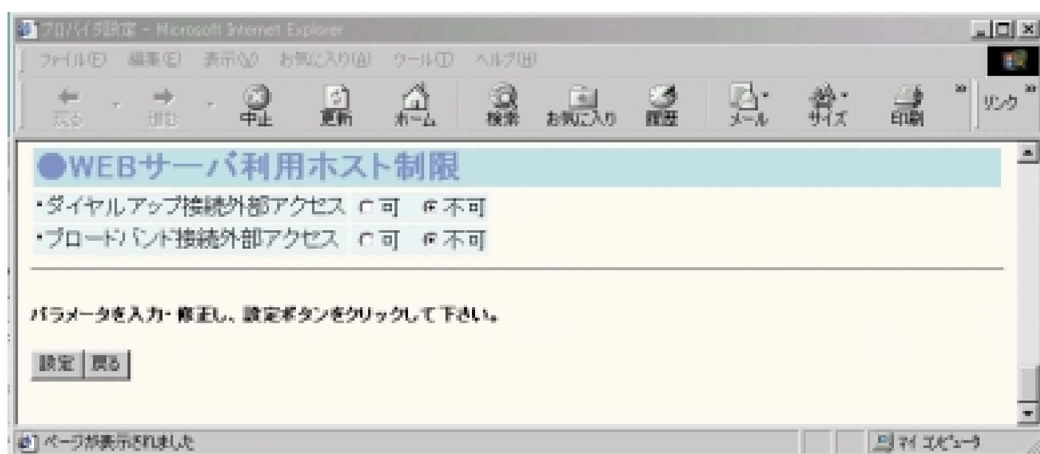
3
サービス機能

【1】機能概要

設定用Webへ遠隔地よりアクセスすることにより、リモート保守を行うことができます。
このとき、設定用のWebへのアクセスを許可／拒否の設定ができます。

【2】データ設定

●プロバイダ設定：「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「プロバイダ設定」

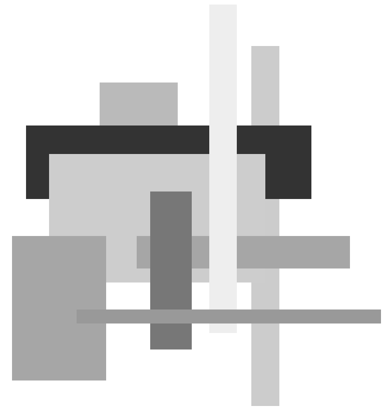


設定項目	設定内容	初期値
ダイヤルアップ接続外部アクセス	可／不可	不可
ブロードバンド接続外部アクセス	可／不可	不可

※リモート保守を行う場合は、本設定以外にリモートアクセス用の設定が必要になります。
設定については、販売店にお問い合わせください。

【3】動作説明

（1） ダイヤルアップ接続外部アクセスでは、ISDN回線からのリモート保守による設定用Webアクセスを許可／拒否することができます。
（2） ブロードバンド接続外部アクセスでは、WANポートからのリモート保守による設定用Webアクセスを許可／拒否することができます。



4 操作早見表

4-1 端末操作早見表

4-1-1 専用端末操作早見表

専用端末（有線端末と無線IP端末）を使用した操作早見表です。
なお、備考欄に「データ設定要」とある場合は、操作を行う前にサービスデータを設定しておく必要があります。この場合は、販売店にご相談ください。

専用端末操作早見表（1/5）

機能名		操作手順	備考
外線へ電話をかける	外線ボタン発信	（待機状態）→ 外線 → 相手番号ダイヤル → # または スタート または（タイムアウト）→（網発信）	
		（待機状態）→ オフフック → 外線 → 相手番号ダイヤル → # または スタート または（タイムアウト）→（網発信）	
	オフフック空き外線自動捕捉発信	（待機状態）→ オフフック → 相手番号ダイヤル → # または スタート または（タイムアウト）→（網発信）	・データ設定要
	チェーンダイヤル	（待機状態）→ オフフック → ワンタッチ または セレクト → ワンタッチ → ダイヤル入力 → # または スタート または（タイムアウト）→（網発信）	
	リダイヤル	（待機状態）→ 外線 または オフフック → リダイヤル →（網発信）	
	システム短縮ダイヤル	（待機状態）→ 外線 または オフフック → スタート → 短縮コードダイヤル → # または スタート または（タイムアウト）→（網発信）	
		（待機状態）→ 外線 または オフフック → スタート → 保留（押下するごとにスクロール）→ # または スタート →（網発信）	
		（待機状態）→ 外線 または オフフック → スタート → 短縮コードダイヤル → 保留（押下するごとにスクロール）→ # または スタート →（網発信）	

4
操作早見表

専用端末操作早見表（2/5）

機能名		操作手順	備考
内線へ電話をかける	内線発信	（待機状態）→オフフック→内線番号ダイヤル→（内線呼出）	
		（待機状態）→スピーカ→内線番号ダイヤル→（内線呼出）	
		（待機状態）→内線→内線番号ダイヤル→（内線呼出）	
	内線ワンタッチ発信	（待機状態）→内線→ワンタッチ→（内線呼出）	
	内線音声呼出	（内線トーン呼出）→＊→内線音声呼出→＊→（内線トーン呼出へ戻る）	
外線からの電話を受ける	一般着信応答	（一般着信状態）→外線→オフフック→通話	
		（一般着信状態）→オフフック→外線→通話	
		（一般着信状態）→オフフック→通話	・データ設定要
	個別着信応答	（個別着信状態）→オフフック→通話	
		（個別着信状態）→外線→オフフック→通話	
	代理応答	（他の端末への着信状態）→代理応答→オフフック→通話	
		（他の端末への着信状態）→オフフック→代理応答 または ＊→通話	
内線からの電話を受ける	内線通話	（内線呼出音状態）→オフフック→通話	
		（内線呼出音状態）→内線→オフフック→通話	
	代理応答	（他の端末への着信状態）→代理応答→オフフック→通話	
		（他の端末への着信状態）→オフフック→代理応答 または ＊→通話	

4
操作早見表

専用端末操作早見表（3/5）

機能名			操作手順	備考
外線通話を保留・転送する	通話保留・応答	保留側	（外線通話状態）→ 保留 →（保留状態）	外線 が緑と橙色で交互に点灯
		自己保留応答	オフフック → 外線 → 通話	
	保留転送（口頭転送）	保留側	（外線通話状態）→ 保留 →（保留状態）	外線 が緑と橙色で交互に点灯
		応答側	オフフック → 外線 → 通話	外線 が緑色で速く点滅
	ダイヤル転送		（外線通話状態）→ 内線 → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → 通話 → スタート →（転送操作終了）	
			（外線通話状態）→ 内線 → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → スタート →（転送操作終了）	
	ワンタッチ転送		（外線通話状態）→ ワンタッチ → 内線呼出 → 通話 → スタート →（転送操作終了）	
			（外線通話状態）→ 内線 → ワンタッチ → 内線呼出 → 通話 → スタート →（転送操作終了）	
			（外線通話状態）→ ワンタッチ → 内線呼出 → スタート →（転送操作終了）	
	チェンジオーバー		（外線通話）→ 内線 → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → 通話 → 内線 →（保留外線と通話）	
	外線手動転送		（外線通話）→ 内線 → 外線 → 相手番号ダイヤル → ＃ または スタート または（タイムアウト）→（網発信）→（相手応答通話）→ スタート →（転送操作終了）	

4
操作早見表

専用端末操作早見表（4/5）

機能名		操作手順	備考
内線通話を保留・転送する	ダイヤル転送	（内線通話状態）→ 内線 → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → 通話 → スタート →（転送操作終了）	
		（内線通話状態）→ 内線 → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → スタート →（転送操作終了）	
	ワンタッチ転送	（内線通話状態）→ ワンタッチ → 内線呼出 → 通話 → スタート →（転送操作終了）	
		（内線通話状態）→ 内線 → ワンタッチ → 内線呼出 → 通話 → スタート →（転送操作終了）	
		（内線通話状態）→ ワンタッチ → 内線呼出 → スタート →（転送操作終了）	
	チェンジオーバー	（内線通話）→ 内線 → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → 通話 → 内線 →（保留内線と通話）	
ドアホンと通話する	ドアホン着信	（ドアホン着信状態）→ ドアホン → オフフック → 通話	・データ設定要
	ドアホン呼出	（待機状態）→ オフフック → ドアホン → 通話	・データ設定要
	ドアホン保留	保留側　（ドアホン通話状態）→ 保留 →（保留状態）	・データ設定要
		応答側　オフフック → ドアホン → 通話	・データ設定要

4
操作早見表

専用端末操作早見表（5/5）

機　能　名		操　作　手　順	備　考
その他	PB送信	（外線通話状態）→ トーン → ダイヤル → （PB送信）→ トーン →（PB解除）	
		（内線通話状態）→ トーン → ダイヤル → （PB送信）→ トーン →（PB解除）	相手が一般電話機ポート時のみ可能
	不在転送	登録時： （待機状態）→ オフフック → 不在転送 →（登録完了）	
		解除時： （待機状態）→ オフフック → 不在転送 →（解除完了）	
	着信モード切替	切替実行時： （待機状態）→ オフフック → モード切替 → スタート →（モード切替完了）	
		モード状態の確認だけ行うとき： （待機状態）→ オフフック → モード切替 → オンフック（モード変更なし）	

4
操作早見表

4-1-2 一般電話機操作早見表

一般電話機を使用した操作早見表です。
なお、備考欄に「データ設定要」とある場合は、操作を行う前にサービスデータを設定しておく必要があります。この場合は、販売店にご相談ください。

一般電話機操作早見表（1/2）

機能名		操作手順	備考
外線へ電話をかける	オフフック空き外線自動捕捉発信	（待機状態）→オフフック→相手番号ダイヤル→→ ＃ または（タイムアウト）→（網発信）	
	任意外線自動捕捉発信	（待機状態）→オフフック→ ＃ 0 →相手番号ダイヤル→ ＃ または（タイムアウト）→（網発信）	・データ設定要 ＊1
内線へ電話をかける	内線発信	（待機状態）→オフフック→フッキング→→内線番号ダイヤル→（内線呼出）	
		（待機状態）→オフフック→内線番号ダイヤル→（内線呼出）	・データ設定要 ＊1
外線からの電話を受ける	一般着信／個別着信応答	（着信状態（呼出音鳴動中））→オフフック→通話	
	代理応答	（他の端末着信状態）→オフフック→フッキング→→ ＊ →通話	
		（他の端末着信状態）→オフフック→ ＊ →通話	・データ設定要 ＊1
	外線着信指定応答	（他の端末一般着信状態）→オフフック→→ ＃（外線番号 1 ～ 4 ）→通話	・データ設定要 ＊1 ＊2

＊1：Webデータ設定の「システム管理者モード」で「オフフック外線自動捕捉」を“無効”に設定します。販売店にお問い合わせください。

＊2：外線ボタンとダイヤルする番号との対応を以下に示します。

外線1ボタン ＃ 1　外線3ボタン ＃ 3
外線2ボタン ＃ 2　外線4ボタン ＃ 4

一般電話機操作早見表（2/2）

機能名		操作手順	備考
外線通話を保留・転送する	ダイヤル転送	（外線通話状態）→ フッキング → 内線番号ダイヤル → 内線呼出・通話 → オンフック（転送操作終了）	
	チェンジオーバー	（外線通話状態）→ フッキング → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → 通話 → フッキング → 外線との通話 → フッキング → 内線との通話	
	外線指定通話応答	（専用端末による外線保留中状態） → オフフック → [＃]（外線番号 [1] ～ [4] ） → 保留外線と通話	・データ設定要 ＊1、＊2
	パーク保留・応答 ＊3	保留操作 （外線通話状態） → フッキング → [＃] [9] → （パーク保留）	
		応答操作 （待機状態） → オフフック → [＃] [9] → パーク保留外線との通話	・データ設定要 ＊1
内線通話を他の内線に転送する	ダイヤル転送	（内線通話状態）→ フッキング → 内線番号ダイヤル → 内線呼出・通話 → オンフック（転送操作終了）	
	チェンジオーバー	（内線通話状態）→ フッキング → 内線番号ダイヤル → 内線呼出 → 通話 → フッキング → 保留中の内線との通話 → フッキング → 転送先内線との通話	
ドアホン着信に応答する		（専用端末にドアホン着信） → オフフック → [＃] [8] → （ドアホン通話）	・データ設定要 ＊1
ドアホンを呼び出す		（ドアホン空き状態） → [＃] [8] → （ドアホン通話）	・データ設定要 ＊1

＊1：Webデータ設定の「システム管理者モード」で「オフフック外線自動捕捉」を“無効”に設定します。販売店にお問い合わせください。

＊2：外線ボタンとダイヤルする番号との対応を以下に示します。

外線1ボタン [＃] [1]　外線3ボタン [＃] [3]
外線2ボタン [＃] [2]　外線4ボタン [＃] [4]

＊3：パーク保留は、一般電話機で外線通話を保留する機能です。
パーク保留は、同時にはシステムで1つになります。
パーク保留を専用端末の外線ボタンでも応答できます。
（特番応答は、一般電話機からのみ可能です）

4-2 専用端末単体設定操作早見表

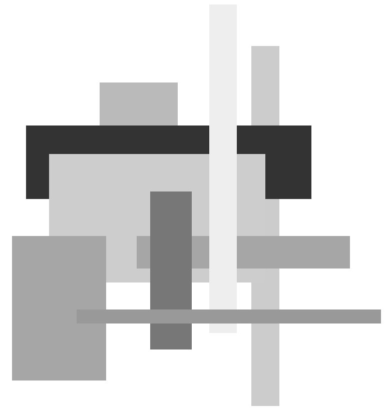
専用端末（有線端末と無線IP端末）から設定できる単体設定機能の操作早見表です。

専用端末単体設定操作早見表（1/2）

機　能　名	操　作　手　順	備　考
受話音量切替	（通話中）→ または →（受話音量切替）	
	（待機状態）→ ＋ 2ABC または ＋ 2ABC → または →（受話音量切替）	
スピーカ音量調節	（スピーカ受話中）→ または →（スピーカ音量調節）	
着信音量調節	（着信中）→ または →（着信音量調節）	
	（待機状態）→ ＋ 1 または ＋ 1 → または →（着信音量調節）	
LCD コントラスト調節	（待機状態）→ ＋ 3DEF または ＋ 3DEF → または →（LCDコントラスト調節）	
側音量の調節	（待機状態）→ ＋ ＋ 1 → または →（側音量の調節）	
マイク音量調節	（待機状態）→ ＋ ＋ 2ABC → または →（マイク音量調節）	
キータッチ トーン切替	（待機状態）→ ＋ ＋ 3DEF → または →（キータッチトーン切替）	

専用端末単体設定操作早見表（2/2）

機　能　名	操　作　手　順	備　考
ヘッドセット モード設定	（待機状態）→ ▷ + ◁ + 4 GHI → ▷ または ◁ →（ヘッドセットモード設定）	
IPアドレス確認	（待機状態）→ ▷ + ◁ + 5 JKL → ▷ または ◁ →（IPアドレス確認）	無線IP端末
VLAN情報	（待機状態）→ ▷ + ◁ + 6 MNO →（VLAN情報）	無線IP端末



付　録



◇◇

◇◇

付-1 ログの見方

ここでは、メインユニットが保持する以下のログについて、その見方を説明します。

・システムログ
・イベントログ
・無線IP端末通信状態ログ
・外線着信履歴
・通信接続／切断記録
・自動接続履歴

システムログ

【1】機能概要

メインユニットの電源立上げ履歴、保守記録、エラー記録等のシステムの履歴をWeb画面に表示します。

【2】表示例

日時	要因	内容
2001/05/23 08:42:05	PowerOn	正常
2001/05/21 14:05:45	保守	F/Wアップロード
2001/05/19 10:29:16	認証エラー	接続先[0311112222*12345]

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
日時	このエントリが発生した日時を表示します。
要因	このエントリが発生した要因を表示します。 （Power On、保守、認証エラー、デバイス異常）
内容	詳しい内容を表示します。 ・PowerOn　：正常、異常［Flash Read Error］／異常［Flash Write Error］ 電源投入時のセルフチェック結果が表示されます。 異常時は、不揮発性メモリ異常等が考えられます。 ・保守　：Web遠隔操作 ＲＡＳ機能により遠隔地からメインユニットを制御したことを意味します。 ：F/Wアップロード メインユニットのF/Wまたは無線IP端末F/Wのアップロードを行ったことを示します。 ・認証エラー　：接続先［電話番号＊サブアドレス］ ＲＡＳ接続時に、接続先認証でエラーになったことを示します。 ・デバイス異常：無線IP端末系、有線端末系、アクセスポイント 表示されたデバイスに異常があったことを示します。

【4】動作説明

（1）　装置状態を記録するためのログです。

（2）　最大５０件記録できます。

（3）　［更新］ボタンを押すと、現在のシステムログを表示します。（自動更新はしません）

イベントログ

【1】機能概要

端末および回線について、障害および復旧の履歴をWeb画面に表示します。

【2】表示例

日時	要因	内容
2001/05/23 08:42:05	端末障害	内線番号20
2001/05/22 14:05:45	端末復旧	内線番号20
2001/05/21 10:29:16	回線障害	回線番号2、レイヤ2

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
日時	このエントリが発生した日時を表示します。
要因	このエントリが発生した要因を表示します。 （端末障害／回線障害／端末復旧／回線復旧）
内容	詳しい内容を表示します。 ・端末障害　：内線番号20～27／30～37、ドアホン 表示された内線番号の端末に障害が発生したことを示します。 ・回線障害　：回線番号1／2、レイヤ1／2 表示された回線番号およびネットワーク階層で障害が発生したことを示します。 ・端末復旧　：内線番号20～27／30～37、ドアホン 表示された内線番号の端末障害が復旧したことを示します。 ・回線復旧　：回線番号1／2、レイヤ1／2 表示された回線番号およびネットワーク階層で発生した障害が復旧したことを示します。

【4】動作説明

（1）　装置に発生したイベントを記録するためのログです。
（2）　最大100件記録できます。
（3）　［更新］ボタンを押すと、現在のイベントログを表示します。（自動更新はしません）

付録

無線IP端末通信状態ログ

【1】機能概要

無線IP端末使用時の受信信号強度、受信信号品質の履歴をWeb画面に表示します。

【2】表示例

日時	要因	受信信号強度	受信信号品質
2001/05/25 12:00:00	強度	0	0
2001/05/24 13:12:59	品質	2	2
2001/05/23 22:35:16	強度	4	2
2001/05/22 08:45:32	品質	1	2

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
日時	このエントリが発生した日時を表示します。
送信元 IPアドレス ポート番号	自動接続の起因となるパケットを送信した送信元（パソコンなど）のIPアドレスおよびポート番号が表示されます。
宛先 IPアドレス ポート番号	自動接続の起因となるパケットが送信された先（インターネット上のホストなど）のIPアドレスおよびポート番号が表示されます。
プロトコル種別	自動接続の起因となるパケットのプロトコル種別が表示されます。

【4】動作説明

（1）　無線IP端末ごとの状態を記録するためのログです。

（2）　無線IP端末1台あたり60件記録できます。表示は無線IP端末ごとです。

（3）　［更新］ボタンを押すと、現在の無線IP端末通信状態ログを表示します。（自動更新はしません）

外線着信履歴

【1】機能概要

外線の一般着信については未応答の履歴、外線の個別着信については応答および未応答のの履歴をWeb画面に表示します。

【2】表示例

●一般着信未応答の画面例

日時	発信番号	回線番号
2001/05/23 08:35:12	0123456789	回線1
2001/05/22 09:05:34	0123456789	回線1
2001/05/21 10:15:09	0123456789	回線2
2001/05/21 08:45:38	0123456789	回線2
2001/05/20 22:10:06	0123456789	回線1

●端末別の画面例

日時	発信番号	回線番号	応答有無
2001/05/23 08:38:00	0123456789	回線1	有
2001/05/22 08:50:56	0123456789	回線1	有
2001/05/21 11:08:12	0123456789	回線1	無
2001/05/21 08:44:53	0123456789	回線1	有
2001/05/20 19:16:34	0123456789	回線1	有

【3】表示項目について

－　一般着信未応答　－

表示項目	内　　容
日時	発生した日時を表示します。 一般着信した着信のうち、未応答だった場合に記録されます。
発信番号	発信元の電話番号が表示されます。
回線番号	着信した回線番号が表示されます。

－　端末別　－

表示項目	内　　容
日時	発生した日時を表示します。 端末別着信について応答／未応答の情報が端末ごとに記録されます。
発信番号	発信元の電話番号が表示されます。
回線番号	着信した回線番号が表示されます。
応答有無	応答したかどうかを表示します。

【4】動作説明

（1）　外線着信時のデータを記録した履歴です。
（2）　一般着信未応答では、未応答だった場合に記録されます。
（3）　端末別では、応答／未応答共に記録されます。
（4）　一般着信に対して応答した場合、応答した端末にその記録が残ります。
（5）　端末別は8件／端末、一般着信未応答は32件（システム）記録できます。
（6）　［更新］ボタンを押すと、現在の外線通話履歴を表示します。（自動更新はしません）

通信接続／切断記録

【1】機能概要

通信の接続／切断およびPPP状態の履歴をWeb画面に表示します。

【2】表示例

日時	要因	回線種別	内容
2001/09/26 11:25:03	切断	ISDN回線1 B1	通信時間[13秒] 料金[0円] 理由[#16(正常切断)]
2001/09/26 11:24:55	切断	ISDN回線1 B1	LCP down
2001/09/25 21:01:33	切断	WAN	PPPoE down 理由[こちらから切断]

付録

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
日時	このエントリが発生した日時を表示します。
要因	このエントリが発生した要因を表示します。 発信／発信失敗／着信／着信失敗／切断／ＰＰＰ
回線種別	使用したISDN回線番号もしくはWANを表示します。ISDN回線の場合、使用したBチャネルも表示します。 ISDN回線1、ISDN回線2、WAN Ｂ1、Ｂ2（ISDN回線使用時のみ）
内容	詳しい内容を表示します。 発信　　：発信者番号＊サブアドレス データ通信接続時の発信電話番号とサブアドレスを表示します。 発信失敗：発信者番号＊サブアドレス、理由コード 理由コードは、「TTC標準JT-Q850(JT-Q931)理由表示情報要素」に準拠し、コード番号で表示します。また、メインユニットからの切断理由も表示されます。 着信　　：発信者番号＊サブアドレス データ通信接続時の相手発信者番号とサブアドレスを表示します。 着信失敗：発信者番号＊サブアドレス、理由コード 理由コードは、「TTC標準JT-Q850(JT-Q931)理由表示情報要素」に準拠し、コード番号で表示します。また、メインユニットからの切断理由も表示されます。 切断　　：通信時間、料金、切断理由コード 料金は、データ通信切断時に網から通知される情報を表示します。 理由コードは、「TTC標準JT-Q850(JT-Q931)理由表示情報要素」に準拠し、コード番号で表示します。また、メインユニットからの切断理由も表示されます。 ＰＰＰ　：ＰＰＰエラー／LCPup／LCPdown／IPCPup／IPCPdown／MPup／MPdown／BODup／BODdown／MP+BODup／MP+BODdown／切断理由／認証ユーザID／認証タイムアウト ＰＰＰ（Point to Point）通信で状態変化があった場合、その状態が表示されます。また、メインユニットからの切断理由も表示されます。 PPPoE up　：手動接続／自動接続 PPPoE エラー：切断理由 PPPoE down ：切断理由

【4】動作説明

（1）　通信の接続／切断およびＰＰＰの状態を記録するためのログです。

（2）　最大２００件記録できます。

（3）　［更新］ボタンを押すと、現在の通信接続／切断記録を表示します。（自動更新はしません）

【5】TTC標準JT-Q850(JT-Q931)理由表示情報要素説明

番号	理由種別	定　義
#1	欠番	番号はフォーマット上有効であったが、現在欠番のため、発信ユーザが要求した相手に着信できないことを示します。
#2	指定中継網へのルートなし	この理由表示の送信元の装置が、認識不可能な特殊な中継網を通して呼をルーチングする要求を受けたことを示します。この理由表示の送信元の装置は、その中継網が存在していないか、あるいは、それが存在したとしても、この理由表示の送信先の装置に対してサービスをしていない特殊な中継網であるため、その中継網を認識しません。
#3	相手へのルートなし	呼をルーチングされた網が、着信の要求を受けないため呼を着信ユーザに届けることができないことを示します。
#6	チャネル利用不可	チャネル選択の結果として選択されたチャネルが送信端末に対して利用不可であることを示します。
#7	呼が設定済みのチャネルへ着呼	ユーザに着呼があり、その着呼が同様の呼(例えば、パケットモードのX.25バーチャルコール)として、ユーザが既に設定しているチャネルに接続されることを示します。
#16	正常切断	呼に関係するユーザのうちの１人が、呼の切断復旧を要求したことにより、呼が切断されることを示します。正常状態では、この理由表示の生成源は網ではありません。
#17	着ユーザビジー	着信ユーザが、もう一つの呼を受け付けられないことを示します。この場合、ユーザ装置では、着信呼に対して通信の整合性がとれている必要があります。
#18	着ユーザレスポンスなし	相手ユーザが呼設定のメッセージに対して規定された割当て時間内に「呼出中」か「応答」かを示すメッセージを返送しない時に使用します。
#19	着ユーザ応答なし（呼出中）	呼出の通知はあったが、その後規定された時間内に応答の通知がこなかった場合に使用します。
#20	加入者不在	移動局が（無線パスを通して信号手順によって）ログオフされているか、または無線交信が着移動局と行えない（例えば、障害、圏外又は、電源断）ことを示します。

番号	理由種別	定　　義
#21	着信拒否	この理由表示を送信した装置がビジーでも不整合でもなく、呼を受付可能であるにもかかわらず、呼を受け付けないことを示すのに用います。この理由表示は、付加サービスの抑止条件により呼が切断されることを示すために網によって生成されることがあります。
#22	相手加入者番号変更	発信ユーザによって示された着信番号がもはや割り当てられていない時、発信ユーザに通知されるものです。
#26	選択されなかったユーザの切断復旧	ユーザが着信呼を得られなかったことを示します。
#27	着側インターフェース起動不可	着信側インターフェースが機能的に正常でなかったため、発信ユーザが要求した相手ユーザへの着信が出来なかったことを示します。この「機能的に正常でない」ということは信号メッセージが相手ユーザに届かないことを意味しています。例えば、相手ユーザインターフェースの物理レイヤもしくはデータリンクレイヤの故障とか、ユーザ装置がオフラインの場合等です。
#28	無効番号フォーマット（不完全番号）	着番号が無効なフォーマットか、もしくは不完全なために、相手ユーザへの着信ができないことを示します。
#29	ファシリティ拒否	ユーザによって要求されたファシリティが、網で提供できない場合に返します。
#30	状態問合への応答	「状態表示」メッセージを生成した理由が、これを生成する以前に「状態問合」メッセージを受信したことによる場合に、この「状態表示」メッセージの中に含まれます。
#31	その他の正常クラス	正常クラスの他の理由で表せない場合に正常状況を報告するためにのみ使用します。
#34	利用可回線／チャネルなし	呼を取り扱うための利用可能な適当な回線／チャネルが、現在ないことを示します。
#38	網故障	網が機能的に正常でなく、その状態が比較的長時間続きそうであることを表示します。例えば、すぐに再発呼しても受付けられそうもない場合です。
#41	一時的失敗	網が機能的に正常でなく、その状態が長時間は継続しそうもないことを示します。例えば、ユーザがほぼ即時に再発呼が望める場合です。

番号	理由種別	定　　義
#42	交換機輻輳	この理由を発生した交換装置が高トラヒックで輻輳していることを示すのに用います。
#43	アクセス情報廃棄	網が要求されたアクセス情報（ユーザ・ユーザ情報、低位レイヤ整合性、高位レイヤ整合性もしくは詳細情報の中に示されるサブアドレス等）を相手ユーザに届けられなかったことを示します。
#44	要求回線／チャネル利用不可	要求端末により通知された回線またはチャネルが、相手側のインターフェースで提供できない場合に返します。
#47	その他のリソース使用不可クラス	リソース使用不可クラスの中の他の理由を適用できない場合のみ、リソース使用不可イベントとして報告するために使用します。
#49	サービス品質(QOS)利用不可	要求されたQOS（勧告X．213で定義されている）が提供されないことを報告するために使用します。（例えば、スループット又は伝達遅延が提供されない場合）
#50	要求ファシリティ未契約	ユーザがファシリティを提供する網に対して必要な管理上の手続きを終えていないため、要求された付加サービスが網によって提供されないことを示します。
#57	伝達能力不許可	理由表示を生成した装置で実現している伝達能力であるが、ユーザに許可していない伝達能力をユーザが要求したことを示します。
#58	現在利用不可伝達能力	理由表示を生成した装置で実現している伝達能力であるが、現在利用不可である伝達能力をユーザが要求したことを示します。
#63	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス	サービス利用不可クラスの他の理由表示が適用できない場合にのみ、サービス利用不可イベントを報告するのに使用します。
#65	未提供伝達能力指定	理由表示を送信した装置が要求された伝達能力をサポートしていないことを示します。
#66	未提供チャネル種別指定	理由表示を送信した装置が要求されたチャネル種別をサポートしていないことを示します。
#69	未提供ファシリティ要求	理由表示を送信した装置が要求された付加サービスを提供しないことを示します。
#70	制限ディジタル情報伝達能力のみ可能	ある装置が非制限ディジタル情報伝達能力を要求した場合、この理由表示を送信する装置が要求された伝達能力のうち制限ディジタル情報伝達能力のみをサポートしていることを示します。

番号	理由種別	定　　義
#79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス	サービス未提供クラスの他の理由が適用できない場合にのみ、サービス未提供を報告するのに使用します。
#81	無効呼番号値使用	理由表示を送信した装置がユーザ・網インターフェース間で現在使用しているのと異なる呼番号のメッセージを受信したことを示します。
#82	無効チャネル番号使用	理由表示を送信した装置が活性化していないチャネル番号の使用要求を受信したことを示します。例えば、ユーザが1から12までのチャネルを契約しているにもかかわらず、ユーザ装置または網がチャネル番号13から23の使用を試みた場合等です。
#83	指定された中断呼識別番号未使用	中断された呼に用いられていた呼識別番号とは異なった呼識別番号を持つ呼の再開が試されたことを示します。
#84	中断呼識別番号使用中	網が呼の中断要求を受信したが、この中断要求は呼の再開が行われるかもしれないインターフェース領域内の中断呼識別としてすでに使用中である呼識別（なにもしない場合を含む）を含んでいたことを示します。
#85	中断呼なし	網が呼の再開要求を受信したことを示します。しかし、呼の再開要求の含んでいる呼識別が、呼の再開が行われるかもしれないインターフェース領域内の中断された呼には現在使用されていないことを示します。
#86	指定中断呼切断復旧済	網が再開要求を受信したが、この再開要求は、一度中断呼として通知された呼識別を含んでおり、その中断呼が（リモートユーザの切断復旧またはタイムアウトにより）すでに切断復旧されていることを示します。
#87	ユーザはCUGのメンバでない	CUG（グループセキュリティ）機能のエラーを示します。
#88	端末属性不一致	理由表示を送信した装置が適合しえない低位レイヤ整合性、高位レイヤ整合性、あるいは他の整合性属性（例：データ速度）をもつ呼設定の要求を受信したことを示します。
#91	無効中継網選択	中継網識別を受信したが、それが定義されているように、正しくないフォーマットであることを示します。

付録

番号	理由種別	定　　義
#95	その他の無効メッセージクラス	無効メッセージクラスの他の理由が適用できない場合にのみ、無効メッセージクラスのイベントを報告するために用います。
#96	必須情報要素不足	理由表示を送信した装置がメッセージ受信時に、メッセージ内に存在しなければならない情報要素（必須情報要素）が不足していたことを示します。
#97	メッセージ種別未定義または未提供	理由表示を送信した装置が、その装置において未定義のメッセージ、または定義されているが未提供であるような認識できないメッセージ種別を持つメッセージを受信したことを示します。
#98	呼状態とメッセージ不一致又はメッセージ種別未定義又は未提供	この理由表示を送信した装置が、処理において特定な呼状態の間に受信したメッセージが許可しうるメッセージでないか、整合していない呼状態を示す「状態表示」を受信したことを示します。
#99	情報要素未定義又は未提供	理由表示を送信した装置の情報要素識別子が未定義、または定義されていても未提供である情報要素を含んだメッセージを受信した場合に用います。なおその情報要素はこの理由を送出した装置が、メッセージの処理を行うために必要なものでない場合に限ります。
#100	情報要素内容無効	理由表示を送信した装置が提供している情報要素であるが、情報要素の１つまたは複数フィールドが提供していないコードである情報要素を受信したことを示します。
#101	呼状態とメッセージ不一致	受信したメッセージが呼状態と不一致の場合に用います。
#102	タイマ満了による回復	レイヤ3仕様のエラー処理手順に従い、タイマが満了したことにより手順が開始されたことを示します。
#111	その他の手順誤りクラス	手順誤りクラスの他の理由が適用できない場合にのみ手順誤りイベントを報告するのに用います。
#127	その他のインタワーキングクラス	動作するための理由表示が存在しないような網でのインタワークが発生したことを示します。したがって、送信すべきメッセージのための正確な理由表示は確認できません。

付録

【6】メインユニット回線切断理由説明

表示されるメッセージ	説　　明
連続回線捕捉	相手を呼び出したが相手が受けなかったため切断したことを表します。
最大接続制限	1回の連続接続時間が設定値を超えたため切断されたことを表します。
無通信監視	無通信の時間間隔が設定値を超えたため切断されたことを表します。
BOD制御	BOD制御で切断されたことを表します。
ユーザ操作	ユーザによる回線操作により切断されたことを表します。
着信禁止	着信が許可されていないため切断したことを表します。
番号不一致	着信時の発信者番号あるいは着信番号で番号不一致があるため切断されたことを表します。
最大接続回線数	着信時の最大接続回線数が設定値を超えたため切断されたことを表します。
認証エラー	ユーザIDもしくはパスワードが相手と一致していないことを表します。
認証プロトコル不一致	選択した認証方式が相手と一致していないことを表します。
再送タイムアウト	メインユニットからの接続要求に対して相手より応答がないことを表します。
プロトコル拒否	メインユニットが指定したプロトコルを相手に拒否されたことを表します。
サービス名エラー	PPPoE接続で要求したサービスがサーバにより拒否されたことを表します。
ACシステムエラー	PPPoE接続でサービスがサーバにより拒否されたことを表します。この場合、サーバが高トラフィックで輻輳(ふくそう)している可能性があります。
致命的エラー	PPPoE接続で回復不能なエラーが発生したことを表します。
PADI再送タイムアウト	PPPoE接続でPADIタイムアウトが発生しました。接続先にサーバが存在しないかまたは、サーバまでの区間の回線状態が良くない可能性があります。
PADR再送タイムアウト	PPPoE接続でPADRタイムアウトが発生しました。サーバまでの区間の回線状態が良くない可能性があります。

自動接続履歴

【1】機能概要

自動接続された場合にその起因となったパケットを記録、Web画面へ表示します。

【2】表示例

日時	送信元		宛先		プロトコル種別
	IPアドレス	ポート番号	IPアドレス	ポート番号	
2001/10/26 11:25:03	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)
2001/10/26 11:20:51	194.12.34.78	555	172.65.43.21	500	UDP(17)
2001/10/26 10:54:29	194.12.34.56	-	172.98.76.54	-	ICMP(1)

【3】表示項目について

表示項目	内　　容
日時	このエントリが発生した日時を表示します。
送信元 IPアドレス ポート番号	自動接続の起因となるパケットを送信した送信元（パソコンなど）のIPアドレスおよびポート番号が表示されます。
宛先 IPアドレス ポート番号	自動接続の起因となるパケットが送信された先（インターネット上のホストなど）のIPアドレスおよびポート番号が表示されます。
プロトコル種別	自動接続の起因となるパケットのプロトコル種別が表示されます。

【4】動作説明

（1）　自動接続された場合にその起因となったパケットを記録した履歴です。
（2）　最大10件記録できます。
（3）　[更新] ボタンを押すと、現在の自動接続履歴を表示します。（自動更新はしません）

付録

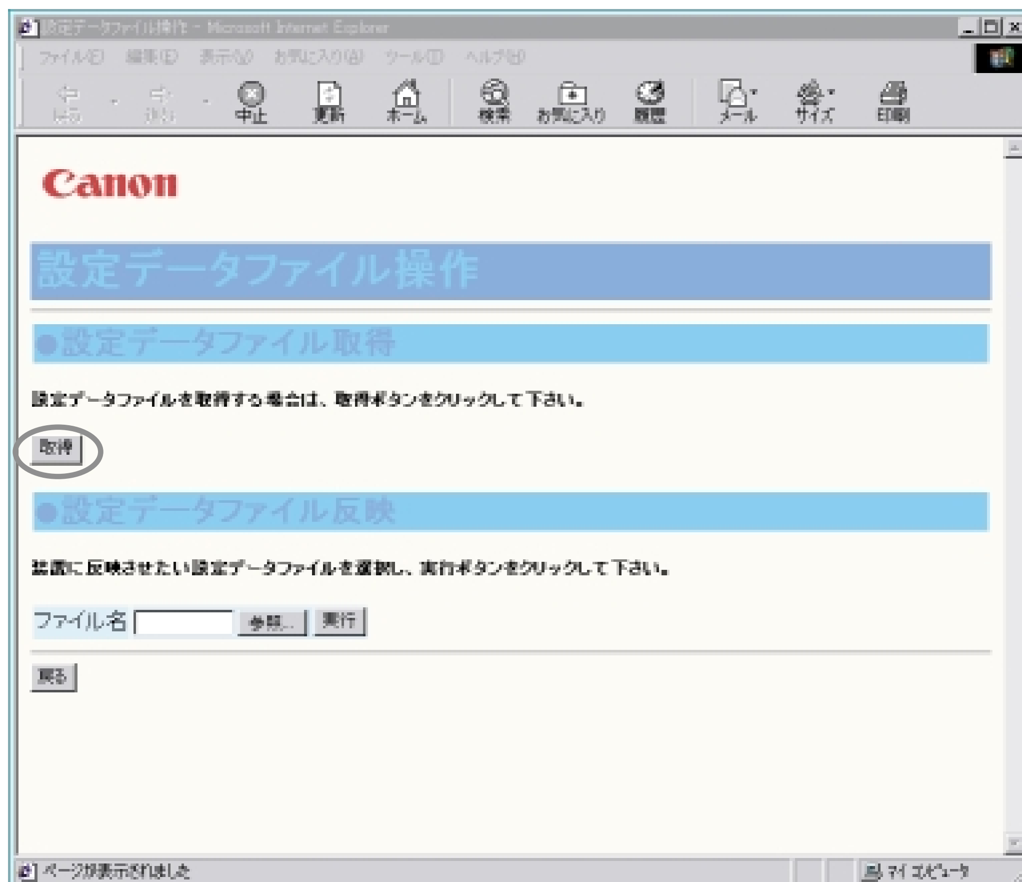
付-2 設定データのバックアップ

　Webからメインユニットに設定した内容は、バックアップファイルとしてPC等へ保存できます。何らかの原因で、メインユニットの設定データが消えたり、壊れた場合、保存しておいたファイルをPCからアップロードして反映すれば、元の設定に戻すことができます。ただし、ログや履歴、課金情報は、バックアップできません。

1　設定データファイル化の手順

手順1：次の操作で、「設定データファイル操作」画面を開きます。

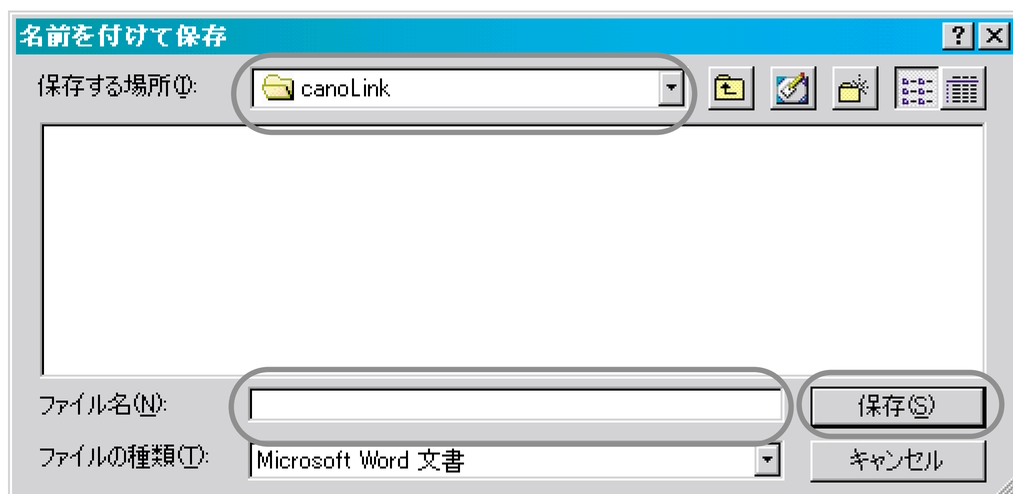
「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「保守」→「設定データファイル操作」



付録

手順2：「取得」ボタンをクリックします。

◆「名前を付けて保存」の画面が表示されます。

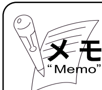


手順3：保存する場所（ディレクトリ、フォルダ）を選択します。

手順4：ファイル名を入力します。

手順5：「保存」ボタンをクリックします。

これで、設定データのバックアップファイル作成は完了です。



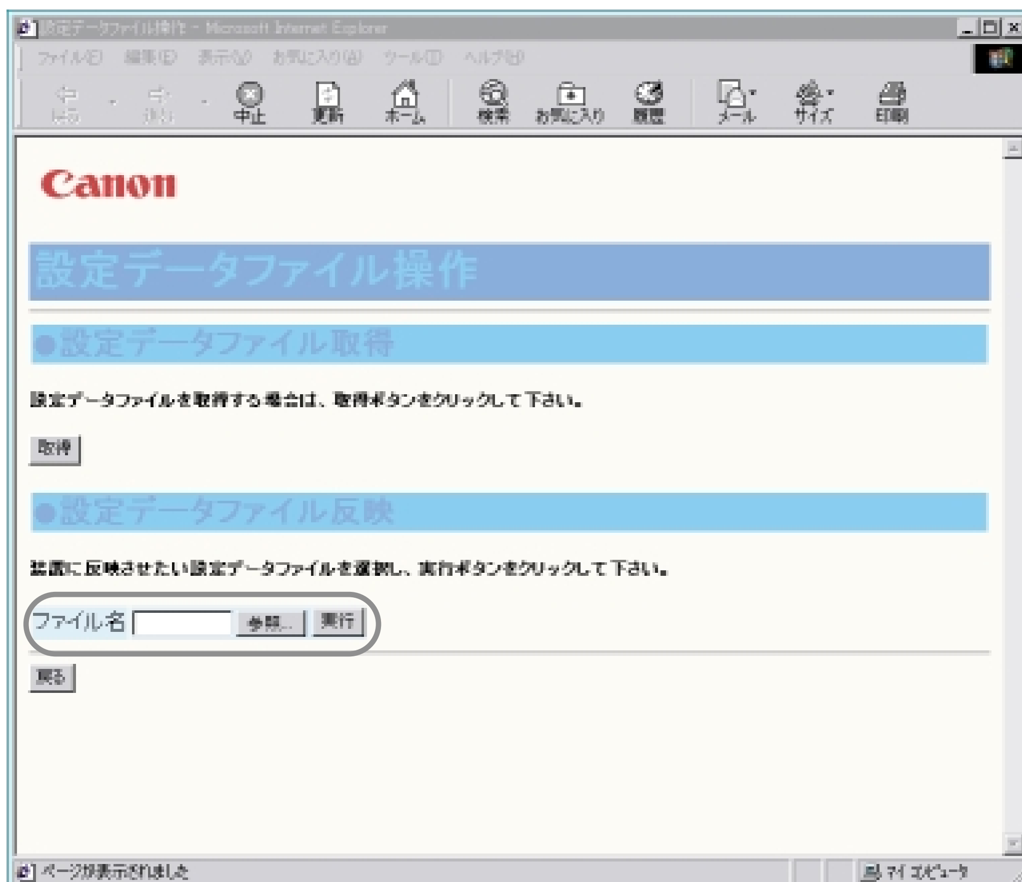
◇設定データのファイル容量は。約200Kバイトです。（バージョンアップ等により容量か変わる可能性があります）

付録

2 バックアップした設定データの反映手順

手順1：次の操作で、「設定データファイル操作」画面を開きます。

「TOP画面」→「ユーザ管理者モード」→「保守」→「設定データファイル操作」



付録

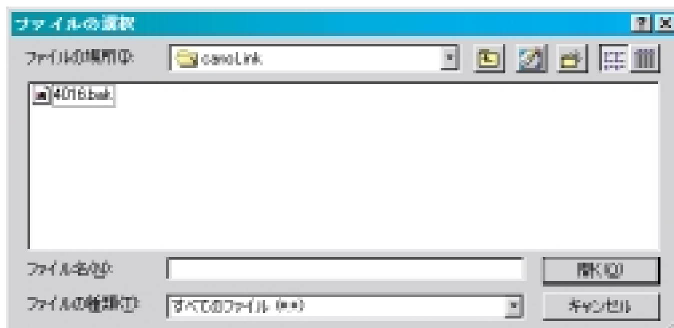
手順2：バックアップファイル名を入力します。



◇ファイル名が分からない場合は、次の手順でファイル名を指定してください。

①［参照］ボタンをクリックします。

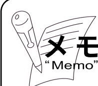
◆「ファイル選択」画面が表示されます。



②ディレクトリとフォルダを指定し、ファイルを選択します。

③［開く］ボタンをクリックします。

◆ファイル名が入力エリアに表示されます。



◇「名前を付けて保存」および「ファイルを選択」の画面は、OSのバージョン等によって多少表示スタイルが変わります。

手順3：［実行］ボタンをクリックします。

これで、バックアップした設定データは、メインユニットへ反映されました。

付-3 不要発呼（意図しない発呼）があった場合

自動接続履歴の送信元IPアドレス、宛先IPアドレスあるいはアクセス時間（もしくは間隔）などからどの機器（パソコンなど）あるいはどのアプリケーションがパケットを送出しているかを調べ原因を究明してください。

1 自動接続履歴から原因を考える

日時	送信元		宛先		プロトコル種別
	IPアドレス	ポート番号	IPアドレス	ポート番号	
2001/10/26 11:25:03	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)
2001/10/26 11:20:51	194.12.34.78	555	172.65.43.21	500	UDP(17)
2001/10/26 10:54:29	194.12.34.56	-	172.98.76.54	-	ICMP(1)
2001/10/26 09:36:28	194.12.34.56	8080	172.98.76.54	8080	TCP(6)

日　時：　パソコン等を立ち上げた時間と関係している場合、起因となっているパケットを送出した機器の特定、あるいは上記などの場合その間隔から定期的にインターネットへアクセスするソフトウェアの特定

送信元ＩＰアドレス：　自動接続の起因となったパケットを送出したパソコン等の特定

宛先ＩＰアドレス：　同じところへアクセスしていれば共通で使用しているソフトウェア

付録

現　象	考えられる原因
定期的に自動接続する	**メールソフト** Outlook Express等のメールソフトには新着メールを定期的にチェックする機能があります。定期的にチェックするように設定していると定期的にインターネットのメールサーバにアクセスしようとし自動接続が発生します。必要でなければ手動による送受信でお使いください。
	OSの自動アップデート機能 OSの中には、インターネットサーバより自動でアップデートする機能のものがあります。不要であれば手動でアップデートするように変更してください。
	Internet Explorerチャンネル購読 チャンネルを購読している場合は、設定された間隔で内容更新のためインターネットへアクセスします。購読する場合、更新間隔などを良く考えてご使用ください。
	バナー広告 ホームページで掲載されているバナー広告の中には、定期的に自動更新するものがあります。そのようなページを開いたまま放置すると定期的にインターネットへアクセスを続け、その度に自動接続されます。 見終わったらブラウザは閉じるようにしてください。
パソコンを起動するたびに自動発信する	**アクティブデスクトップ** WindowsのデスクトップにWebページを設定しているとパソコンを起動するたびにインターネットへアクセスするため自動接続します。必要でなければ設定を解除してください。
	起動時に自動で開くソフトウェアがある場合 スタートアップに登録されているソフトウェアの設定を確認してください。ソフトウェアのもつ自動アップデート機能などにより自動接続されることがあります。 以下に自動接続する可能性のあるソフトウェアを示します。 ・Internet Explorer：自動アップデート機能 ・Windows Media Player：自動アップグレード他 ・Real Player：アップグレード情報取得 ・Netscape Communication：messengerによる広告ページ読込み
頻繁に自動接続する	**パソコンのＤＮＳ設定値にインターネット上のＤＮＳ** サーバのＩＰアドレスを設定していると、ＤＮＳへの問い合せがあるたびに自動接続します。

付録

付-4 困ったときには

1 データ系のトラブルと対処方法

以下に、データ系のトラブルとその原因、対処方法を示します。

トラブル	原因	対処方法
メインユニットにアクセスできない	メインユニットの電源が入っていない	メインユニットの電源を入れてください。
	パソコンとメインユニットが接続されていない	メインユニットのEtherポート（HUB）とパソコンを正しく接続してください。
	パソコンと無線IP端末が接続されていない	無線IP端末のPCポートにパソコンを正しく接続してください。
	パソコンのTCP/IP関連の設定が違っている	パソコンのTCP/IP関連の設定を正しく設定してください。
プロバイダに接続できない	ISDN回線がメインユニットの回線1/2ポートに正しく接続されていない	メインユニットの回線1/2ポートに正しく接続してください。
	プロバイダのアクセスポイントの電話番号が違っている	プロバイダのアクセスポイントの電話番号を正しくデータ設定してください。
	ユーザID，パスワードが違っている	プロバイダから指定された「ユーザID」「パスワード」を正しくデータ設定してください。
	メインユニットのISDN回線がすべて使用中	しばらく待ってから、接続しなおしてください。
	プロバイダのアクセスポイントがビジーである	しばらく待ってから、接続しなおしてください。
自動発呼ができない	通話でBチャネルが全て使用中	通話が終了し、Bチャネルが空いてから再度実行してください。
手動接続ができない	認証の設定が間違っている（例：お互いがサーバモードになっている）	認証の設定を正しく設定してください。

付録

トラブル	原因	対処方法
自動切断ができない	パソコン上のアプリケーションが自動的に同一LAN以外の宛先へパケットを送信している	パソコンのアプリケーションを終了してください。
	インターネットから意図しないパケットを受信している	無通信切断監視対象パケットの設定を「出力パケット」にしてください。
インターネットにアクセスできない	メインユニットのプロバイダ関係設定が違っている	プライマリDNSサーバアドレス、セカンダリDNSサーバアドレスをプロバイダの指定通り正しくデータ設定してください。 セカンダリDNSサーバアドレスの指定がない場合は入力しなくてもかまいません。
	使用アプリケーションの設定が違っている	お使いのＷＷＷソフト，メールソフト等を正しく設定してください。
データ通信中に切断されてしまう	無通信切断時間が設定されている	無通信切断時間が設定されていると設定された時間、通信がないと自動的に回線を切断します。 時間を変更あるいはこの機能を無効にするには「システム管理者モード」で行えます。
	最大接続時間が設定されている	最大接続時間が設定されていると1回の接続で設定した時間が来ると自動的に回線を切断します。時間を変更あるいはこの機能を無効にするには「システム管理者モード」で行えます。
勝手に自動接続されてしまう	パソコン上のアプリケーションが自動的に同一LAN以外の宛先へパケットを送信している	パソコンのアプリケーションを終了してください。
	NetBIOSパケットが出力されている	「NetBIOSパケットによる自動発信抑制」の設定を「有効」にしてください。

トラブル	原因	対処方法
ＰＣのＩＰアドレスをDHCPによる自動付与から手動設定にするとインターネットにアクセスできなくなった	PCのデフォルトゲートウェイとDNSの設定がされていない	ＰＣのデフォルトゲートウェイとDNSの設定をおこなってください。
パソコンがネットワークに接続できない	DHCPサーバのプールIPアドレスの個数不足（デフォルトは１２コ）でIPアドレスが自動付与されない	プールアドレスを増やしてください。
	無線IP端末配下に接続された付与済みのPCを他の無線IP端末配下に移動させたり、他のシステムで使用していたPCを新規に接続しているうちにIPアドレスが重複した	パソコンのIPアドレスをクリアして、パソコンを再起動してください。
WANポート経由でプロバイダ接続できない	WANランプが消灯している場合は、ケーブルが接続されていない	ケーブルを正しく接続してください。
	WANポートのデータ設定が誤っている	データ設定を正しく行ってください。

付録

2 電話系のトラブルと対処方法

以下に、電話系のトラブルとその原因、対処方法を示します。

トラブル	原因	対処方法
すべての端末が使用できない	メインユニットの電源が入っていない	メインユニットの電源を入れてください。
特定の有線端末が使用できない	メインユニットの接続ケーブルの配線が違っている	メインユニットの接続ポートに正しく接続されているか確認してください。
有線PF端末が使用できない（発信音が聞こえない）	メインユニットの停電ポートに接続されていない	メインユニットの停電ポートに接続してください。
	有線PF端末のラインポートに8極8芯接続ケーブルが接続されていない	有線PF端末のLINEポートに接続してください。
	多機能／停電切替スイッチの設定が違っている	多機能／停電切替スイッチを停電側に切替えてください。
すべての無線IP端末が使用できない（発信音が聞こえない）	メインユニットが電波の届かない場所に設置している	メインユニットを電波の届く見通しのよい場所に設置するか、メインユニットに延長アンテナを取り付ける、あるいは外付アクセスポイントをお使いください。
特定の無線IP端末が使用できない（発信音が聞こえない）	無線IP端末の電源が入っていない	無線IP端末にACアダプタを接続してください。
	メインユニットへの無線IP端末の登録が正常に行われていない	Webで正常にデータ登録されているか確認してください。
	メインユニットからの電波の届かない場所に設置されている	無線IP端末の設置場所を変えるか、メインユニットに延長アンテナを取り付ける、あるいは外付アクセスポイントをご使用ください。
一般電話機が使用できない	メインユニットの電話1/2ポートに接続されていない	メインユニットの電話1/2ポートに接続してください。

付録

トラブル	原因	対処方法
外線発信ができない	ISDN回線がメインユニットの回線1/2ポートに正しく接続されていない	メインユニットの回線1/2ポートに正しく接続してください。
	極性切替スイッチの設定が違っている	極性切替スイッチを確認してください。
	DSUスイッチの設定が違っている	DSUスイッチを確認してください。
ドアホンユニットが使用できない	メインユニットのデータ設定がされていない、もしくはメインユニットのデータ設定と接続ポートが異なっている	メインユニットのデータ設定を行い、メインユニットのデータ設定と接続ポートを一致させてください。
	ドアホン子機が接続されていない	ドアホンユニットの端子板に接続してください。
	メインユニットの接続ポートに接続されていない	メインユニットの接続ポートに正しく接続されているか確認してください。

付録

付-5 用語説明

本書内で使用している各種用語について説明します。

数字順

1

100BASE-TX

IEEE(米国電気電子技術者協会)802.3uで規格化されている100MbpsのLAN伝送路仕様を言います。Fast Ethernetとも呼ばれています。カテゴリ5のUTPケーブルを使用した伝送路を規定しています。

10BASE-T

IEEE(米国電気電子技術者協会)802.3で規格化されている10MbpsLANの伝送路仕様の一つ。より対線を使って1対で10Mbpsの伝送を行う伝送路を規定しています。

10BASE-T/100BASE-TXケーブル

10BASE-Tではカテゴリ3以上の2対4芯UTP(Unshielded Twisted-Pair wire:シールドなしツイストペアケーブル)を、100BASE-TXではカテゴリ5の2対4芯UTPケーブルを使用します。

アルファベット順

A

ADSL（Asymmetric Digital Subscriber Line）

非対称デジタル加入者線。既存の電話回線を利用するが、音声電話に使用しない高い周波数を利用することで、高速のデータ通信を可能にする技術です。

AP（Access Point）

無線LANにおけるインフラストラクチャモードでの通信の中継点となるポイントです。

ARP

TCP/IPプロトコル群のプロトコルの一つで、IPアドレスからMACアドレスを導き出すのに用いられます。

B

Bch（Bチャネル）

INSネット64サービスの文字・画像・音声などの情報をやり取りするための情報チャネルです。Bチャネル1本で64kbpsの伝送能力があります。canoLink 4016ieは、2本のBチャネルを束ねて使うことにより最高128kbpsの伝送能力を出すことができます。

BOD（Bandwidth On Demand：帯域幅調整）機能

BOD機能は、必要に応じてBチャンネルの本数を動的に調整する機能のことです。

C

CATV（Cable Television）

ケーブルテレビのこと。もともとは共同受信アンテナ・テレビジョン（Community Antenna Television）の略で特定の地域内で番組を配信するシステムです。1940年代にアメリカで始まった。地上波放送、CATV独自番組のほか、BSやCSの番組も配信されています。インターネット接続やビデオ・オン・デマンドなど、次世代メディアとしても注目されています。

CHAP（Challenge Handshake Authentication Protocol）

PPP接続時に利用される認証プロトコル。サーバーから受け取るランダムキーを基に、クライアントがPPP接続ソフトでパスワードを暗号化、サーバーに送り返します。

CTI（Computer Telephony Integration）

INSネット64サービスの文字・画像・音声などの情報をやり取りするための情報チャネルです。Bチャネル1本で64kbpsの伝送能力があります。canoLink 4016 ieは、2本のBチャネルを束ねて使うことにより最高128kbpsの伝送能力を出すことができます。

D

Demand RIP／RIP2

ダイナミックルーティングの一種で、経路情報に変更が生じた時のみ経路情報の交換を行います。

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）

クライアントが起動したときに動的にIPアドレスを割り当て、終了時にIPアドレスを回収するためのプロトコルのことです。各クライアントは起動時にDHCPサーバにアクセスしてIPアドレスを取得するため、一台一台にIPアドレスを設定する手間を省くことができます。

DID（Direct Inward Dialing）

外線からの着信時、相手がダイヤルした番号（着番号）に対応した端末を呼出すことです。INSネット64の着番号通知サービス（ダイヤルインサービス等）を契約した場合、ISDN網から着信時、着番号として通知されます。

DIL（Direct In Line）

外線からの着信時、着信外線（ISDN回線）に指定しておいた端末を直接（個別着信）呼出すことです。

DNS（Domain Name System）

DNSは、URLやメールアドレスで使われるドメイン名を管理するシステムのことです。IPアドレスとドメイン名やホスト名の対応関係を登録して問合せに応えるものです。

D

DS-SS（Direct　Sequence　Spread　Spectrum）

DS-SS（Direct Sequence Spread Spectrum）は、本来軍事用に開発されたもので、データを電波として送信する際に、通常の決まった周波数の電波だけでなく、チャネルで決められた周波数帯域で電波を細かく別々の周波数に細分化して送信する技術です。

これは特定の周波数で電波を送り続けるのではなくチャネル範囲内で細かく周波数を変えて一つの周波数で送信するデータ量を小さくし、様々な周波数で小さいデータを大量に送信するものです。

この技術は、ノイズに強いばかりではなく、セキュリティ確保にも有効です。ノイズに強い理由は、単一周波数でデータを送り続けた場合、もしその周波数と同じノイズが発生した場合、通信品質が低下するが、様々な周波数の場合、特定周波数のノイズによりそのデータが欠けても他の周波数でもデータが送られているのでノイズの影響が少なくなります。

E

ESSID（Extended Service Set ID）

無線LANで構築したネットワークを一意に識別するためのIDのことです。

ESSIDを使うことにより、このIDを知らないユーザからのアクセスを防ぐことができます。ただし、製品によっては、ESSIDに“ ANY ”を用いるとESSIDが一致していないAPにも接続できるものがあり、セキュリティ上“ MACフィルタリング ”、“ WEP ”を用いる必要があります。

Ethernet

1976年にXerox社が開発したLANの通信方式のことです。使用するケーブルによって「10BASE-5」「10BASE-2」「10BASE-T」「10BASE-F」等のタイプがあります。

F

FTP（File Transfer Protocol）

TCP/IPベースのネットワークで使われるファイル転送プロトコルです。

H

HTML（Hyper Text Markup Language）

1HTMLはSGML（Standard Generalized Markup Language）の書式を踏襲したマークアップ言語の１つ。HTMLはWWWサーバでのドキュメントを記述するための言語として広く知られています。WWWサーバのドキュメントでは、このHTMLにより文書の構造や体裁などの要素（SGMLやHTMLでは、これらをエレメントと呼んでいる）を定義し、イメージやURLを貼り込んで、ハイパーテキストを実現しています。

HTTP（HyperText Transfer Protocol）

InternetのWorld Wide Webサービスにおいて、WWWサーバからWWWクライアントに対してHTMLで記述されたドキュメントを送受信するための通信プロトコルです。

HUB

10BASE-Tの集線装置のこと。LANで複数台のハードウェアを接続するときに必要です。

I

INSネット64

NTTのISDN方式の回線サービス名称です。基本インタフェース（BRI）を使用するもので，64Kbpsのデータチャネル（Bチャネル）を二つと、制御用のDチャンネル16kbpsが1チャンネル提供されます。

i・ナンバー

INSネット64の付加サービスの一つです。１回線で契約者回線番号を含め、最大3つの電話番号が利用できるサービスです。これにより電話やファクスなどの複数の端末を鳴り分けさせることができます。

IEEE802.11/802.11b

IEEE802.11は、1997年にIEEE(Institute of Electrical Electronics Engineers：米国電気電子技術者協会)によって2.4GHz帯を利用し無線LAN（(伝送速度が2Mbps）で規格化されました。その後、IEEE802.11b規格として、2.4GHz帯を利用した11Mbpsが規格化されました。

当初、2Mbpsの規格では、無線のスペクトラム拡散方式の違い(DS-SSもしくはFH-SS）やセキュリティ機能の実装の違いにより、製品の相互接続が事実上不可能でした。しかしながら、IEEE802.11bでは、DS-SS方式に統一し、さらにWECA(Wireless Ethernet Compatibility Alliance)が「Wi-Fi」という名称で各社の無線LAN製品の相互接続も行っています。

IP（Internet Protocol）

インターネットを構成する通信機器が共通に使える通信プロトコルのことです。コネクションレス型のプロトコルです。

IPアドレス

TCP/IPプロトコルのアドレスのことです。インターネットやイントラネットなどのIPネットワークに接続されたホスト（パソコンやルータ等）に割り当てられた、各ホストを識別するための番号です。IPパケットで通信する場合に、送信元や送信先を識別するために用いられます。IPデータグラムのヘッダ部分に組み込まれた32ビットのビット列のことで、通常はこれを8ビットずつに区切り、199.61.10.06というように4個の10進法で表現します。

ISDN（Integrated Services Digital Network：総合デジタル通信網）

総合デジタル通信網とは、電話、データ、ファクシミリ、ビデオテックスなど性格が異なるサービスを総合的に取り扱うデジタルネットワークのことです。日本では、NTTが「INSネット64」、「INSネット1500」、「INS-P」という名称でサービスを提供しています。

IP Masquerade（IPマスカレード）

IPアドレス変換方式のひとつです。ひとつのグローバルなIPアドレスをLAN内の複数のパソコンで共有する技術です。

L

LAN（Local Area Network）

LANは、同じ建物内など、近距離のコンピュータやプリンタ等を接続してデータをやり取りするネットワークのことです。通信制御方式によってEthernet、FDDI、Token Ringなどいくつかの種類があります。

M

MACアドレス（Media Access Control address）

MACアドレスは、IEEEが管理・割り当てをしている各メーカーごとに固有な番号と、メーカーが独自に各カードに割り当てる番号の組み合わせによって表されるLAN上の個々のコンピュータを識別するためのアドレスです。

MACフィルタリング

APに、接続を許可するクライアント（ステーション）のMACアドレスを予め登録しておき、登録されているクライアントからのアクセスのみ受付け、それ以外からのアクセスを拒否する機能です。

MP（The PPP Multilink Protocol）

MPは、PPPプロトコルのオプションの一つで，複数の通信回線を束ねて一つの論理的な通信回線とするプロトコルです。64kbps物理通信チャンネル（Bチャンネル）を2本束ねて128kbpsの通信を可能にします。

N

NAT（Network Address Translator）

NATは、IPアドレス変換方式のひとつです。社内等のネットワークにプライベートなIPアドレスを使用する場合、このままでは、インターネットと通信できないためグローバルIPアドレスに変換する必要があります。このアドレス変換機能をNATといいます。IP Masqueradeと違い同時にインターネットにアクセスするためには同時にアクセスする分のグローバルIPアドレスが必要です。

NetBIOS（Network Basic Input/Output System）

NetBIOSは、1984年にIBM社によって開発された通信インタフェイスです。MS-DOSやWindowsネットワークで使われています。

NetBEUI（NetBIOS Extended User Interface）

NetBIOSインターフェイスを備えたネットワーク層／トランスポート層プロトコルです。

NTP（Network Time Protocol）

インターネットで標準的に利用されている時刻情報プロトコル（RFC-1305）。回線の速度や経路の負荷変化なども考慮した、高精度な時刻情報が得られます。

Numbered接続

ポイント・ツー・ポイント型ネットワーク接続において、その両端のネットワークインタフェースにIPアドレスを付与して構成するネットワーク接続のことです。

P

PAP（Password Handshake Authentication）

PPP接続時の認証プロトコルのひとつ。発信側が送信したパスワードの正誤を認証する。パスワードは、サーバー側では暗号化されていますが、通信回線上では暗号化されません。同様のプロトコルにCHAPがありますが、こちらはパスワードを暗号化するため、PAPに比べ信頼性が向上します。

Ping

TCP/IPネットワークで、相手先のコンピュータとの接続を確認するために使用するコマンドです。ICMP(internet control message protocol)のechoメッセージに組み込まれて、相手コンピュータに送られます。

POP3（Post Office Protocol 3）

メールサーバーのスプールから電子メールを受信するためのプロトコルです。

PPP（Point-to-Point Protocol）

PPPは、電話回線やISDNなどの通信回線を使ってデータ通信するときに使うもので，インターネット標準プロトコルの一つです。

PPPoE（PPP over Ethernet）

Ethernet上で、PPP接続を行うためのプロトコルです。接続先を選択したり、接続の時にユーザ認証を行うことでダイヤルアップ接続と同じように接続を行うことができます。

Proxy ARP

TCP/IPプロトコルがサブネットマスクを採用しはじめた頃，サブネットマスク機能がないマシンを使うために考え出された救済処置機能です。ルータがARPの問い合わせに代理応答することで，MACアドレスを入手できるようにしたものです。

R

RAS（Remote Access Service）

RASは、遠隔地からISDNのダイヤルアップなどでネットワークにアクセスする機能のことです。

RIP（Routing Information Protocol）

RIPは、ダイナミックルーティングの一種で、ルータの追加や故障などによってネットワーク上でデータを運ぶ経路を動的に変更する場合に，ルータ同士が経路に関する情報を交換し合う仕組みで使われるプロトコルです。距離ベクトルというアルゴリズムに基づいて情報を交換します。

S

SNMPマネージャ

TCP/IP用の管理プロトコルであるSNMPを使って、端末やルータ、ハブ、スイッチ等から管理情報を収集し、それを処理／表示するソフトウェアのことです。

SNTP（Simple Network Time Protocol）

NTPプロトコルを単純化した時刻情報の転送プロトコル。NTPは、インターネットのように負荷変動の激しい回線でも高精度・高信頼性の時刻情報を提供できるようにするために、極めて複雑なプロトコルになっています。これに対してSNTPでは信頼性などを犠牲にすることで、より容易に実装可能なプロトコルとなっています。また、基本的にSNTPクライアントはNTPサーバと接続できます。

T

TA(Terminal Adapter)

ISDNのインターフェースに対応していないFAXなどの通信機器をISDN回線に接続するための装置。DSUに接続して利用します。モデムや一般の電話機と接続できるようにアナログ変換することもできます。DSUを内蔵したものが一般的です。

TCP/IP（Transmission Control Protocol／Internet Protocol）

インターネットやLANなどでよく使われている２つの通信プロトコルTCPとIPの併称です。OSI参照モデルでいえば、TCPはトランスポート層（第４層）に、IPはネットワーク層（第３層）に対応するプロトコルです。通信プロトコルTCP/IPには、TCPとIPだけではなく、その他にもいくつかのプロトコルが含まれています。このため正式はTCP/IPインターネット・プロトコル・スーツ(TCP/IP Internet Protocol Suits)と呼び、この二つを中心にした通信プロトコルの集まりを意味します。

U

UDP(User Datagram Protocol)

TCP/IPプロトコルにおける、トランスポート層のプロトコル。2つのノード上のプロセス（アプリケーション）間で、ベストエフォート型のデータグラム指向の通信を行ないます。

Unnumbered接続

ポイント・ツー・ポイント型ネットワーク接続において、その両端のネットワークインタフェースにIPアドレスを付与せずに構成するネットワーク接続のことです。

URL（Uniform Resource Locator）

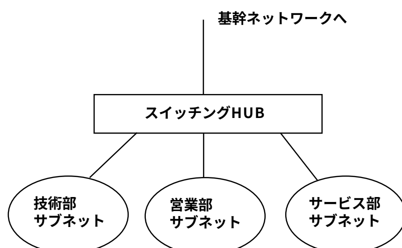
URLは、WWWのドキュメントやページなどを指定する方式のことです。「プロトコル名://サーバ名/ファイル名」と記述します。プロトコルにはhttp、ftp、telnet、などがあります。

V

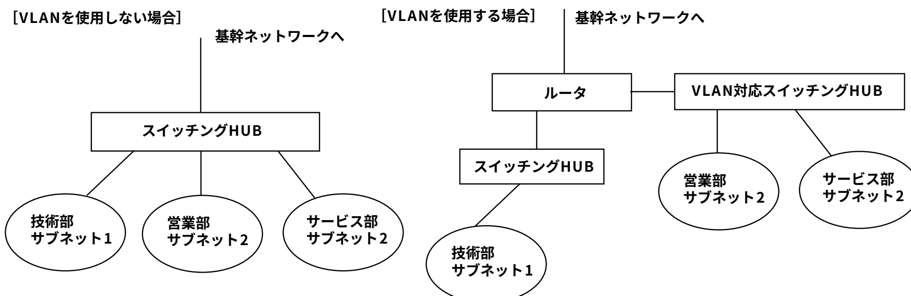
VLAN（Virtual LAN：バーチャルLAN、仮想LAN）

LAN-SWに収容される端末を論理的にグループ化する手法の一つを言います。これまで、サブネットアドレスを分ける場合、物理的な配置によってネットワークを分割していました。このため、端末移動の際には移動先の条件に見合った値に再設定しなければならず、運用が煩雑でした。しかし、VLAN技術を用いると、物理的な条件に左右されずに同一媒体上に、論理的に複数のサブネットアドレスを多重することができます。端末はどこに移動しても同一のアドレス条件のままで運用することが可能になるため、移動による再設定は必要なくなり、システム運用が容易になります。

（1）ネットワーク変更前（全て同じサブネット）



（2）ネットワーク変更後（技術部を異なるサブネットにする場合）



図のように一つのサブネットを２つに分ける場合、VLANを用いていれば、機器の設定を変更するだけで、物理的な接続の変更を必要としません。この様に、実際は１台のスイッチングHUBでも仮想的にサブネットを分けることができます。

このVLANの情報をスイッチングHUB間で情報交換できる様にしたものが、VLAN Tag(IEEE802.1Q/p)である。VLAN Tagはその名の通りパケットに4バイトのTag（札）を付けて、VLAN情報のやりとりを行います。このTagにはVLANの情報以外にも伝達時間制限に厳しいマルチメディア・アプリケーションにも対応できる様に、通信品質を保つ機能も含まれています。この通信品質を保つ機能がIEEE802.1Q/p で規定されているプライオリティ制御です。これは、VLAN Tagに含まれるユーザ・プライオリティ情報（３ビット）を用いて、パケットのプライオリティの指定を行います。

VoIP（Voice over Internet Protocol）

IPネットワークを介してインターネット電話を実現するために、パケット化音声を伝送する方式のことです。IPネットワークに音声を通すことで通信費用を低減できる他、パソコンネットワークとの統合配線が可能となります。

W

WAN（Wide Area Network）

WANは、通信回線を用いて，LAN同士を接続したネットワークのことを指します。LANの対語として用いられます。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

IEEE802.11のオプションとして規定されているデータの暗号化機能のことです。

１つのキーワードを全てのクライアント（ステーション）で同じものに設定することで利用できます。実際にはキーワードを元に作成された数値を暗号キーとして利用します。暗号キーの長さは40ﾋﾞｯﾄの128ﾋﾞｯﾄの２種類あります。

WWW（World Wide Web）

WWWは、ハイパーテキストという概念を採用して作られたドキュメントシステムのことです。CERN（European Center for Nuclear Research，欧州核物理学研究所）で1990年ごろ開発されました。

WWWブラウザ

WWW(= World Wide Web)ブラウザ とは、インターネット上で情報を発信する為のサーバ・ソフトのことを言います。テキストや動画、音声等のマルチメディア・データを扱えます。ネットワークに分散したWWWサーバ間でデータのリンク（ハイパーリンク）を張ることができます。クライアント側のソフトはWWWブラウザまたは単にブラウザと呼んでいます。

WWWブラウザソフト

WWWのドキュメントを閲覧するためのクライアントソフトです。マイクロソフト社の「Intenet Explorer」、ネットスケープコミュニケーションズ社の「Netscape Navigator」などが有名です。

ア・あ行

アクセスポイント

APを参照してください。

イーサネット

IEEE(米国電気電子技術者協会)802.3が作成したLANの呼称です。ケーブルの種類によって、10BASE-5／2／Tなどのバリエーションがあります。

イーサネット･スイッチ

イーサネットのデータ・フレーム単位に交換処理を実行する装置のこと。端末を直接イーサネット・スイッチに収容すれば、その端末は所定の帯域を占有できます。

一般着信

外線着信時、複数の端末を同時に呼出す着信のことです。

イントラネット

WWWをはじめとするインターネット技術を導入した企業内ネットワークのこと。この為のインフラとして、単なるTCP/IPネットワークではなく、DNSサーバなどを含めたインターネットそのもののネットワーク環境が企業内にも必要になります。

オフフック

ハンドセット（受話器）をフックスイッチからもち上げることです。

オンフック

ハンドセット（受話器）をフックスイッチに置く（戻す）ことです。

カ・か行

回線速度

ISDN機器間の通信速度のことです。インターネットサービスプロバイダのアクセスポイントによってサポートしている回線速度は異なります。

カテゴリ３

UTPケーブルの品質を表す言葉で、カテゴリ３は音声品質を指します。UTPを使ったイーサネットである10BASE-Tでは、最低このカテゴリのケーブルを使います。

カテゴリ５

100Mbpsのデータ伝送に対応した品質のUTPのことです。

カ・か行

クロスケーブル

UTP(Unshielded Twisted-Pair wire:シールドなしツイストペアケーブル)の種類の一つです。一般に、クロスケーブルはリピータやスイッチ同士を接続する場合に使用します。ストレートケーブルと対比されます。

グローバルIPアドレス

インターネットに接続された機器に一意に割り当てられたIPアドレスです。グローバルIPアドレスは、IPアドレス管理機関やインターネットサービスプロバイダに申請して割り当ててもらいます。このIPアドレスを使用してインターネットへアクセスすることができます。

クライアント

クライアントサーバモデルでクライアントのことです。他のコンピュータやソフトウェアからサービスを受ける側のコンピュータを指します。

ゲートウェイ

性質の異なるネットワークを接続する装置やソフトウェアのことです。通信速度の変換、プロトコルの変換などを行います。ルータのことをゲートウェイと呼んでいた時代がありますが、現在では代表的な例のひとつです。

ゲートキーパー

VoIPの実現技術の一つ。接続する装置（ゲートウェイを含む）がLANにアクセスする際、アドレスの変換、アクセス制御、帯域割当などを行う。電話番号とIPアドレスの対応付けも行う。

個別着信

外線着信時、１台の端末を直接呼出す着信のことです。

サ・さ行

サーバ

「server」は「提供者」の意。コンピュータ分野では、ある特定のサービスを提供するシステムやコンピュータを指します。サーバによって提供されるサービスには、データベースサービスをはじめ、ファイルサービスやプリントサービスなどがあります。サービスを提供する側のサーバに対し、サービスを受けるシステムやコンピュータの側はクライアントと呼ばれています。

サブアドレス

端末へ呼を直接着信させるために、電話番号のあとに付加された番号のことです。ネットワークはこの情報にはいっさい関与しません。

サブネット

　TCP/IPを使用する時に、ユーザが部門や拠点ごとに設定する論理ネットワークを言います。サブネットはルータが効率良く中継経路を選択する為の情報です。TCP/IP端末のIPアドレスの一部にサブネット番号が組み込まれています。

サブネットマスク

　IPアドレスからサブネットのネットワークアドレスを求める場合に使用するマスク値のことです。IPアドレスとサブネットマスクをANDすると、サブネットアドレスになります。

信号品質

　無線LANにおいては、電波の強さ、パケットエラーレート等を考慮した無線伝搬の通信品質を言います。

スイッチング･ハブ

　スイッチング機能を持ったイーサネット端末やATM端末の集線装置です。帯域非共有型で、パケットは送信先端末に対してのみ送信されます。

スタティックルーティング

　ネットワーク状態によらず固定的にルーティング経路を設定しておく方法のことです。

スタティックルーティングネットワーク

　スタティックルーティング方式をとるネットワークのことです。

スティミュラスプロトコル

　マンマシンインタフェースにおけるキー操作あるいはディスプレイの情報規定することにより端末が付加サービスの知識を必要としないISDN手順のことです。

ストレートケーブル

　UTP(Unshielded Twisted-Pair wire:シールドなしツイストペアケーブル)の種類の一つです。一般に、リピータやスイッチとPCやワークステーションなどの端末を接続する場合に使用します。クロスケーブルと対比されます。

静的IPマスカレード

　IPマスカレードを利用する時には、外部からのアクセスができなくなりますが、静的マスカレードを利用すると外部からのアクセスをできるように設定できます。

ダイヤルインサービス

　INSネット64の付加サービスの一つ。契約者回線番号とは別に複数の番号（これらをダイヤルイン追加番号と呼びます。）が付与され、着信時に、着番号（契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号）を網から送出するサービスです。

着番号

相手がダイヤルした番号のことです。着番号通知サービス（ダイヤルイン）契約すると外線着信時ISDN網から着番号として通知されます。

チャネル

同じ周波数を利用した複数のアクセスポイント(AP)を至近距離に設置すると、お互いの電波が干渉して通信の妨げになります。このため、一般的には同一チャネルの2台のAPがあった場合、100mは離す必要があります。しかし、１ヶ所に多くのクライアント（ステーション）があった場合、１つのAPにアクセスが集中してしまい、スループットが低下します。周波数帯域を複数に分けてAPの密度を増やすためには、お互いのチャネルを異なるものに設定する必要があります。

無線LAN（IEEE802.11、IEEE802.11b）が使用している2.4GHz帯は、14のチャネルに分けて通信を行えます。チャネルを分けることによってAP同士の電波干渉を防ぐことができます。

ただし、14のチャネルを全て使用するには注意が必要です。チャネルは、次に示すように隣接したチャネルの周波数帯域に重なりが存在します。隣り合ったチャネルは実際には利用できず、運用の際には一般的に3～4チャネル離して設定する必要があります。

データレート

データをやりとりする際の転送スピードのことです。IEEE802.11bにおいては、11Mbps、5.5Mbps、2Mbps、1Mbpsの４通りあり、一般的にレートが高くなるほど電波が届きにくくなるため、電波の状態により可変する場合があります。ただし、音声／動画等のリアルタイムな転送を行なうときは、高いレートに固定される場合が多いです。

また、送信パケットのうちの最初に付与するプリアンブルなどは1Mbpsの固定レートで、その後のデータの中身だけが可変となります。

転送電話

外線着信時、あらかじめ指定しておいた外線番号に自動転送することです。この場合、２つのＢチャネル（着信されたＢチャネルと外線発信用Ｂチャネル）を使用します。

ドメイン名

TCP/IPネットワーク上にある領域につける名前のことです。文字の並びであるラベル、あるいはピリオドで区切られた複数のラベルからなる階層構造をとることができます。名前の階層の数はいくつでも増やすことができます（通常2～4程度です）。

トラヒック

ネットワーク上を一定時間に流れるデータ量のことです。トラヒックが多くなると、データ転送の遅れや、データの損失の可能性が高くなります。

ナ・な行

ナンバーディスプレイサービス

INSネット64の付加サービスの一つです。アナロク電話からの着信時、発信したアナログ電話の電話番号を通知してくれるサービスのこと。非通知時、その理由（非通知、公衆電話など）も通知させたい場合は、ナンバーディスプレイ契約時”非通知理由も通知する”が必要です。

認証

ネットワークにアクセスしてくるユーザーが登録した本人かどうかを確認することです。インターネットでは、ユーザ名とパスワードを使う方法が一般的です。

ネットマスク

IPアドレスと論理積をとるとネットワークアドレスが得られるようなビット列のことをいいます。ネットマスクは最上位ビットから連続して１が続き、あるところから最下位ビットまで０が続く形となります。

ネットワーク

パソコン、各種サーバ，プリンタ等の装置・機器などを情報交換のためにケーブル等で接続した状態のことです。

ネットワークアドレス

ネットワークを識別するためのIPアドレスです。あるネットワークに所属するホストのIPアドレスはすべて、上位部分はネットワークアドレスと同じでなくてはいけません。

ネームサーバ

DNSで、名前とIPアドレスなどの変換を行うためのサーバです。ネームサーバだけでは名前を指定できないので必ずIPアドレスで指定しなくてはいけません。

ハ・は行

パケット

IPで取り扱うデータの１単位のことです。IPではすべてのデータはパケットという単位で扱われます。パケットはデータグラムと呼ばれることもあります。

パスワード

本人であることを確認するための方法です。本人しか知らない文字や数字をあらかじめ登録しておいて、ネットワークに接続した時などに登録した文字あるいは数字と一致しないと接続はできないというものです。

ファームウェア

ハードウェアに組み込んであるソフトウェアのことです。ここではメインユニット本体を動作させるプログラムと無線IP端末を動作させるプログラムの2種類を指します。

ファイアウォール（firewall）

外部ネットワークからの不正アクセスを防ぐ機能／装置です。

発番号

発信者の電話番号のことです。外線着信時、ISDN網から発番号として通知されます。電話をかけてきた相手がアナログ回線契約者の場合INSナンバーディスプレイサービス契約が必要です。

不揮発性メモリ（フラッシュメモリ）

メインユニットのファームウェアや設定内容が保存されている書き換え可能なROMです。メインユニットの電源をOFFしても内容が失われることはありません。

フッキング

一般電話機において、フックスイッチを一時的に（通常0.5～1.2秒）押すことです。

プライベートIPアドレス

社内や家庭内などの閉じたLANで使用を許可されているIPアドレスのことです。IPアドレス管理機関やインターネットサービスプロバイダに申請する必要はありませんが、使用できるIPアドレスの範囲が決められています。プライベートIPアドレスではインターネットにアクセスすることはできません。

ブラウザ

WWWサーバからHTML文書を入手し、表示する機能を持ったソフトのことです。

プリアンブル

無線にて送出するデータパケットの始まりに付与する一定のデータ列のことです。受信側にて受信パケットに含まれたデータの同期を行うために、送信側にてデータパケットの先頭部分に144ビットまたは72ﾋﾞｯﾄの0と1の繰り返しパターンを付与します。

ブロードキャスト

ネットワーク全体のホストへパケットを送信することです。そのようなことができるアドレスをブロードキャストアドレスといいます。

ブロードバンド

一般に「ブロードバンド（broad＝広い band＝帯域）」という言葉は、ADSLやケーブルTVによるインターネット接続などの“高速なインターネット接続サービス”を指します。

プロトコル

コンピュータ間等で、データを運ぶ手順のことを言います。（通信規約）。

プロバイダ

インターネット接続サービスを提供する通信事業者。

ボイスワープ

INSネット64の付加サービスの一つです。次の３条件の中からご契約者があらかじめ指定して利用できる転送サービスです。

1. かかってきた電話を無条件で転送する（無条件転送）
2. あらかじめ設定した数秒を超えた場合に転送する（無応答時転送）
3. お客さまのINSネット回線が話中でふさがっているときだけ転送先へ転送する（話中時転送）

スティミュラスプロトコル（キーパッドプロトコル）手順をサポートした装置であれば、カスタマコントロールによる登録・変更ができます。

ホスト

TCP/IP関連の仕様書などでは，ネットワークに接続されたコンピュータをすべてホストと呼ぶことがあるが、本来は端末を接続して使用するコンピュータの略称です。

ポート番号

TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。

ホームページ

WWWサイトの一番入口のページを指します。

ルータ

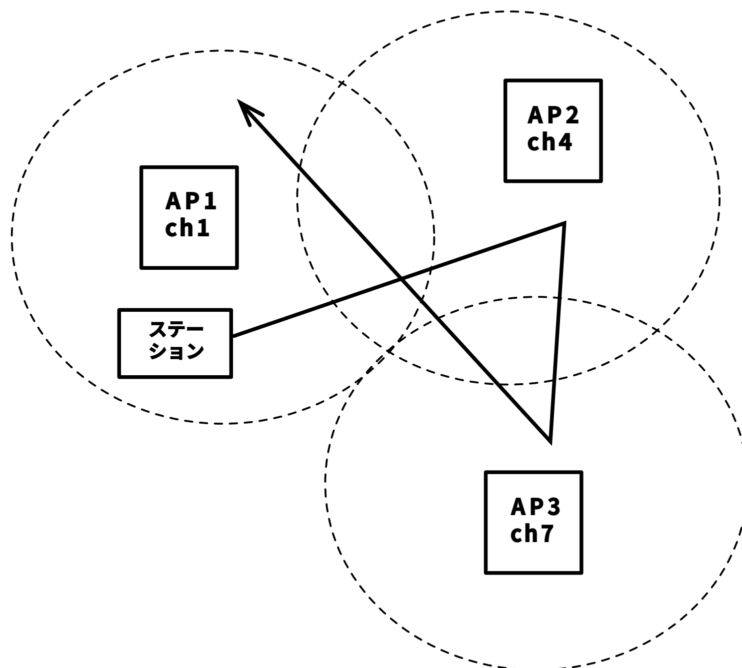
複数のLANを相互に接続する中継装置のことです。複数のLANを接続する分岐点に設置しパケットをどの経路に流せばよいか判断する機能を持っています。

ログ

装置の状態や動作の記録を時間順に記録したものです。

ローミング

同一セグメントのネットワーク内に２つ以上のＡＰがある場合、電波状況が最適なＡＰを選択して接続先を自動的に切り替える機能です。これにより、接続しているAPを意識せずにクライアント（ステーション）の場所を移動してもシームレスにLANにアクセスできます。



Canon キヤノン販売株式会社

3YB3506－2324G003 Rev2.0